

# 研 究 編

第1章 研究抄録関係

第2章 研究発表関係

# 第1章 研究抄録関係

## 1. 病院における研究（課題別研究費）

### <研究課題 1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

<研究者氏名> 放射線診断・IVR部 稲葉吉隆

共同研究者 山浦秀和、佐藤洋造、鹿島正隆、加藤弥菜、栗延孝至、佐藤健司

### 【目的】

肝動脈化学塞栓療法は肝細胞癌に対する標準的治療の一つであり、肝癌診療ガイドラインによると肝障害度AまたはBで、脈管侵襲がなく、腫瘍径3cm超または腫瘍個数4個以上の症例がその適応とされ、切除や経皮的ラジオ波焼灼療法が困難な進行症例が対象となることが多い。動脈化学塞栓療法（transcatheter arterial chemo embolization: TACE）はIVR手技によりカテーテルを経動脈的に目的部位まで誘導し、抗がん剤と塞栓物質を注入し、抗がん剤を標的病変に作用させ、さらに塞栓による阻血効果で病変の壊死化を狙うものである。肝細胞癌が多血性であることと、肝が動脈と門脈の二重血流支配となっていることに基づいた合理的な治療法であり、本邦で開発され広く行われている。近年、肝動脈分枝への挿入が可能な細径バルーンカテーテルが開発され、治療効果を向上させる目的でバルーン閉鎖下に行うTACE（balloon-occluded TACE: B-TACE）に応用されるようになってきている。そこで、当院でも導入し始めたB-TACEの実行性を後方視的に評価した。

### 【方法】

平成23年4月～11月に施行した肝細胞癌に対するB-TACEにおける手技内容、初期効果、有害反応について調査した。B-TACEは既に肝動脈の分岐状況が把握できている非初回TACE治療例を対象に、原則としてバルーンを用いない通常のTACEと同様の薬剤用量をバルーン閉塞下に注入し、塞栓物質を充填するように施行した。

### 【結果】

B-TACEは12例16回施行された。患者平均年齢は71（63-83）歳、Child-Pugh score：A/B=2/4、腫瘍個数：1-3/4-9/10以上=6/9/1、平均最大腫瘍径は37（12-65）mm、門脈侵襲：Vp0/Vp1=11/5、使用バルーン径：3F/5F=9/7、治療範囲：全肝/葉/区域/亜区域=1/9/5/1、使用抗がん剤：エピルビシン/シスプラチン/その他=11（平均40mg）/1（100mg）/4、リピオドール平均使用量は4.7（3-7）ml、塞栓物質：1mm多孔性セラチン粒/ゼラチンスポンジペースト=15/1、平均手技時間は97（60-160）分（前回の通常TACE手技時間は平均108（50-180）分）、病変へのリピオドール滞留状況（直後のリピオドールCT）：全体密/全体疎/一部不良=6/7/3、肝実質部へのリピオドール滞留は全例従来よりも軽度、2～3月後の造影

CTでの評価（mRECIST）：CR/PR/SD/PD/NE=5/3/1/1/6、であった。有害反応は平均発熱期間3.4（0-6）日、腹水貯留2、biloma1、陰嚢水腫1であり、G4有害事象や30日以内死亡は認めなかった。

### 【考察】

B-TACEは従来のTACEと比較して毒性はほぼ同等で、手技時間やリピオドール滞留状況で優位な傾向が見られ、実行性は確認できた。但し、生存期間は評価できていないため、現時点で従来TACEへの優越性を示すことは困難であった。リピオドール滞留性からは抗腫瘍効果を向上できる可能性はあると思われた。

### <研究課題 2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk.

<研究者氏名> 乳腺科部 岩田広治

共同研究者 藤田崇史、澤木正孝、服部正也、近藤直人、堀尾章代

### 【1年間の総括】

この1年間にも乳癌の術前後薬物療法に関する膨大な情報が世界中から流入し、我々が参加している国内・国外の臨床試験も多方面にわたって進行した。2年毎に開催される術後adjuvantのコンセンサス会議（St Gallenカンファレンス）が2013年3月に開催され、術後治療をmolecular subtype別に考える重要性が明確になった。

#### 1：術後内分泌療法に関する研究

報告：昨年度に引き続き術後ホルモン療法での課題は投与期間である。閉経前・後乳癌を対象にしたTAMの5年vs10年の比較試験（ATLAS, aTTom）の結果が相次いで報告された。TAM長期投与の有効性が示されたことで、臨床の現場でも、どのような方に長期投与を説明するかが議論されている。閉経後ではアロマターゼ阻害剤（AI）の長期投与（10年）の有効性・安全性を検証する日本で進行中の試験（N-SAS-BC05試験）の登録が終了した。世界でも同様の試験が同時進行で行われていて、今後の統合解析が期待される。

#### 2：術後化学療法に関する研究

報告：術後薬物療法の適応を考える入口を、まずmolecular subtypeで考えようとする方向性がSt Gallen2013でも明確になった。特にluminal type乳癌ではKi67で増殖活性の高いsubtypeを“luminal B like 乳がん”と定義して、化学療法の適応を決めることになった。さらに化学療法の必要性を判断する材料として、2012

年度には当院でも OncotypeDX を積極的に導入することを決定した。遺伝子解析による術後治療の決定が臨床の現場に定着してきている。新しい薬剤の開発は難しい分野になっているが luminal type 乳癌を対象に、経口5FU (S-1) の有効性を検証する先進医療の枠組みで行っている POTENT 試験が開始された。

### 3：術後分子標的治療に関する研究

報告：2012年度には、HER2 陽性乳癌に対する術後 Trastuzumab 投与期間に関する2つの大きな試験 (HERA, PHARE study) 結果が報告された。1年間の Trastuzumab 投与が標準治療であることには変わりはない。術後 triple negative 乳癌を対象にした Bevacizumab の有効性を検証する試験 (Beatrice study) の結果が報告されたが、有効性は証明されなかった。術後 Pertuzumab の標準治療への上乗せを評価する Affinity 試験 (global study) は、4,000例を超す登録があったという間に終了した。高齢者 HER2 陽性乳癌患者における化学療法省略の是非を問う N-SAS-BC07 試験も引き続き登録中である。この分野は、今後も新薬の開発、新規治療方法の検証試験などが計画されている。

### 4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する、第Ⅲ相多施設共同比較試験 (N-SAS-BC06, : NEOS study) の登録終了が目の前である。当院はPI施設であり登録数は日本トップである。

### 5：術後denosumab投与に関する研究

報告：denosumab (RANKL抗体) を、術後再発 high risk 乳癌患者に再発予防で使用する世界共同大規模臨床試験の登録はすべて終了した。

上記のような世界の潮流、エビデンスを踏まえ、当院での術後治療指針を改訂し、東海地区を中心にして広く流布している。

### <研究課題 3>

骨軟部肉腫進行例に対する治療法の研究

A clinical trial of novel therapy for cases with advanced musculoskeletal sarcomas.

<研究者氏名> 整形外科部 杉浦英志  
共同研究者 吉田雅博

### 【目的】

進行性・転移性の骨軟部肉腫症例の予後は極めて悪く、有効な治療がないのが現状である。今回、局所進行性の肉腫症例あるいは再発性・転移性症例に対してカルボプラチン、エトポシドによる動注化学療法を行い、その有効性と安全性を確認したので報告する。

### 【対象および方法】

血管造影により腫瘍血管を確認。血管造影後にカテーテルを main feeder におき、病室にてカルボプラチン300mg/m<sup>2</sup> (2時間)・エトポシド200mg/body (2時間) を順に計4時間にわたっ

て投与した。上記動注療法を2クール以上行っても縮小効果の見られなかった症例では放射線療法を追加した。照射法は分割照射とし、一回2-3Gy、totalで30-60Gyとした。動注療法を施行した骨軟部腫瘍症例は14例であり、14例中放射線療法を併用した症例は8例であった。放射線線量は30-60Gy、平均44.9Gyであった。経過観察期間は平均4.2年 (1-13年) であった。14例の内訳は男性6例、女性8例、平均年齢は42.0歳 (22-73歳) であった。腫瘍の組織型は、骨腫瘍では骨肉腫1例、Ewing肉腫1例、骨MFH1例、軟部腫瘍では平滑筋肉腫4例、MFH4例、滑膜肉腫2例、類上皮肉腫1例であった。腫瘍発生部位は骨腫瘍では肩甲骨1例、上腕骨1例、脊椎1例であり、軟部腫瘍では大腿部4例、臀部2例、下腿部1例、頭部1例、肩部1例、会陰部1例、後腹膜1例であった。

### 【結果】

治療効果については14例中11例がPR、3例はNCであった。PR11例のうち3例は60%以上の著明な腫瘍縮小が認められた。著明な腫瘍縮小の見られた症例は滑膜肉腫1例と平滑筋肉腫2例であった。また、PRを呈した11例中4例では縮小手術が可能となった。最終経過観察時の予後はCDF4例、NED1例、AWD1例、DOD8例であった。副作用としては軽度の悪心を訴えたが、嘔気が持続することはなく、外来通院でも治療可能であった。血液検査では、初期の2コースでは白血球の軽度の減少を見るのみであったが、3コース以後は、白血球のみならずヘモグロビン、血小板いずれもが減少する汎血球減少症を呈した。

### 【考察】

神経血管束等の重要臓器に近接した軟部肉腫進行例では、機能温存のために切除縁を縮小した手術が試みられるが、これには術前計画に基づいた一定の治療方針が必要である。放射線照射は、脂肪肉腫等の比較的感受性が高いものを除き、大部分の軟部肉腫に対してはその有用性は明らかではない。化学療法においては、小円型細胞肉腫を除き軟部腫瘍の感受性は乏しく、術前治療において有効性が確認されているものは現在のところ見られない。このため、腫瘍の縮小と安全な切除縁の確保を目的に、我々はカルボプラチン・エトポシドによる動注療法を行った。14例中11例 (79%) に腫瘍縮小効果が見られており、内4例では縮小手術が可能となった。本法が重要臓器の機能温存に対して有益であることが示唆された。しかしながら、生命予後については14例中8例 (57%) がDODとなっており、更なる治療法の確立が必要であると考えられた。

### <研究課題 4>

外科的治療が施行された腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の臨床的研究

The incidence of benign renal tumors resected by surgical procedure

<研究者氏名> 泌尿器科部 林 宣男

共同研究者 曾我倫久人、小倉 友二、

## 【研究目的】

腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の発生頻度は、人種差が存在することが報告されている。今回、術前に腎細胞癌が疑われ、外科的治療が施行された腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の頻度を調査した。

## 【研究の対象と方法】

術前診断として多検出器列ヘリカルcomputed tomography (CT) が使用されるようになった2004年1月以降に、術前画像診断において腎細胞癌が疑われ、腎全摘除術もしくは腎部分切除が施行された症例96例を対象とした。腫瘍径を1 cmごとに区切り良性腫瘍の発生率を調査した。良性腫瘍である予測因子の評価は、logistic regression 検定による多変量解析で行った。

## 【患者 景】

平均年齢は59.8歳 (30-81歳)、男女比は59/37、平均腫瘍径37.3 mm (9-220mm)。術前にdynamic-CTのみが施行された症例は49例 (51%)、dynamic-CT, dynamic-MRI両方が施行された症例は47例 (49%) であった。87例 (90.6%) の症例で腎全摘除が施行され、9例 (9.4%) の症例におい腎部分切除が施行された。

## 【研究結果】

全体の症例での良性腫瘍の発生頻度は、13.5% (13/96) であった。また、腫瘍径別の良性腫瘍の発生頻度は、0-1 cmの症例では25% (2/8)、1-2 cmの症例では23.8% (5/21)、2-3 cmの症例では11.5% (3/26)、3-4 cmの症例では7.7% (1/13)、4 cmを超える症例では7.1% (2/28) であった。良性腫瘍13例の内訳は、oncocytomaが6例 (46.1%) 血管筋脂肪腫が5例 (38.4%)、神経鞘腫が1例 (7.7%)、solitary fibrous tumorが1例 (7.7%) であった。悪性腫瘍83例の内訳は、clear cellが75例 (78.1%)、papillaryが2例 (2.1%)、cysticが2例 (2.1%)、chromophobeが0例 (0%)、その他が4例 (4.2%)、であった。

良性腫瘍に対して76.9% (10/13) の症例で腎全摘除術が施行されていた。女性症例であること (Odds ratio (OR) : 4.78,  $P < 0.05$ )、年齢が60歳以下であること (OR:5.23,  $P < 0.05$ )、腫瘍径が3 cm以下であることが (OR:6.14,  $P < 0.05$ ) 良性腫瘍である有意な予測因子であった。二つの予測因子を満たす患者背景において、60歳以下と女性の予測因子を満たす群は18例中6例 (33.3%)、60歳以下と腫瘍径3 cm以下を満たす群は18例中7例 (38.8%)、女性と腫瘍径3 cm以下を満たす群は18例中6例 (33.3%) (6/18) が良性腫瘍であった。予測因子すべてを満たす症例において80% (4/5) が良性腫瘍であった。

## 【結 果】

良性腫瘍に対する全摘除術を回避するためには、腎部分切除を推進するとともに、手術前腎生検なども検討する必要性が考えられた。

## <研究課題 5>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Development of molecular analysis on cancer diagnosis

<研究者氏名> 遺伝子病理診断部 谷田部 恭  
共同研究者 細田 和貴、佐々木 英一、村上善子

## 【目 的】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一都は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じているなどの問題点も多い。そこで、実際の病理標本で簡便に診断可能な ROS1 遺伝子再構成アッセイ法について検討した。

## 【対象および方法】

RT-PCR 法を用いて ROS1 遺伝子再構成があると確認された症例6例を用いて、同様に RT-PCR などで確認された他の遺伝子変異型 (EGFR 5例、KRAS 5例、HER2 3例、RET 3例、NULL 6例) を有する肺癌27例と比較した。ROS1 検出には FISH 法 (Vysis ROS1 break apart probe kit) と IHC 法 (ROS1 DFD6 antibody (Cell Signaling Technology, Inc) を用いて ROS1 以上の検出を試みた。IHC 法においては H-score を用いて評価した。

## 【結 果】

FISH 法による ROS1 遺伝子再構成は6例いずれの症例においても陽性を示した。ROS1 IHC 法においてはその過剰発現が5例では明らかであったが (図)、1例についてはやや低い値を示した。そのため残りの27例と判別可能なカットオフ値を決めることで、IHC法を用いて鑑別することは可能であった。

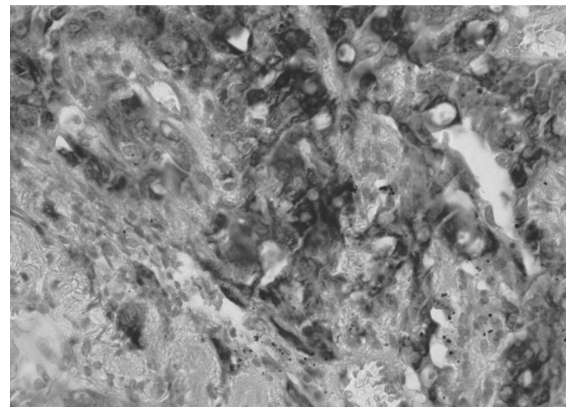


図1 ROS1 IHC法による腫瘍細胞陽性像

## 【考 察】

ROS1 は、非小細胞肺癌の数を占めるまれな遺伝子変異ではあるが、すでにクリゾチニブなどの有効な薬剤が知られている。そのため、適切な遺伝子診断による患者選択によってのみ分子標的薬治療が可能になる。本研究は IHC 法、および FISH 法による既往標本の検索により、その患者選択が可能になることがわかった。個別化医療の一助として実際の診断にも応用していきたい。



## <研究課題 6>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

<研究者氏名> 臨床検査部 谷田部 恭

共同研究者 岡田恭孝、遠山由美子、長谷川かおり、  
板倉英二、早川 登、尾関順子、柴田典子

### 【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、蛋白分画の測定装置の更新を行い、新しく sebia Minicap 全自動キャピラリー電気泳動システムを導入した。以前と比較して短時間で鮮明な六分割画像を得ることができるようになったため、血液疾患等の患者の診断・治療に迅速に対応できるようになった。また、尿のM蛋白等の検出も限外濾過をすることにより精度が高くなり、多発性骨髄腫等の診断・治療に迅速に対応できるようになった。

血液検査部門では、採血室のレイアウト変更を行った。目的は採血待ち時間の緩和と患者導線の円滑化である。具体的には採血台を6台から8台に増設するとともに、出口を新たに設け、スムーズな動線が確保できた。採血エリアのスペース確保のため自動分析機器の移設を行い、運用面では臨床検査部全体で採血応援態勢を強化した。日常業務では、フローサイトメトリー法によるCD34陽性細胞の絶対数の測定法について、従来法であるCD34/CD45の2カラー解析と白血球数から絶対数を求めるデュアルプラットフォーム法から内部標準ビーズを用いたシングルプラットフォーム法への移行を前提に検討を試みた。後者では、予め細胞数を $2 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 程度に調整する必要があることが分かったが、造血幹細胞採取時の臨床検体を用いた比較検討は数例のみに止まったため、引き続き次年度への課題とした。

生理検査室では、乳癌化学療法が実施された患者における心臓超音波検査での心機能について、化学療法の前後の変化を検討した。2011年4月から2013年1月で、器質的異常や壁運動異常を認めず、駆出率が55%以上の女性37症例（年齢 $55 \pm 9$ 歳）を対象とした。検討項目は、駆出率（%）、左室拡張末期径（mm）、左室流入血流速：E波・A波（m/s）、E/A比、僧帽弁輪移動速度e波（m/s）、E/e'比、心拍数とした。有意水準5%で有意に変化があったのは、駆出率と心拍数であった。駆出率は23/37例（62%）で減少、心拍数は28/37例（76%）で増加を認めた。その他の項目では有意な変化は認められなかった。左室収縮能の指標である駆出率が化学療法後に正常範囲の患者でも化学療法前と比べると低下していた。これらの検討から、心不全症状のない場合でも薬剤が心筋に影響していると考えられ、心臓超音波検査による駆出率をはじめとする心機能を評価することが安全な化学療法施行に重要であると考えられた。

病理検査部門では、通常のHE染色に加え、癌の確定、補助診断に必要な不可欠な免疫染色を行っている。今年度は、CD3等のCDシリーズ抗体7種、ケラチン抗体3種、Bcl2、Bcl6、CCND1について、より早く、安定した結果を得るために、自動免疫染色機、メーカー調整済みの抗体を用いて Envision Flex の検出システムにより染色する方法に変更した。また、

骨組織脱灰では、EDTA 脱灰液を用い、マイクロウェーブを照射しつつ適温に保つことで、抗原性の発現を保持したまま、従来よりも短時間で品質の良い標本が作成可能となった。また、今年度より、安定した組織標本作製に欠かせないホルマリ固定液を、希釈調整毎に濃度測定することにより、適切な濃度管理を行うことが可能となった。

細胞診検査部門では、体腔液細胞診で通常のパパニコロウ染色およびメイ・ギムザ染色による細胞診判定とともに、異型細胞の検出率向上を目指す目的で免疫組織学的染色を用いている。今年度は、腹膜悪性中皮腫（PMM）と漿液性表在性乳頭状腺癌（SSPC）を鑑別するために有効なマーカーであるPAX8によりPMMとSSPCの鑑別がされた症例について、通常染色での判定項目の検討を行った。その結果、パパニコロウ標本、ギムザ標本での、細胞結合様式（ウインドウ形成・hump様細胞突起）、オレンジG好性細胞の出現、核異型でその違いが見出されることがわかり、PMMとSSPCの鑑別の有効な細胞診所見として考慮するようになった。

細菌検査部門では、化学療法薬 daptomycin（DAP）のMIC濃度測定の手間短縮の検討をした。当初DAPのMIC測定には、高価で手間のかかるE-testを用いMIC濃度を測定していた。管理検体及び臨床検体を用いE-testと比濁法を測定原理としている自動化機器 Vitek2 の両法で測定し、その値を比較検討したところE-testとVitek2のMIC値は高い相関を示した為、通常業務ではVitek2を用いDAPのMIC濃度測定を行うことにし、コストの削減及び業務の効率化がはかれた。

## <研究課題 7>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用

Clinical evaluation for intensity modulated radiotherapy with Helical Tomotherapy

<研究者氏名> 放射線治療部 古平 毅

共同研究者 立花弘之、富田夏夫、牧田 智誉子

### 【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy 社 TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

### 【方 法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィーを実施してきた。

2006/6-2012/12に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い387例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象は1990年以降2011年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者で年齢は中央値52歳（11-80）、男性136例・女性49例、臨床病期は

I : II : III : IVA : IVBB = 8 : 41 : 72 : 27 : 37 という内訳だった。WHOの病理組織分類の type I は30例 type II - III は152例、のこり3例は組織型判別不能であった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は59.9月 (11.6 - 265ヵ月)、無病生存は128例、担癌生存は17例、原病死が29例、他病死11例の内訳だった。3/5年粗生存率は85.8/79.7%、3/5年無増悪生存率は73.8/68.6%という結果であった。年齢、性、組織系は単変量解析、多変量解析とも有意な予後因子であった。Stage は単変量解析のみで有意差を認めた。2006年以降はすべて IMRT で治療を行っているが治療効果には両群の差は無かった。IMRT 群ではG2の口腔乾燥割合は6ヵ月 : 1年 : 2年で64 : 24 : 15%と経時的な改善傾向を認めた。非IMRT治療では経時的な記録は評価できないが治療後の経過観察時点で80%の症例でG2の口腔乾燥を認めた。

#### 【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌の IMRT において治療効果および治療後 QOL 改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

## 2. 研究所における研究（人当研究費）

### 所長室

#### <研究課題>

- (主題) 日本と東アジアにおけるがんの民族疫学的研究  
(副題) 肝吸虫に起因する胆道がんの発症に関連する遺伝要因の分析

#### <研究者氏名>

田島和雄、松尾恵太郎、中尾心人<sup>1)</sup>、渡邊美貴、田中英夫、  
Puangrat Y<sup>2)</sup>、Suppanee S<sup>2)</sup>、Paiboon S<sup>2)</sup>、Sopit W<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

タイ国東北部では胆道がんの発生頻度が世界で最も高く、保健医療上重要な問題となっている。これまでの疫学研究により肝吸虫感染・炎症との密接な関連が示され、吸虫感染者の胆道がんの予防、早期診断法の確立が急務であり、われわれは日本とタイの両国における胆道がんの疫学的、臨床的、分子遺伝学的比較、特にがん関連遺伝子やゲノムコピー数多型や血清タンパク質の網羅的解析などの新手法を用いて胆道がんの特性を明らかにし、予防法の確立、診断マーカーの同定を目指す研究を展開した。

今年度は、肝吸虫に持続感染する者の中で、肝内胆管癌(CCA)の罹りやすさを規定する遺伝子多型に注目した。コンケン大学が1990年代に実施したコーホート研究から把握した167人のCCA患者と、これと虫卵の有無をマッチさせたコントロール293人について症例対照研究を実施した。その結果、飲酒と喫煙習慣は、CCAのリスク要因であったが、これらを調整した後も、A型allele保有者はCCAのリスクが高く、逆にB型allele保有者ではCCAのリスクが低くなる傾向を認めた。

#### <今後の方針>

三年計画の国際共同研究(JST)の三年目となり、本共同研究はこれで終了となる。しかし、本研究活動を通じて培われた研究者間の信頼関係を元に、他のがん予防対策に資する両国の疫学共同研究を進展させることを目指す。

- 1) リサーチレジデント
- 2) コンケン大学

### 疫学・予防部

#### <研究課題> 1-1

- (主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析  
(副題) 日本と台湾の超高齢者のがん罹患

#### <研究者氏名>

伊藤秀美、Chun-Ju Chiang<sup>1)</sup>、Mei-Shu Lai<sup>1)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

日本における高齢化率(65才以上の割合)は、2007年に21%を超え、超高齢社会に入っている。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2024年までに高齢化率は30%に達する。一方、

台湾での高齢化率は2010年で11%と日本に比べ低いが、2030年には24%に達すると推計されており、高齢化率のスピードは日本よりも速い。高齢化社会に伴い、高齢者のがん罹患はさらに増加し、がんによる経済的、あるいは医療上の負担は増加すると予測されるため、高齢者、特に85才以上の超高齢者のがん罹患動向をモニターし、超高齢者のがん負担を評価することは重要である。日本と台湾の地域がん登録データを用い、高齢者のがん罹患動向を探るため、本研究を行った。

日本のがん罹患データは、全国がん罹患モニタリング集計(通称、MCIJ)プログラムから提供を受けた。解析対象は、日本人口の約42%をカバーする21県の、2003年から2007年に診断されたがん罹患患者1,202,866名である。台湾のがん罹患データは、国立台湾大学の頼美淑教授の協力により、集計値として提供を受けた。解析対象は、2004-2008年に台湾がん登録に登録されたがん罹患患者377,922名である。5歳階級別の、全がん、部位別(胃、結腸、大腸、肝、膵、肺、乳房、子宮、卵巣、前立腺)の65才以上の占める割合(男女計)、10才階級別(65-74、75-84、85-94、95才以上)の部位別罹患割合を男女別、85才以上について5歳階級ごとに分類(85-89、90-94、95-99、100才以上)した男女別5才階級別年齢階級別罹患率(全がん、部位別)を算出した。

日本では、全がんにおいて65才以上の占める割合は68%、うち85才以上の占める割合は11%であった。台湾では、それぞれ46%、4.3%であり、日本と比べて、高齢者のがん罹患割合は小さかった。部位別には、女性のがんにおいて65才以上の高齢者の占める割合は、日本では30から40%、台湾では20-30%と低く、前立腺がんでは両国とも85%と高かった。年齢階級別の主ながんの部位については、男女とも日本と台湾で大きく異なっていた。例えば、85-94才男性では、日本では肺、前立腺、肝臓がんの順で罹患割合が高かったのに対し、台湾では肺、胃、前立腺の順で罹患割合が高かった。同年齢階級の女性では、日本は肺、結腸、肝臓の順、台湾は胃、結腸、肺の順に罹患割合が高かった。前立腺がんは、65才以上のすべての年齢階級において罹患割合が高かった。乳がんは、65-74才では罹患割合が高いがんであったが、75才以上の年齢階級では罹患割合は高くなかった。これは、両国のリスク要因や検診の普及率の違い等を反映していると考えられた。男性の全がんにおける年齢階級別罹患率のピークは、両国の高齢化を反映し、日本では90-94才、台湾では85-89才であった。女性においては、それぞれ、95-99才、90-94才であった。部位別にみても、ほとんどの部位で、男より女性が、台湾より日本の方が、高年齢階級にピークがシフトしていた。

高齢になるほど、医療へのアクセスが困難となり、診断漏れや登録漏れの割合が増加するため、がん罹患が過少評価されている可能性があるため、結果の解釈には考慮が必要である。本研究のように85才以上のがん罹患動向に注目した研究は稀で、本研究の結果は日本と台湾における高齢者のがん対策に資するものであると考えられた。

#### <今後の方向>

今後も、地域がん登録ベースで収集されたデータを用い、高齢者のがん罹患を正しくモニターするには、地域がん登録のさ

らなる精度向上が望まれる。また、超高齢者のがんの動向は、罹患に加えて死亡も合わせて評価する必要があると考えられる。

1) 国立台湾大学

#### <研究課題> 1-2

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 人口動態統計を用いた日米における慢性骨髄性白血病の死亡率の検討

#### <研究者氏名>

千原 大<sup>1)</sup>、伊藤秀美、松尾恵太郎、松田智大<sup>2)</sup>、片野田耕太<sup>2)</sup>、柴田亜希子<sup>2)</sup>、雑賀公実子<sup>2)</sup>、祖父江友孝<sup>3)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

昨今、悪性腫瘍に対する新規薬剤の開発は目覚ましいものがある。新規薬剤はその効果、副作用等について臨床試験で検証されるが、臨床試験は限られた条件の状態の良い患者を対象に行われるものであり、臨床試験の結果がそのまま実地臨床で発揮されるわけではない。慢性骨髄性白血病は造血器腫瘍の一つであり、分子標的薬であるイマチニブの開発までは造血幹細胞同種移植なしでは致死的な疾患であった。イマチニブは慢性骨髄性白血病に対して非常に大きな効果を示すことが臨床試験にて示されたが、その効果が患者集団全体に及ぼす影響はこれまで検討されてこなかった。そこで今回我々は日本全国の人口動態統計、米国の Surveillance Epidemiology and End Results (SEER) を使用し、慢性骨髄性白血病の死亡率の変遷、傾向を検討した。研究対象データは、1993年から2008年までに慢性骨髄性白血病で死亡したとされる全患者と母集団の人口であり、SEER に関しては9つの地域からなる SEER9 を使用した。研究期間16年間で日本全国では64203人、米国 SEER9 の地域では26888人が慢性骨髄性白血病で死亡した。解析の結果、米国では1997年から毎年12%程度の継続した死亡率減少、日本においては2001年から毎年15-20%の継続した死亡率の減少がみられることが分かった。米国でのイマチニブ使用開始が1998年6月、日本での使用開始が2000年6月であることを考慮すると両国における統計学的に有意な死亡率の減少はイマチニブによって成されたと考えられる。1993年時点の死亡率と2008年の死亡率を比較したところ、両国で70-80%の死亡率減少がみられており、イマチニブが慢性骨髄性白血病患者にもたらした影響がいかに強かったかがうかがい知れる。

#### <今後の方向>

これまで悪性腫瘍の領域において新規薬剤、治療法の効果を人口に基づくデータを利用した記述疫学的手法で評価した研究はなかったが、非常に大きな影響をもたらす薬剤などの影響は死亡率にも反映されることが示された。各疾患の生存率のみでなく、死亡率の検討も定期的に行っていくことで治療研究が患者集団全体にもたらした影響を検証できると考えられる。

- 1) 連携大学院生
- 2) 国立がん研究センター
- 3) 大阪大学医学部大学院医学系研究科

#### <研究課題> 2-1

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 起床して1本目のたばこを吸うまでの時間と喫煙関連がんリスク

#### <研究者氏名>

松尾恵太郎、伊藤秀美、細野覚代、尾瀬功、福本紘一<sup>1)</sup>、渡邊美貴、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

喫煙は、肺がん、食道がん、頭頸部がんなどの様々ながんの強い危険因子である。1日の喫煙本数が多い、または喫煙期間が長いことによりリスクが上昇することが分かっている。起きてから1本目のたばこを吸うまでの時間 (Time to first cigarette; TTFC) は、ニコチン依存度を示す指標のひとつで、ニコチンの代謝物であるコチニン濃度との関連が知られている。また、尿中コチニン濃度は、たばこに含まれる発がん物質とも高く相関していることから、TTFCと喫煙関連がんリスクとの関連が注目されているが、日本人においてこれらの関連を検討した研究はない。本研究では、TTFCと喫煙関連がんリスクとの関連を、症例対照研究にて検討した。

対象は、2001年から2005年に愛知県がんセンター病院疫学プログラムに参加した、肺がん患者1552例と性・年齢を適合させた1552例の非がん対照者、食道がんや頭頸部がんなどの上部消化管がん患者1007例と性・年齢を適合させた3027例の非がん対照者である。がんリスクとの関連を、ロジスティックモデルにより交絡要因で調整後算出されたオッズ比と95%信頼区間で評価した。

TTFCと肺がん、食道がん、頭頸部がんリスクとの間には、逆の関連があった。喫煙経験のある群で、TTFCが60分以上の場合に比べて、31分から60分、6分から30分、5分以内の場合、1日の喫煙本数や喫煙期間で調整した肺がんになるオッズ比は、1.08 (95%信頼区間、0.73-1.61)、1.40 (0.98-2.01)、1.86 (1.28-2.71) であった (傾向性p値、 $<0.001$ )。この関連は肺腺癌よりも肺扁平上皮がんが強かった (異質性p値、0.002)。また、喫煙経験のある群で、食道がんになるオッズ比はそれぞれ、1.53 (0.76-3.08)、2.55 (1.33-4.89)、3.09 (1.58-6.04)、頭頸部がんではそれぞれ、1.29 (0.76-2.18)、1.32 (0.81-2.15)、2.03 (1.14-5.78) で、ともに傾向性p値も統計学的に有意であった ( $p<0.001$ )。

以上より、TTFCは1日の喫煙本数や喫煙期間など既知の危険要因とは独立した肺がんや上部消化管がんの危険要因であり、喫煙暴露の指標であることが分かった。

#### <今後の方向>

本研究から、TTFCを利用した禁煙指導の可能性を模索する。  
1) リサーチレジデント

#### <研究課題> 2-2

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病因疫学研究

(副題) 閉経後子宮体がん罹患リスクに対する CYP19A1 遺



**<研究者氏名>**

細野覚代、松尾恵太郎、伊藤秀美、渡邊美貴、田島和雄、  
田中英夫、広瀬かおる<sup>1)</sup>、中西 透<sup>2)</sup>

**<目的・概要・進捗状況>**

子宮内膜癌はエストロゲン依存性腫瘍であり肥満が重要な危険因子である。特に閉経女性では卵巣由来のエストロゲンが低下し、皮下脂肪等の卵巣外組織由来のエストロゲン産生が重要な役割を果たすことが知られている。今回我々は閉経後女性のエストロゲン産生に関わるアロマターゼをコードするCYP19A1 遺伝子の多型と子宮体がんリスクとの関連、さらに遺伝子多型と肥満状況との交互作用を調べるために症例対照研究を行った。

2001年1月から2005年11月までに愛知県がんセンターを受診した閉経子宮体がん74例と非がん閉経女性149名を研究対象とした。検討対象の遺伝子多型はHapMapデータベースより日本人集団においてMinor allele frequencyが30%以上、R<sup>2</sup>値が95%以上となる25個のtagSNPを選出した。いずれもTaqMan法により遺伝子型の決定を行った。

自記式質問票内の現在体重、20歳時体重、20歳時身長を用いて現在と20歳時のBody Mass Index (BMI) を算出した。ロジスティック回帰分析を用いて交絡因子調整オッズ比 (OR) と95%信頼区間 (95%CI) を調べた。

Per-allele-modelでは有意な関連を示す多型は存在しなかった。さらに現在のBMI、20歳時のBMIとの交互作用を検討した。現在のBMIが23未満の場合はrs11856927がTT型がCC+CT型に比してORが0.23 (95%CI=0.03-1.34, p=0.099)、BMI23以上の場合、ORが9.13 (95%CI=0.81-102.4, p=0.073)であり、交互作用p値は0.026だった。一方、20歳時のBMIでは統計学的に有意な交互作用は認められなかった。以上よりintron 1に存在するrs11856927の遺伝子型の影響が現在の肥満状況において異なることが示された。この関連の生物学的メカニズムはいまだに明らかではないが、予防の観点から見た場合これらの遺伝子情報が子宮体がん予防の個別化に有用である可能性が示された。

**<今後の方向>**

子宮体がんの予防に関するエビデンスを集積するため、今後さまざまな生活習慣や遺伝的要因に関する研究を実施していく。

- 1) 愛知県衛生研究所 企画部
- 2) 中央病院婦人科

**<研究課題> 2-3**

- (主 題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究
- (副 題) 緑茶・コーヒー摂取と頭頸部がん・食道がんリスクの関連

**<研究者氏名>**

尾瀬 功、松尾恵太郎、川北大介<sup>1)</sup>、細野覚代、伊藤秀美、

**<目的・概要・進捗状況>**

頭頸部がん・食道がんリスクと緑茶・コーヒー摂取の関連は未だ確立されていない。緑茶・コーヒーには抗腫瘍効果の期待される複数の物質が含まれている。一方これらは高温で摂取されることが多く、熱による粘膜傷害が頭頸部がん・食道がんのリスクとなり得る。

我々は緑茶またはコーヒー摂取と頭頸部がん・食道がんリスクの関連を明らかにするべく症例対照研究を行った。症例は2001年から2005年の間に愛知県がんセンターを受診した961名のがん患者である。同時期に受診した2883名の非がん患者を対照とした。緑茶・コーヒー摂取やその他の生活習慣に関する情報は自記式質問票により収集した。

コーヒーを1日3杯以上飲む人は一杯未満の人と比較して有意な頭頸部がん・食道がんのリスク低下がみられた (OR 0.73, 95% CI 0.55-0.96)。一方、1日3杯以上の緑茶摂取は頭頸部がん・食道がんリスクと正の関連を示した (OR1.39, 95% CI 1.13-1.70)。これらの関連は特に頭頸部がんでより強く見られたが、食道がんでは関連が見られなかった。コーヒーと頭頸部がんの関連は非喫煙者と飲酒者でのみ見られた。同様に、緑茶と頭頸部がんの関連は非喫煙者と非飲酒者でのみ見られた。これらの関連は喫煙・飲酒以外の交絡因子による層別化解析では違いは見られなかった。

以上より、頭頸部がん・食道がんリスクについて、コーヒーでは減少させる一方、緑茶はリスクを増大すると考えられた。

**<今後の方向>**

頭頸部がん・食道がんリスクに関連する生活習慣および遺伝子の探索を継続してゆく。

- 1) 名古屋市立大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学
- 2) 中央病院頭頸部外科
- 3) 中央病院消化器外科

**<研究課題> 3**

- (主 題) 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究
- (副 題) 禁煙治療受療者の体重増加に関連する要因の分析

**<研究者氏名>**

田中英夫、谷口千枝<sup>1)</sup>、伊藤秀美、尾瀬 功

**<目的・概要・進捗状況>**

禁煙治療を受ける者では、禁煙開始後に体重増加がほぼ必発する。過度の体重増加により、禁煙継続の意欲を低下させることがあるため、過度の体重増加を引き起こす要因を特定し、適切な体重コントロール指導を行うことは禁煙治療の成功率を上げるために、重要である。

愛知県がんセンター中央病院他、国内の6施設の禁煙外来で2008~2011年に治療を受け、治療終了後12ヶ月間の追跡調査を行い得た、283人を研究対象とした。禁煙治療開始時、終了時、終了後12ヶ月時点の体重を測定し、禁煙治療開始時から3.5kg

以上の体重増加をみた者を、「明らかな体重増」と判断し、その事象に関連する要因を、多重ロジスティック回帰分析で検討した。

対象者の禁煙治療終了後12ヶ月時点までの間の体重増加は、平均で男1.38kg、女1.22kgであり、3.5kgの明らかな体重増を示したものは全体の25%いた。明らかな体重増と、負の関連を示した要因は、年齢が50歳以上であることと（調整オッズ比（OR）：0.38、95%信頼区間（CI）：0.19-0.76）、バレニクリン使用者（OR：0.30、95%CI：0.11-0.78）であった。一方、明らかな体重増と正の関連を示した要因は、循環器疾患などの基礎疾患を有していたこと（OR：3.33、95%CI：1.10-10.0）、ニコチン依存度（FTND）が7点以上あること（2.07、95%CI：1.09-3.92）、治療終了後12ヶ月時点で、禁煙が継続していたこと（OR：4.57、95%CI：1.94-10.08）であった。

#### <今後の方向>

禁煙治療薬の種類や、ニコチン依存度の強さが体重増加に関連していたことが分かったので、それらをふまえた体重コントロールのための指導法の開発を行う。

- 1) 名古屋医療センター

#### <研究課題> 4

（主題） がん治療の長期予後（効果）に影響する要因の分析  
（副題） 術前血清D-dimer値と肺癌手術症例における予後との関連

#### <研究者氏名>

福本紘一<sup>1,2)</sup>、松尾恵太郎、尾瀬 功、細野覚代、伊藤秀美、横井香平<sup>2)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性腫瘍患者はしばしば凝固系が亢進した状態にあり、深部静脈血栓症（DVT）や肺梗塞などを合併しやすいといわれている。D-dimerは血栓が分解される際に血中に放出され、血清D-dimer値はDICや深部静脈血栓症などで上昇することが知られている。また明らかな血栓症がない場合でも悪性腫瘍患者、特に進行がんにおいては血清D-dimer値の上昇がしばしばみられる。血清D-dimer値の上昇が悪性腫瘍の予後と関連しているとの報告が散見されるが、原発性肺癌における報告は極めて少ない。原発性肺癌手術患者における術前血清D-dimer値と予後との関連を明らかにすることを目的に研究を行った。

2005年から2007年の間に名古屋大学呼吸器外科にて手術を施行した原発性肺癌患者247例のうち、術前に画像にて肺梗塞が明らかとなった1例を除く246例を対象とした。血清D-dimer値は術前1ヶ月以内に測定した。血清D-dimer値によってA群（ $\leq 0.5 \mu\text{g/ml}$ , n=79）、B群（ $0.5 \sim 0.86 \mu\text{g/ml}$ , n=81）、C群（ $> 0.86 \mu\text{g/ml}$ , n=86）の3群に分類した。Kaplan-Meier法を用いて生存率の算出を行いLog-rank法にて生存曲線の比較を行った。年齢・性別・喫煙歴・組織型・術式・病理病期・完全切除の有無・腫瘍マーカー（CEA）・術前血清D-dimer値などの諸因子でCox比例ハザードモデルを使用して単変量・多変量解析を行った。

3群の5年生存率は、A群が89.7%（95%CI：77.8-95.4）、

B群が80.1%（67.3-89.4）、C群が72.7%（55.1-84.4）であり、3群の予後に有意な差を認めた（Trend  $P < 0.001$ ）。多変量解析では、年齢（HR 1.05, 95%CI 1.01-1.06）、性別（男性 vs. 女性：HR 2.06, 1.16-3.66）、病理病期（stage II vs. stage I：HR 2.3, 1.13-4.68, stage III vs. stage I：HR 2.7, 1.38-5.29）、CEA（ $> 5$  vs.  $\leq 5$ ：HR 2.38, 1.33-4.28）、および術前血清D-dimer値（B群 vs. A群：HR 4.14, 1.63-10.51, C群 vs. A群：HR 4.45, 1.79-11.05）が独立した予後因子であった。

#### <今後の方向>

肺癌患者における術前血清D-dimer値は年齢・性別・病理病期・CEAなどと同様に独立した予後因子であった。血清D-dimer値の測定は肺梗塞やDVTなどの検出だけでなく、肺癌患者の予後や再発の予測の一助になると考えられる。肺癌以外でのがん腫においても検討が望まれる。

- 1) リサーチレジデント
- 2) 名古屋大学 呼吸器外科

### 腫瘍病理学部

#### <研究課題> 1-1

（主題） 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究  
（副題） 固形癌細胞膜表面レセプターCXADR（CAR）を介する増殖制御機構の解析

#### <研究者氏名>

近藤英作、斉藤 憲、飯岡英和<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

従来ウイルスレセプターとして同定されている分子は多種類のヒトがん細胞で、ウイルス非存在下に恒常的な発現を維持する現象が認められる。これはウイルス感染以外に重要な必須の役割を細胞において果たしているからと推察される。われわれは、アデノウイルスレセプターCXADR（Coxsackie and Adenovirus receptor; CAR）に注目し、その恒常的発現ががん細胞の動態にいかなる役割を担っているのかを検討した。約20種類のヒト悪性腫瘍細胞株についてqPCR法を用いてCARの発現の特徴を解析し、高発現する固形癌の代表として頭頸部扁平上皮癌細胞系でCARの発現抑制を行ったところ、増殖能の顕著な低下が認められた。また増殖抑制の分子機序としてCARが細胞骨格の制御に重要な役割を果たす酵素（ROCK）の機能を制御していることを明らかにし、研究成果を学術誌Oncogeneに発表した。

#### <今後の方向>

CARとROCKの相互反応を詳細に検討し、扁平上皮癌増殖制御（抑制）医薬のデザインをめざす。

- 1) 研修生（愛知医科大学先端医学研究センター）

#### <研究課題> 1-2

（主題） 難治がんの分子病理学的特徴解析の研究

＜副題＞ 腺癌細胞における上皮極性制御分子Crb3aの発現と機能の研究

＜研究者氏名＞

飯岡英和<sup>1)</sup>、近藤英作

＜目的・概要・進捗状況＞

上皮極性制御分子は正常器官の発生・分化・機能に必須の分子群である。この中でわれわれは管腔形成に関わる Crb3a に注目し、腺がんを中心とする悪性腫瘍における発現・機能異常の解析を進めている。

＜今後の方向＞

がんにおけるCrb3aの異常点を具体的に洗い出し、がん（とくに腺がん）制御のための基盤戦略構築のための手掛かりをつかんでいきたい。

1) 研修生（愛知医科大学先端医学研究センター）

＜研究課題＞ 1-3

（主題） 難治がんの増殖・浸潤・転移制御機構の分子病理学的研究

（副題） がん幹細胞の探索的研究

＜研究者氏名＞

中田 晋、斎藤 憲、飯岡英和<sup>1)</sup>、中西速夫、近藤英作

＜目的・概要・進捗状況＞

がん幹細胞は近年多大な注目を集める医生物学研究領域で、がんの発生・再発の根幹を成す細胞群として真の治療標的ではないかとの議論が高まっている。われわれは、膵がん、胃がん、大腸がんなどの消化器がんや脳腫瘍（グリオーマ）、また難治性リンパ腫などを解析材料に、がん幹細胞としての特徴を備えるマーカーの同定やその細胞学的特徴を分子病理学的に解析している。さらに、これら細胞群の分子標的薬などを中心とする抗腫瘍薬に対する耐性の分子機序を併せて明らかにすべく研究を進めている。

＜今後の方向＞

具体的ながん幹細胞マーカーの洗い出し、その分子機能を特定する。この結果から、がん幹細胞の増殖を制御する方策を構築していく。

1) 研修生（愛知医科大学先端医学研究センター）

＜研究課題＞ 2-1

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術開発の基盤研究

（副題） がん細胞選択的吸収性ペプチド（腫瘍ホーミングペプチド）の開発

＜研究者氏名＞

近藤英作、斎藤 憲、飯岡英和<sup>1)</sup>

＜目的・概要・進捗状況＞

我が国の制がん医療における先進医療の新しいレパートリーを創出することを目標に、選択的にがん細胞上の細胞膜透過能を發揮する新規ペプチドを開発し、これを基盤材料とした細胞内分子輸送システムや分子標的治療システム、疾患診断用イメージングシステムの構築を目指している。現在まで発生系統の異なる約10種類のヒト悪性腫瘍細胞に対して選択的勾配を示して高透過能を發揮する新規配列をコードする細胞膜透過ペプチドを得た（特許申請済み）。さらにこれらの中から白血病・肝細胞がん標的ペプチドと癌抑制遺伝子p16INK4aの機能を代償する配列を融合した抗腫瘍ペプチドを作成、さらに現在機能の大幅な増強を目指した改変技術を検討した。一連の研究成果は「がんに吸収されるペプチド」として、Nature Communication に掲載されるとともに、新聞（日経、読売、中日、時事通信各社など）やTV（NHKニュース、東海テレビなど）のメディアに取り上げられた。

＜今後の方向＞

今後はこれらペプチドを用いた腫瘍イメージングやペプチド医薬の創成など、がん医療への応用のための具体的な開発研究を推進していく。

1) 研修生（愛知医科大学先端医学研究センター）

＜研究課題＞ 2-2

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術開発の基盤研究

（副題） ゲフィティニブ耐性肺がんに対する抗腫瘍性細胞内分子機能制御ペプチドの開発研究

＜研究者氏名＞

斎藤 憲、近藤英作

＜目的・概要・進捗状況＞

肺がんにおける先進医療の領域ではgefitinib（イレッサ）、erlotinib（タルセバ）などの分子標的薬がベッドサイドに登場し活躍しているが、近年、現行の分子標的薬による耐性クローン腫瘍の出現が新たに大きな治療学上の大きな問題となっている。このような現状に鑑みて、われわれはゲフィティニブ不応性肺がんに焦点を当て、耐性がんと感受性がんの分子学的特徴の差異を解析し、増殖抑制に大きな影響を与える分子反応を明らかにした。さらにこの結果に基づいて、肺がん標的ペプチド（抗腫瘍ペプチド）の作成に成功し、さらに解析を進めている。

＜今後の方向＞

作成した抗腫瘍ペプチドの in vivo tumor model マウスにおける実効性の検討、さらに機能増強を企図したペプチドの修飾改良などを次段階として行っている。

＜研究課題＞ 2-3

（主題） 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術開発の基盤研究

(副題) 新規血液中循環がん細胞 (CTC) デバイスの開発とその臨床応用

<研究者氏名>

中西速夫、遊佐亜希子<sup>1)</sup>、舎人 誠<sup>2)</sup>、寺澤佳世子<sup>1)</sup>、伊藤誠二<sup>2)</sup>、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

近年、血液中循環がん細胞 (Circulating tumor cells=CTC) がLiquid biopsyとして注目を集めている。我々は愛知県「知の拠点」重点研究プロジェクトの一環として簡便、低コストにCTCを分離検出することのできるバイオデバイスの開発を名大工学部などと医工連携で進めている。開発したフィルター型デバイスは簡便、高感度にCTCを検出し、かつ生きたまま1個ずつ単離でき、その後各種の遺伝子解析が可能である。また、本デバイスはこれまでブラックボックスとされてきたCTCの生体内動態解析にも有用でGFP遺伝子を導入したマウスCTCモデル(転移モデル)を作成してその一端を明らかにした。

<今後の方向>

今後、本デバイスを用いて臨床研究を進め、転移の早期診断や治療効果判定のバイオマーカーとしての有用性について検討してゆく予定である。

- 1) 研修生
- 2) 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 2-4

(主 題) 難治がんに対する分子診断技術および分子治療学的技術開発の基盤研究  
(副 題) 消化器がん転移に対する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の研究

<研究者氏名>

中西速夫、伊藤彰洋<sup>1)</sup>、三澤一成<sup>2)</sup>、伊藤友一<sup>2)</sup>、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

腹腔微小転移巣を特異的かつ高感度に検出する近赤外蛍光腹腔鏡イメージング法の開発を進めている。ICG直接標識EGFR抗体(ICG封入リボゾーム標識抗体)を、あらかじめ腹膜転移を作成したヌードマウスの腹腔内あるいは静脈内に接種し、ICG用CCDカメラを装着した新規腹腔鏡試作機とレーザー光源(波長800nm)を組み合わせ構築したICG蛍光腹腔鏡により1mm以下のサイズの腹膜転移を特異的かつほぼリアルタイムに検出することに成功した。近赤外蛍光標識抗体を用いた光イメージング法は、胃がんの腹膜転移に対して高い感度・特異性を有し、蛍光腹腔鏡による光イメージング法として臨床応用の可能性が示唆された。

<今後の方向>

臨床的に重要なリンパ節転移についても独自にマウスのリンパ節転移モデルを開発しており、今後これを用いてリンパ節転移巣の蛍光イメージングについても検討する予定である。

- 1) 研修生

2) 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 3

(主 題) 胃がん・大腸がん発生・増殖進展・転移の分子機序の研究  
(副 題) 日本人由来HER2陽性胃がん細胞株の樹立とその分子標的抵抗性

<研究者氏名>

中西速夫、斎藤卓也<sup>1)</sup>、古屋朋美<sup>1)</sup>、伊藤誠二<sup>2)</sup>、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

我が国においても進行再発HER2陽性胃がん患者に対して分子標的治療(Trastuzumab=Tmab)が開始されたが、薬剤耐性の克服は大きな課題である。我々はFISH(++)/IHC3(+)細胞株(GLM-1, GLM-4)およびFISH(+/-)/IHC3(+)細胞株(GLM-2, GLM-5)を日本人患者から樹立し、さらにGLM-1, GLM-4等のTmab耐性株を作成し、その分子標的薬感受性・抵抗性について解析してきた。FISHでクラスター型増幅を示す胃がん細胞はTmab、Lapatinib(LP)に対し高感受性を示すのに対し、上記Tmab獲得耐性株はLPのみに感受性でFISHで軽度増幅にとどまるGLM-2, GLM-5はTmab, LPともに比較的抵抗性を示した。本細胞パネルはHER2耐性胃がんに対する新しい治療法開発の有用な実験モデルと考える。

<今後の方向>

現在のHER2陽性の判定基準で陽性とされる胃がん細胞には自然耐性、獲得耐性がんが含まれており、今後、耐性を予測できる新たなマーカーの探索を進める予定である。

- 1) 名古屋大学連携大学院生
- 2) 愛知県がんセンター中央病院・消化器外科

<研究課題> 4

(主 題) 病理剖検症例の病理組織学的研究

<研究者氏名>

中西速夫、斎藤典子、近藤英作

<目的・概要・進捗状況>

本年度(平成23年4月~平成24年3月)は6体の病理解剖を行い、開所以来の総剖検数を2,636体とした。これらの症例は組織検査後、病理診断・解剖所見を付して担当医に報告されると同時に、日本病理学会の剖検輯報に掲載される。学問的に貴重な症例、臨床的(診断並びに治療上)に重要で検討を要する症例に関しては、担当医との意見の交換は勿論であるが、適時行われるCPC(臨床病理検討会)に提出し相互討議を深め、当がんセンターの医療水準の向上の一役を担ってきた。本年度は卵巣がんおよび胆嚢がんの2症例についてCPCを開催した。

<今後の方向>

がんの診断技術、制がん手段(手術・照射・制がん剤・免疫療法)の進歩によって、根治例の増加は勿論、非根治例でも長



期間寛解をもたらす機会が開かれつつある。悪性リンパ腫等に対する幹細胞移植を組み合わせた超大量化学療法や分子標的治療、食道がん、脳転移巣への分割照射の治療効果などがその代表で、剖検時腫瘍の顕著な縮小、瘢痕治癒を認めることが少なくない。しかし一方で感染症をはじめ出血、血栓症などの合併症が死因となる例も決して稀ではない。かかる症例を疾患の自然史的立場から系統的な病理学的検討を行い、良好な予後に導く要因を引き出すのが今後の重要な課題である。また近年増加傾向にある臨床試験（治験）が行われている症例や医療事故が疑われる症例の剖検については臨床側との密接な協力、また第三者機関へのコンサルテーション等により積極的に症例報告、情報開示を行ってゆくことが大切である。

## 分子腫瘍学部

### <研究課題> 1

- (主題) 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探索  
(副題) 肺がんにおけるTTF-1/ROR1シグナルの意義

### <研究者氏名>

山口知也<sup>1)</sup>、柳澤 聖<sup>1)</sup>、島田友香子<sup>1)</sup>、有馬千夏<sup>1)</sup>、  
加藤省一<sup>1)</sup>、富田秀太<sup>1)</sup>、鈴木 元<sup>1)</sup>、長田啓隆、高橋 隆<sup>1)</sup>

### <目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国において癌死亡率第一位を占める肺がんの予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められており、そのために肺がんの発生・進展機序に関する分子生物学的な解析が精力的になされ、ジェネティック・エピジェネティックな異常の蓄積に基づく特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺がんの病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかになってきている。我々の研究グループはこのような過程で以前に、転写因子 Nkx2-1/TTF-1 遺伝子を肺腺癌の lineage-survival oncogene であると同定して報告した。その後、他のいくつかのグループが同様にこの遺伝子を肺がんの遺伝子と報告している。しかし、その後このTTF-1の機能は未知のままであった。我々の研究グループはまず、TTF-1によって誘導される遺伝子発現プロファイルの変化を網羅的に検討し、このTTF-1が受容体型チロシンキナーゼROR1を強く発現誘導することを見出した。ROR1は受容体型キナーゼであることは判明していたが、ROR1を活性化するようリガンドは不明で、ROR1の細胞生物学的な機能も不明であった。そこで次にこのROR1の機能の解明を目指した。その結果、ROR1はキナーゼ活性依存的にc-srcを活性化し、PTENを抑制してAKTを活性化した。また一方、キナーゼ活性非依存的にEGFR-ERBB3の会合を誘導し、EGFR/ERBB3を活性化し、下流のPI3Kを活性化した。ROR1はこのような二種類の作用機構により、PI3K-AKTシグナルを活性化して、肺がんの生存シグナルを活性化し、肺がんの生存増殖を維持することが判明した。特に注目すべき事は、ROR1ノックダウンにより肺腺癌の増殖抑制が見られるが、それはEGFRの活性化変異の有無・EGFRキナーゼ阻害剤(TKI)抵抗性の有無にかかわらず、細胞増殖抑制が見られた事である。

### <今後の方向>

このような検討から、ROR1は肺腺癌の発症進展の上で、非常に重要な機能を果たしており、しかもROR1の機能抑制は、現在臨床的に非常に問題になっている肺がんのEGFR-TKI耐性を打ち破ることが期待される。したがって、ROR1は将来非常に有望な治療標的分子であると考えられた。今後、ROR1機能を抑制するような分子の探索を進める。

#### 1) 名大・院医・分子腫瘍

### <研究課題> 2

- (主題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究  
(副題) AJUBA蛋白のHippoシグナル伝達系を介した中皮腫細胞の増殖抑制効果

### <研究者氏名>

田中一大、長田啓隆、藤井万紀子、深津明日樹、関戸好孝

### <目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫はアスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度な腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん関連遺伝子異常としては、約半数の中皮腫症例においてNeurofibromatosis type 2 (NF2) 遺伝子の不活化変異を認めることが報告されている。近年、NF2遺伝子産物、Merlinの下流カスケードの1つであるHippoシグナル伝達経路が細胞増殖やアポトーシスの制御により器官・臓器の大きさを調節するのに重要な役割を担っていることが明らかにされた。さらにHippoシグナル伝達系の異常が各種臓器の発がんに関与していることも明らかになってきた。中皮腫においてはNF2-Hippoシグナル経路の構成分子のうち、我々はNF2遺伝子以外にもLATS2やSAV1遺伝子がジェネティックに不活化することを明らかにしており、総じて70%の中皮腫でNF2-Hippo経路が不活化していることを明らかにしてきた。NF2-Hippo伝達系の不活性化の結果引き起こされるエフェクター分子であるYAPがん遺伝子の活性化が生じ、サイクリンD1やFOXM1といった細胞周期を促進する遺伝子群の転写亢進が引き起こされることも昨年度の研究で明らかとなった。しかし、悪性中皮腫においてYAPが恒常的に活性化する機構ははまだ明確ではない。

今回、中皮腫細胞株においてHippoシグナル経路の構成分子として最近あらたに報告された複数の分子の発現をウエスタンブロット法にて検討し、LIMドメイン蛋白であるAJUBA分子が高頻度に発現低下していることを明らかにした。AJUBA分子はYAP分子をリン酸化して不活性化する機能を有するLATS2分子の結合パートナーであり、AJUBA分子の発現低下によってYAP分子がさらに脱リン酸化(活性化)することを明らかにした。免疫組織学的検討を行ったところ、外科切除標本においてもAJUBA分子が高頻度に発現低下しYAPの恒常的活性化に関与していることが明かになった。さらにAJUBA遺伝子を中皮腫細胞株に導入したところYAP機能を抑制したが、この抑制効果はLATS2遺伝子をRNA干渉法によってノックダウンすることで消失した。さらにAJUBA発現レンチウィルスを用いて中皮腫細胞の増殖能の変化を評価したところ、細

胞増殖能や足場非依存性増殖能は強く抑制された。このようにLATS2遺伝子の変異・発現状態によってAJUBA導入効果は違いがあり、中皮腫細胞においてAJUBAはLATS2依存的にYAPを制御（抑制）することが明かとなった。

#### <今後の方向>

中皮腫細胞においてAJUBA遺伝子ががん抑制遺伝子として機能することが示された。AJUBAはLATS2依存的にHippoシグナル伝達系を介してYAPがん遺伝子産物を抑制し、腫瘍抑制性に機能することが明かとなった。一方、ショウジョウバエで保存されているAJUBAオルソログであるdJUBはがん遺伝子として機能することが報告されているが、何故、ヒトにおけるAJUBAががん抑制機能を有するか、その詳細は明らかではない。dJUBのヒトホモログはAJUBAの他に2つの遺伝子があるため、それらの分子についても解析を進める。本研究を通じ、悪性中皮腫細胞の新規治療戦略開発においては、Hippoシグナル伝達系に関わる研究をさらに推進することが必要であることが強く示唆された。

#### <研究課題> 3

(主題) 消化器がんの発症におけるエピジェネティクス関与の解明

#### <研究者氏名>

岡本泰幸<sup>1)</sup>、新城恵子<sup>2)</sup>、近藤 豊

#### <目的・概要・進捗状況>

発がんには環境要因による影響が深く関与していると考えられている。例えば遺伝毒性発がん物質は遺伝子（ゲノム）損傷を介した遺伝子変異を誘導する。興味深いことに、最近の大規模遺伝子解析から、がん細胞では増殖や生存に関わる遺伝子変異が存在していたが、予想以上にエピゲノム制御遺伝子に変異が蓄積していることがわかってきた。これらの事実から、発がんにはゲノム異常によって誘導されるエピゲノム異常も重要であることが推測される。一方で環境要因のひとつとして、感染症による慢性炎症も発がんの原因となる。日本では肝細胞がんは主にB型、C型肝炎ウイルス（HBV、HCV）による慢性肝炎を母地として発生する。慢性肝炎の状態、ゲノムワイドにエピゲノム異常を蓄積しており、既に前がん状態を形成していると考えられる。しかしHBVやHCVが感染後、どのような機序でエピゲノム異常を誘導するかについては、in vivoでは解析がなされていない。

今回HBVおよびHCVの持続感染が可能となるように、マウス肝細胞をヒトの肝細胞で置換したヒト肝細胞キメラマウスを用いて解析を行った。その結果ウイルス感染後にNK細胞を中心とした自然免疫系が、IFN $\gamma$ の産生を介して、肝細胞にDNAメチル化異常を誘導することを見出した。DNAメチル化異常は、感染日数の経過とともにより高度に蓄積し、とりわけ加齢関連遺伝子のDNAメチル化異常が亢進していた。マウスモデルで誘導されるDNAメチル化異常の一部は、実際のヒト肝細胞がん症例で観察されるDNAメチル化標的遺伝子と一致した。不活化抗体を用いてNK細胞の機能抑制することでDNAメチル化異常の誘導は抑制された。DNAメチル化異常の誘導

には、活性酸素（ROS）の産生と細胞増殖の亢進による加齢に関連したDNAメチル化誘導機構が深く関与していた。慢性炎症に伴うエピゲノム異常はゲノム異常のみならず種々の原因で誘導されており、エピゲノム異常による遺伝子の制御異常を介して発がんに関与している可能性が高いと考えた。

これまでウイルス感染後の慢性肝炎によるエピゲノム異常の誘導については、その機序がほとんどわかっていなかった。本研究ではヒト肝細胞キメラマウスを用いてその機序の一端を明らかにした。

- 1) 研修生
- 2) 腫瘍病理学部

## 遺伝子医療研究部

### <研究課題> 1-1

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) aCGHによる末梢性T細胞性リンパ腫、非特異型におけるサブクローンの同定

### <研究者氏名>

吉田稚明<sup>1)</sup>、加留部謙之輔、在田幸太郎<sup>2)</sup>、都築 忍、大島孝一<sup>3)</sup>、塚崎邦弘<sup>4)</sup>、瀬戸加大

### <目的・概要・進捗状況>

我々は以前、ゲノム異常陽性の peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified (PTCL-NOS) とリンパ腫型 Adult T-cell Leukemia/Lymphoma (ATLL) のゲノム異常様式、またその臨床病理学的所見ならびに予後が極めて類似していることを見出した。このことから heterogeneous な category である PTCL-NOS の中にはリンパ腫型 ATLL と良く似た病態を有する疾患が存在することを示した。また我々は以前に大多数の ATLL 患者では、リンパ節内にゲノム異常の異なる複数のサブクローンが存在することを見出し、報告した。そこで PTCL-NOS でも ATLL と同じくサブクローンが存在しているかについて array comparative genomic hybridization (aCGH) を用いて詳細に検討したところ、PTCL-NOS でもサブクローンが存在することが示唆された。また PTCL-NOS においてサブクローンを有する症例の予後はサブクローンを持たない症例と比較し不良である傾向があった。次に、PTCL-NOS 13例と、ATLL 49例を用いて、そのゲノム異常にヒエラルキーが存在するかどうか、サブクローンの存在と合わせて検討した。すると、13q部の欠失は初発クローンに存在するゲノム異常として認識されることが比較的多い傾向があった。つまり、この異常はこれら疾患の初期発症に関与している可能性がある。

また、甲状腺炎を背景とし発症するT細胞性リンパ腫についての解析を実施した。甲状腺炎を背景とし発症するリンパ腫の多くがB細胞性であるが、ごく稀にT細胞性リンパ腫も発症する。今回甲状腺炎を背景とし発症した6例のT細胞性リンパ腫のDNA、RNAを得ることができた。ゲノム異常をaCGHで解析したところ、6q24.2部の欠失を67%の症例で認め、本疾患に特徴的なゲノム異常と考えられた。このうち1症例は約41kbp

の微小欠失を示しており、同部にはUTRN、STX11のみが存在していた。このうちSTX11は発現値が症例で低下している傾向があった。

#### <今後の方向>

リンパ腫におけるサブクローンの存在については他病型でも確認していく。また甲状腺炎関連T細胞性リンパ腫で見出したゲノム異常、遺伝子異常については今後機能解析を実施していく。

- 1) 連携大学院生
- 2) リサーチレジデント
- 3) 久留米大学医学部・病理
- 4) 国立がん研究センター東病院

#### <研究課題> 1-2

- (主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用
- (副題) NK細胞性腫瘍に対するvorinostatの抗がん効果とNK細胞性腫瘍選択的がん抑制遺伝子FOXO3

#### <研究者氏名>

加留部謙之輔、瀬戸加大

#### <目的・概要・進捗状況>

NK細胞性腫瘍サンプルの遺伝子発現解析を通じて、この腫瘍ではJAK-STAT、NFκB、Wntの各経路が活性化している可能性を見出し、ウェスタン解析によりSTAT3のリン酸化が認められたことから、確かにJAK-STAT 経路が機能していることが示唆された。遺伝子発現データのconnectivity map解析から、抗癌活性を有する候補分子としてvorinostatが挙げられたため、この薬剤をNK腫瘍細胞に作用させるとJAK-STAT 経路が抑制され、抗癌作用が確認できた。

また、NK細胞性腫瘍で高頻度に欠失のみられる染色体6q領域に存在する遺伝子のうち、FOXO3がNK細胞性腫瘍選択的がん抑制遺伝子として機能する可能性を見出した。これはNK細胞性腫瘍ではAKT活性が低いために、FOXO3が核内に局在することと関係がある。

#### <今後の方向>

vorinostatの*in vivo*での抗NK腫瘍活性を検討する。

#### <研究課題> 1-3

- (主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用
- (副題) 悪性リンパ腫におけるクローナルエボリューションの有無と臨床的意義の検討

#### <研究者氏名>

片山 幸、竹内一郎<sup>1)</sup>、瀬戸加大

#### <目的・概要・進捗状況>

クローナルエボリューションは、腫瘍に更なる染色体異常等

が加わり、腫瘍クローンが“進化”することである。このクローナルエボリューションの臨床的意義を悪性リンパ腫の6疾患計333例に対して検討を行った。アレイCGH法を用いた解析では、疾患によってクローナルエボリューションを示す割合は10-68%と大きく異なっていた。また、詳細な検討から、疾患に特異的な染色体転座の一部とクローナルエボリューションが互いに排他的であること、クローナルエボリューションを示す症例は予後不良なことを突き止め、診断時の治療方針決定の一助となる結果を得ることができた。

#### <今後の方向>

これらの結果をpublishedのデータでも確認する予定である。またクローナルエボリューションを引き起こすゲノム異常、クローナルエボリューション発症時に新たに加わるゲノム異常について検討する。

- 1) 名古屋工業大学

#### <研究課題> 2-1

- (主題) 造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
- (副題) 正常成熟リンパ球への遺伝子導入による新規リンパ腫マウスモデル

#### <研究者氏名>

在田幸太郎<sup>1)</sup>、春日井由美子、都築忍、大島孝一<sup>2)</sup>、瀬戸加大

#### <目的・概要・進捗状況>

成熟B細胞リンパ腫は染色体転座、ゲノムコピー数異常、遺伝子変異などが種々の組み合わせで蓄積することで生じる。これらの異常の中から真に腫瘍化に寄与する組み合わせが抽出できれば、適切な治療標的を提案していくことができるが、現状の遺伝子改変マウスを掛け合わせる方法では多数の候補遺伝子をスクリーニングすることが困難である。そこで我々は、*in vitro*で誘導した成熟B細胞にレトロウイルスを用いて遺伝子導入し、この細胞をマウスに移植することで腫瘍形成能を評価する系を確立した。平成24年度においては遺伝子発現の脱制御に焦点を当て、染色体転座関連遺伝子であるMycとBcl2の組み合わせ、およびMycとBcl6の組み合わせで、正常な成熟B細胞が腫瘍細胞に形質転換することを確認した。詳細な検討のため、Myc+Bcl2で得られた腫瘍を解析した。ポリクローナルな細胞集団を移植するにも関わらず、生じた腫瘍の免疫グロブリン鎖のVDJ再構成からはモノクローナルの腫瘍であると予想された。しかし、組織学的に脾臓を検討すると、腫瘍細胞は胚中心と赤脾髄に分布し、胚中心ではBcl6陽性、PNA陽性の性質を示す一方で、赤脾髄ではそのいずれもが陰性であった。これらの事実から、*in vivo*でさらなるクローン選択や修飾を受けるものと考えられた。

同様に成熟T細胞にMyc、Bcl2およびCCND1を遺伝子導入することにより、末梢性Tリンパ腫モデルを作製することにも成功した。MycとBcl2だけでも作成可能だが、CCND1を加えることによって、より早期に高い確率でリンパ腫が発生した。



#### <今後の方向>

我々の系の特徴は複数の遺伝子を同時に導入することが容易なことであり、3つ以上の候補遺伝子の組み合わせも評価可能である。全ゲノムシークエンスの時代に入り、多数の遺伝子変異が報告されるようになってきた。これら遺伝子変異が本当に腫瘍化に寄与するのだろうか、他のどの因子と協調作用を示すのかについて検討していく。

- 1) リサーチレジデント
- 2) 久留米大学医学部・病理

#### <研究課題> 2-2

- (主題) 造血器細胞の分化・増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
- (副題) TEL-AML1型リンパ性白血病におけるTEL-AML1キメラ分子の機能解析

#### <研究者氏名>

都築 忍、瀬戸加大

#### <目的・概要・進捗状況>

TEL-AML1キメラ分子はt(12;21)染色体転座に伴って発現する異常転写因子である。このキメラ分子が発現するタイプの白血病は小児白血病の最多病型であり、例外なく前駆Bリンパ性白血病である。TEL-AML1を有する異常細胞は胎児期にすでに見出され、しかしそれ単独では白血病にはならず(前駆白血病状態)、生後に生じる何らかの付加的遺伝子異常を得て初めて白血病化すると考えられる。本研究では、前駆白血病状態におけるTEL-AML1の機能をマウスの胎児B細胞を用いて解析した。その結果、TEL-AML1は胎児B細胞に自己複製能を賦与し、そこでは胚性幹細胞と共通する転写プログラムが働いていることが明らかとなった。このプログラムを抑制すると、前駆白血病のみならず、既に成立したTEL-AML1白血病の増殖も損なわれることから、将来の治療標的となる可能性がある。

#### <今後の方向>

今後は、生後に生じる白血病化に必要な付加的遺伝子異常が何かを明らかにし、あわせてこのタイプの白血病の成立機構を解明し、治療法・予防法の開発につなげてゆきたい。

### 腫瘍免疫学部

#### <研究課題> 1

- (主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索
- (副題) HSP90 $\beta$ 由来CTLエピトープの解析

#### <研究者名>

岡村文子、葛島清隆

#### <目的・概要・進捗状況>

がん免疫療法ではがん細胞を攻撃するエフェクターである細胞傷害性Tリンパ球(CTL)が認識する抗原の情報が治療に重

要な役割を果たす。我々は腫瘍抗原を同定するための様々な人工抗原提示細胞を構築している。今年度はK562をベースとした人工抗原提示細胞を用いて樹立したCTLクローンが認識するHSP90 $\beta$ を抗原として同定した。人工抗原提示細胞のベースとした用いた慢性骨髄性白血病細胞株K562のmRNAから構築したcDNAライブラリーを用いた発現スクリーニング解析により、CTLクローン32D12が熱ショックタンパク質であるHSP90 $\beta$ を認識していることが明らかとなった。次にHSP90 $\beta$ をコードする短縮遺伝子を作製してエピトープ配列部分を絞り込んだ。最終的に合成ペプチドを用いて調べた結果、9アミノ酸から成るペプチドに反応することが明らかとなった。またRNA干渉法を用いてHSP90 $\beta$ の発現を特異的に抑制するとCTL応答が低下したことから、真の抗原であることがわかった。HSP90 $\beta$ は熱ショックタンパク質であり、熱やストレスなどの環境変化に伴って、発現が増加することが知られているが、一部のがんにおいても高発現であることや腫瘍原性に与していることが報告されている。またHSP90 $\beta$ はシャペロンタンパク質としても機能している。他のタンパク質が正常に三次元構造を形成するのを助ける機能を持ち、構造的に正しくない場合にはそのタンパク質を壊す働きをする。その際にシャペロンとしての機能を発揮するための共役分子であるKW-8の発現によってCTL応答が増加することも見出した。

HSP90 $\beta$ を発現していてもこのCTLクローンに認識されない細胞があるため、CTLが認識するエピトープの提示機構における違いによるのではないかと考えて、一部のがん細胞で特異的に働いている分子に注目した。K562ではイムノプロテアソームが働いていないことが知られていることから、イムノプロテアソームの活性をRNA干渉法で抑制した細胞におけるエピトープ提示を調べた。3種類の異なるイムノプロテアソーム関連分子の発現を抑制した細胞に対してCTL応答は惹起されなかった。次にK562で活性があまり高くないTAP分子に着目した。もともとCTLが認識しない膀胱癌細胞株はHLA-A24とHSP90 $\beta$ を発現している。TAP1およびTAP2の発現をRNA干渉法にて抑制したところ、CTL応答が惹起された。このことから、このエピトープがTAP非依存的経路によって提示されることが示唆された。

#### <今後の方向>

TAPの発現低下はがんでのみ特異的に見られると考えるので、TAP非依存的抗原提示は、言い換えればがん特異的抗原提示機構を介していると言える。HSP90 $\beta$ はその作用によりがんのターゲットとしても注目され、抗がん剤としての研究が進んでいる。がんでのみ目印となるエピトープが作り出されるHSP90 $\beta$ を認識するCTLクローンを用いてマウスを用いた実験を行ってがん免疫療法への効果を検討していく予定である。

#### <研究課題> 2-1

- (主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
- (副題) NKT細胞サブセットをベースとした新規抗腫瘍エフェクター細胞の構築とがん免疫療法への応用

#### <研究者名>

植村靖史、峰野純一<sup>1)</sup>、池田裕明<sup>2)</sup>、藪田精昭<sup>3)</sup>、珠玖 洋<sup>2)</sup>、



<目的・概要・進捗状況>

細胞傷害作用と免疫賦活効果を発揮するヒトインバリアントナチュラルキラーT (iNKT) 細胞に、がん抗原を認識するT細胞抗原受容体 (TCR) を人為的に発現させ、がん細胞を特異的に傷害する低侵襲・抗腫瘍エフェクター細胞を作製する。このiNKT細胞をベースとしたエフェクター細胞のがん細胞に対する傷害活性、および樹状細胞 (dendritic cell : DC) に賦与する機能的修飾を明らかにすることで、これをがん患者に投与して、免疫抑制性のがん微小環境を改善するとともに、持続的で強力ながんの排除を誘導する新たな免疫療法を開発することを目的とする。

V $\alpha$ 24<sup>+</sup>V $\beta$ 11<sup>+</sup>6B11<sup>+</sup>ヒトiNKT細胞を抗原である $\alpha$ -ガラクトシルセラミド ( $\alpha$ -GalCer) で刺激して細胞株を樹立した。さらにCD4<sup>+</sup>CD8 $\beta$ <sup>-</sup> (CD4 positive : CD4)、およびCD4<sup>-</sup>CD8 $\beta$ <sup>-</sup> (double negative : DN) の各iNKTサブセットを分離した。それぞれのiNKT細胞サブセットに、HLA-A24拘束性のがん特異抗原ペプチド (MAGE-A4) を認識するT細胞抗原受容体 (TCR)、およびCD8 $\alpha/\beta$ 鎖をレトロウィルス導入系によって発現させた。

作製した遺伝子改変iNKT細胞は、MAGE-A4特異的TCRと $\alpha$ -GalCer特異的インバリアントTCRの両方を発現していた。特に、遺伝子改変DN iNKT細胞サブセットは、MAGE-A4を発現するメラノーマ細胞株 (SK-MEL-128)、肺癌細胞株 (11-18)、およびMAGE-A4ペプチド負荷T2-A24に対して強力な細胞傷害活性を示し、抗腫瘍エフェクター細胞としての機能に優れていることが明らかになった。一方、CD4 iNKT細胞サブセットは、 $\alpha$ -GalCerを負荷した樹状細胞 (dendritic cell : DC) のIL-12p70産生を促進して、細胞性免疫応答を誘導する細胞アジュバントとしての機能に優れていることが明らかになった。

<今後の方向>

免疫不全マウスを用いた解析系により *in vivo* における抗腫瘍効果を明らかにする。

- 1) タカラバイオ株式会社・細胞遺伝子治療センター
- 2) 三重大学大学院医学系研究科・遺伝子免疫細胞治療学
- 3) 関西医科大学大学院医学研究科・幹細胞生物学

<研究課題> 2-2

- (主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究  
(副題) ヒトインバリアントNKT細胞における細胞アジュバント機構の解析

<研究者名>

張エイ、劉天懿<sup>1)</sup>、鈴木元晴<sup>2)</sup>、廣澤成美<sup>3)</sup>、坂本 安<sup>3)</sup>、葛島清隆、植村靖史

<目的・概要・進捗状況>

樹状細胞 (DC) は、生体内の至る所に存在し、環境要因と免疫応答との接点となり、外界から侵入する異物を監視するセンサーとしての役割を担っている。異物に存在する構造パターンは、DCに特有の機能を賦与しながら、その成熟と分化を誘

導する。近年、DCの分化状態の違いによって、「がん」の増殖や「がん」に対する免疫応答を、正にも負にも制御しうることが明らかになってきた。「がん」の進展を制御するためには、DCを適切な方向に成熟分化させ、IL-12産生を誘導して細胞性免疫応答を惹起するとともに、「がん」の増殖・転移を支持するIL-23やオステオポンチン (OPN) 産生を抑制することが重要である。

インバリアント・ナチュラルキラーT (iNKT) 細胞は、CD1d分子によって提示された特定の糖脂質抗原 ( $\alpha$ ガラクトシルセラミド) を認識する特殊なT細胞サブセットである。この細胞を抗原刺激すると免疫賦活作用 (アジュバント作用) を発揮して、DCの成熟とIL-12産生を誘導するとともにIL-23産生を抑制する。本研究課題は、DCのOPN産生制御におけるiNKT細胞の役割を明らかにし、これのアジュバント機能を応用して「がん」の進行を制御する新たな免疫療法を開発することを目的としている。

ヒトiNKT細胞とDCと共培養を行い、DCにおけるIL-12、OPN産生を評価したところIL-12産生が促進され、OPN産生が抑制された。抗CD1d抗体、抗CD40L抗体を用いた阻害試験により、CD40L以外の他の因子がOPN抑制に関与することが示唆された。そこでDCに抗CD3抗体刺激したiNKT細胞の培養上清を添加したところOPN産生が低下したため、培養上清中に責任分子が存在することが明らかになった。iNKT細胞が産生する候補液性因子を、フローサイトメトリーベースのマルチプレックスアッセイにより決定し、これらに対する中和抗体、リコンビナントサイトカインを用いた評価系によって、iNKT細胞が産生するIL-4、IL-13、IFN- $\gamma$ がOPN産生に抑制的に作用すること、また、この観察は遺伝子発現レベルで制御されていることが明らかになった。iNKT細胞は、免疫制御の中心的役割を果たすDCと相互作用し、IL-12産生を促進して細胞性免疫応答を誘導するとともに、OPNレベルを低下させ、「がん」の増殖に適した環境を改善することが示唆された。

<今後の方向>

OPN依存性のがん転移モデルを作製するとともに、*in vivo* におけるがん転移抑制効果を検討する。

- 1) 中華人民解放軍総院腫瘍学
- 2) 埼玉医科大学 産婦人科学
- 3) 埼玉医科大学 中央研究施設 機能部門

腫瘍ウイルス学部

<研究課題> 1-1

- (主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析  
(副題) EBNA1蛋白質の宿主細胞染色体付着機構の解析

<研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也、胡桃坂仁志<sup>1)</sup>

<目的・概要・進捗状況>

EBNA1蛋白質は、分裂増殖するEBウイルス潜伏感染細胞のすべてにおいて発現し、ウイルスゲノムの核内維持やトランスフォーム蛋白質の発現制御などにおいて中心的役割を果たす。

今回、細胞生物学的手法を用いてEBNA1蛋白質の染色体結合メカニズムを解析した。EBNA1蛋白質の染色体結合ドメイン(chromosome binding domain, CBD)領域に計24個存在するアルギニン残基をアラニン置換すると、染色体結合能は消失した。一方でアルギニン残基をリシン置換しても、EBNA1蛋白質の染色体結合能やウイルスプラスミド維持能は損なわれなことを明らかにした。以上よりEBNA1蛋白質と染色体との結合は、主に静電的相互作用によるものと考えられた。

#### <今後の方向>

得られた知見をもとに、EBNA1蛋白質の染色体局在を特異的に阻害する低分子化合物による新規抗ウイルス療法開発をめざす。

1) 早稲田大学・理工学術院・先進理工学部・

#### <研究課題> 1-2

(主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析

(副題) Hsp90阻害剤によるEBウイルス産生感染阻害の分子機構

#### <研究者氏名>

川島大介<sup>1)</sup>、鶴見達也

#### <目的・概要・進捗状況>

Hsp90阻害剤は、分子シャペロンであるHsp90の標的タンパク質の安定化や機能を阻害する化合物である。これまでに単純ヘルペスウイルスやインフルエンザウイルスなどで、Hsp90阻害剤はウイルス複製を阻害することが報告されている。本研究では、EBウイルス産生感染におけるHsp90阻害剤の効果とその分子機構に関して検討を行った。

まず、Hsp90阻害剤はEBウイルスのDNA合成をほぼ完全に阻害することを明らかとした。そこで、Hsp90阻害剤の作用点を解明するため、EBウイルスのDNAポリメラーゼ複合体に着目した。我々は、EBウイルスのDNAポリメラーゼであるBALF5はその付随因子であるBMRF1と結合することで核移行することを見出し、BALF5のBMRF1依存的な核移行がHsp90阻害剤によって阻害されることを明らかにした。その作用機序として、Hsp90はBALF5と相互作用することを確認し、Hsp90阻害剤はHsp90-BALF5間の相互作用を破壊することにより、BALF5-BMRF1複合体形成を阻害することを明らかとした(Kawashima et al., J. Virol., 2013)。

#### <今後の方向>

本研究により、Hsp90阻害剤はEBウイルス関連疾患への有効な治療薬となりうる可能性が示唆された。現時点では副毒性が懸念されるが、今後、毒性のより少ない新規Hsp90阻害剤が同定される可能性も高く、EBウイルス関連疾患治療薬としての期待も高まる。

1) リサーチレジデント

#### <研究課題> 1-3

(主題) ヒトがんウイルスの増殖と宿主細胞応答の解析

(副題) EBウイルス溶解感染時のウイルスゲノム複製機構

#### <研究者氏名>

成田洋平、村田貴之、鶴見達也

#### <目的・概要・進捗状況>

EBウイルスは多くの健常成人のBリンパ球などで潜伏感染しており、刺激により再活性化し、溶解感染に至る。このようなウイルス感染様式は単にウイルスの増殖のみならず、EBウイルス陽性癌の細胞増殖性とも密接な関係にあるため、そのメカニズムの解明や制御方法の開発は重要である。

今回我々は、タンパク質の翻訳後修飾の1つであるリン酸化に着目し、pSer/Thr-Proモチーフを特異的に認識するペプチジルプロリル異性化酵素Pin1とEBウイルス溶解感染の関係について解析を行った。その結果、EBウイルスがコードするDNAポリメラーゼBALF5のリン酸化されたThr178とPin1がリン酸化依存的に相互作用することを見だし、この相互作用がウイルスゲノム複製効率を調節していることを報告した(Narita et al., J. Virol 2013)。

#### <今後の方向>

これまでの結果はBALF5のC末端領域に保存されているドメインのみならず、N末端領域もウイルスゲノム複製に何らかに役割を持っている可能性が示唆されるものである。さらに、ヒトヘルペスウイルスのDNAポリメラーゼのN末端領域に保存されているモチーフが単純ヘルペスウイルスの複製において重要であると報告(Terrell et al., J. Virol 2013)されたことから、EBウイルスのDNAポリメラーゼBALF5において、そのモチーフが果たす役割を明らかにしようと考えている。

#### <研究課題> 2

(主題) 遺伝子組み換えウイルスを用いた発がん研究

(副題) EBウイルスによるヒト上皮細胞がん化メカニズムの解析

#### <研究者氏名>

神田 輝、鶴見達也

#### <目的・概要・進捗状況>

ヒト腫瘍ウイルスであるEBウイルスは、Bリンパ球を主な感染宿主細胞とする一方で、咽頭や胃の上皮細胞へも感染し、その発がんに関与すると考えられている。しかしEBウイルスによる上皮細胞がん化のメカニズムの詳細は不明である。近年の研究により、EBウイルス陽性胃がん・上咽頭がんにおいて、ウイルス由来マイクロRNA(miRNA)が高発現していることが報告され、ウイルス由来miRNAはEBウイルスによる上皮細胞発がん過程において関与する可能性が考えられる。そこでEBウイルスのmiRNA遺伝子を欠損ないし修復した組換えウイルスを産生することで、ウイルスmiRNAによる宿主細胞の遺伝子発現変化を解析した。その結果、上皮細胞特異的に発現する遺伝子をターゲット候補遺伝子として同定した。

#### <今後の方向>

ウイルス由来miRNAによるターゲット候補遺伝子の発現抑制が、EBウイルスによる上皮細胞がん化においてどのような意義を有するのか、その解明をめざす。

#### <研究課題> 3

(主題) 抗がんウイルス療法の開発

(副題) がん抗原をHLA拘束性に提示するリンパ芽球様細胞株の樹立と応用

#### <研究者氏名>

神田輝、葛島清隆、鶴見達也

#### <目的・概要・進捗状況>

われわれは、組換えEBウイルス産生技術を用いて、がん抗原を発現するリンパ芽球様細胞株 (lymphoblastoid cell line, LCL) を迅速に樹立可能であることを報告してきた。そこでこの技術の基盤となる組換えEBウイルス産生細胞樹立の効率化をめざした研究を行った。その結果、汎用されているB95-8株EBウイルスで欠損している約12キロベースの領域を修復した組換えEBウイルスを効率よく産生する実験系を確立した。

#### <今後の方向>

新規組換えウイルスのBリンパ球不死化能を決定し、がん抗原発現LCL樹立における有用性を検証する。

### 分子病態学部

#### <研究課題> 1-1

(主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

(副題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の役割

#### <研究者氏名>

青木正博、藤下晃章<sup>1)</sup>、梶野リエ、武藤 誠<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス (以下Apc変異マウス) では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失 loss of heterozygosity (LOH) によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々はこれまでに、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加えて、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1はJNKによるRaptorのリン酸化によって活性化されること、さらにJNKはc-Junのリン酸化を介してcyclin E、osteopontin、proliferinなどの転写を活性化すると同時に、mTORC1経路の活性化を介してこれらの翻訳を亢進させるという二つの機序で腸管腫瘍の成長に寄与することを明らかにしてきた。平成24年度には、腸管に局所浸潤性の腺

がんを発症するcis-Apc/Smad4マウスにmTORC1選択的阻害薬RAD001を投与することにより、大きな腫瘍の数が有意に減少して腫瘍の浸潤能が抑制されること、mTORC1、mTORC2の両方を阻害するmTORキナーゼ阻害薬AZD8055はより強力に腫瘍形成を抑制することを見出した。ヒト大腸がんにおいてJNKの活性化はoncogenicに作用することが示唆されているが、本研究はその分子機序を明らかにするものであり、JNK経路が大腸がんの予防・治療標的となる可能性を強く示唆している。

#### <今後の方向>

腸管腫瘍におけるJNKの活性化機序を、特に腸内細菌・自然免疫の役割に着目して解明する。JNK/mTORC1経路が大腸がんの浸潤・転移に果たす役割をさらに明らかにする。

1) 京大・医・遺伝薬理学

#### <研究課題> 1-2

(主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究

(副題) 大腸がん細胞のEMTに伴うシアリルルイス糖鎖発現誘導機構

#### <研究者氏名>

佐久間圭一朗、神奈木玲児<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

Epithelial-mesenchymal transition (EMT:上皮間葉転換) は、がん細胞の運動能・浸潤能を亢進させることでがん転移を促進する。一方、がん細胞の膜表面に発現するシアリルルイス糖鎖は、血管内皮細胞のE-セレクトインと接着することでがん転移を促進する。これまで、EMTの機序とシアリルルイス糖鎖の発現機序の関連性は全く知られていなかった。

大腸がん細胞株のHT29とDLD-1にEGFあるいはbasic FGF (bFGF) でEMTを誘導したところ、シアリルルイス糖鎖の発現量が著明に増加し、E-セレクトインとの接着能が亢進した。このシアリルルイス糖鎖の発現をもたらす原因として、同糖鎖の合成にかかわる糖鎖合成酵素遺伝子であるST3GAL1,3,4とFUT3の発現が転写レベルで上昇し、FUT2の発現が転写レベルで低下することを見出した。また、これらの転写レベルの変化は、転写因子c-MycとCDX2を介してもたらされることを明らかにした。さらに、大腸がん臨床検体を用いて、EMTを起こし、かつシアリルルイス糖鎖を発現するがん細胞を免疫組織学的に検索したところ、頻度は少ないながらもそのような細胞が検出された。これらの細胞は常に間質の近傍に存在したことから、in vivoでのEMTやシアリルルイス糖鎖の発現には間質が何らかの役割を果たしている可能性が示唆された。平成24年度は、以上の成果をProc. Natl. Acad. Sci. U S A誌に報告した。

#### <今後の方向>

EMTに伴うシアリルルイス糖鎖の発現機序を詳細に解明し、治療標的になりうる分子を同定する。

1) 愛知医科大学先端医学・医療研究拠点

### <研究課題> 1-3

- (主題) マウスモデルを用いた大腸がんの発生・進展に寄与するシグナル経路と腫瘍微小環境の研究
- (副題) マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

### <研究者氏名>

小島 康、青木正博

### <目的・概要・進捗状況>

近年、腫瘍の進展には、腫瘍細胞の遺伝子異常のみならず腫瘍間質が重要な役割を果たしていることが明らかとなり、腫瘍間質は抗がん治療の重要な標的となると考えられている。がん関連線維芽細胞（がん随伴線維芽細胞）carcinoma associated fibroblasts (CAF) は、上皮性腫瘍の間質中に存在する、線維芽細胞と筋線維芽細胞とが混じり合った集団で、乳がん、肺がんなどの原発腫瘍の成長に重要な役割を果たすことが分かっている。

しかしながらCAFが腫瘍の浸潤、転移に与える影響については不明な点が多い。我々は、浸潤性腸がんを発症する cis-Apc/Smad4 マウスを用いて、浸潤プロセスにCAFが与える影響についての解析するため、cis-Apc/Smad4マウスの腸管腫瘍からCAFを単離・培養する手法を確立した。平成24年度は、SCF/c-Kit シグナル経路に着目して、cis-Apc/Smad4マウスの腫瘍組織でのc-Kitの発現を解析し、腫瘍細胞におけるc-Kitの発現を確認した。

### <今後の方向>

CAFの遺伝子発現、腫瘍間質におけるSCFの発現、および腫瘍形成におけるSCF/c-Kit経路の役割に関して解析を行う。

### <研究課題> 2-1

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
- (副題) 腸管腫瘍形成におけるPLEKHG1の役割

### <研究者氏名>

青木正博、後藤嘉子、武藤 誠<sup>1)</sup>

### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんは、2020年には我が国で最も罹患率の高いがん種になると予想されている。CDX1及びCDX2は消化管上皮細胞の分化に重要な役割を果たすホメオドメイン転写因子で、大腸がんの抑制因子と考えられている。我々はこれまでに、クロマチン免疫沈降法により、DBLファミリーに属するGEF (guanine nucleotide exchange factor) をコードすると予想されるPLEKHG1 (pleckstrin homology domain containing, family G (with RhoGef domain), member 1) をCDX1とCDX2の新規標的遺伝子として同定し、PLEKHG1がCDX1、CDX2の直接の標的遺伝子であることを見出している。平成24年度には、独自に作出したPlekhhg1変異マウスとApc変異マウスとの交配により、Plekhhg1がApc変異マウスの大腸腫瘍形成に重要な役割を果たすことを示唆する予備的データを得た。また、PLEKHG1の結合タンパクとして14-3-3を同定し、PLEKHG1が

Ser611のリン酸化依存的に14-3-3に結合することを見出した。

### <今後の方向>

腸管腫瘍細胞の増殖・浸潤・転移におけるPLEKHG1の役割を明らかにする。

- 1) 京大・医・遺伝薬理学

### <研究課題> 2-2

- (主題) 遺伝子改変による難治性がんマウスモデルの作出
- (副題) 大腸がんマウスモデルを用いた転移抑制遺伝子の生体内スクリーニング

### <研究者氏名>

佐久間圭一郎、小島康、青木正博

### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんは日本で近年顕著な増加傾向にある悪性腫瘍であり、その死因の大半に転移が関係していることから、転移を制御する手段の開発が急務となっている。しかしながら、転移の機序は十分に解明されておらず、遠隔転移を自然発生するような大腸がんマウスモデルも未だ開発されていない。これまでに大腸がんの転移を促進する遺伝子は数多く同定されている一方、転移抑制遺伝子はほとんど同定されていない。我々は転移抑制遺伝子を同定する方法として、shRNAライブラリーを用いたマウス生体スクリーニング系を昨年度までに構築した。具体的には、C57BL/6マウス由来の大腸がん細胞株 (CMT93) を蛍光タンパクVenusで標識し、shRNAライブラリーを導入後、同系マウス直腸粘膜下へ移植し、約4ヶ月後に肺、肝臓、リンパ節から転移巣を回収し、導入されたshRNAを同定するという手法である。平成24年度には、このスクリーニング系を用いて、転移巣から10個以上のshRNA配列を同定した。

### <今後の方向>

同定した個々のshRNAの標的遺伝子について、既報の文献やデータベースも利用しながら、転移抑制効果の検証を進める。将来的には本研究により同定した転移抑制遺伝子の変異マウスとcis-Apc/Smad4マウスとの交配によって、転移性大腸がんを自然発症するマウスモデルを作出したい。

## 発がん制御研究部

### <研究課題> 1

- (主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケイド
- (副題) がんの分子標的としてのAurora-Aキナーゼ

### <研究者氏名>

後藤英仁<sup>1)</sup>、猪子誠人、松山 誠、井澤一郎、林 裕子、浦野 健<sup>2)</sup>、米村重信<sup>3)</sup>、渡辺信元<sup>4)</sup>、五島直樹<sup>5)</sup>、清野 透<sup>6)</sup>、稲垣昌樹<sup>1)</sup>

### <目的・概要・進捗状況>

細胞は、自身の染色体の複製・分配過程を緻密に制御することによって、その遺伝情報を正確に2つの娘細胞に伝達してい



る。しかし、様々な要因により染色体の複製・分配過程に異常が生ずると、染色体の恒常性が維持できなくなる（染色体の不安定性）。このような染色体の不安定性は、がんや細胞老化に起因する種々の疾患の基盤になっていると考えられている。染色体の複製・分配過程の調節には、状況に反応して特異的に活性化されるタンパク質リン酸化酵素（キナーゼ）が中心的な役割を果たしている。

Aurora-Aは、大腸癌などの組織において遺伝子増幅が認められたり、多くのがん腫で発現が上昇したりすることが知られているキナーゼである。現在、Aurora-Aは、がん治療の分子標的としても注目され、多くの薬剤メーカーがAurora-A阻害剤を抗がん剤として開発している。これまで、Aurora-Aは、分裂期特異的に活性化されるキナーゼとして位置づけられてきた。しかし、我々の研究成果を含めた最新の知見により、Aurora-Aは、分裂間期でも局限された中心体領域で活性化するなど、分裂期以外の時期にも重要な役割を担っていることが判明してきた。

細胞は、増殖休止期（G0期）には、一次繊毛と呼ばれる細胞表面から突出した細胞膜に覆われた（中心体のmother centrioleから変化した基底小体からのびた微小管を中心とした骨格で形成されている）構造物を形成し、外界の環境を監視している。増殖因子刺激により、細胞が増殖期（G1期）に入ると、一次繊毛が退縮する（中心体の複製や分裂装置の形成の準備と考えられている）。我々は、正常2倍体であるヒト網膜色素上皮（RPE-hTERT）細胞でAurora-Aの活性を抑制すると、増殖培養条件にもかかわらず、一次繊毛を形成し、細胞周期がG0/G1期で停止することを見出した。この細胞周期停止は、一次繊毛を強制的に退縮させると解除されることから、Aurora-Aは一次繊毛の形成を抑制することで細胞を増殖に向かわせていることが明らかになった。多くのがんでは、一次繊毛を形成する能力が欠損しているため、Aurora-Aの活性を抑制しても、このようなG0/G1期での細胞周期停止は認められず、むしろ、分裂期でAurora-Aの機能低下による細胞死（mitotic catastrophe）が引き起こされた。

以上の結果は、Aurora-A阻害剤が、がん細胞特異的に細胞死を導く（正常細胞は細胞周期停止のみを引き起こす）可能性が示唆され、Aurora-Aが有望な抗がん治療の分子標的になりうることを示唆している。

#### <今後の方向>

現在、Aurora-Aとその活性化因子の結合を阻害することで、Aurora-Aの活性を特異的に阻害する薬剤のスクリーニングを行っている。また、Aurora-Aがどのような分子機構で一次繊毛の形成を抑制しているのかを明らかにするため、現在、新規Aurora-A結合タンパク質のスクリーニングも併せて行っている。この結合蛋白質の中から、新たな分子標的が見つればと考えている。

- 1) 名大・医・細胞腫瘍（兼任）
- 2) 島根大・医
- 3) 理研・発生・再生科学総合研
- 4) 理研・環境資源科学研
- 5) 産総研
- 6) 国立がんセ・研

#### <研究課題> 2-1

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析  
(副題) がんにおける細胞極性制御異常の解析

#### <研究者氏名>

井澤一郎、林 裕子、稲垣昌樹

#### <目的・概要・進捗状況>

多くのがんは上皮細胞から発生するが、正常な単層上皮細胞は基底層とよばれる層の上に接着し、となり合う細胞同志も接着して一層のシート状の組織を形成している。このような細胞と細胞、細胞と基底層との接着は、細胞表面にある細胞接着分子によって行われるが、細胞接着分子は、細胞の内部で細胞の骨組みをなす細胞骨格蛋白質と結合して細胞の形や運動性を制御している。これらの細胞接着因子や細胞骨格蛋白質は、それぞれ細胞膜上及び細胞内に均一に存在するのではなく、ある偏りをもって存在して機能しており、これによって細胞極性が生じている。細胞ががん化すると、細胞の形態や接着性が変化し、さらに運動性を獲得する（周囲に浸潤し、他の臓器へ遠隔転移する）が、この過程には細胞極性制御機構の異常が関与していると考えられている。私共はこれまで、細胞極性制御に関与することが報告されているLAP (leucine-rich repeats and PDZ) 蛋白質ファミリーに属するDensin-180、ERBIN、Scribbleについて研究を行ってきた。ショウジョウバエにおいて、Scribbleは腫瘍抑制遺伝子と考えられており、腫瘍の増殖・浸潤・転移に対して抑制的に働くことが報告されている。最近私共は、two-hybridスクリーニングでいくつかの新規Scribble結合候補蛋白質を同定し、その中の一つであるMultidrug resistance protein 4 (MRP4、別名ABCC4) について解析を行っている。MRP4は、ATP-binding cassette (ABC) transporter superfamily の subfamily Cに属する蛋白質で、形質膜に存在して、ロイコトリエンB4、cAMP、PGE1、GSHなどの内在性基質やMTX、topotecanなどの抗がん剤の細胞外への輸送を行う蛋白質であることが報告されている。内在性のScribbleを抗Scribble抗体で免疫沈降したところ、その免疫沈降物中にMRP4が含まれており、ScribbleとMRP4は、in vivoで結合していることが確認された。Caco-2細胞における細胞免疫染色で、ScribbleとMRP4は、basolateral membrane上で共局在していた。また、Caco-2細胞でScribbleの発現をRNA干渉法にてノックダウンすると、MRP4がbasolateral membraneより消失した。これらのことより、ScribbleはMRP4と相互作用し、その機能を制御している可能性が示された。MRP4はそのC末端にPDZドメイン結合モチーフをもつが、このPDZ結合モチーフを介してScribbleの4つのPDZドメインのうちのPDZ1と結合することが確認された。また、in vitroでMRP4のC末端の約20アミノ酸残基だけでもScribbleのPDZ1と結合しうることが判明した。

#### <今後の方向>

細胞極性を制御する分子であるScribbleと内在性小分子や抗がん剤の細胞外排出に関与するMRP4の相互作用を詳細に検討し、がん細胞における細胞極性異常と薬剤耐性機構との関連を解明したいと考えている。また、MRP4のC末端の短いペプチドを細胞内に導入し、ScribbleとMRP4の結合を阻害すること

でMRP4の機能を障害できるかを検証していく予定である。

#### <研究課題> 2-2

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析  
(副題) 分化と増殖の分水嶺となり得るTPHD分子

#### <研究者氏名>

猪子誠人、何 東偉<sup>1)</sup>、井澤一郎、林 裕子、清野 透<sup>2)</sup>、  
五島直樹<sup>3)</sup>、稲垣昌樹<sup>4)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

このたび私共は、一次線毛と呼ばれる細胞の突起物の動態が正常培養細胞の新たな増殖スイッチとなることを、その分子機構と共に明らかにした。すなわち、新規蛋白質トリコブレインとオーロラAの複合体が母中心小体からなくなると一次線毛が形成されその結果細胞周期が休止する、一方この複合体があると細胞周期進行(=細胞増殖)が保証されるという発見である。

これまで、培養細胞の一次線毛形成時期と細胞増殖休止期は同期することが知られていたが、その仕組みは数十年不明であった。最近細胞の再増殖に伴う一次線毛の解体にオーロラA分裂期キナーゼが寄与することが明らかになり、この酵素の細胞分裂以外の新機能として注目を集めたが、この領域における私共の成果の学術的意義は、明快な細胞増殖スイッチ機構の存在をトリコブレイン・オーロラA経路の発見により初めて付け加えたことにある。

のみならず、このオーロラA分裂期キナーゼの特性は、がん細胞を狙い撃ちするヒントを与えた。具体的には、オーロラAの欠失効果が正常2倍体細胞では一次線毛を生じさせることで細胞周期休止に至らし、一次線毛を生じないがん細胞には分裂期異常による傷害をもたらすという発見である。

これら研究成果により、いくつかの応用研究が進行中である。ひとつはがん細胞の狙い撃ちを進めるためにオーロラAを特異的に阻害する化合物や配列の検索である。さらに細胞周期休止とは分化・老化・幹細胞の特徴であることから、この研究によって線毛形成を伴う生体の多彩な細胞分化の仕組みを知る手掛かりを得たことになり、再生医療への貢献にも期待が持たれる。実際には、より複雑な生体への医学応用のためには十分なデータの蓄積が必要であり、類似機能蛋白質も複数検索し、解析していく必要がある。

#### <今後の方向>

私共は、このようなトリコブレインを含む類似蛋白質の一群を同定し、まとめてTPHD分子群と名付けている。その特徴は、①アミノ酸配列上TPHD(トリコヒアリン・プレクチン類似ドメイン)を有し、②分化上皮の主たる細胞骨格(ケラチンフィラメント)との結合能をもち、③さらに上皮分化・増殖の転換に応じてその局在がそれぞれ主たる機能の場である細胞間と中心体で遷移することにある。このうち私共がアルバトロスと名付けた蛋白質は上皮分化に伴い細胞間に遷移し、分化の特徴でもある細胞間接着装置の形成・維持に寄与することが明らかになっていたが、この際アルバトロスが中心体から無くなることと細胞周期休止の間には強い相関があることが最近わかった。また、トリコブレインの場合と異なりこの時一次線毛の形

成は認められなかった。このように中心体局在の消失で細胞周期チェックポイント機構が作動し増殖休止に至る仕組みは報告が極めて限られており、まったく新しい仕組みの提唱になる可能性も視野に入れ現在検討中である。

- 1) リサーチレジデント
- 2) 国立がんセンター
- 3) 産業技術総合研究所
- 4) 名大・医・細胞腫瘍(兼任)

#### <研究課題> 3

(主題) 部位特異的リン酸化ペプチド抗体の進化  
(副題) 生細胞で機能するリン酸化抗体の開発

#### <研究者氏名>

笠原広介<sup>1)</sup>、川本恵理子<sup>2)</sup>、大室有紀<sup>3)</sup>、上田 宏<sup>3)</sup>、  
稲垣昌樹<sup>4)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

がん細胞が無秩序な増殖や転移能を獲得する原因の1つとして、がん細胞の細胞内リン酸化シグナル伝達が異常に亢進していることが挙げられる。現在、時間的・空間的にダイナミックに変化するリン酸化シグナルの解析においては、抗リン酸化抗体を用いた免疫染色法は極めて強力な実験方法として汎用されている。我々は、抗リン酸化抗体を用いた技術をさらに発展させ、生細胞内のリン酸化シグナルを可視化することができる抗リン酸化抗体を開発することを目指している。

生細胞で機能する抗リン酸化抗体を開発する上で、抗体の1) 抗原親和性・特異性の亢進、2) 抗体の生細胞への導入方法、3) 生細胞で抗原抗体反応を検出する方法を開発・改良する必要がある。我々は、中間径フィラメントの1つであるビメンチンに対する抗リン酸化抗体群を用いて抗体可視化を試みているが、これまでにこれら抗体群の可変領域部(抗原認識部位)のcDNAをサブクローニングし、変異導入することで抗原親和性を亢進させることに成功している。また、試験管内(in vitro)での抗原親和性・特異検出法としてOS-ELISA(Open-Sandwich ELISA)の系も確立した。タンパク質細胞導入試薬を用いることで、抗体の生細胞内への導入は可能であることが分かったが、まだ改善の余地が残る。

#### <今後の方向>

これまでに、抗体可変領域のcDNAサブクローニングと変異導入による抗原親和性・特異性の向上と、2分子間(抗体-抗原)相互作用の検出法の技術進歩、抗体の生細胞導入などの各ステップを達成することができた。今後、上記技術を組み合わせ、生細胞内のリン酸化シグナル伝達を可視化することを目指す。リン酸化シグナルの生細胞観察により、細胞がん化の分子メカニズムの解明が大きく進展することが期待出来る。

- 1) 名市大・院薬・腫瘍制御(兼任)
- 2) 嘱託技師
- 3) 東大・院工
- 4) 名大・医・細胞腫瘍(兼任)

#### <研究課題> 4

(主題) がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製

#### <研究者氏名>

田中宏樹<sup>1)</sup>、松山 誠、猪子誠人、小堀恭子<sup>2)</sup>、林 裕子、井澤一郎、稲垣昌樹<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

中間径フィラメントは、細胞骨格を形成する主要な構成成分の1つである。中間径フィラメントのビメンチンは、間葉系細胞やがん細胞で発現・機能している。中間径フィラメントの基本構造は、ヘッド、ロッド、テイルの3つの領域から構成されており、フィラメントの重合・脱重合は、ヘッドドメインのリン酸化修飾によって時空間的に制御される。当研究室では世界に先駆けて部位特異的リン酸化状態を認識する抗リン酸化ペプチド抗体の開発し、細胞周期特異的なリン酸化部位の同定およびその酵素の同定をしてきた。また、リン酸化の生理的意味を理解するために、リン酸化部位がリン酸化されない変異を導入した細胞では、細胞質分裂が終了したにもかかわらず娘細胞間が断裂されない架橋構造を認め、リン酸化が細胞質分裂の完了に必要であることを示した。しかしながら、マウスなどを用いた個体レベルにおいて、それらのリン酸化シグナルの生理的機能は、ほとんど解明されていない。そこで、我々は細胞分裂期特異的リン酸化部位の11カ所のリン酸化部位をセリンからアラニンに置換したマウスを作製・解析を行った。

現在までに、変異マウスでは目の水晶体の形態形成不全、白内障の発症、皮膚の損傷治癒遅延、化学発癌試験により腫瘍形成が抑制されることを観察した。さらに詳細に解析すると、変異マウスでは水晶体上皮細胞の数の減少、細胞質分裂障害によると考えられる2核の細胞の出現といったこれまで試験管レベルで観察されたことが、個体内でも起きていることを明らかにした。赤道面の水晶体上皮細胞や水晶体線維細胞では、染色体数の異常を呈した。損傷治癒部位においても、変異マウスでは線維芽細胞数の減少、さらには、DNA損傷反応が起きていること、染色体数の異常、細胞老化に陥る細胞も認めた。

中間径フィラメントリン酸化不全による細胞質分裂障害は、染色体不安定性の亢進、さらには細胞老化に至ることを個体レベルで明らかにした。

#### <今後の方向>

ビメンチン点変異マウスでは染色体不安定性、細胞老化を認めましたが、老化の主要な因子であるp53-p21経路依存的にこれらの現象が起きている可能性が考えられます。p53遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスを解析することにより、発がんにおけるビメンチンリン酸化の役割を個体レベルで明らかで、発がんの分子機構の一端が明らかになる。

また、今回作製したマウスのリン酸化部位に加え、Cキナーゼの基質部位である8カ所をさらに点変異を導入することにより、さらなる中間径フィラメントのリン酸化修飾の生理的意味の理解の進展ができ、リン酸化異常によって生じる疾患メカニズムの解明に役立つと信じています。

- 1) リサーチレジデント
- 2) 嘱託技師

#### 3) 名大・医・細胞腫瘍(兼任)

#### 中央実験室

#### <研究課題>

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNAの多型と食道がん発がんリスク

#### <研究者氏名>

組本博司、松尾恵太郎<sup>1)</sup>、田中英夫<sup>1)</sup>、田島和雄<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA(mtDNA)は核ゲノムDNAと比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNAに変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNAの変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNAに多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNAのD-loop領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNAの多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報、さらに、血液からDNA得た。

mtDNAのD-loop領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかっている領域でもある。現在、市販のリシーケンシングプライマーセットを用い、食道がん患者および、非がん患者由来のDNAの塩基配列を決定すると同時に、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRSと比較することによって、D-loop領域の多型を網羅的に検出している。現在のところ、平均で、食道がん患者で7.6多型/人、非がん患者で6.8多型/人の多型が検出されている。

#### <今後の方向>

今後、これらの結果を用いて食道がんリスクを与える多型の探索や、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1の多型(Ser326Cys)をそれぞれのサンプルについて解析し、mtDNAの変異と喫煙・飲酒に関連があるかどうか解析する。さらに、これらの解析によって、mtDNAの変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNAの変異がどのような過程で生じるかを考察する。

- 1) 疫学・予防部
- 2) 研究所長



### 3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

#### <研究課題 1>

肺癌・中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用

Analysis of lung cancer and mesothelioma cells for clinical application

#### <研究者氏名> 呼吸器内科部 樋田豊明

共同研究者 吉田公秀、堀尾芳嗣、清水淳市、朴 将哲、近藤千晶、谷田部 恭、関戸好孝

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

肺癌基礎研究の進歩により、肺癌の増殖に重要なキープポイントをターゲットとする薬剤の開発が進み、epidermal growth factor receptor (EGFR) 阻害薬、anaplastic lymphoma kinase (ALK) 阻害薬が実臨床で使用され著効を示している。今回、EGFR Exon19 insertionの治療感受性に関する検討とALK阻害薬を用いたピンポイント治療における新規有害事象について検討した。

EGFR Exon19 insertion症例では6例中3例でEGFR阻害薬治療が行われ3例中2例で奏効が認められた（奏効率66.6%）。EGFR Exon19 insertionは、Exon19 deletionやExon21 point mutationと同じくEGFR阻害薬に高感受性を示すことが示唆され、今後EGFR Exon19 insertion症例にもEGFR-TKI投与が推奨されると考えられた。しかしながら無増悪生存期間はやや短い結果が得られた。一方、ALK融合遺伝子異常をピンポイントで阻害するALK阻害薬の有害事象についての検討では、注意が必要な事象として食道潰瘍が新規有害事象として判明した。35歳女性でALK阻害薬内服治療開始3ヶ月後に心窩部痛が出現し、ただちに消化管の内視鏡検査施行した所、食道に全周性の潰瘍を認めた。ただちにALK阻害薬を中止し、抗潰瘍薬の投与を開始した所、潰瘍は改善し、ALK阻害薬服用再開した。同じく36歳女性でALK阻害薬内服治療開始2ヶ月後に心窩部痛、食道の通過障害が認められた。消化管の内視鏡検査で食道に潰瘍形成が認められただけにALK阻害薬服用中止し抗潰瘍薬の投与を開始した。その後潰瘍は改善しALK阻害薬の投与再開した。食道潰瘍は食道の解剖学的に狭い部位に、服用する液体の量が少量である場合や、服用後に臥位になる場合に発症するものと考えられ、クリゾチニブカプセルが軽量であることもその一因であると考えられた。食道潰瘍は一定の頻度で発症しているもの見過ごされている症例も多くに存在することが推察され、一定の量の水分で服用し、服用後座位や立位を保てば防止できる有害事象であり予防が第一と考えられた。

現在遺伝子検査結果に基づく個別化治療が実地医療で定着してきているが、臨床所見に加えEGFR遺伝子変異、ALK融合遺伝子異常等、肺癌の遺伝子所見を指標に治療法を選択する個別化治療により肺癌治療成績の向上が期待される。

#### <研究課題 1-2>

肺癌、中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用

Analyses of lung cancer and mesothelioma cells and

their application for new diagnostic tools and therapeutic modalities

#### <研究者氏名> 分子腫瘍学部 関戸好孝

共同研究者 深津明日樹、石黒太志<sup>1)</sup>、田中一大、長田啓隆、富沢健二、光富徹哉<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

RASSF遺伝子ファミリーは10個のメンバーが同定されている。RASSF1A遺伝子は肺癌において高頻度に不活性化されている遺伝子として知られているが、今回、RASSF3遺伝子に着目し、肺癌におけるRASSF3遺伝子の役割について明らかにすることを目的として解析を行った。

愛知県がんセンター中央病院および名古屋大学医学部附属病院において外科手術を受けた非小細胞肺癌患者症例の臨床検体の提供を受け、それぞれ45症例および95症例の肺癌切除標本から抽出したtotal RNAを解析した。最初に、名古屋大学症例95例を定量的real time RT-PCR法にて解析したところ、87例においてRASSF3の発現低下が認められた。95例を中央値で低発現群（48例）および高発現群（47例）に分け、臨床病理学的な因子との相関を検討した。RASSF3低発現群はステージII/III（ $p=0.0011$ ）、腫瘍サイズ（ $30\text{mm}<$ ）（ $p=0.0123$ ）、リンパ節転移（ $pN1<$ ）（ $p=0.0008$ ）および胸膜浸潤（ $p=0.0497$ ）と有意に相関していた。さらに、RASSF3低発現はEGFR変異群には有意に低頻度（ $p=0.0013$ ）であった。同様にRASSF3低発現症例は女性（ $p=0.0118$ ）、腺がん（ $p=0.0001$ ）、非〜低喫煙者（ $p=0.0282$ ）に多く認められた。

本解析データの再現性を確認するために、愛知県がんセンターの非小細胞肺癌症例45例で解析したところ38例においてRASSF3の発現低下が認められた。同様に中央値で低発現群（22例）および高発現群（23例）の2群に分けて臨床病理学的因子と検討した。本コホートでは腫瘍サイズにおいて有意差は検出されなかったが、RASSF3低発現群は進行ステージやリンパ節転移およびEGFR変異状態と有意に相関を示した。

さらに、A549肺癌細胞株に対してRASSF3をノックダウンし、その細胞特性に与える影響について検討をおこなった。RASSF3をノックダウンするsiRNAを導入したA549細胞株ではコントロールsiRNAを導入したA549細胞株に比べてEMT (epithelial to mesenchymal transition) 様の細胞形態にシフトし、さらにEMTマーカーであるファイブロネクチン、ビメンチンなどの発現が上昇する一方、上皮系のマーカーであるE-カドヘリンの発現が低下した。これらのEMT様変化はTGF-betaの添加によってさらに増強された。さらにwound healingアッセイにおいて、RASSF3ノックダウン状態では運動能の促進が認められた。このようにRASSF3は肺癌細胞株において細胞の運動能・浸潤能を抑制する機能に関与しており、RASSF3の発現低下により肺癌細胞の運動能・浸潤能を始めとする悪性形質が増強されることが示された。

#### <考察>

RASSF1A遺伝子同様に、RASSF3は非小細胞肺癌において



て高頻度に発現低下し、RASSF3の発現低下は細胞のEMT、浸潤能といった細胞特性を促進し、臨床的な悪性と相関していることが明らかとなった。RASSF3が非小細胞肺癌において重要ながん抑制遺伝子であることが強く示唆され、RASSF3遺伝子異常を基盤とした肺癌における新たな診断法あるいは治療法への展開が強く期待されるものと考えられた。

1) 現名古屋大学医学部

2) 現近畿大学医学部

## <研究課題 2>

機能温存を目指す頭頸部癌の外科治療

Organ preservation surgery for head and neck cancer

<研究者氏名> 頭頸部外科部 長谷川泰久

共同研究者 花井信広、小澤泰次郎、平川仁、鈴木秀典

高齢者頭頸部癌手術の治療成績と術後合併症

## はじめに

本検討は高齢者の頭頸部手術における適切なアプローチ、コンセンサスを探ることを目的とした。まず当院での高齢者治療の現状と治療成績を示し、これらのデータから頭頸部癌手術の適応判断に有用な因子を見出すこととした。

## 当院での高齢者治療の現状と治療成績

### 1. 80歳以上の高齢者の治療

2005.1-2010.12の6年間における当科での初診患者は5794人であったが、そのうち80歳以上の患者は275人(4.7%)であった。うち悪性腫瘍は137例、初発の頭頸部癌に限ると99例であった。口腔、喉頭では手術の占める割合が多くなっていた。中・下咽頭、鼻副鼻腔では放射線を主体とした治療が多く選択されていた。治療法別の内訳では手術が43%、ついで放射線治療が32%、無治療が25%であった。手術の最高齢は94歳であった。また遊離皮弁移植は6例(14%)に行われており、その最高齢は85歳であった。放射線治療のうち化学放射線療法が行われていたものは9例(28%)であった。無治療となった主な理由は治療の拒否が10例と最多で手術を勧めるも経過観察を希望される場合が多かった。ついで頭蓋底浸潤、遠隔転移などの進行癌であることにより治療が行えなかったものが7例であった。そのほか全身状態の問題で治療を行わなかったものが2例、認知症により治療を避けたものが2例であった。

### 2. 治療成績、合併症

後期高齢者における治療成績、合併症を75-79歳、80歳以上の2群に分けて比較した。2群間での性別、ステージ、PS (Performance status)、併存症(既往症)、ASA (American society for anesthesiologist scale)、麻酔法、手術時間、出血量、輸血の有無、再建方法、せん妄の有無、術後合併症、術後補助治療、入院期間、非退院例(転院例・死亡例)を比較した。

1) 80歳以上の高齢者であっても外科治療による治療成績は良好であること、2) PS ( $\geq 2$ )、脳血管障害の既往、ASA

( $\geq 3$ )、低Hb、低Alb、は好ましくない結果を予見するのに有用な因子であったこと、3) 世界の動向を鑑みて、ADL、認知機能を含めての評価が望ましいと考えられた。

## 考察

当院での高齢者治療の現状を振り返った結果、近年、高齢者の手術件数は増加し、特に80歳以上の高齢者の手術件数の伸びが著しいことがわかった。既に高齢社会である本邦において、単に高齢という理由だけで高齢者が根治治療を受ける機会が失われてはならない。

今回の検討からその予後は決して悪いものではなく、手術適性と評価された高齢者では長期生存も十分期待できることが示された。また手術合併症の点でもこれらの群に比較して特別な差異を認めなかった。視点を変えれば75-79歳群における治療ではより積極的に手術が考慮され、またより定型的に手術が計画される傾向にあり、結果的に相応の術後合併症も発生していると思われる。高齢者のがん治療におけるピットフォールとなりうる為、注意を要する点である。

## 4. プロジェクト研究（共同研究費）

### <研究課題 1>

免疫療法の標的となる卵巣がん抗原の検索

Identification of new ovarian cancer-associated antigens and their evaluation for immunotherapy.

<研究者氏名> 腫瘍免疫学部 山田英里

共同研究者 葛島清隆、近藤紳司、中西 透

本研究では、卵巣がんが発現する新規腫瘍関連抗原を同定することを目的としている。これまでに、卵巣明細胞腺がん細胞株TOV21GにHLA遺伝子およびsiRNAを導入し、HLA-A\*24:02のみを発現する人工抗原提示細胞を作製した。この細胞とHLA-A\*24:02を保有する健常人のCD8陽性Tリンパ球を共培養し、CTLを誘導したのち、限界希釈法で複数のCTLクローンを得た。

今年度は得られたCTLクローンをを用いて、これらが認識している抗原遺伝子とそのエピトープ配列の同定を行った。

まず、正常細胞に発現しない抗原を検索するため、樹立したCTLクローンとHLA-A\*24:02を発現するLCLや線維芽細胞と共培養を行った。CTLクローンのIFN $\gamma$ 産生を指標に、これらの正常細胞には反応しないものを選別した。

さらに、広く卵巣明細胞腺がんに共通する抗原を検索するため、複数の卵巣明細胞腺がん細胞を認識するCTLクローンを選別した。内因性にHLA-A\*24:02を発現する細胞株とHLA-A\*24:02を強制発現させた細胞株を用いて細胞傷害性試験（51 Cr releasing assay）を行い、複数の細胞株に対して異なる傷害性パターンをもつCTLクローンを選別した。

以上の実験から、選別された複数のクローンがそれぞれ認識する抗原の検索を、以下の方法にて開始した。

人工抗原提示細胞の元となった卵巣明細胞腺がん細胞株から、mRNAを抽出し、cDNA Libraryを作成した。HEK293TにHLA-A\*24:02を発現させた細胞と、このcDNA Libraryを用いた発現スクリーニング法にて、CTLに認識される抗原遺伝子の同定を行った。

まずはクローンAについて抗原検索を行い、上皮細胞のtight junctionに関わる膜タンパクの1つである、クロロディン1（CLDN-1）という遺伝子を認識していることが判明した。さらにN末およびC末短縮遺伝子を作成し、同様に発現スクリーニング法にて認識されるペプチド配列部位を決定した。決定した配列でペプチドを合成し、合成ペプチドをHLA-A\*24:02を発現させた細胞にパルスすると、クローンAに十分に認識されたことから、上記方法で決定したペプチド配列がエピトープペプチドであると確定した。各細胞における抗原のmRNAレベルでの発現量と、クローンAによる認識の強さは同じ傾向を示した。

また、CLDN-1を発現している正常の気管支上皮細胞株を入手し、再度クローンAと共培養したところ、クローンAによる反応がみられたことから、これは腫瘍関連抗原または自己抗原の可能性が考えられた。

今後、既に選別されている他のCTLクローンを、この正常気管支上皮細胞株と共培養し、この細胞株を認識しないCTL

クローンのみを選別し、同様の方法で抗原遺伝子とエピトープペプチドの同定を進める予定である。

### <研究課題 2>

悪液質の診断基準の確立を目指した予備研究

A pilot study for defining cancer cachexia.

<研究者氏名> 分子病態学部 小島 康

共同研究者 田近正洋、原 和生、丹羽康正、青木正博

悪液質は、進行性の体重減少、骨格筋の萎縮を主徴として、がん患者の90%が発症し、またがん患者の30%の直接死因と推定されている。悪液質の病態生理は不明であり、また有効な治療法も存在しない。悪液質研究の最大の課題として、悪液質という疾病定義や診断基準が確立されていないことが挙げられる。2011年に、専門家により、6ヶ月以上にわたる進行性の5%以上の体重減少を悪液質とするという提案がなされたが（Lancet Oncology, 2011）、依然として悪液質の定義は定まっていない。本研究では、大腸がんマウスモデルと臨床症例の解析から消化器がんの悪液質に特徴的な客観的、定量的所見の同定を試みている。

#### <大腸がんマウスモデルを用いた解析>

大腸がんモデルマウスのcis-Apc/Smad4複合変異マウスがヒトの悪液質に極めて類似した病態を呈する。cis-Apc/Smad4複合変異マウスは、顕著な体重減少、自発行動低下、骨格筋萎縮、そして全身性の炎症を示唆する脾腫を呈し、そのほぼ全例が20週齢までに死亡する。

平成24年度は、生化学的解析より、脂質代謝異常を確認した。また、名古屋大学環境医学研究所のMRI撮影装置を用いて、cis-Apc/Smad4複合変異マウスの腹部を解析したところ、皮下脂肪および内臓脂肪の萎縮を確認した。さらに、cis-Apc/Smad4複合変異マウスの腫瘍組織、肝臓、筋肉、血漿を経時的に採材し、慶應義塾大学先端生命科学研究所曾我朋義教授との共同研究として代謝産物の包括的解析（メタボローム解析）も開始した。

#### <臨床症例を用いた解析>

臨床で、骨格筋の萎縮はCT、MRIにより体系的に評価することができる。実際、悪液質では、第3腰椎周囲の体幹筋をCTで評価することにより骨格筋萎縮の評価が可能であることが既に報告されている。消化器がんの悪液質に関する解析は、欧米のグループを中心に行われているため、アジア人患者を対象にした解析は殆ど行われていない。

平成24年度は、画像解析ソフト、SliceOmaticを用いて、HERPACCデータベースから抽出した非がん患者61名、胃がん患者44名、大腸がん患者26名の第3腰椎レベルのCT画像を解析して、骨格筋量、骨格筋平均CT値、皮下脂肪量、内臓脂肪量を定量した。現在、臨床データと組み合わせて統計学的解析を行っている。

#### <今後の方針>

大腸がんモデルマウスの解析に関しては、脂質代謝異常および連動する代謝系の解析を行うことを計画している。臨床症例の解析に関しても、皮下脂肪量が重要な指標となることが示唆される予備的データを得ている。胃がん、大腸がん患者共に男女比、年齢構成に偏りがあるため、解析症例数を増やすことを計画している。

#### <研究課題 3>

FDG-PET/CTのHD法とOSEM法による画像診断能力の検討  
Comparison of the ability for diagnosis of FDG-PET/CT between HD method and OSEM method.

<研究者氏名> 頭頸部外科部 鈴木秀典

共同研究者 長谷川泰久、中西速夫

#### 【研究成果（経過）】

癌診断の日常診療で高い診断能からFDG-PET/CTは、一度に全身を診断できるという特性をもち、我々も重複癌診断能を報告してきたが更なる診断能の向上が望まれる。我々は、画像検査の解析法として2-DのOSEM法にて行ってきたが、今後3-DのHD法による診断能の向上が予想される。現在それぞれの解析法の詳細な比較検討は、行われていない。今回頭頸部癌症例におけるOSEM法とHD法の診断能力の違いを愛知県がんセンター中央病院にて臨床的評価を、さらに研究所にて病理学評価を行い更なるFDG-PET/CTの診断能の向上を目指すことを目的とした。

FDG-PET/CTの診断能は、我々 (Detection of FDG-PET and FDG-PET/CT in head and neck squamous cell carcinoma, Nippon Jibiinkoka Gakkai Kaiho, 2007, Suzuki h et al.) や他の研究者が過去に報告したように頭頸部扁平上皮癌の原発巣や頸部リンパ節転移に対しての感度や特異度が80-90%と非常に高いという背景がある。よってOSEM法からHD法により診断能の向上が期待されるが、元々感度や特異度の高い部位では、両者の比較をしても診断能の差が検知できないことが放射線診断医との研究実施計画の協議によって予想された。そこで、我々が過去に報告した頭頸部中下咽頭扁平上皮癌初診時の同時上部消化管癌T1病変の感度がFDG-PET/CTにおいて0%であったことに着目した。(Limitations of FDG-PET and FDG-PET with computed tomography for detection synchronous cancer in pharyngeal cancer, Arch Otorhinolaryngol Head Neck Surg, 2008, Suzuki h et al) 以上の背景から、頭頸部中下咽頭癌における同時上部消化管癌の診断能を標的とし、当院における上部消化管内視鏡検査後の病理検査結果と東名古屋放射線診断クリニックでのFDG-PET/CTの診断結果とを比較した上で、OSEM法とHD法の比較検討をすることを研究手法とした。

現在研究途中であるが、2012年1月から2013年9月までに当院頭頸部外科に初診中下咽頭扁平上皮癌と診断されたのが93人。そのうち40人43%が当院で上部消化管内視鏡検査をうけ、かつ東名古屋放射線診断クリニックでFDG-PET/CTの検査を受けた。40人中15人(45%)に同時上部消化管癌が診断された。今

後東名古屋放射線診断クリニックが開設された2008年まで順次研究をすすめていき、まず同時上部消化管癌の発症率、FDG-PET/CTのOSEM法とHD法の感度と特異度を算出する。その後、その背景となる要因に対して病理学的手法を用いて探索をしていく。

#### <研究課題名 4>

加齢性EBウイルス関連リンパ増殖性疾患の分子標的治療の確立をめざした病態解析

Investigation for molecular pathogenesis of age-related EBV-positive B-cell lymphoproliferative disorders: Establishment of molecular target therapy.

<研究者氏名> 血液細胞療法部 加藤 春美

共同研究者 山本一仁、木下朝博、瀬戸加大

悪性リンパ腫の中で、約40%を占める最多病型のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) は通常の化学療法で近年治療成績が向上しているが、約半数は再発を繰り返し、一部の症例は予後不良な経過を示す。DLBCLの亜群に属し、難治性リンパ腫である加齢性EBV関連B細胞性リンパ増殖性疾患 (AR-EBVLPD) の病態解析を行い、予後改善のための治療法の確立が本研究の目的である。

これまでの研究で、われわれは、5例のAR-EBVLPD (EBV陽性DLBCL) および7例のEBV陰性DLBCLの臨床検体からmRNAを抽出し、マイクロアレイを用いた網羅的遺伝子発現解析をおこなってきた。遺伝子発現レベルによる2群の比較検討をおこなったところ、AR-EBVLPDに特徴的なパスウェイとして、JAK-STATシグナル経路およびNF- $\kappa$ B経路に関する遺伝子群がAR-EBVLPDの症例で遺伝子レベルで高発現していたという結果を見出した。これらのシグナルパスウェイのうち、JAK-STATシグナル経路について、B細胞性リンパ腫に関連の深いSTAT3のタンパクの発現タンパクレベルでの発現を確認するためにSTAT3の発現について調べた。AR-EBVLPDおよびEBV陰性DLBCLの臨床検体を多施設の協力のもと収集を行い、合計25例のAR-EBVLPDおよび35例のEBV陰性DLBCLの病理検体の収集を行った。これらのパラフィン標本を使用して、STAT3抗体およびリン酸化STAT3抗体を用いて免疫染色を行った。結果としてAR-EBVLPD: 80.0% (n=20/25) vs. EBV-negative DLBCL: 38.9% (n=14/36) の割合で、AR-EBVLPDの症例でSTAT3が高頻度に活性化していることが示された。この結果について、統計学的検討をおこなったところ、AR-EBVLPDの症例でSTAT3の活性化が統計学的に有意に高いことが示され (p=0.001)、遺伝子発現レベルとともにタンパク発現レベルでもJAK-STATシグナル経路が活性化していることが示された。この成果については、本年度の米国癌学会で報告を行った (Kato H, et al. Abstract # 4955, the American Association for Cancer Research Annual Meeting 2013)。

臨床データより得られた結果を確認するために、DLBCLの細胞株を用いた試験管内 (in-vitro) での実験を現在行っている。既存のDLBCLの細胞株使用し、EBVをこれらの細胞株に

導入する実験を行っており、いくつかの細胞株で導入実験を行ったところ、SU-DHL7とOCI-Ly7の2細胞株でEBVの導入が成功した。今後さらに導入細胞株を増やし、細胞株での上記パスウェイの活性化を確認し、薬剤実験を進めていく予定である。



## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会等における研究発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

#### 名誉総長

- 001 **Nimura Y** : Current approach to locally advanced perihilar cholangiocarcinoma. 18th National Surgical Congress, 2012, (Izmir, Turkey), [Lecture]
- 002 **Nimura Y** : Is extended lymphadenectomy really worthy in surgery for pancreas head cancer? 18th National Surgical Congress, 2012, (Izmir, Turkey), [Lecture]
- 003 **Nimura Y** : Extended right hepatopancreatoduodenectomy for advanced gallbladder carcinoma. 18th National Surgical Congress, 2012, (Izmir, Turkey), [Video]
- 004 **Nimura Y** : Combined portal vein, right hepatic artery, left liver and caudate lobe resection with autovein grafting for hilar cholangiocarcinoma. 18th National Surgical Congress, 2012, (Izmir, Turkey), [Video]
- 005 **Nimura Y** : Surgical treatment of cholangiocarcinoma. 10th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2012, (Paris, France), [Meet the Professor]
- 006 **Nimura Y** : Is arterial resection worthy? 10th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2012, (Paris, France), [Symposium]
- 007 **Nimura Y** : Thirty-five years experience with surgery for hilar cholangiocarcinoma. Verona University, 2012, (Verona, Italy), [Lecture]
- 008 **Nimura Y** : Borderline resectable hilar cholangiocarcinoma, How to define? 2nd Kuwait Conference on Hepato-Pancreato-Biliary Surgery and Transplantation, 2012, (Kuwait, Kuwait), [Symposium]
- 009 **Nimura Y** : Surgery for advanced gallbladder cancer. 2nd Kuwait Conference on Hepato-Pancreato-Biliary Surgery and Transplantation, 2012, (Kuwait, Kuwait), [Symposium]
- 010 **Nimura Y** : Combined hepatic artery and portal vein resection with autovein grafting in left hepatectomy for hilar cholangiocarcinoma. 2nd Kuwait Conference on Hepato-Pancreato-Biliary Surgery and Transplantation, 2012, (Kuwait, Kuwait), [Video]
- 011 **Nimura Y** : The overview of surgical treatment for cholangiocarcinoma. International Symposium on Cholangiocarcinoma Tokyo 2013, 2013, (Tokyo, Japan), [Lecture]
- 012 **Nimura Y** : Current surgery for carcinoma of gallbladder. 4th Biannual Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2013, (Shanghai, China), [Symposium]
- 013 **Nimura Y** : Surgery for hilar cholangiocarcinoma. 4th Biannual Congress of the Asian-Pacific Hepato-

- Pancreato-Biliary Association, 2013, (Shanghai, China), [Master Video]
- 014 **Nimura Y** : Surgery for hilar cholangiocarcinoma. 4th Biannual Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2013, (Shanghai, China), [Meet the Professor]
- 015 **二村雄次** : Overall summary: Highly advanced surgery in the hepatobiliary and pancreatic field (Biliary section). 第24回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2012, (大阪), [国際ビデオシンポジウム]
- 016 **二村雄次** : 最近のがん治療の最前線. 桜ヶ丘大学健康講座, 2013, (岐阜), [講演]
- 017 **二村雄次** : 胆管癌の診断と治療の動き. 第100回京都実地医家の会例会, 2013, (京都), [講演]
- 018 **二村雄次** : 胆石症における内視鏡的治療の軌跡—私の体験. 第2回腹腔鏡下胆道手術研究会, 2013, (名古屋), [特別講演]

#### 総長

- 001 **木下平** : 進行胃がんに対する腹腔内洗浄細胞診の問題点について. 第53回日本臨床細胞学会総会, 2012, (千葉), [教育講演]
- 002 **木下平** : 腹部大動脈周囲リンパ節郭清を考える. 第42回胃外科・術後傷害研究会, 2012, (東京), [パネルディスカッション]

## 2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Kondo S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Nagashio Y, Ogura T, Haba S, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Goto H, Ando T, Yamao K** : Feasibility of Watch-and-Wait Strategy for Histological Relapse of Gastric MALT Lymphoma after Helicobacter pylori Eradication Therapy. DDW2012 AGA, 2012, (San Diego, (USA), [ポスター]
- 002 **Charles Fuchs, Ikeda M, Gyorgy Bodoky, Okusaka T, Ohkawa S, Mizuno N, Anna Swieboda-Sadlej, Alberto Sobrero, Vincent Haddad, Jesse McGreivy** : A phase III trial of ganitumab (GAN, AMG 479) with gemcitabine (G) as first-line treatment (tx) in patients (pts) with metastatic pancreatic cancer (MPC) : An analysis of safety from the GAMMA trial (GEM and AMG 479 in Metastatic Adenocarcinoma of the Pancreas). ASCO 2012, 2012, (Chicago, USA), [ポスター]
- 003 **Hijioka S** : 1 日目 スクリーニングEUS, 2 日目 EUS-FNA. Seminar with hands-on training "Interventional EUS in pancreato-biliary disease", 2012, (St. Petersburg), [講演&ライブ]
- 004 **Nagashio Y, Hara K, Hijioka S, Mizuno N, Imaoka H, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Yoshizawa N, Tanaka T, Kondo S, Tajika M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K** : Diagnostic performance of cyst fluid carcinoembryonic antigen and cytology in pancreatic cystic lesions. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 005 **Yoshizawa N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Nagashio Y, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K** : Utility of EUS-FNA for Intra-ampullary-type Carcinoma of the Ampulla of Vater. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 006 **Obayashi T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Yoshizawa N, Yamao K** : Forward-viewing endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for upper GI tract submucosal tumors  $\leq 2$  cm. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 007 **Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Nagashio Y, Obayashi T, Yoshizawa N, Shimizu Y** : Rare Pancreaobiliary Indications of EUS-FNA. EUS 2012, 2012 (St. Petersburg), [講演]
- 008 **Hara K** : EUS-assisted ERCP Pancreatico Biliary Medical Advisory Board, 2012, (Boston), [講演]
- 009 **Tajika M, Matsuo K, V. Bhatia, Kondo S, Tanaka T, Ito H, D. Chihara, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Obayashi T, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sekine M, Sakaguchi M, Yoshizawa N, Yamao K, Niwa Y** : The risk of second malignancies in patients with gastric MALT lymphoma. UEGW 2012, 2012, (Amsterdam), [口演]
- 010 **Hara K** : EUS-BD. The 5th Xinhua Digestive Forum and endoscopic technical conference, 2012, (Shanghai, China), [講演]
- 011 **Yamao K** : EUS-FNA:Current status and new developments. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [国際シンポジウム][司会]
- 012 **Charles Fuchs, Masafumi Ikeda, Takuji Okusaka, Shinichi Ohkawa, Nobumasa Mizuno, Vincent Haddad, Jennifer L, Gansert, David Chang** : A phase III trial of ganitumab with gemcitabine as first-line treatment of metastatic pancreatic cancer: a safety update from the GAMMA trial.. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 013 **Hiroki Yamaue, Motoki Miyazawa, Nobumasa Mizuno, Takuji Okusaka, Akira Fukutomi, Hiroshi Ishii, Shinichi Ohkawa, Masayuki Furukawa, Hiroyuki Maguchi, Masafumi Ikeda, Kazuto Nishio, Yasuo Ohashi, Takuya Tsunoda** : A multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind trial with VEGFR2-epitope peptide and gemcitabine for patients with locally advanced, metastatic, or unresectable pancreatic cancer: PEGASUS-PC study. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 014 **Yamao K** : Current and future role of EUS in diagnosis and staging of cancer. 国際膵癌シンポジウム2012, 2012, (京都), [Plenary Session]
- 015 **Yamao K** : Internet Teleconference with the 6th Meeting Society of Gastrointestinal Intervention (Endoscopic and Interventional Treatments Cancer). 国際膵癌シンポジウム2012, 2012, (京都), [司会]
- 016 **品川秋秀** : The utility of EUS-FNA with forward-viewing echo endoscope for upper gastrointestinal SMTs of less than 2cm. APDW 2012, 2012, (Bangkok, Thailand), [ポスター]
- 017 **原 和生** : 胆嚢癌に対する抗癌化学療法. 名古屋・胆膵懇話会, 2012, (名古屋), [講演]
- 018 **田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 近藤真也, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次** : 家族性大腸腺腫症における大腸切除術後の残存腸管に発生した腺腫に対する内視鏡治療からみた術式の検討. 第18回家族性腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 019 **脇岡 範, 清水泰博, 山雄健次** : IPMN長期経過観察例の検討-癌予測ノモグラムの診断能も含めて-. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 020 **山雄健次** : ERCP. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [座長]

- 021 永塩美邦, 原 和生, 肱岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 品川秋秀, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 山雄健次: 膵嚢胞性疾患における嚢胞液分析の有用性と限界. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 022 原 和生: Interventional EUS. アストラゼネカEUS研究会, 2012, (名古屋), [特別講演]
- 023 今岡 大, 肱岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 品川秋秀, 大林友彦, 長谷川俊之, 永塩美邦, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 当院におけるT51膵癌に対するEUS-FNAの診断成績. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 024 水野伸匡, 原 和生, 山雄健次: IgG4関連肝胆膵疾患の診断と治療-非典型例へのアプローチ. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 025 水野伸匡: International Poster Session16, Pancreatobiliary 4. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (Tokyo), [座長]
- 026 原 和生: EUS-Guided Choledochoduodenostomy for Malignant Lower Biliary Tract Obstruction. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 027 原 和生: Interventional EUS. 第83回日本消化器内視鏡学会総会 イブニングセミナー, 2012, (東京), [講演]
- 028 大林友彦, 田近正洋, 丹羽康正: がん診療におけるPEGの有用性-適応と問題点-. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 029 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 羽場 真, 小倉 健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 谷田部 恭: 遺伝子診断で証明した直腸カルチノイドEMR施行部に局所再発を来した直腸癌の一例. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [プレナリーセッション]
- 030 品川秋秀: 上部消化管SMTによるEUS-FNAの診断能の検討. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 031 山雄健次: 「ステントの夜明け」- HANAROメタリックステント編- 第83回日本消化器内視鏡学会総会 ランチョンセミナー, 2012, (東京), [司会]
- 032 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次: 治療症例より検討したBarrett食道表在癌の内視鏡治療の適応. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 033 原 和生: バーチャルライブデモンストレーション: EUS下胆管ドレナージ. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 034 原 和生: EUS-CDSにおけるトラブルシューティング. 第83回日本消化器内視鏡学会総会 附置研究会, 2012, (東京), [口演]
- 035 原 和生: ポスター. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [司会]
- 036 肱岡 範, 今岡 大, 清水泰博: 分枝型IPMNに対するEUSを主軸にした長期経過観察法の成績. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 037 原 和生: Interventional EUS. EUS-FNA meeting, 2012, (高松), [講演]
- 038 肱岡 範: EUS-BDの現状. 第85回日本超音波学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 039 原 和生: Interventional EUS. 肝胆膵疾患研究会, 2012, (神奈川), [特別講演]
- 040 肱岡 範: 検診にて発見されたIPNBの1例. 第51回消化器がん検診学会総会, 2012, (熊本), [口演]
- 041 山雄健次, 谷田部 恭, 細田和貴, 所 壽朗, 尾関順子, 越川卓: 超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) による消化器疾患の診断. 第53回日本臨床細胞学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 042 山雄健次: 超音波内視鏡を用いた安全・確実な組織採取法 (EUS-FNA) と超音波内視鏡ガイド下治療 (Therapeutic EUS). 第22回がん臨床研究フォーラム, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 043 吉澤尚彦: 脂肪織炎を契機に発見された膵腺房細胞癌の一例. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [口演]
- 044 近藤真也, 小澤泰次郎, 田近正洋, 田中 努, 長谷川泰久, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正: 咽喉頭表在癌に対する当院での内視鏡的咽喉頭手術 (ELPS) の検討. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [口演]
- 045 原 和生: ここまでわかる! コンベックス型EUSによる術前診断. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [講演]
- 046 肱岡 範: 一般演題 膵臓③. 第116回日本消化器病学会東海地方会, 2012, (津), [司会]
- 047 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 坂口将文, 関根匡成, 吉澤尚彦, 山雄健次: 経肛門的局所切除術を施行した早期肛門管癌の一例. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [口演]
- 048 今岡 大, 水野伸匡, 肱岡 範, 原 和生, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 品川秋秀, 大林友彦, 長谷川俊之, 永塩美邦, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 当院における局所進行切除不能膵癌に対する治療戦略. 第43回日本膵臓学会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 049 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 自己免疫性膵炎 (AIP) は早期慢性膵炎 (CP) か?. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [口演]
- 050 長谷川俊之, 肱岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の診断および悪性度評価におけるEUSおよびFNAの有用性. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 051 長谷川俊之, 原 和生, 肱岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 膵管内腫瘍の1例. 第57回日本消化器画像診断研究会, 2012, (松島), [口演]
- 052 品川秋秀: 膵腺房細胞癌の臨床病理学的検討. 第43回日本膵臓学会総会, 2012, (山形), [口演]



- 053 山雄健次：第43回日本膵臓学会大会，2012，(山形)，[Meet the Professor]
- 054 山雄健次：卵巣型間質を伴うMCNの臨床病理学的特徴と予後－日本膵臓学会多施設共同研究から－。第43回日本膵臓学会大会，2012，(山形)，[特別企画]
- 055 原 和生：小膵癌発見を目的としたstage1膵癌の画像所見の検討。第43回日本膵臓学会大会，2012，(山形)，[シンポジウム]
- 056 脇岡 範，長谷川俊之，水野伸匡，原 和生，今岡 大，細田和貴，谷田部 恭，清水泰博，丹羽康正，山雄健次：膵内分秘腫瘍に対する組織診断および悪性度評価におけるEUS-FNAの有用性。第43回日本膵臓学会総会，2012，(山形)，[シンポジウム]
- 057 水野伸匡：慢性膵炎 (2)。第43回日本膵臓学会大会，2012，(山形)，[口演]
- 058 山雄健次：膵癌の早期診断と病理。第43回日本膵臓学会大会，2012，(山形)，[シンポジウム]
- 059 原 和生：Interventional EUS。関東胆膵懇話会，2012，(東京)，[講演]
- 060 山雄健次：膵がんの知っておきたい最新の知識。半田病院消化器連携勉強会，2012，(半田)，[講演]
- 061 田近正洋，設楽紘平，小倉 健，大林友彦，田中 努，近藤真也，今岡 大，脇岡 範，原 和生，水野伸匡，山雄健次，高張大亮，宇良 敬，室 圭，丹羽康正：二次治療のFOLFIRI+Cetuximab 療法が奏効後、四次治療のBiweekly CPT-11+Panitumumab 療法も奏効した進行直腸癌の一例。第10回日本臨床腫瘍学会総会，2012，(東京)，[ポスター]
- 062 脇岡 範：転移性膵癌の診断と治療。第13回臨床消化器病研究会，2012，(東京)，[基調講演]
- 063 今岡 大，山雄健次，脇岡 範，原 和生，水野伸匡，田中 努，近藤真也，田近正洋，小倉 健，大林友彦，清水泰博，丹羽康正：膵腺扁平上皮癌における予後の比較検討。第10回日本臨床腫瘍学会，2012，(大阪)，[ポスター]
- 064 大林友彦：症例提示esophageal carcinoma with pyogenic granuloma。第13回臨床消化器病研究会，2012，(東京)，[口演]
- 065 脇岡 範：切除不能膵癌に対する化学療法併用プロシユア服用に関する第1/2試験。がん免疫栄養療法研究会，2012，(東京)，[ポスター]
- 066 山雄健次：診断の最前線。第1回胆道がん医療セミナー，2012，(東京)，[講演]
- 067 吉澤尚彦：術前診断困難であったIPMCの一例。第45回肝胆膵治療研究会，2012，(名古屋)，[口演]
- 068 脇岡 範：EUS-FNAの現状と問題点。日本内視鏡学会臨時セミナー，2012，(神戸)，[講演]
- 069 山雄健次：膵癌へのintervention EUS。日本消化器内視鏡学会茨城県部会第24回研究会，2012，(筑波)，[講演]
- 070 山雄健次：膵・胆道癌に対するInterventional EUSについて。徳島県胃腸胆道疾患研究会，2012，(徳島)，[講演]
- 071 脇岡 範，原 和生，水野伸匡，今岡 大，永塩美邦，長谷川俊之，品川秋秀，清水泰博，丹羽康正，山雄健次：胆道癌に対する経乳頭の胆管生検による進展度診断の検討。第48回日本胆道学会，2012，(東京)，[口演]
- 072 長谷川俊之，脇岡 範，水野伸匡，原 和生，今岡 大，丹羽康正，田近正洋，近藤真也，田中 努，永塩美邦，大林友彦，品川秋秀，関根匡成，山雄健次：胆嚢小細胞の5例。第48回日本胆道学会学術集会，2012，(東京)，[口演]
- 073 脇岡 範：アフィニトールによる間質性肺炎を惹起するも再開継続できている膵内分秘腫瘍の1例。NET forum，2012，(東京)，[口演]
- 074 今岡 大，山雄健次，脇岡 範，原 和生，水野伸匡，田中 努，近藤真也，田近正洋，永塩美邦，長谷川俊之，大林友彦，品川秋秀，関根匡成，坂口将文，吉澤尚彦，清水泰博，丹羽康正：当院における局所進行切除不能膵癌に対する化学放射線療法の治療成績。JDDW 2012，2012，(神戸)，[ポスター]
- 075 永塩美邦，原 和生，脇岡 範，水野伸匡，今岡 大，小倉 健，羽場 真，長谷川俊之，品川秋秀，田中 努，近藤真也，田近正洋，丹羽康正，清水泰博，細田和貴，谷田部 恭，山雄健次：膵嚢胞性疾患における嚢胞液分析の有用性と限界。JDDW，2012，(神戸)，[ポスター]
- 076 近藤真也，丹羽康正，田近正洋，田中 努，水野伸匡，原 和生，脇岡 範，今岡 大，永塩美邦，小倉 健，羽場 真，長谷川俊之，大林友彦，品川秋秀，山雄健次：高度狭窄をきたした食道癌における化学放射線療法の意義。第54回日本消化器病学会大会，2012，(神戸)，[ポスター]
- 077 原 和生：Interventional EUSの実際。第20回JDDWランチョンセミナー，2012，(神戸)，[講演]
- 078 原 和生：胆道疾患に対するEUS-FNAの基本。第20回JDDW，2012，(神戸)，[講演]
- 079 品川秋秀：食道SMTに対するEUS-FNAによる診断能の検討。第20回JDDW，2012，(神戸)，[ポスター]
- 080 原 和生：Sono-Tipの臨床評価。第20回JDDWヒラタブースレクチャー，2012，(神戸)，[口演]
- 081 原 和生：EUS-BDの検討。第54回日本消化器病学会総会，2012，(神戸)，[シンポジウム]
- 082 大林友彦，丹羽康正，田近正洋，近藤真也，田中 努，水野伸匡，原 和生，脇岡 範，今岡 大，小倉 健，羽場 真，永塩美邦，長谷川俊之，品川秋秀，稲葉吉隆，山雄健次：緩和医療における癌性腹膜炎患者に対するPTEGの有用性および安全性の検討。JDDW2012，2012，(神戸)，[ポスター]
- 083 長谷川俊之，脇岡 範，水野伸匡，原 和生，今岡 大，丹羽康正，田近正洋，近藤真也，田中 努，永塩美邦，大林友彦，品川秋秀，谷田部 恭，細田和貴，清水泰博，西原利治，岩崎信二，西森 功，耕崎拓大，山雄健次：Usefulness of EUS-FNA for the assessment of malignancy of pancreatic neuroendocrine tumors。DDW 2012，2012，(神戸)，[ポスター]
- 084 菊山正隆，糸井隆夫，山雄健次：膵消化管吻合部狭窄に対する治療手技－EUS下膵管穿刺術+ランデブー法－。第84回日本消化器内視鏡学会総会，2012，(神戸)，[シンポジウム]
- 085 原 和生，脇岡 範，山雄健次：超音波内視鏡下胆管ドレナージ (EUS-guided Biliary Drainage:EUS-BD) の検討。第84回日本消化器内視鏡学会総会，2012，(神戸)，[シンポジウム]
- 086 山雄健次：胆膵疾患に対するtherapeutic (EUS-FNAを除く)。第54回日本消化器病学会総会，2012，(神戸)，[シン



ポジウム]

- 087 原 和生：消化器内視鏡学会特別企画3. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (神戸), [口演]
- 088 田中 努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 山雄健次：経鼻内視鏡とFICEを用いた咽喉・食道癌の拾い上げ診断. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 089 水野伸匡, 松尾恵太郎, 山雄健次, 二村雄次, 池田公史, 仲地耕平, 福富 晃, 大川伸一, 古川正幸, 船越顕博, 椰野正人, 平野 聡, 宮崎 勝, 奥坂拓志, 古瀬純司：Body mass indexは胆道癌に対するgemcitabine/cisplatin併用療法の効果修飾因子である. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [口演]
- 090 原 和生：消化器2. 第218回 日本内科学会 東海地方会, 2012, (名古屋), [座長]
- 091 山雄健次, 谷田部 恭, 細田和貴, 所 壽朗, 尾関順子, 越川卓：病理・細胞診検査士が理解すべきEUS-FNAの臨床. 第51回日本臨床細胞学会秋季大会, 2012, (新潟), [パネルディスカッション]
- 092 山雄健次：Interventional EUSによる胆膵疾患の診断と治療. 第21回川西市・池田市医師会 合同学術講演会, 2012, (池田市), [講演]
- 093 山雄健次：膵・胆道癌に対するInterventional EUSについて. 第217回秋田県消化器病・内視鏡研究会, 2012, (秋田), [講演]
- 094 原 和生：EUSの基礎から応用まで. 滋賀県内視鏡研究会, 2012, (滋賀), [講演]
- 095 原 和生：症例:膵. 日本消化器病学会東海支部第117回例会, 2012, (名古屋), [口演]
- 096 脇岡 範：一般演題 膵臓②. 第117回日本消化器病学会地方会, 2012, (名古屋), [司会]
- 097 吉澤尚彦：表在性に進展した食道悪性黒色腫の一例. 第55回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2012, (名古屋), [口演]
- 098 原 和生：EUS-FNA. 第55回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2012, (岐阜), [座長]
- 099 山雄健次：実践EUS-FNA～検体処理法を中心に～. 第59回日本臨床検査医学会学術集会, 2012, (京都), [司会]
- 100 山雄健次：膵癌：最近の診断. Lilly Central Japan Pancreatic Cancer Summit, 2012, (東京), [講演]
- 101 脇岡 範：TS1を処方する立場から. 医薬看連携研修会, 2012, (名古屋), [口演]

#### 内視鏡部

- 001 Kondo S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Nagashio Y, Ogura T, Haba S, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Goto H, Ando T, Yamao K：Feasibility of Watch-and-Wait Strategy for Histological Relapse of Gastric MALT Lymphoma after Helicobacter pylori Eradication Therapy. DDW 2012 AGA, 2012, (San Diego, USA), [ポ

スター]

- 002 Nagashio Y, Hara K, Hijioka S, Mizuno N, Imaoka H, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Yoshizawa N, Tanaka T, Kondo S, Tajika M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K：Diagnostic performance of cyst fluid carcinoembryonic antigen and cytology in pancreatic cystic lesions. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 003 Yoshizawa N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Nagashio Y, Hasegawa T, Obayashi T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K：Utility of EUS-FNA for Intra-ampullary-type Carcinoma of the Ampulla of Vater. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 004 Obayashi T, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sakaguchi M, Sekine M, Yoshizawa N, Yamao K：Forward-viewing endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for upper GI tract submucosal tumors  $\leq 2$  cm. EUS2012, 2012, (St. Petersburg), [ポスター]
- 005 Tajika M, Matsuo K, V. Bhatia, Kondo S, Tanaka T, Ito H, D. Chihara, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Obayashi T, Nagashio Y, Hasegawa T, Shinagawa A, Sekine M, Sakaguchi M, Yoshizawa N, Yamao K, Niwa Y：The risk of second malignancies in patients with gastric MALT lymphoma. UEGW 2012, 2012, (Amsterdam), [口演]
- 006 Niwa Y：The Advances of Endoscopic Surgery for Early Gastro-Esophageal Cancer. IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists) 2012, 2012, (Bangkok, Thailand), [口演]
- 007 Niwa Y：Supermagnifying Endoscopy for Esophageal Squamous Cell Carcinomas; Confocal Endoscopy Versus Endocytoscopy. IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists) 2012, 2012, (Bangkok, Thailand), [口演]
- 008 Niwa Y：Salvage Endoscopic Treatment in Patients with Local Failure After Chemoradiotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma. IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists) 2012, 2012, (Bangkok, Thailand), [口演]
- 009 田近正洋：第107回東海食道疾患症例検討会, 2012, (名古屋), [司会]
- 010 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正：Barrett食道癌に対する内視鏡的治療の適応. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 011 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 近藤真也, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次：家族性大腸腺腫症における大腸切除術後の残存腸管に発生した腺腫に対する内視鏡治療からみた術式の検討. 第18回家族性腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 012 永塩美邦, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健,

- 羽場 真, 長谷川俊之, 品川秋秀, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 山雄健次: 膵嚢胞性疾患における嚢胞液分析の有用性と限界. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 013 今岡 大, 肘岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 品川秋秀, 大林友彦, 長谷川俊之, 永塩美邦, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 当院におけるTS1膵癌に対するEUS-FNAの診断成績. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 014 丹羽康正: ディスプレイ 2 小腸 IBD・生物学的製剤. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [座長]
- 015 大林友彦, 田近正洋, 丹羽康正: がん診療におけるPEGの有用性 - 適応と問題点 -. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 016 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 羽場 真, 小倉 健, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 谷田部 恭: 遺伝子診断で証明した直腸カルチノイドEMR施行部に局所再発を来した直腸癌の一例. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [プレナリーセッション]
- 017 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次: 治療症例より検討したBarrett食道表在癌の内視鏡治療の適応. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 018 丹羽康正: 一般演題 ポスター-89 十二指腸1. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [座長]
- 019 田中 努, 丹羽康正, 田近正洋: 経鼻内視鏡とFICEを用いた咽頭・食道癌の拾い上げ診断. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 020 近藤真也, 小澤泰次郎, 田近正洋, 田中 努, 長谷川泰久, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正: 咽喉頭表在癌に対する当院での内視鏡的咽喉頭手術(ELPS)の検討. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [一般演題]
- 021 丹羽康正: 専門医セミナー ①「上部消化管」②「下部消化管」. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [司会]
- 022 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 坂口将文, 関根匡成, 吉澤尚彦, 山雄健次: 経肛門的局所切除術を施行した早期肛門管癌の一例. 第116回日本消化器病学会東海支部例会, 2012, (津), [口演]
- 023 今岡 大, 水野伸匡, 肘岡 範, 原 和生, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 品川秋秀, 大林友彦, 長谷川俊之, 永塩美邦, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 当院における局所進行切除不能膵癌に対する治療戦略. 第43回日本膵臓学会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 024 長谷川俊之, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の診断および悪性度評価におけるEUSおよびFNAの有用性. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 025 脇岡 範, 長谷川俊之, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵内分泌腫瘍に対する組織診断および悪性度評価におけるEUS-FNAの有用性. 第43回日本膵臓学会総会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 026 丹羽康正: 胃X線検査と内視鏡検査. H24年度胃X線従事者のためのスキルアップセミナー, 2012, (名古屋), [講演]
- 027 田近正洋, 設楽紘平, 小倉 健, 大林友彦, 田中 努, 近藤真也, 今岡 大, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 山雄健次, 高張大亮, 宇良 敬, 室 圭, 丹羽康正: 二次治療のFOLFIRI+Cetuximab療法が奏効後、四次治療のBiweekly CPT-11+Panitumumab療法も奏効した進行直腸癌の一例. 第10回日本臨床腫瘍学会総会, 2012, (東京), [ポスター]
- 028 今岡 大, 山雄健次, 肘岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 小倉 健, 大林友彦, 清水泰博, 丹羽康正: 膵腺扁平上皮癌における予後の比較検討. 第10回日本臨床腫瘍学会, 2012, (大阪), [ポスター]
- 029 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 胆道癌に対する経乳頭の胆管生検による進展度診断の検討. 第48回日本胆道学会, 2012, (東京), [口演]
- 030 長谷川俊之, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 山雄健次: 胆嚢小細胞の5例. 第48回日本胆道学会学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 031 今岡 大, 山雄健次, 肘岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 清水泰博, 丹羽康正: 当院における局所進行切除不能膵癌に対する化学放射線療法の治療成績. JDDW 2012, 2012, (神戸), [ポスター]
- 032 永塩美邦, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 品川秋秀, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 膵嚢胞性疾患における嚢胞液分析の有用性と限界. JDDW, 2012, (神戸), [ポスター]
- 033 近藤真也, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次: 高度狭窄をきたした食道癌における化学放射線療法の意義. 第54回日本消化器病学会大会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 034 田近正洋, 近藤真也, 丹羽康正: クエン酸モサプリド併用による腸管洗浄液(PEG)減量の試み. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (神戸), [ワークショップ]
- 035 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 稲葉吉隆, 山雄健次: 緩和医療における癌性腹膜炎患者に対するPTEGの有用性および安全性の検討. JDDW2012, 2012, (神戸), [ポスター]
- 036 丹羽康正: 消化器病学会特別企画2: 日本消化器病学会専門医カリキュラムの改訂消化器病専門医研修カリキュラム改訂: 総論・腫瘍. 第54回日本消化器病学会大会, 2012, (神戸), [口演]
- 037 長谷川俊之, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 大林友彦, 品

- 川秋秀, 谷田部恭, 細田和貴, 清水泰博, 西原利治, 岩崎信二, 西森 功, 耕崎拓大, 山雄健次: Usefulness of EUS-FNA for the assessment of malignancy of pancreatic neuroendocrine tumors. DDW 2012, 2012, (神戸), [ポスター]
- 038 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: H. pylori除菌治療奏功後に再発した胃MALTリンパ腫におけるWatch and waitの有効性について. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (神戸), [パネルディスカッション]
- 039 田中 努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 小倉 健, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 山雄健次: 経鼻内視鏡とFICEを用いた咽喉・食道癌の拾い上げ診断. 第84回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 040 丹羽康正: 消化器がん検診の現状と将来—愛知県の胃検診を中心に—. 消化器がん検診学会, 2012, (金沢), [口演]
- 041 近藤真也: 症例提示. 第531回 東海胃腸疾患研究会, 2013, (名古屋), [一般演題]
- 042 丹羽康正: 食道癌の内視鏡診断の基本. 第23回日本消化器内視鏡学会東海セミナー, 2013, (静岡), [司会]
- 043 丹羽康正: 胃がん検診の精度管理. 平成24年度愛知県胃がん検診エックス線撮影従事者講習会, 2013, (名古屋), [講演]
- 044 近藤真也, 田近正洋, 田中 努, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 丹羽康正: 食道T1a-MM・SM癌におけるESD後追加治療の治療成績. 第99回日本消化器病学会総会, 2013, (鹿児島), [ポスター]
- 045 大林友彦, 田近正洋, 丹羽康正: 2 cm未満の大腸腫瘍に対するESDの適応に関する検討. 第99回日本消化器病学会総会, 2013, (鹿児島), [ワークショップ]
- 046 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 残胃に発生した未分化型早期胃癌についての臨床病理学的検討. 第回日本消化器病学会総会, 2013, (鹿児島), [口演]
- irinotecan and cisplatin (IP) for the treatment of extended-stage small cell lung cancer (ED-SCLC): JCOG0509. ASCO 48th Annual meeting, 2012, (Chicago), [oral]
- 003 *Nishio M, Kiura K, Nakagawa K, Seto T, Inoue A, Maemondo M, Hida T, Harada M, Yoshioka H, Tamura T*: A phase I / II study of ALK inhibitor CH5424802 in patients with ALK-positive NSCLC; safety and efficacy interim results of the phase II portion. 37th ESMO congress, 2012, (Vienna), [oral]
- 004 *Satouchi M, Chiba Y, Yamamoto N, Nishimura Y, Tsujino K, Fujisaka Y, Kudoh S, Hida T, Atagi S, Nakagawa K*: Phase III study comparing second- and third-generation regimens with concurrent thoracic radiotherapy in unresectable stage III non-small cell lung cancer: An additional analysis by the histological type in the WJTOG0105 study. 37th ESMO congress, 2012, (Vienna), [poster]
- 005 *Horiike A, Nishio M, Goto K, Yamamoto N, Chikamori K, Maemondo M, Hida T, Katakami N, Tamura T*: A phase II study of erlotinib as first-line treatment in Japanese advanced NSCLC patients harboring EGFR mutations. 37th ESMO congress, 2012, (Vienna), [poster]
- 006 *Hida T, Shi Y, Ahn MJ, Liu X, Shaw AT, Yang PC, Depas TM, Han JY, Satouchi M, Lanzalone S, Polli A, Kim D*: Exploratory subgroup analysis of crizotinib efficacy and safety in Asian and non-Asian patients with advanced ALK-positive non-small cell lung cancer (NSCLC) enrolled in a global phase II study. 5th Asia pacific lung cancer conference and 3rd international thymic malignancy interest group annual meeting, 2012, (Fukuoka), [oral]
- 007 *Ou SH, Zhou C, Ahn M, Yang P, Hida T, Kim D, Wilner K, Letrent K, Tang Y, Bartlett C*: Treatment of ALK-positive non-small cell lung cancer patients with crizotinib beyond disease progression: clinical assessment and potential management implications. 5th Asia pacific lung cancer conference and 3rd international thymic malignancy interest group annual meeting, 2012, (Fukuoka), [Highlights of oral presentation]
- 008 *Shi Y, Iyer S, Kim D, Reisman A, Liu X, Nakagawa K, Yang P, Ahn M, Wilner K, Hida T*: Impact of crizotinib treatment on patient-reported symptoms and quality of life (QOL) in Asian lung cancer with advanced ALK-positive non-small cell lung cancer (NSCLC). 5th Asia pacific lung cancer conference and 3rd international thymic malignancy interest group annual meeting, 2012, (Fukuoka), [poster]
- 009 *Hida T, Kubota K, Ishikura S, Shibata T, Nisio M, Kawahara M, Yokoyama A, Imamura F, Takeda K, Negoro S, Okamoto H, Yamamoto N, Shinkai T, Saijo N, Tamura T*: Randomized phase III study comparing etoposide and cisplatin (EP) with irinotecan and

#### 呼吸器内科部

- 001 *Kubota K, Hida T, Ishikura S, Mizusawa J, Nishio M, Kawahara M, Yokoyama A, Imamura F, Takeda K, Negoro S, Harada M, Okamoto H, Yamamoto N, Shinkai T, Sakai H, Matsui K, Nakagawa K, Shibata T, Saijo N, Tamura T*: Randomized phase III study comparing etoposide and cisplatin (EP) with irinotecan and cisplatin (IP) following EP plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (EP/AHTRT) for the treatment of limited-stage small-cell lung cancer (LD-SCLC): JCOG0202. ASCO 48th Annual meeting, 2012, (Chicago), [poster discussion]
- 002 *Kotani Y, Satouchi M, Ando M, Nakagawa K, Yamamoto N, Ichinose Y, Ohe Y, Nishio M, Hida T, Takeda K, Kimura T, Minato K, Yokoyama A, Atagi S, Shibata T, Fukuda H, Tamura T, Saijo N*: A phase III study comparing amrubicin and cisplatin (AP) with



- cisplatin (IP) following EP plus concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy (EP/AHTRT) for the treatment of limited-stage small-cell lung cancer (LD-SCLC) : JCOG0202. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (Osaka), [international symposium]
- 010 **Kaneda H, Kotani Y, Satouchi M, Ando M, Yamamoto N, Ichinose Y, Ohe Y, Nishio M, Hida T, Takeda K, Kudoh, S, Minato K, Shibata T, Tamura T, Saijo N** : A phase III study comparing amrubicin and cisplatin (AP) with irinotecan and cisplatin (IP) for the treatment of extended-stage small cell lung cancer (ED-SCLC) : JCOG0509. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (Osaka), [ international symposium]
- 011 **Kondo C, Park J, Shimizu J, Horio Y, Yoshida K, Yatabe Y, Hida T** : Lung adenocarcinoma with discordant results for ALK based on immunohistochemistry (IHC) versus fluorescence in situ hybridization (FISH) : A case report. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (Osaka), [poster]
- 012 **近藤千晶, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 千葉真人, 伊藤志門, 光富徹哉, 谷田部 恭** : 高周波スネアによる切除術後気管支切除術を行った気管支腫瘍の1例. 第35回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 013 **安宅信二, 久保田 馨, 石倉 聡, 樋田豊明, 西尾誠人, 河原正明, 横山 晶, 今村文生, 根來俊一, 武田晃司, 田村友秀** : 小細胞肺癌に対する治療戦略 限局型小細胞肺癌Etoposide (E) +Cisplatin (P) +同時放射線後のIrinotecan (I) +PとE Pとのランダム化試験. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 014 **前門戸 任, 西尾誠人, 木浦勝行, 中川和彦, 瀬戸貴司, 井上 彰, 樋田豊明, 大江裕一郎, 野上尚之, 田村友秀** : ALK融合遺伝子陽性肺癌に対する治療戦略 ALK阻害剤CH5424802のALK陽性の非小細胞肺癌患者に対する第I/II相臨床試験. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 015 **吉田公秀, 谷田部 恭, 近藤千晶, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明** : ゲフィチニブ治療抵抗性時のT790M変異陰性非小細胞肺癌に対するエルロチニブの第II相試験. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 016 **朴 将哲, 近藤千晶, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 谷田部 恭, 樋田豊明** : EGFR Exon 19挿入変異陽性肺癌の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ポスター]
- 017 **近藤千晶, 朴 将哲, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 谷田部 恭, 樋田豊明** : ALK免疫染色陽性小細胞肺癌の臨床病理学的検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 018 **吉田公秀** : 肺癌治療におけるザーコリ治療の実践. ザーコリ治療検討懇話会, 2012, (名古屋), [特別講演]
- 019 **谷田部 恭, 堀尾芳嗣** : ロールプレイング形式による肺癌細胞診の役割認識 細胞診結果のアウトカム. 第51回日本臨床細胞学会, 2012, (新潟), [教育講演]
- 020 **朴 将哲, 吉田公秀, 近藤千晶, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部 恭** : Crizotinib投与中に食道潰瘍を来したALK陽性肺癌の2例. 第102回日本肺癌学会中部支部会, 2012, (名古屋), [一般演題]
- 021 **朴 将哲, 近藤千晶, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 吉田公秀, 樋田豊明, 谷田部 恭** : 診断に難渋した異所性小細胞肺癌の1症例. 第102回日本肺癌学会中部支部会, 2012, (名古屋), [一般演題]

#### 血液細胞療法部

- 001 **Yamaguchi M, Tobinai K, Oguchi M, Ishizuka N, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Maseki N, Itoh K, Usui N, Suzuki T, Masaki Y, Nosaka K, Takayama N, Fukushima N, Ohmachi K, Morimoto H, Tsukamoto N, Sakai T, Yakushijin Y, Wasada I, Ishikura S, Kagami Y, Kinoshita T, Hotta T, Tsukasaki K, Oshimi K** : Phase I/II study of RT-DeVIC for localized nasal NK/T-cell lymphoma (JCOG0211-D1) :Long-term follow-up. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 002 **Murakami S, Yamamoto K, Kato H, Taji H, Kagami Y, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Up-front auto-PBSCT for untreated high-risk DLBCL. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 003 **Kato H, Karube K, Yamamoto K, Takizawa J, Tsuzuki S, Katayama M, Kanda T, Yatabe Y, Ozawa Y, Ishituska K, Okamoto M, Kinoshita T, Oshima K, Nakamura S, Morishima Y, Seto M** : Expression analysis of age-related EBLPD uncovers alterations in characteristic oncogenetic pathways. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 004 **Tokunaga T, Tomita A, Hirose T, Sugimoto K, Shimada K, Kiyoi H, Kinoshita T, Naoe T** : CD20 IHC+/FCM-DLBCL-the molecular mechanisms and the clinical significances. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 005 **Miyamoto T, Miyamura K, Kurokawa M, Tanimoto M, Yamamoto K, Taniwaki M, Kimura S, Ohyashiki K, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tusrumi H, Naoe T, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kohmei K, Tsukada J, Kondo M, Amagasaki T, Kawahara E, Yanada M** : Nirotinib in CML patients with suboptimal response to imatinib :Early results from the SENSOR study. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 006 **Nakamura S, Kato S, Asano N, Kinoshita T** : Asian phenotypes of mature T-and NK-cell Lymphomas. T-Cell Lymphoma Forum, 2013, (サンフランシスコ), [口演]
- 007 **Kinoshita T, Tokunaga T, Nakamura S** : Prognostic models for specific subtypes for T-Cell lymphoma :AITL&beyond. T-Cell Lymphoma Forum, 2013, (サンフランシスコ), [口演]
- 008 **Asano N, Esayed A, Seiichi Kato S, Kinoshita T,**



- Nakamura S* : The clinicopathological and biological spectrum of cytotoxic molecule-positive lymphoma. T-Cell Lymphoma Forum, 2013, (サンフランシスコ), [口演]
- 009 *Kato S, Miyata T, Ito Y, Tomita A, Kinoshita T, Nakamura S* : A case of EBV-positive cytotoxic T-cell lymphoma followed by chronic active EBV infection-associated T/NK-cell lymphoproliferative disorder. T-Cell Lymphoma Forum, 2013, (サンフランシスコ), [ポスター]
- 010 *Ishida T, Ogura M, Hatake K, Taniwaki M, Ando K, Tobinai K, Fujimoto K, Yamamoto K, Miyamoto T, Uike N, Tanimoto M, Tsukasaki K, Ishizawa K, Suzumiya J, Inagaki H, Tamura K, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R* : Multicenter Phase II Study of Mogamulizumab (KW-0761), a Defucosylated Anti-CCR4 Antibody, in Patients with Relapsed Peripheral and Cutaneous T-Cell Lymphoma (Oral Session #795). The 54th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2012, (Atlanta), [口演]
- 011 *Kato H, Kodaira T, Yamamoto K, Oshima Y, Oki Y, Tachibana H, Tajiri H, Murakami S, Hirano D, Tomita N, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T* : Durable Local Disease Control and Survival in Patients with Limited-Stage Diffuse Large B-Cell Lymphoma Receiving Involved-Node Radiation Therapy Plus Short-Course R-CHOP or CHOP Chemotherapy: Involved-Node Versus Involved-Field Radiation Therapy. The 54th Annual Meeting of American Society of Hematology, 2012, (Atlanta), [Poster Session #3665]
- 012 *Kato H, M.D, Kodaira T, Yamamoto K, Oshima Y, Oki Y, Tachibana H, Tajiri H, Murakami S, Hirano D, Tomita N, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T* : Durable Local Disease Control and Survival in Patients with Limited-Stage Diffuse Large B-Cell Lymphoma Receiving Involved-Node Radiation Therapy Plus Short-Course R-CHOP or CHOP Chemotherapy: Involved-Node Versus Involved-Field Radiation Therapy. 54th. 2012 ASH Annual Meeting and Exposition, 2012, (Atlanta), [ポスターセッション]
- 013 *Kato H, Kawase T, Kako S, Mizuta S, Ohashi K, Kurokawa M, Iwato K, Mori T, Suzuki R, Sakamaki H, Morishima Y, Tanaka J* : Favorable Outcomes of Autologous Stem Cell Transplantation in Adult Patients with Philadelphia Chromosome-Negative Acute Lymphoblastic Leukemia in First Remission: On Behalf of the Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation (JSHCT). 54th. 2012 ASH Annual Meeting and Exposition, 2012, (Atlanta), [ポスターセッション]
- 014 加藤省一, 高橋恵美子, 高田尚良, 浅野直子, 田中務, *Megahed Nirmeen*, 木下朝博, 中村栄男 : 節性EBV関連細胞障害性T細胞リンパ腫と慢性活動性EBV感染症の関係についての臨床病理学的解析. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島), [口演]
- 015 徳永隆之, 富田章裕, 廣瀬達也, 入山智沙子, 木下朝博, 直江知樹 : DLBCLにおけるCD20蛋白発現異常の分子生物学的背景と抗CD20抗体治療の意義に関する検討. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島), [口演]
- 016 徳永隆之, 富田章裕, 廣瀬達也, 入山智沙子, 木下朝博, 直江知樹 : DLBCLにおけるCD20蛋白発現異常の分子生物学的背景と抗CD20抗体治療の意義に関する検討. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島), [ポスター]
- 017 加藤省一, 高橋恵美子, 高田尚良, 浅野直子, 田中務, *Megahed Nirmeen*, 木下朝博, 中村栄男 : 節性EBV関連細胞障害性T細胞リンパ腫と慢性活動性EBV感染症の関係についての臨床病理学的解析. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島) [ポスター]
- 018 小野田浩, 村上五月, 稲垣裕一郎, 加藤春美, 田地浩史, 山本一仁, 木下朝博, 谷田部恭, 中村栄男 : T-cell prolymphocytic leukemia (T-PLL) に対する alemtuzumab の使用経験. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島), [ポスター]
- 019 木下朝博, 富田章裕 : Treatment strategies for malignant lymphoma based on biomarkers (Biomarkerに基づく悪性リンパ腫の治療戦略). 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 020 稲垣裕一郎, 山本一仁, 加藤春美, 村上五月, 小野田浩, 田地浩史, 森島泰雄, 木下朝博 : Influence of etoposide on the development of secondary malignancies after autologous stem cell transplantation (エトポシドによる自家幹細胞移植後の二次性悪性腫瘍発症への影響). 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 021 木下朝博 : Recent progress in treatment of B-cell lymphoma (B細胞リンパ腫: 治療の進歩と課題). 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [シンポジウム]
- 022 木下朝博 : リンパ腫診療ガイドライン作成のポイントとtake home message. 第74回日本血液学会学術集会, 2012, (京都), [パネルディスカッション]
- 023 木下朝博 : 悪性リンパ腫の現状と将来. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [シンポジウム]
- 024 平野大希, 加藤春美, 山本一仁, 田地浩史, 村上五月, 谷田部恭, 中村栄男, 木下朝博 : Angioimmunoblastic T-cell Lymphoma に対する移植成績 Autologous and allogenic transplantation for Antioimmunoblastic T-cell Lymphoma. 第35回日本血細胞移植学会総会, 2013, (金沢), [ポスター]
- 025 中川奈穂, 宮武美智代, 大原綾子, 伊藤梨沙, 岩田知子, 宮谷美智子, 西尾充代, 田地浩史 : CHASER療法クリニカルパスのバリエーション分析 Variance analysis of clinical pathway for CHASER therapy. 第35回日本造血細胞移植学会総会, 2013, (金沢), [ポスター]
- 026 山本一仁 : Best of ASCO 2012 in Japan - 血液 (Leukemia) . 日本臨床腫瘍学会/米国臨床腫瘍学会ジョイント教育コース, 2012, (東京), [口演]
- 027 山本一仁 : 悪性リンパ腫. 日本臨床腫瘍学会第20回教育セミナーBセッション, 2012, (大阪), [口演]

- 028 山本一仁：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の標準治療と research questions. 第74回日本血液学会学術集会教育講演, 2012, (京都), [口演]
- 029 宮本敏浩, 宮村耕一, 黒川峰夫, 谷本光音, 山本一仁, 谷脇雅史, 木村晋也, 大屋敷一馬, 川口辰哉, 松村 到, 波多智子, 鶴見 寿, 直江知樹, 日野雅之, 田所誠司, 目黒邦昭, 兵頭英出夫, 山本正英, 久保恒明, 塚田順一, 近藤 翠, 尼ヶ崎太郎, 河原英治, 柳田正光：Nilotinib in CML patients with suboptimal response to imatinib: early results from the SENSOR study (イマチニブでsuboptimal responseと判定されたCML-CPを対象としたニロチニブの臨床試験：SENSOR の中間成績). CAMN107FJP01/SENSOR Study Group：第74回日本血液学会総会, 2012, (京都), [口演]

#### 薬物療法部

- 001 Muro K：A phase II study of tivantinib monotherapy in patients with previously treated advanced or recurrent gastric cancer. ASCO Annual Meeting, 2012, (Chicago), [poster]
- 002 Narita Y：Prognostic and predictive value of CA19-9 in metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2012, (San Francisco), [poster]
- 003 室 圭：胃癌治療における分子標的治療薬の位置づけ. 第109回日本内科学会, 2012, (京都), [シンポジウム]
- 004 室 圭：食道癌における化学療法の役割. 第66回日本食道学会学術集会, 2012, (長野), [モーニングセミナー]
- 005 宇良 敬：術前Docetaxel, Cisplatin, 5-FU併用療法臨床試験の3年フォローアップ成績. 第66回日本食道学会学術集会, 2012, (長野), [ポスター]
- 006 宇良 敬：術前化学療法を受けた食道癌切除例における遺残例の臨床的特徴と追加治療に関する検討. 第66回日本食道学会学術集会, 2012, (長野), [ポスター]
- 007 近藤千紘：当院における高齢者進行再発結腸直腸癌の化学療法の現状. 第77回大腸癌研究会, 2012, (東京), [口演]
- 008 高張大亮：高齢者大腸がん患者(76歳以上上限なし)に対する抗がん剤治療の現状調査～大腸癌研究会 化学療法プロジェクト～. 第77回大腸癌研究会, 2012, (東京), [総合討論]
- 009 室 圭：胃癌化学療法の新潮流. 第67回日本消化器外科学会総会2012, (富山), [ランチョンセミナー]
- 010 室 圭：Bevacizumab Beyond Progression (BBP) の実践による生存期間延長のstrategy. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [ランチョンセミナー]
- 011 高張大亮：胃癌述語補助化学療法の現状とこれから. 第10回臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- 012 宇良 敬：切除不能進行再発大腸癌に対する緩和ケアチームの介入の生存期間への影響. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [口演]
- 013 宇良 敬：切除不能進行再発食道癌に対するdocetaxel, paclitaxel単剤療法の費用対効果分析. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスターディスカッション]
- 014 宇良 敬：試験対象としてのキードラッグ3剤投与歴を有する切除不能進行再発胃癌の臨床像. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 015 門脇重典：進行・再発胃癌に対するS-1/CDDP併用療法の長期治療成績と予後因子の検討. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスターディスカッション]
- 016 谷口浩也：大腸癌二次治療におけるレジメン別治療成績の後ろ向き比較－BBPと抗EGFR抗体併用. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 017 谷口浩也：ベバシズマブ併用化学療法におけるearly tumor shrinkage (早期腫瘍縮小) の比較検討. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 018 近藤千紘：BRAF (V600E) 変異型切除不能大腸癌の臨床病理学的特徴と予後因子の検討. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [口演]
- 019 山口和久：食道癌術後再発後治療に対する術前化学療法の影響(術前DCF療法とFP療法の比較検討). 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 020 新田壮平：当院における高齢者切除不能進行再発大腸癌に対する全身化学療法の効果と安全性の検討. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 021 小森 梓：フッ化ピリミジン系薬剤による意識障害を伴う高アンモニア血症を発症した4例. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 022 成田有季哉：切除不能進行再発大腸癌における治療前CA19-9測定の意味. 第50回癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [口演]
- 023 室 圭：進行・再発胃癌に対する化学療法の現状と展望. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [教育セミナー]
- 024 室 圭：HER2陽性胃癌の治療ートラスズマブ導入前からの変化と導入後の治療戦略ー. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [特別シンポジウム]
- 025 小森 梓：中等度以上の腹水を有する胃癌に対する2ne line化学療法の検討. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- 026 小森 梓：中等度以上の腹水を有する胃癌に対するFU、タキサン不応後のFOLFOXとCPT-11の検討. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [ワークショップ]
- 027 近藤千紘：シスプラチン治療歴を有する進行再発胃癌のオキサリプラチン併用療法. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [口演]
- 028 宇良 敬：イリノテカン+シスプラチン投与方法に対する単剤療法との比較とCDDP投与歴の影響についての検討. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [口演]
- 029 新田壮平：進行・再発胃癌に対する二次治療の治療成績と予後因子の検討. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [口演]
- 030 門脇重憲：化学療法後に長期生存した切除不能胃癌の臨床的特徴についての検討. 第85回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [口演]

## 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 **Yatabe Y** : Overview of testing techniques (advanced NSCLC). EGFR meeting, 2012, (Hong Kong), [シンポジウム]
- 002 **Yatabe Y** : Changes in morphological and molecular approaches- Molecular pathology of adenocarcinoma. ESMO, 2012, (Geneva, Switzerland), [ワークショップ]
- 003 **Yatabe Y** : Delivering pathology for personalized medicine in lung cancer, What goes on inside the "BLACK BOX?"-Mutation analysis. ESMO, 2012, (Geneva Switzerland), [ワークショップ]
- 004 **Yatabe Y** : Lung Cancer Histological Classification and Proposed Reclassification of Lung Adenocarcinoma. International conference of the American Thoracic Society (ATS), 2012, (San Francisco), [シンポジウム]
- 005 **Yatabe Y** : Genetic heterogeneity of lung adenocarcinoma -EGFR mutation as well. Freischer Society 2012 Annual Meeting, 2012, (Santa Barbara), [シンポジウム]
- 006 **Yatabe Y** : Biomarker Assay Standardization. IASLC Pathology Committee Meeting, 2012, (Chicago), [シンポジウム]
- 007 **Yatabe Y** : EGFR Mutation Testing for Non-Small Cell Lung Cancers. The Singapore Society of Pathology, 2012, (Singapore), [シンポジウム]
- 008 **Yatabe Y** : New Updates on NSCLC diagnosis focusing on small biopsy. 3rd Asia Pacific Symposium on Advanced Molecular Technologies, 2012, (Singapore), [シンポジウム]
- 009 **Yatabe Y** : Lung Adenocarcinoma, Molecular Carcinogenesis. 5th Asia Pacific Lung Cancer Conference and 3rd International Thymic Malignancy Interest Group Annual Meeting, 2012, (Fukuoka), [ワークショップ]
- 010 **Yatabe Y** : Other bioassay standardization assays. Pulmonary Pathology Society Companion Meeting-USCAP, 2013, (Baltimore), [ワークショップ]
- 011 **谷田部 恭** : Diagnosis of ALK translation. 第4回WJOG 国際シンポジウム, 2012, (福岡), [講演]
- 012 **谷田部 恭** : 臨床腫瘍学における病理診断と遺伝子診断の役割. 第101回病理学会総会, 2012, (東京), [講演]
- 013 **谷田部 恭** : 細胞診に求められる診断内容の変遷ー肺癌治療戦略の進展に伴ってー. 第53回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2012, (東京), [講演]
- 014 **谷田部 恭** : 分子生物学と病理. 第38回肺癌診断会および画像診断セミナー, 2012, (新潟), [シンポジウム]
- 015 **谷田部 恭** : 癌細胞遺伝子の病理学的検討の実際〈肺癌〉. 第13回臨床腫瘍セミナー, 2012, (東京), [講演]
- 016 **谷田部 恭** : EML4-ALKの診断. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [講演]
- 017 **谷田部 恭** : EGFR, ALK遺伝子検査と病理標本. 第53回肺癌学会, 2012, (岡山), [講演]

- 018 **谷田部 恭** : ロールプレイング形式による肺癌細胞診の役割認識:細胞診結果のアウトカム. 第51回日本臨床細胞診学会, 2012, (新潟), [講演]
- 019 **谷田部 恭** : 腫瘍の進化と分子標的療法. 第58回日本病理学会秋期特別総会, 2012, (愛知), [講演]
- 020 **谷田部 恭** : 肺腺癌の新展開〜組織亜型とEGFR/ALK遺伝子変異. 第59回日本臨床検査医学会, 2012, (京都), [講演]
- 021 **細田和貴, 真砂勝泰, 山田 舞, 長坂 暢, 村上善子, 佐々木英一, 谷田部恭** : 肺腺癌と鑑別が問題となったsclerosing hemangiomaの一例. 日本病理学会中部支部交見会, 2012, (名古屋), [口演]
- 022 **尾関順子, 所 嘉朗, 小林雅子, 菅野雅人, 村上善子, 佐々木英一, 細田和貴, 越川 卓, 谷田部恭** : 腹水細胞診でのCDX2による免疫染色の検討. 第53回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2012, (千葉), [口演]
- 023 **植田菜々絵, 尾関順子, 所 嘉朗, 山田 舞, 長坂 暢, 村上善子, 菅野雅人, 佐々木英一, 細田和貴, 越川 卓, 谷田部恭** : 腹腔転移を示した小葉癌の一例. 第146回臨床細胞学会東海連合会例会, 2012, (愛知), [口演]
- 024 **植田菜々絵, 柴田典子, 尾関順子, 所 嘉朗, 村上善子, 佐々木英一, 細田和貴, 越川 卓, 谷田部 恭** : 腹膜悪性中皮腫と漿液性表在性乳頭状腺癌の細胞像の比較検討. 第32回日本臨床細胞学会東海連合会総会ならびに学術集会, 2012, (三重), [口演]

## 頭頸部外科部

- 001 **Hasegawa Y** : Feasibility study of ICG fluorescence navigated sentinel node biopsy in head and neck cancer. 5th International Symposium on Sentinel Node Biopsy in Head and Neck Cancer, 2012, (Amsterdam), [口演]
- 002 **Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Okamoto H, Harada I, Koide Y, Fukuda Y, Hasegawa Y** : Is Post-CCRT Neck Dissection Necessary for Responding Using Chemo-Selection?. 8th International Conference on Head and Neck Cancer, 2012, (Toronto), [ポスター]
- 003 **Hirakawa H, Hasegawa Y, Yoshimoto S, Sugawara M, Honma A, Shiotani A, Miura K, Uemura H, Ookura Y, Kohno N, Kosuda S, Takahashi K, Nagafuji H, Matsuzuka T, Yokoyama J, Yoshizaki T, Yoshida T** : Sentinel Node Navigation Surgery for Oral Cancer. 8th International Conference on Head and Neck Cancer, 2012, (Toronto), [ポスター]
- 004 **Yoshimoto S, Nakashima T, Nibu K, MD, Kamata S, Fujii T, Matsuura K, Otsuki N, Kishimoto S, Fukuda S, Homma A, Hasegawa Y, Sugawara M, Kohno N, Asakage T, Fujimoto Y, Hanai N, Monden N, Okami K** : Board Certification for Head and Neck Surgeons in Japan. 8th International Conference on Head and Neck Cancer, 2012, (Toronto), [ポスター]
- 005 **Kano S, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K,**



- Matsuura K, Monden N, Fujii M* : Matched-Pair Analysis in Patients with Advanced Oropharyngeal Cancer: Surgery Versus Concurrent Chemoradiotherapy. 8th International Conference on Head and Neck Cancer, 2012, (Toronto), [シンポジウム]
- 006 杉谷 敏, 島 正幸, 宮内 昭, 長谷川泰久, 宮崎真和, 細井裕司, 折田頼尚, 北野博也: 甲状腺未分化癌の治療戦略 甲状腺未分化癌研究コンソーシアムデータベースに見る拡大根治手術の成績とその意義. 第24回日本内分泌外科学会, 2012, (名古屋), [口演]
- 007 松塚 崇, 高橋克昌, 永藤 裕, 川北大介, 富藤雅之, 塩谷彰浩, 甲能直幸, 大森孝一, 長谷川泰久: OSNA 法による頭頸部扁平上皮癌の頸部リンパ節転移診断 -5施設の集計-. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 008 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 原田生功磨, 岡本啓希, 小出悠介, 長谷川泰久: 頭蓋底手術ならびに上顎全摘術における頸部リンパ節転移の検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 009 長谷川泰久, 甲能直幸, 加藤孝邦, 岸本誠司: 東日本大震災被災頭頸部がん患者さんの治療受け入れ学会活動の検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 010 伊地知圭, 永島義久, 欄 真一郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 森部一穂, 村上信五: TPF 療法における有害事象と減量投与についての検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 011 岡本啓希, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 長谷川泰久, 谷川 徹, 小川徹也, 植田広海: 下咽頭癌と頸部食道癌における重複癌の検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 012 鈴木秀典, 小澤泰次郎, 井信 広, 平川 仁, 原田生功磨, 岡本啓希, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久: 下咽頭癌における導入化学療法による治療選択. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 013 小澤泰次郎, 長谷川泰久, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 岡本啓希, 原田生功磨, 福田裕次郎, 小出悠介: 動注化学療法後再発に対する救済手術の検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 014 小澤泰次郎, 長谷川泰久, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 岡本啓希, 原田生功磨, 小出悠介, 福田裕次郎: 高密度CGH アレイを用いた咽頭がんにおける染色体欠失・増幅領域の網羅的解析. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 015 川北大介, 尾瀬 功, 伊地知圭, 村上信五, 田中秀夫, 長谷川泰久, 松尾恵太郎: 頭頸部扁平上皮癌における飲酒とALDH2 遺伝子多型の予後への影響. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 016 原田生功磨, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 岡本啓希, 小出悠介, 福田裕次郎, 長谷川泰久: 当科における頭頸部Spindle cell carcinoma の臨床的検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 017 林 隆一, 川端一嘉, 吉野邦俊, 岩江診法, 長谷川泰久, 加納里志, 丹生健一, 加藤孝邦, 志賀清人, 本間明宏, 藤井正人: 中咽頭癌に対する治療の現状(第2報) -多施設による後ろ向き観察研究. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 018 小出悠介, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 原田生功磨, 岡本啓希, 福田裕次郎, 長谷川泰久: 高齢者の頭頸部癌治療. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 019 本間明宏, 林 隆一, 松浦一登, 加藤健吾, 川端一嘉, 門田伸也, 長谷川泰久, 鬼塚哲郎, 藤本保志, 藤井正人: 進行上顎洞癌症例の多施設による後ろ向き観察研究. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 020 寺田聡広, 長谷川泰久: 切除可能上顎肉腫重粒子線治療後の経過観察の1例、QOL に関する考察. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 021 欄 真一郎, 伊地知圭, 中西速夫, 長谷川泰久, 小川徹也, 村上信五: 頭頸部扁平上皮癌細胞株のEGFR 標的薬耐性化と上皮間葉移行 (EMT) 形質発現の分子生物学的検討. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 022 永島義久, 川北大介, 伊地知圭, 欄 真一郎, 小澤泰次郎, 花井信広, 村上信五: 耳下腺腫瘍の臨床学的統計. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 023 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久, 立花英二: 耳鼻咽喉科疾患の頭蓋底手術におけるHarmonic FOCUSの役割. 第24回日本頭蓋底外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 024 福田裕次郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 原田生功磨, 岡本啓希, 小出悠介, 長谷川泰久: 頭蓋底手術における頸部リンパ節転移の検討. 第24回日本頭蓋底外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 025 西川大輔, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 頭頸部外科での院内感染対策. 第150回東海地方部会連合講演会, 2012, (名古屋), [口演]
- 026 欄 真一郎, 伊地知圭, 長谷川泰久, 小川徹也, 近藤英作, 中西速夫: ポドプラニン高発現の頭頸部扁平上皮癌細胞株におけるがん幹細胞様形質発現. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 027 長谷川泰久, 吉野孝之, 高橋俊二, 門田伸也, 野澤祐輔, 本間明宏, 大上研二, 藤井正人, 日口享秀, 百枝宏樹, 田原信: 再発/転移性頭頸部扁平上皮癌患者対象の化学療法併用によるcetuximabの第II相臨床試験. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスターディスカッション]
- 028 古川まどか, 古川政樹, 久保田 彰, 門田伸也, 松浦一登, 藤本保志, 花井信広: 頭頸部癌頸部リンパ節転移超音波診断基準(案)について -複数施設における検討. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [口演]
- 029 平川 仁, 長谷川泰久: 口腔癌に対するセンチネルナビゲーション手術. 第64回日本気管食道科学会ならびに学術講演会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 030 長谷川泰久, 吉本世一, 松塚 崇, 甲能直幸, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山純吉, 大倉康男, 小須田茂, 近松一朗, 小柏靖直, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 宮崎真和, 平野 滋, 尾瀬 功, 谷田部 恭, 伊地知圭, 鈴木基之: 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術臨床試験. 第14回SNNs研究会学術集会, 2012, (名古屋), [口演]
- 031 木村隆浩, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 中多祐介, 西川大輔, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 頭頸部癌患者におけるシスプラチンによる腎障害



- 抑制の工夫. 第11回東海頭頸部癌化学療法研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 032 花井信広: 高齢者頭頸部癌手術の治療成績と術後合併症. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [シンポジウム]
- 033 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎太郎, 西川大輔, 長谷川泰久: 下咽頭がんにおける放射線治療後の気管傍リンパ節転移の検討. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [口演]
- 034 鈴木秀典, 小澤泰次郎, 花井信広, 平川 仁, 福田裕次郎, 小出悠介, 西川大輔, 別府慎太郎, 中多祐介, 木村隆浩, 長谷川泰久: FDG-PET/CTによる下咽頭がんの質的評価の検討. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [口演]
- 035 福田裕次郎, 花井信広, 村隆浩, 西川大輔, 中多祐介, 別府慎太郎, 小出悠介, 鈴木秀典, 平川 仁, 小澤泰次郎, 長谷川泰久: 頭頸部外科手術例における術後せん妄の臨床的検討. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [口演]
- 036 西川大輔, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 別府慎太郎, 長谷川泰久: 頭頸部外科での院内感染対策. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [口演]
- 037 川北大介, 福田裕次郎, 伊地知圭, 長谷川泰久, 村上信五: 再発頭頸部扁平上皮癌における無再発期間の予後への影響. 第23回日本頭頸部外科学会, 2013, (鹿児島), [口演]
- 038 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 長谷川泰久: chemo-selectionでの頸部リンパ節の反応は化学放射線療法による予後を予測する. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 039 川北大介, 福田裕次郎, 伊地知圭, 長谷川泰久, 村上信五: 再発頭頸部扁平上皮癌における無再発期間の予後への影響. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 040 古江浩樹, 西川雅也, 澤村昌嗣, 市村典久, 阿部 厚, 吉岡 文, 長縄弥生, 高松磨由子, 山本憲幸, 栗田賢一, 上田 実, 長谷川泰久: 愛知県がんセンター頭頸部外科歯科の取り組み. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 041 長谷川泰久: センチネルリンパ節ナビゲーションサージャリー. 第13回大阪頭頸部腫瘍懇話会, 2013, (大阪), [特別講演]
- 042 別府慎太郎, 花井信広, 小澤泰次郎, 平川 仁, 鈴木秀典, 小出悠介, 福田裕次郎, 木村隆浩, 中多祐介, 西川大輔, 長谷川泰久: 転移性甲状腺癌の2例とその診断の考察. 第152回東海地方部会連合講演会, 2013, (名古屋), [口演]
- 離皮弁による中咽頭再建後の長期経過. 第36回日本頭頸部癌学会学術集会, 2012, (松江), [シンポジウム]
- 004 兵藤伊久夫: 機能および整容面の維持を考慮した頭頸部再建. 第29回日本顎顔面補綴学会学術大会, 2012, (名古屋), [特別講演]
- 005 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建におけるTRAM flapの挙上法の違いによる腹部合併症の比較. 第47回日本形成外科学会中部支部学術集会, 2012, (松本), [一般演題]
- 006 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲, 岩田広治: 当院における乳房再建の現状. 第9回日本乳癌学会中部地方会, 2012, (富山), [一般演題]
- 007 内堀貴文, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 亀井 譲: 顕微鏡下ICG蛍光血管造影を用いた皮弁血流の評価について. 第78回 東海マイクロサージャリー研究会, 2012, (名古屋), [一般演題]
- 008 兵藤伊久夫: 皮弁の安全な挙上法"腹直筋皮弁". 第78回東海マイクロサージャリー研究, 2012, (名古屋), [レクチャー]
- 009 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 異時両側乳癌におけるfree MS2 TRAM flapによる同時再建の経験. 第60回日本形成外科学会中部支部東海地方会, 2012, (名古屋), [一般演題]
- 010 内堀貴文, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 神山圭史, 亀井 譲: 顕微鏡下ICG蛍光血管造影を用いた皮弁血流評価の有用性について. 第39回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2012, (北九州), [一般演題]
- 011 奥村誠子, 内堀貴文, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建におけるMS2 TRAM flapにてICGを用いた穿通枝選択の有用性. 第39回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2012, (北九州), [一般演題]
- 012 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 亀井 譲: 頭頸部遊離皮弁再建における再開創例の検討. 第39回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2012, (北九州), [主題]
- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 亀井 譲: 上顎再建術後のQOL. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [一般演題]
- 014 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 山田健志, 杉浦英志, 亀井 譲: 背部悪性軟部腫瘍切除後の欠損に対し広背筋V-Y進展皮弁による再建を行った1例. 第61回日本形成外科学会中部支部東海地方会, 2013, (静岡), [一般演題]

#### 呼吸器外科部

#### 形成外科部

- 001 水上高秀, 兵藤伊久夫, 神山圭史, 小森康司, 上村則久, 亀井 譲: 遊離空腸採取時に腸回転異常を認めた2例. 第55回日本形成外科学会学術集会, 2012, (東京), [一般演題]
- 002 神山圭史, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 杉浦秀志, 山田健司, 浜田俊介, 亀井 譲: 背部悪性軟部腫瘍切除後の残存広背筋を用いた再建. 第55回日本形成外科学会学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 003 兵藤伊久夫, 中山 敏, 加藤久和, 亀井 譲, 長谷川泰久: 遊
- 001 Kobayashi Y, Fukui T, Ito S, Usami N, Hatooka S, Yatabe Y, and Mitsudomi T: How long should we follow-up small lung lesions showing ground-glass opacity?. 5th Asia Pacific Lung Cancer Conference, 2012, (Fukuoka), [ポスター]
- 002 坂尾幸則, 奥村 栄, 文 敏景, 上原浩文, 中尾将之, 五来厚生, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 小型肺癌の診断から治療まで 小型肺腺癌の診断と治療 画像診断、病理、予後. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 003 坂尾幸則, 奥村 栄, 文 敏景, 上原浩文, 中川 健, 元井紀子,

- 神田浩明, 石川雄一, 五来厚生, 中尾将之, 松浦陽介, 岡崎敏昌: 光機能性有機蛍光プローブによる微小肺がん検出の試み. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 004 坂尾幸則, 奥村 栄, 文 敏景, 上原浩文, 中尾将之, 五来厚生, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 上区域原発肺癌における葉間(#11)リンパ節転移頻度と郭清の意義. 第29回日本呼吸器外科学会, 2012, (秋田), [口演]
- 005 坂尾幸則: 肺癌のリンパ節転移に関する検討 一転移様式と予後一. 第11回岐阜胸部外科フォーラム. 2012, (岐阜), [講演]
- 006 坂尾幸則: 肺癌外科の進歩. 第63回栃木県肺癌研究会, 2013, (宇都宮), [講演]
- 007 坂尾幸則: 肺癌外科医療の変遷. 千種区学術講演会, 2013, (千種区), [講演]
- 008 岡崎敏昌, 文 敏景, 松浦陽介, 中尾将之, 五来厚生, 上原浩文, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健, 元井紀子, 石川雄一: 3肋間にまたがるEden IV型神経鞘腫に対して胸腔鏡下切除を行なった1例. 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 009 五来厚生, 岡崎敏昌, 松浦陽介, 中尾将之, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 炎症性リンパ節の肺動脈への強固な癒着に対するベッセルテープを使用した胸腔鏡下剥離術. 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 010 松浦陽介, 文 敏景, 岡崎敏昌, 中尾将之, 五来厚生, 上原浩文, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 完全胸腔鏡下右S3区域切除術を施行したIA期肺癌の1例(会議録/症例報告). 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 011 中尾将之, 文 敏景, 岡崎敏昌, 松浦陽介, 五来厚生, 上原浩文, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 肺原発淡明細胞腫(PEComa)に対し胸腔鏡下右S7区域切除を施行した1例(会議録/症例報告). 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 012 文 敏景, 奥村 栄, 坂尾幸則, 上原浩文, 五来厚生, 中尾将之, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 当院における小開胸を用いないThoracoscopic segmentectomyの工夫と成績(会議録). 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 013 文 敏景, 奥村 栄, 坂尾幸則, 上原浩文, 五来厚生, 中尾将之, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 右肺癌に対する肺門縦隔郭清 右中葉肺癌に対する拡大視野と視野展開を活用した胸腔鏡下肺門縦隔リンパ節郭清の実際. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [ビデオシンポジウム]
- 014 中尾将之, 奥村 栄, 佐々木 徹, 岡崎敏昌, 松浦陽介, 五来厚生, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 中川 健: 頸部アプローチにて切除し得た上縦隔神経鞘腫の1例. 第160回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2012, (東京), [口演]
- 015 五来厚生, 岡崎敏昌, 松浦陽介, 中尾将之, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 当院における若年者(29歳以下)非小細胞肺癌手術症例の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 016 中尾将之, 岡崎敏昌, 松浦陽介, 五来厚生, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 10mm以下、小型肺癌の背景と予後. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 017 柳谷典子, 谷本 梓, 西澤弘成, 酒谷俊雄, 市川敦央, 河野裕子, 中富克己, 工藤慶太, 大柳文義, 堀池 篤, 宝来 威, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 二宮浩範, 元井紀子, 竹内賢吾, 石川雄一, 西尾誠人: 当院におけるALK融合遺伝子陽性進行非小細胞肺癌に対するクリゾチニブの市販後使用経験. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 018 上原浩文, 奥村 栄, 坂尾幸則, 文 敏景, 五来厚生, 中尾将之, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 胸壁癒着部への腫瘍浸潤に関する検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 019 岡崎敏昌, 上原浩文, 松浦陽介, 中尾将之, 五来厚生, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 中川 健: 食道癌肺転移切除例の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 020 松浦陽介, 奥村 栄, 岡崎敏昌, 中尾将之, 五来厚生, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 中川 健: 間質性肺炎合併肺癌術後の急性増悪に対する治療転帰に関する検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 021 谷本 梓, 柳谷典子, 鎌木教平, 大柳文義, 西澤弘成, 酒谷俊雄, 市川敦央, 河野裕子, 中富克己, 工藤慶太, 堀池 篤, 宝来 威, 西尾誠人, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 元井紀子, 竹内賢吾, 石川雄一: 進行非小細胞肺癌におけるALK融合遺伝子およびEGFR遺伝子変異の有無とCDDP+PEM併用療法による効果の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 022 元井紀子, 齋藤雄一, 宮内栄作, 小野 宏, 佐藤征二郎, 二宮浩範, 上原浩文, 文 敏景, 坂尾幸則, 奥村 栄, 石川雄一: 小型肺結節影の診断と治療 画像診断、病理、予後 小型肺腺癌の浸潤性判定における術中迅速組織診断の有用性と限界. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 023 文 敏景, 奥村 栄, 坂尾幸則, 上原浩文, 五来厚生, 中尾将之, 松浦陽介, 岡崎敏昌, 中川 健: 低侵襲手術の現状と将来 肺癌に対する低侵襲アプローチ(TS: Thoracoscopic surgery)の定型化と今後の方向性. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 024 黒田浩章: 扁平上皮癌における背景肺毎の臨床病理学的検討. 第29回呼吸器外科学会, 2012, (秋田), [口演]
- 025 黒田浩章: 当院における完全胸腔鏡下左S3区域切除の1例. 第53回肺癌学会, 2012, (岡山), [ビデオ]
- 026 黒田浩章: 成人気管支異物症例の検討. 第36回日本呼吸器内視鏡学会, 2012, (東京), [口演]
- 027 水野鉄也, 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 福井高幸, 石黒太志, 中村彰大, 尾関直樹, 横井香平: 肺原発悪性黒色腫の1切除例. 第101回中部肺癌学会, 2012, (松本), [口演]
- 028 水野鉄也, 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 福井高幸, 石黒太志, 中村彰太, 尾関直樹, 横井香平: Single station cN2症例に対する術前診断の課題. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 029 厚田幸子, 谷口哲郎, 宇佐美範恭, 川口晃司, 石川義登, 水野鉄也, 中村彰太, 横井香平: 術後脳転移を来した肺原発血管周皮腫/孤立性線維性腫瘍の1例. 第100回中部肺癌学会, 2012, (名古屋), [口演]
- 030 福井高幸, 尾関直樹, 中村彰太, 水野鉄也, 石黒太志, 川口晃司, 石川義登, 谷口哲郎, 横井香平: 経過中に腫瘍が自然退縮した胸腺腫の1例. 第101回中部肺癌学会, 2012, (松本), [口演]

- 031 川口晃司, 谷口哲郎, 石川義登, 福井高幸, 水野鉄也, 石黒太志, 中村彰太, 尾関直樹, 横井香平: 重症筋無力症に対する胸腔鏡下拡大胸腺摘除術における当院の工夫. 第25回日本内視鏡外科学会, 2012, (横浜), [口演]
- 032 石黒太志, 村上秀樹, 水野鉄也, 谷口哲郎, 横井香平, 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞株におけるBAP1遺伝子異常の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [示説]
- 033 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 福井高幸, 水野鉄也, 石黒太志, 中村彰太, 尾関直樹, 横井香平: 胸腺腫・胸腺癌の治療 進行および再発胸腺腫症例に対する治療. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 034 中村彰太, 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 福井高幸, 石黒太志, 水野鉄也, 尾関直樹, 横井香平: 術前術後の補助療法 術前導入化学放射線療法施行例の検討. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [ワークショップ]
- 035 小林祥久, 福井高幸, 千葉真人, 須田健一, 富沢健二, 尾関直樹, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 光富徹哉: 2-02-07 非小細胞肺癌術後5年以降に再発した症例のリスク因子. 第29回日本呼吸器外科学会総会, 2012, (秋田), [口演]
- 036 小林祥久, 宇佐美範恭, 水内 寛, 森 俊輔, 千葉真人, 富沢健二, 伊藤志門, 波戸岡俊三: 肺切除後膿胸の検討-単一施設16年間の経験. 第53回日本肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 037 小林祥久, 坂尾幸則, 伊藤志門, 朴 将哲, 森 俊輔, 千葉真人, 富沢健二, 黒田浩章, 坂倉範昭, 宇佐美範恭, 光富徹哉, 谷田部恭: Crizotinib投与中に腺癌から肉腫様癌へ形質転換したALK肺癌の1切除例. 第102回日本肺癌学会中部支部会, 2013, (愛知), [口演]
- 038 小林祥久, 仲田純也, 森 俊輔, 千葉真人, 富沢健二, 黒田浩章, 坂倉範昭, 宇佐美範恭, 坂尾幸則: 2. 肺癌術後肺塞栓症に対する抗凝固療法中に対麻痺を発症した1例. 第16回東海呼吸器外科研究会, 2013, (愛知), [口演]
- 039 千葉真人, 宇佐美範恭, 森 俊輔, 小林祥久, 富沢健二, 伊藤志門, 波戸岡俊三: RIの症例の解析. 第53回肺癌学会総会, 2012, (岡山), [口演]
- 040 森 俊輔: 肺アスペルギルス症手術例の検討. 第29回, 日本呼吸器外科学会, 2012, (秋田), [ポスター]
- 041 森 俊輔, 伊藤志門, 千葉真人, 富沢健二, 小林祥久, 宇佐美範恭, 波戸岡俊三, 佐藤洋造, 稲葉吉隆: ラジオ波焼灼術後の胸壁再発に対する1切除例. 日本肺癌学会中部支部会, 2012, (松本), [口演]
- 042 森 俊輔, 宇佐美範恭, 千葉真人, 富沢健二, 小林祥久, 坂倉範昭, 伊藤志門, 波戸岡俊三, 坂尾幸則: 原発性肺癌患者における予後栄養指数の検討. 第53回日本肺癌学会, 2012, (岡山), [口演]
- ACTIVE (EGF 114299) :A study of lapatinib, trastuzumab, and endocrine therapy in patients who received neo-/adjuvant trastuzumab (IV) and endocrine therapy. ASCO, 2012, (Chicago), [Poster]
- 002 Goss P.E., Barrios C.H., Bell R, Finkelstein M. D., Iwata H, Martin M, Braun A.H., Ke C, Maniar T, Coleman R.E. : Denosumab versus placebo as adjuvant treatment for women with early-stage breast cancer who are at high risk of disease recurrence (D-CARE) : An international, randomized, double-blind, placebo-controlled phase III clinical trial. ASCO, 2012, (Chicago), [Poster]
- 003 Noguchi S, Masuda N, Ito Y, Iwata H, Mukai H, Horiguchi J, Tokuda N, Kuroi K, Iwase H, Inaji H, Ohsumi S, Piccart-Gebhart M.J., Hortobagyi G.N., Rugo S, Gnant M, Compone M, Sahmoud T, Pritchard K.I., Burris H.A., Baselga J : BOLERO-2 : Everolimus with exemestane versus exemestane alone in Asian patients with HER2-negative, hormone receptor-positive breast cancer. ASCO, 2012, (Chicago), [Poster]
- 004 Gnant M, Baselga J, Rugo S.H., Noguchi S, Pritchard I.K., Burris H.A., Piccart-Gebhart M.J., Eakle J.F., Mukai H, Iwata H, El-Hashimy M, Rao S, Taran T, Sahmoud T, Lebwohl D.E., Hortobagyi G.N. : Effects of everolimus (EVE) on disease progression on bone and bone markers (BM) in patients (pts) with bone metastases (mets). ASCO, 2012, (Chicago), [Poster]
- 005 Iwata Hiroji : Role of serological marker and others in recurrence surveillance. 1st International Breast Cancer Symposium & 27th Annual meeting of KBCS, 2012, (Jeju, Korea), [Oral presentation]
- 006 Iwata Hiroji : Neoadjuvant endocrine therapy & predictive markers. 1st International Breast Cancer Symposium & 27th Annual meeting of KBCS, 2012, (Jeju, Korea), [Oral Presentation]
- 007 Horio Akiyo : The Analysis of the local treatment of our institution based on the ACOSOG Z0011 trial. St.Gallen International Conference, 2013, (St.Gallen), [Poster]
- 008 Sawaki M, Kondo N, Horio A, Gondo N, Ushio A, Adachi R, Hattori M, Fujita T, Kodaira T, Iwata H : Feasibility of intraoperative radiation therapy for early breast cancer in Japan: a single-center pilot study. 7th International Society of Intraoperative Radiation Therapy, 2012, (Milano), [ Poster Discussion]
- 009 T. Fujita, M. Sawaki, M. Hattori, N. Kondo, A. Horio, A. A. Ushio, N. Gondou, E. Adachi, M. Ichikawa, A. Idota, H. Iwata : Receptor discordance in breast cancer recurrence: Is re-biopsy a necessity?. 35th San Antonio Breast Cancer Symposium, 2012, (San Antonio), [Poster]
- 010 Hattori M, Yamada M, Ushio A, Fujita T, Sawaki M, Kondo N, Horio A, Yatabe Y, Iwata H : Matrix-producing carcinoma of the breast: immunohistochemical

#### 乳腺科部

- 001 Gradishar W.J., Kahan Z, Tsang J, Timcheva C, Tjulandin S, Cardoso F, Grigienė R, Iwata H, Keane M, Luebbe K, Neskovic-Konstantinovic Z, Simon D, Stemmer S, Vrbancic D, Arbani T, Florance M, Huang Y, Leigh M, Wroblewski S, Johnston R.D. : ALTERN



- expression profiles of a rare subtype of breast carcinoma. Asian Oncology Summit 2013/9th Organisation for Oncology and Translational Research, 2013, (Bangkok), [oral session]
- 011 **Sawaki M, Kondo N, Horio A, Gondo N, Ushio A, Adachi R, Hattori M, Fujita T, Kodaira T, Iwata H**: Phase II study of intraoperative radiotherapy for early breast cancer in Japan. 第20回日本乳癌学会総会, 2012, (熊本), [general oral English session]
- 012 **岩田広治**: 乳癌骨転移治療の新たな展開. 第28回日本乳癌甲狀腺超音波診断会議, 2012, (岡山), [ランチョンセミナー]
- 013 **岩田広治**: HER2陽性乳癌治療の最前線. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 014 **岩田広治**: 乳がん国際共同試験成功の鍵. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [プレジデンシャルシンポジウム]
- 015 **岩田広治**: 症例から学ぶ、ホルモン感受性進行・再発乳癌治療の実践. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [ランチョンセミナー]
- 016 **岩田広治**: 再発乳がん治療へ何が大切で、何が必要かへ. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [モーニングセミナー]
- 017 **岩田広治**: 高齢者乳癌治療の現状と課題. 第50回日本癌治療学会, 2012, (横浜), [ワークショップ]
- 018 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 末田愛子, 足立理恵, 牛尾文, 榎藤なおみ, 岩田広治**: 超音波ガイド下吸引式針生検の診断精度の検討. 第51回東海乳癌疾患懇話会, 2012, (名古屋), [口演]
- 019 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 末田愛子, 足立理恵, 牛尾文, 榎藤なおみ, 岩田広治**: 乳癌術後骨転移の早期発見の意義. 第112回日本外科学会総会, 2012, (千葉), [ポスター]
- 020 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 末田愛子, 牛尾文, 榎藤なおみ, 岩田広治**: 乳癌転移巣に対するRebiopsyの検討. 第19回日本乳癌学会総会, 2012, (熊本), [口演]
- 021 **藤田崇史, 澤木正孝, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 牛尾文, 榎藤なおみ, 市川茉莉, 井戸田愛, 岩田広治**: 超音波ガイド下マンモトーム生検にてDCISと診断された症例の検討. 第22回日本乳癌検診学会総会, 2012, (沖縄), [口演]
- 022 **澤木正孝**: 教育講演. 明日からの高齢者乳がん治療-外科における多施設共同試験の意義を含めて-. 第74回日本臨床外科学会総会, 2012, 東京, [口演]
- 023 **服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 岩田広治**: ラパチニブ治療後 HER2陽性進行再発乳癌に対するトラスツズマブの再治療. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [口演]
- 024 **服部正也, 藤田崇史, 澤木正孝, 近藤直人, 堀尾章代, 岩田広治**: 転移再発乳癌に対するエリブリンメシル酸塩の有効性と安全性. 第10回日本臨床腫瘍学会, 2012, (大阪), [ポスター]
- 025 **服部正也**: ラパチニブ投与後のトラスツズマブの効果について. 第50回日本癌治療学会, 2012, (横浜), [口演]
- 026 **服部正也**: TBCRG05試験への当院登録症例. 第2回東海乳癌化学療法研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 027 **服部正也**: 化学療法によるB型肝炎再活性化リスク. 第5回尾張東部がんフォーラム, 2012, (瀬戸), [口演]
- 028 **堀尾章代**: 国際試験 (Z0011・MA20) の結果と当院の成績を比較した乳癌局所治療の検討. 第112回日本外科学会, 2012, (千葉), [ポスター]
- 029 **堀尾章代**: 局所治療の日米比較 (Z0011・MA20と当院治療成績の比較検討). 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [ポスター]
- 030 **堀尾章代**: 二次精査機関としての愛知県がんセンター尾張診療所の試み. 第22回日本乳癌検診学会, 2012, (沖縄), [ポスター]
- 031 **榎藤なおみ**: 再発乳癌治療におけるアンスラサイクリンの効果と安全性. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [口演]
- 032 **榎藤なおみ**: トラスツズマブ投与後の再発乳癌患者における再発一次治療でのトラスツズマブの有効性. 第50回日本癌治療学会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 033 **井戸田愛**: Nodular Pseudoangiomatous Stromal Hyperplasia (PASH) of Breastの一例. 第20回日本乳癌学会学術総会, 2012, (熊本), [ポスター]
- 034 **井戸田愛**: 転移・再発悪性葉状腫瘍の治療に難渋した症例. 第9回乳癌学会中部地方会, 2012, (富山), [ポスター]

#### 消化器外科部

- 001 **Kimura W, Moriya T, Hanada K, Fukushima N, Ohike N, Shimizu M, Hatori T, Fujita N, Maguchi H, Shimizu Y, Yamao K, Sasaki T, Naito Y, Tanno S, Tobita K, Tanaka M**: Multicenter Study of Serous Cystic Neoplasm of the Japam Pancreas Society First Department of Surgery. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [特別企画/特別セッションなど]
- 002 **Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Nimura Y**: CLINICAL PUTCONE OF HEPARECTONY FOR COLORECTAL LIVER METASTASIS AFTER FOLFOX CHEMOTHERAPY. 第10回 World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2012, (Paris), [示説]
- 003 **Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Nimura Y**: A NOMOGRAM FOR PREDIXTING THE PROBABILITY OF CARCINOMA IN PATIENTS WITH INTRADUCTAL PAPILLARY-MUCINOUS NEOPLASN (IPMN) -EXTERNAL VALIDITU INN RECENT RESECTED CASES AND LONG-TERM FOLLOW-UP CASES. 第10回 World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2012, (Paris), [示説]
- 004 **Sano T, Shimizu Y, Senda Y, Nimura Y**: Role of routine biliary drainage in liver resection. 第10回 World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2012, (Paris), [シンポジウム]
- 005 **Hattori N, Kanemitsu Y, Komori K, Kimura K, Sano**



- S, Senda Y, Hatooka S, Usami H, Ito S, Shimizu Y* : Treatment outcomes for hepatic and pulmonary metastasis from colorectal cancer: comparison of surgical resection and conversion therapy with systemic chemotherapy. 第13回"KOREA-JAPAN-CHINA (KJC) COLORECTAL CANCER (CRC) SYMPOSIUM", 2012, (Seoul, Korea), [シンポジウム]
- 006 *Uemura N, Abe T, Kawai R, Shinoda M* : Esophagectomy for thoracic esophageal cancer with a double aortic arch. 第13回World congress of the international society for diseases of the esophagus, 2012, (Venice Italy), [示説]
- 007 服部憲史, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 二宮 豪, 二村雄次, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 山雄健次: 閉塞性黄疸で発症した胆管内発育型肝細胞癌の1切除例. 第70回東海胆道研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 008 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 二村雄次: 膵管内乳頭粘膜液性腫瘍 (IPMN) の癌予測ノモグラムの診断能—最近の切除例におけるexternal validity. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [示説]
- 009 小森康司, 金光幸秀, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 金城和寿, 川合亮佑, 服部憲史, 大澤高陽, 今井健晴, 二宮 豪, 加藤知行: 直腸癌StageIIbのpN3症例の層別化—節外浸潤型のリンパ転移 (Extracapsular invasion: ECI) の評価を用いて—. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [口演]
- 010 安藤公隆, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 二村雄次, 江畑智希, 國料俊男, 横山幸浩, 角田伸行, 菅原 元, 伊神 剛, 深谷昌秀, 高橋 裕, 上原圭介, 板津慶太, 吉岡裕一郎, 柳澤正人, 柳澤昭夫: 通常型膵癌における発性膵管レベルの違いによる初期進展・浸潤様式と予後の相違. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [口演]
- 011 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 石黒成治, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: 化学療法施行患者データベースからみたStage IV胃癌治療の現況. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [パネルディスカッション]
- 012 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 石黒成治, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 光富徹哉, 福井高幸, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 伊藤誠二: 大腸癌肺転移の切除後再発に対する再肺切除の意義. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [口演]
- 013 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 金光幸秀, 江崎 稔, 島田和男, 小菅智男, 二村雄次: 広範囲胆管癌に対する肝右葉・尾状葉切除・幽門輪温存膵頭十二指腸切除術 (Pt-HPD). 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [特別ビデオセッション]
- 014 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 石黒成治, 植村則久, 安藤公隆, 二村雄次: 当科における膵頭十二指腸切除術後膵液瘻予防への取り組み—soft pancreas症例への陥入法の導入—. 第112回日本外科学会定期学術集会, 2012, (幕張), [ワークショップ]
- 015 長谷川俊之, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 大林友彦, 品川秋秀, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 山雄健次: 膵内分泌腫瘍に対する組織診断および悪性度評価におけるEUS～FNABの有用性. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 016 脇岡 範, 清水泰博, 山雄健次: IPMN長期経過観察例の検討—癌予測ノモグラムの診断能も含めて—. 第98回日本消化器病学会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 017 永塩美那, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 山雄健次: 膵嚢胞性疾患における嚢胞液分析の有用性の限界. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 018 今岡 大, 山雄健次, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋: 当院におけるTS1膵癌に対するEUS-FNABの診断成績. 第98回日本消化器病学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 019 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 大澤高陽, 細田和貴, 山雄健次, 木下 平: 膵頭部癌切除8年後に残膵体部を温存した膵尾部切除を行った異時性膵癌の1例. 第39回日本膵切研究会, 2012, (東京), [示説]
- 020 宮田英典, 目加田慶人, 森 健策, 三澤一成: 色ヒストグラムのK-meansクラスタリングによる腹腔鏡手術のシーン分類. 第51回日本生体医工学会, 2012, (福岡国際会議場), [口演]
- 021 脇岡 範, 今岡 大, 清水泰博: 分枝型IPMNに対するEUSを主軸にした長期経過観察法の成績. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 022 吉澤尚彦, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 坂口将文, 関根匡成, 山雄健次, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 清水泰博, 谷田部 恭: 術前診断で困難であったIPMCの1例. 第45回肝胆膵治療研究会, 2012, (名古屋), [口演]
- 023 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 川合亮佑, 大澤高陽, 二村雄次: 膵体尾部IPMNに併存した膵体部癌の1例. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 024 大澤高陽, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 二宮 豪: 術前化学療法を行った大腸癌肝転移に対する肝切除の治療成績. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 025 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 安藤公隆, 川合亮佑, 大澤高陽, 二宮 豪, 二村雄次: 膵頭十二指腸切除後膵液瘻防止への取り組み—soft pancreas症例への陥入法の導入—. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [ビデオ]
- 026 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 二村雄次: 肝腫瘍に対する肝切除後の胆汁漏の評価について. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 027 川合亮佑, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 二宮 豪,

- 大澤高陽, 二村雄次: 膵頭十二指腸切除術後難治性膵液性に対し I V R 下に経皮経腸膵肝ドレナージ造設術を行った 1 例. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [示説]
- 028 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 波戸岡俊三, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道がん根治治療後肺転移再発に対する16切除例の検討. 第66回日本食道学会学術集会, 2012, (軽井沢), [示説]
- 029 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 小山内学, 脇岡 範, 柳澤昭夫: I P M N の癌危険因子の検討—多施設、多数切除例の解析—. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 030 原 和生, 山雄健次, 清水泰博: 小膵癌発見を目的としたstage1膵癌の画像見所の検討. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 031 今岡 大, 山雄健次, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋: 当院における局所進行切除不可能膵癌に対する治療戦略. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 032 脇岡 範, 長谷川俊之, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 細田和貴, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵内分秘腫瘍に対する組織診断および悪性度評価における E U S ~ F N A の有用性. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [シンポジウム]
- 033 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 安藤公隆, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 二村雄次: 当科における膵頭十二指腸切除術後膵液瘻対策. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [特別企画/特別セッションなど]
- 034 品川秋秀, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 羽場 真, 小倉 健, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 谷田部 恭, 細田和貴, 山雄健次: 膵腺房細胞癌8例の臨床病理学的特徴の検討. 第43回日本膵臓学会大会, 2012, (山形), [特別企画/特別セッションなど]
- 035 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 小寺泰弘: 胃全摘術後の R o u x ~ Y 再建における Y 脚空腸パッチ作成法. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [特別企画/特別セッションなど]
- 036 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉: 下部直腸癌側方リンパ節転移に対する診断と治療方針 下部直腸癌側方リンパ節転移の予測と治療効果. 第67回日本消化器外科学会大会, 2012, (神戸), [シンポジウム]
- 037 伊藤誠二, 伊藤友一, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀: 胃癌術前化学療法のためにpSatage III 以上を拾い上げる至適な症例選択基準設定の試み. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [パネルディスカッション]
- 038 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 金光幸秀, 二村雄次: 肝腫瘍に対する肝切除の短期成績. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [特別ビデオセッション]
- 039 今井健晴, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 清水泰博, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成: 大腸内視鏡治療の追加切除62症例の検討. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [口演]
- 040 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 波戸岡俊三, 清水泰博, 篠田雅幸: 当院における B a r r e t t 食道腺癌の手術成績. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [口演]
- 041 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 波戸岡俊三, 清水泰博, 篠田雅幸: 胸部食道癌における E R A S 概念に基づいた周術栄養管理-早期経腸栄養と G F O 治療を用いた栄養療法の成績-. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [緊急企画]
- 042 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 大澤高陽, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: 早期胃癌に対する幽門保存胃切除の術後評価の検討. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [緊急企画]
- 043 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉: 主膵管型 I P M N に対する膵切除範囲と膵全摘の可否について. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [パネルディスカッション]
- 044 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 安部哲也, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一: 胆嚢癌疑診断例に対する治療方針—胆嚢摘出後に癌と判明した再切除例症例の検討から—. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [パネルディスカッション]
- 045 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 波戸岡俊三, 清水泰博, 篠田雅幸: 胸部食道癌に対する根治的放射線治療のSalvageの問題点と工夫. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [ワークショップ]
- 046 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 森 健策: 医用画像処理技術を用いた手術支援システムの開発および臨床応用. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [ワークショップ]
- 047 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 加藤知行: Stage IV 根治度B大腸癌の再発危険因子の検討—原発巣の病理組織学的所見から—. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [パネルディスカッション]
- 048 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 二村雄次: 超高齢者の胆膵悪性腫瘍に対する膵頭十二指腸切除術の治療成績. 第67回日本消化器外科学会総会, 2012, (富山), [口演]
- 049 三澤一成: 中・長期QOLからみた腹腔鏡下胃切除術の有用性. 第42回胃外科・術後障害研究会, 2012, (東京), [特別企画2]
- 050 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 小森康司, 大澤高陽, 二宮 豪, 二村雄次: I P M N の治療戦略—分枝型 I P M N に対する手術適応と主膵管型 I P M N に対する膵全摘の可否について—. 第24回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2012, (大阪), [パネルディスカッション]
- 051 長谷川俊之, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美那, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 千田嘉毅, 佐

- 野 力, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭, 山雄健次: 膵管内腫瘍の1例. 第57回日本消化器画像診断研究会, 2012, (仙台), [口演]
- 052 大澤高陽, 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 金城和久, 川合亮佑, 服部憲史, 二宮 豪, 今井健晴, 木下 平: 体尾部切除5年後に残膵再発のため残膵全摘を施行した I P M C の1例. 第284回東海外科学会, 2012, (浜松), [口演]
- 053 中西速夫, 近藤千紘, 伊藤誠二, 伊藤友一, 室 圭, 近藤英作: ハーセプチン抵抗性を示す新規日本人胃癌由来HER2陽性IHC2+/FISH+胃癌細胞株の樹立とその耐性機構(Trastuzumab-resistance of a newly established HER2-positive gastric cancer cell line with IHC (2+) /FISH (+) phenotype). 第71回日本癌学会, 2012, (札幌), [口演]
- 054 齋藤卓也, 中西速夫, 谷田部恭, 伊藤誠二, 山道啓吾, 近藤英作: 肝および腹膜転移性胃癌の原発巣ならびに転移巣におけるHER2発現の検討 (Preferential HER2 expression in the liver metastasis compared with peritoneal metastasis in patients with gastric cancer). 第71回日本癌学会, 2012, (札幌), [口演]
- 055 千田嘉毅, 清水泰博, 佐野 力, 小森康司, 安藤公隆, 二村雄次: 再発胆道癌外科切除例の検討. 第48回日本胆道学会学術研究会, 2012, (東京), [口演]
- 056 肱岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 胆道癌に対する経乳頭の胆管生検による進展度診断の検討. 第48回日本胆道学会学術研究会, 2012, (東京), [口演]
- 057 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 服部憲史, 二村雄次, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 閉塞性黄疸で発症し、原発巣の同定が困難であった胆管内発育型肝細胞癌の1例. 第48回日本胆道学会学術研究会, 2012, (東京), [口演]
- 058 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 山雄健次, 二村雄次: 右前下枝 (B5) の嚢腫状拡張を伴い右肝管から総肝管内へ腫瘍栓の形態で進展した乳頭型胆管癌の1例. 第48回日本胆道学会学術研究会, 2012, (東京), [口演]
- 059 今岡 大, 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努: 当院における局所進行切除不能膵癌に対する化学放射線治療法の治療成績. 第54回日本消化器病学会総会, 2012, (神戸), [示説]
- 060 今井健晴, 植村則久, 川合亮佑, 安部哲也, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 篠田雅幸: Nonrecurrent inferior laryngeal nerve を伴う食道癌の3切除例. 第54回日本消化器病学会, 2012, (神戸), [示説]
- 061 高張大亮, 石神浩徳, 福島亮治, 梨本 篤, 藪崎 裕, 小寺泰弘, 伊藤誠二, 今本春彦, 今野元博, 藤原義之, 田中淳二, 上之園芳一, 山口拓洋, 山口博紀, 北山丈二: 腹膜播種を伴う胃癌に対する腹腔内投与併用化学療法の有用性を検証する第Ⅲ相試験 (PHOENIX-GC試験). 第54回日本消化器病学会, 2012, (神戸), [口演]
- 062 安部哲也, 植村則久, 設楽紘平, 高張大亮, 宇良 敬, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 室 圭, 篠田雅幸: 局所進行食道癌に対する導入DCF療法後手術による治療戦略. 第66回日本食道学会学術集会, 2012, (軽井沢), [示説]
- 063 今井健晴, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸: 術前D C F療法により病理学的C Rが得られた局所進行食道癌の1例. 第284回東海外科学会, 2012, (浜松), [口演]
- 064 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平: 胃癌の集学的治療の近未来. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [シンポジウム]
- 065 金光幸秀: 大腸がん治療の過去と未来 直腸がんの手術療法と術前治療の変遷 我が国の立場. 第22回日本癌治療学会, 2012, (横浜), [口演]
- 066 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 林 雄一郎, 小田昌宏, 森 健策: 腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムの開発と臨床応用. 第21回日本コンピュータ外科学会, 2012, (徳島), [口演]
- 067 ちょ 成文, 小田昌宏, 北坂孝至, 三澤一成, 藤原道隆, 林 雄一郎, *Woiz Robin, Rueckert Daniel*, 森 健策: 重みつき尤度マップを用いた三次元腹部CT像からの複数臓器抽出手法に関する研究. 第21回日本コンピュータ外科学会, 2012, (徳島), [口演]
- 068 佐藤健司, 目加田慶人, 三澤一成: 映像間照合による腹腔鏡手術シーン検索に関する検討. 第21回日本コンピュータ外科学会, 2012, (徳島), [口演]
- 069 水藤倫彰, 林 雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 飯沼 元, 三澤一成, 縄野 繁, 森 健策: 仮想胃展開像生成における切開線自動決定手法の評価. 第21回日本コンピュータ外科学会, 2012, (徳島), [口演]
- 070 中村嘉彦, 北坂孝至, 水野慎士, 古川和宏, 後藤秀実, 藤原道隆, 三澤一成, 伊藤雅昭, 縄野 繁, 森 健策: 過検出削減処理の改良による三次元腹部X線CT像からのリンパ節自動検出手法の精度向上. 第21回日本コンピュータ外科学会, 2012, (徳島), [口演]
- 071 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉: fStageII結腸癌pT4a症例の病理組織学的検討—術後補助化学療法を考慮すべきStageII症例とは?—. 第67回日本大腸肛門病学会学術集会, 2012, (福岡), [口演]
- 072 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸: 当院におけるMM/SM1食道癌50症例の治療成績. 第74回日本臨床外科学会総会, 2012, (東京), [ビデオシンポジウム]
- 073 今井健晴, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道手術の周術期管理〜早期抜管の観点から〜. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 074 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 山雄健次, 廣野誠子, 小山内学, 肱岡 範, 柳澤昭夫: 分枝型 I P M N の癌子測因子の検討—多施設、多数切除例の解析—. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 075 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 木村



- 賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡補助下胃全摘・噴門側胃切除術におけるEndo-Stitchを用いた食道-空腸吻合法(エンドステッチ法). 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 076 伊藤誠二, 波戸岡俊三, 岩田広治, 植村則久, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博: インシデント・アクシデントレポートから見た外科治療の医療安全の現況と課題. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 077 木村賢哉, 金光幸秀, 小森康司, 今井健晴, 大澤高陽, 服部憲史, 二宮 豪, 植村則久, 安部哲也, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 千田嘉毅, 佐野 力, 清水泰博: 大腸癌手術における切開創手術部位感染症(S S I)予防の取り組み: 当科における閉創法の工夫. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 078 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 二宮 豪, 大澤高陽, 植村則久, 木村賢哉, 安部哲也, 小森康司, 千田嘉毅, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 幽門周囲リンパ節転移から見た幽門保存胃切除術の適応. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 079 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 金城和寿, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: スキルス胃癌に対する治療成績の検討. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 080 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 服部憲史, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 局所進行下部直腸癌に対して、前立腺全摘術および側方郭清術により根治的に骨盤内臓全摘術を回避する方法. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [特別企画/特別セッションなど]
- 081 大澤高陽, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 当科における双孔式回腸ストーマ造設術の手法と現状. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [特別企画/特別セッションなど]
- 082 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉, 佐野 力, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 金城和寿, 川合亮佑, 服部憲史, 大澤高陽, 今井健晴, 二宮 豪, 清水泰博: 直腸癌術後補助放射線療法の安全性についての検討—合併症の観点から—. 第74回日本臨床外科学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 083 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道癌術後難治性乳び胸に対するリピオドールリンパ節造影の有用性. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 084 服部憲史, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 佐野 力, 千田嘉毅, 波戸岡俊三, 宇佐美範恭, 伊藤志門, 伊藤誠二, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: Conversion therapyも含めた大腸癌肝・肺転移に対する治療成績の比較. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 085 二宮 豪, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 服部憲史, 川合亮佑, 大澤高陽, 今井健晴, 木下 平: 臍頭十二指腸切除術後に発症した肝内結石の4例. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [口演]
- 086 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 植村則久, 木村賢哉, 伊藤友一, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 金光幸秀, 木下 平: 臍頭十二指腸切除術の際に肝動脈が臍内を走行する変異への対処. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [示説]
- 087 西 鉄生, 藤原道隆, 渡邊卓哉, 三澤一成, 今村博司, 望月能成, 石樽 清, 石山聡治, 高瀬恒信, 江口武彦, 森岡祐貴, 木下敬史, 伊藤誠二, 山村義孝, 小寺泰弘: 術後QOLと胃癌手術 手技・再建とその評価 早期胃癌の術後QOLに関する腹腔鏡下手術vs開腹手術比較多施設共同比較試験(CCOG0802). 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [ワークショップ]
- 088 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 佐野 力, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博, 篠田雅幸: 表在性(MM/SM1)食道癌に対する治療戦略 当院におけるMM/SM1食道癌50症例の治療成績. 第74回日本臨床外科学会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 089 金城和寿, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 二宮 豪, 川合亮佑, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 当院における腹腔鏡下幽門保存胃切除の検討. 第25回日本内視鏡外科学会総会, 2012, (横浜), [口演]
- 090 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下胃切除術における操作の軸を意識した幽門下リンパ節郭清の工夫と定型化. 第25回日本内視鏡外科学会総会, 2012, (横浜), [口演]
- 091 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 植村則久, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 金光幸秀, 佐野 力, 清水泰博, 林 雄一郎, 小田昌宏, 森 健策: 低侵襲手術ナビゲーション最前線 Virtual 3D画像と臓器立体モデル 3D-Virtual Laparoscopic Image (3D-VLI) とナビゲーションシステムを応用した腹腔鏡下胃切除. 第25回日本内視鏡外科学会総会, 2012, (横浜), [シンポジウム]
- 092 小森康司, 金光幸秀, 木村賢哉, 服部憲史: 病理組織学的所見に基づいた予後不良因子のスコア計算によるfStage II (pT4apN0) 結腸癌症例の層別化. 第78回大腸癌研究会, 2013, (東京), [示説]
- 093 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 服部憲史, 金光幸秀: 遠隔転移切除巣からみたStageIV・CurB症例の術後再発時期、再発形式の検討—自施設と大腸癌術後フォローアップ研究会参加施設との比較—. 第18回大腸癌術後フォローアップ研究会, 2013, (東京), [口演]
- 094 安形真由美, 川嶋羽純, 榎原由美子, 山口真澄, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉: 当院のストーマケアの現状把握からみる今後の課題. 第30回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 095 川嶋羽純, 榎原由美子, 山口真澄, 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉: ベパシズマブの使用により人工肛門閉鎖後に創傷治癒遅延が認められ、ケアに難渋した一症例. 第30回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2013, (名古屋), [口演]



- 096 山口真澄, 鎌倉やよい, 深田順子, 榊原由美子, 金光幸秀, 小森康司, 設楽紘平: EORTC Colorectal Cancer-specific Quality of Life Questionnaire Module QLQ-CR29日本版作成. 第30回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 097 金城和寿, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 二宮 豪, 清水泰博, 木下 平: 幽門側胃切除後Billroth-I再建法とRoux-Y再建法との比較. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [示説]
- 098 二宮 豪, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 金城和寿, 今井健晴, 服部憲史, 清水泰博, 木下 平: 高度進行胃癌に対する審査腹腔鏡の意義. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [示説]
- 099 齋藤卓也, 中西速夫, 谷田部 恭, 山道啓吾, 伊藤誠二, 近藤英作: 肝転移および腹膜転移性胃がんの原発巣ならびに転移巣におけるHER2とEGFR発現の検討. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [示説]
- 100 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 金城和寿, 木下 平: 腹腔鏡下噴門側胃切除術・胃全摘術の再建法の工夫 エンドステッチ法による食道空腸吻合法. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [ビデオ]
- 101 伊藤 誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金城和寿, 二宮 豪, 木下 平: 切除不能症例に対するConversion Therapy 化学療法後外科治療の適応と治療成績 当院におけるConversion surgeryの治療成績と今後の展開. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [シンポジウム]
- 102 伊藤友一, 黒川幸典, 吉川貴己, 竹内裕也, 岸健太郎, 大井正貴, 野崎功雄, 比企直樹: 食道胃接合部癌の腹腔内リンパ節転移に関する多施設症例調査(HIK-01study). 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [口演]

#### 整形外科部

- 001 Yamada K, Hamada S, Kohyama K, Hyoudou I, Sugiura H: A 79-Year-Old Male, Undifferentiated Pleomorphic Spindle Cell Sarcoma (so-called MFH) of the Back. 第24回骨軟部肉腫外科研究会, 2012, (東京), [口演]
- 002 Sugiura H, Kozawa E, Kohyama K, Yamada K, Nishida Y, Taguchi O: Tumor Suppression with Anti-Interleukin-2 and Anti-CD25 Monoclonal Antibodies in a Murine Osteosarcoma Model. 9TH ASIA PACIFIC MUSCULOSKELETAL TUMOUR SOCIETY MEETING 2012, 2012, (Kuala Lumpur), [口演]
- 003 Yamada K, Okuda H, Sugiura H: CISPLATIN AND IRINOTECAN IN PATIENTS WITH REFRACTORY PEDIATRIC SARCOMA. Connective Tissue Oncology Society 17th Annual Meeting, 2012, (ブラハ), [口演]
- 004 濱田俊介, 杉浦英志: 当院における隆起性皮膚線維肉腫(DFSP)の治療成績. 第118回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 005 杉浦英志, 濱田俊介: 癌骨転移による大腿骨病的骨折術後の生命予後と予後因子の検討. 第118回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 006 神山圭史, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 杉浦英志, 山田健志, 濱田俊介, 亀井 譲: 背部悪性軟部腫瘍切除後の残存広背筋を利用した再建. 第55回日本形成外科学会総会学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 007 吉田雅博, 中島浩敦, 西田佳弘, 杉浦英志, 石黒直樹: 高齢者における骨巨細胞腫の治療成績. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [ポスター]
- 008 新井英介, 西田佳弘, 杉浦英志, 中島浩敦, 筑紫 聡, 浦川 浩, 石黒直樹: 不適切切除を受けた軟部肉腫における追加広範切除時残存腫瘍の重要性. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [ポスター]
- 009 紫藤洋二, 松山幸弘, 西田佳弘, 石黒直樹, 杉浦英志, 中島浩敦, 山田芳久: 軟部肉腫術後肺転移の予後. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [ポスター]
- 010 眞鍋 淳, 西田 淳, 田地野崇弘, 黒田浩司, 松本誠一, 穴澤卯圭, 杉浦英志, 国定俊之, 松田秀一: パスツール(加温)処理骨を用いた患肢温存術一問題点と今後の課題一. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 011 浦川 浩, 西田佳弘, 細野幸三, 杉浦英志, 中島浩敦, 山田芳久, 筑紫 聡, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 石黒直樹: 孤立性骨嚢腫における病的骨折発症および治療成績に影響する因子の検討. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 012 山田健志, 濱田俊介, 西田佳弘, 石黒直樹, 杉浦英志: 骨シンチグラフィーによるがん骨転移の解剖学的偏在性の検討. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 013 杉浦英志, 山田健志, 濱田俊介, 西田佳弘, 中島浩敦, 山田芳久, 石黒直樹: 再発軟部肉腫に対する広範切除後の治療成績一再々発と遠隔転移の予後因子一. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 014 西田佳弘, 筑紫 聡, 杉浦英志, 浦川 浩, 中島浩敦, 山田芳久, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 石黒直樹: 横紋筋肉腫再発・転移様式の検討. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 015 小澤英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 杉浦英志, 中島浩敦, 山田芳久, 二村尚久, 石黒直樹: 45歳以上の中・高悪性度軟部肉腫における重複癌症例の検討. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [口演]
- 016 西田佳弘, 山田芳久, 杉浦英志, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 石黒直樹: 骨Paget病に対する高用量リセドロン酸8週間投与の中間成績. 第85回日本整形外科学会学術総会, 2012, (京都), [ポスター]
- 017 奥田洋史: 足関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎の1例. 第4回自由ヶ丘整形医会, 2012, (名古屋), [口演]
- 018 山田健志: 甲状腺がん胸椎転移の2例 早期診断, 早期治療の重要性について. 第4回自由ヶ丘整形医会, 2012, (名古屋), [口演]
- 019 山田健志: 右坐骨神経発生骨外性ユーイング肉腫の1例. 第4回自由ヶ丘整形医会, 2012, (名古屋), [口演]
- 020 杉浦英志: 肝癌上腕骨転移に対し人工骨頭置換術を施行した1例. 第4回自由ヶ丘整形医会, 2012, (名古屋), [口演]
- 021 杉浦英志: 加温処理骨移植にて再建した大腿部脂肪肉腫の1例. 第4回自由ヶ丘整形医会, 2012, (名古屋), [口演]
- 022 杉浦英志: 肺癌骨転移病変に対するZoledronic acidの治療

- 療効果について. ZENITH Meeting Japan 2012 in KOBE, 2012, (神戸), [口演]
- 023 山田健志, 奥田洋史, 杉浦英志, 兵藤伊久夫: 右大腿骨ユーイング肉腫の1例. 第27回骨軟部腫瘍治療法検討会, 2012, (名古屋), [口演]
- 024 杉浦英志: がん骨転移の診断と治療の実際. 第11回尾張乳癌研究会, 2012, (小牧), [特別講演]
- 025 奥田洋史, 山田健志, 杉浦英志: 嚢胞変性を伴った膝窩部滑膜肉腫の1例. 第228回整形外科集談会東海地方会, 2012, (名古屋), [口演]
- 026 山田健志: 右大腿骨ユーイング肉腫の一例. 日本ユーイング肉腫研究グループ (JESS) 研究会, 2012, (東京), [口演]
- 027 山田健志: 大腿骨近位Ewing肉腫の一例. 日本ユーイング肉腫研究グループ (JESS) 研究会, 2012, (東京), [口演]
- 028 濱田俊介, 杉浦英志, 山田健志, 西田佳弘, 石黒直樹: 転移性脊椎腫瘍に伴う麻痺症例の予後の検討. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 029 中島浩敦, 吉田雅博, 杉浦英志, 高橋 満, 米川正洋, 石黒直樹: 加温処理自家骨を用いた骨盤悪性骨腫瘍切除後の再建とその成績. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 030 神山圭史, 杉浦英志, 山田健志, 濱田俊介, 兵藤伊久夫, 水上高秀, 亀井 譲: 背部悪性軟部腫瘍切除後の残存広背筋を利用した再建. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 031 西田佳弘, 杉浦英志, 中島浩敦, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 石黒直樹: 縮小手術に向けて一難治性良性骨腫瘍に対する搔爬後温水処理. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 032 二村尚久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 中島浩敦, 杉浦英志, 山田芳久, 石黒直樹: 四肢発生骨巨細胞腫再発例の治療. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 033 筑紫 聡, 西田佳弘, 浦川 浩, 小澤英史, 杉浦英志, 中島浩敦, 山田芳久, 石黒直樹: 胸壁発生軟部肉腫の治療成績. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 034 小澤英史, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 二村尚久, 杉浦英志, 中島浩敦, 山田芳久, 石黒直樹: 四肢長管骨に接する高悪性度軟部肉腫についての検討. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 035 濱田俊介, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 二村尚久, 生田国大, 杉浦英志, 石黒直樹: 腹腔外デスマイド腫瘍に対するメロキシカム保存治療— $\beta$ カテニン染色性による予後予測—. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [口演]
- 036 山田健志, 濱田俊介, 西田佳弘, 石黒直樹, 杉浦英志: がん専門病院でのがんのリハビリテーションへの取り組みと課題. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 037 山田健志, 佐々木英一, 谷田部恭, 濱田俊介, 長谷川泰久, 西田佳弘, 石黒直樹, 杉浦英志: 10年以上の臨床経過を有した頸部皮下発生骨外性骨肉腫の1例. 第45回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2012, (東京), [ポスター]
- 038 二村尚久, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 小澤英史, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹, 中島浩敦, 杉浦英志, 山田芳久: 大腿骨遠位発生骨巨細胞腫の発生部位と骨端線的位置関係に関する考察. 第229回整形外科集談会東海地方会, 2012, (名古屋), [口演]
- 039 杉浦英志, 奥田洋史, 和佐潤志: 上肢骨転移の病的骨折に対する治療. 第119回中部日本整形外科学会災害外科学会学術集会, 2012, (福井), [口演]
- 040 奥田洋史, 杉浦英志: 嚢胞変性を伴った滑膜肉腫の1例. 第119回中部日本整形外科学会災害外科学会学術集会, 2012, (福井), [口演]
- 041 奥田洋史, 杉浦英志, 山田健志, 林 宣男, 小倉友二: 腎細胞癌骨転移病変に対する放射線療法とビスフォスフォネート製剤併用療法の治療効果. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 042 杉浦英志, 山田健志, 奥田洋史: 肺癌骨転移病変に対するビスフォスフォネート製剤の治療効果について. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 043 山田健志, 奥田洋史, 杉浦英志: がん化学療法に伴って発症した化膿性筋炎の3症例. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 044 杉浦英志, 山田健志, 奥田洋史: 四肢転移性骨腫瘍の病的骨折に対する治療戦略. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 045 杉浦英志: 骨軟部腫瘍. 東海オンコロジー入門セミナー-vo 1.4, 2012, (名古屋), [講演]
- 046 杉浦英志: 骨転移の病態と治療. 認定看護師教育課程, 2012, (名古屋), [講義]
- 047 杉浦英志: 骨転移の診断・治療. 第2回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2012, (名古屋), [特別講演]
- 048 山田健志: 骨転移の診断・治療 症例検討. 第2回名古屋運動器腫瘍セミナー, 2012, (名古屋), [口演]
- 049 杉浦英志: 骨転移治療の重要度～整形外科の立場から～. 第1回癌骨転移診断・治療研究会, 2012, (札幌), [特別講演]
- 050 奥田洋史, 杉浦英志, 山田健志: 肘部皮下発症のRosai-Dorfman病の1例. 第230回整形外科集談会東海地方会, 2012, (名古屋), [口演]
- 051 杉浦英志: 軟部腫瘍の診断と治療 一般病院や診療所で注意すること. 第37回中村区整形外科医会, 2013, (名古屋), [特別講演]
- 052 杉浦英志: 軟部腫瘍診断・治療に対するポイント～術後リハビリを含めて～. 第4回北勢整形外科懇話会, 2013, (四日市), [特別講演]
- 053 奥田洋史, 杉浦英志, 吉田雅博: 神経症状を有した膝下部ガングリオンの1例. 第231回整形外科集談会東海地方会, 2013, (名古屋), [口演]

#### 泌尿器科部

- 001 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 2011年愛知県がんセンター中央病院泌尿器科入院手術統計. 第51回三重泌尿器科医会, 2012, (津), [口演]

- 002 曾我倫久人, 長谷川嘉弘, 坂本祐子, 西岡淳二, 野間 桂, 中谷 中, 登 勉, 黒松 功, 大西毅尚, 小倉友二, 林 宣男, 杉村芳樹: 上部尿路上皮癌に対する腎尿管全摘除術後の膀胱再発予測因子としての術中尿中survivin値の意義. 第100回日本泌尿器科学会総会, 2012, (横浜), [示説]
- 003 小倉友二, 曾我倫久人, 林 宣男, 脇田利明: 前立腺癌に対する放射線外照射および前立腺全摘除後に施行された救済放射線照射後に発症した膀胱癌の検討. 第100回日本泌尿器科学会総会, 2012, (横浜), [示説]
- 004 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 愛知県がんセンター中央病院にて外科的治療が施行された腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の頻度. 第43回腎癌研究会, 2012, (横浜), [示説]
- 005 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 愛知県がんセンター中央病院にて外科的治療が施行された腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の頻度. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 006 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男, 西川晃平, 山田泰司, 有馬公伸, 杉村芳樹: 腎、尿管ミニマム創内視鏡下根治的腎摘除術における透析患者と正常腎機能患者との比較検討. 第5回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会パネルディスカッション1-ii, 2012, (東京), [口演]

#### 婦人科部

- 001 水野美香, 吉川史隆, 梶山広明, 水野公雄, 山室 理, 木下吉登, 松澤克治, 榊原克己, 河井通泰, 小口秀紀, 中西 透: I期上皮性卵巣癌における再発のrisk factorの検討 漿液性腺癌、明細胞腺癌は予後因子～. 第64回日本産科婦人科学会学術講演会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 002 梶山広明, 吉川史隆, 水野美香, 水野公雄, 山室 理, 木下吉登, 松澤克治, 榊原克己, 河井通泰, 小口秀紀, 中西 透: I期上皮性卵巣癌において、癒着の程度はどの程度長期予後に影響を及ぼすか?. 第64回日本産科婦人科学会学術講演会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 003 河合要介, 廣澤友也, 吉田憲生, 中西 透: 再発卵巣がんに対するgemcitabine単剤によるsalvage chemotherapyの有効性. 第64回日本産科婦人科学会学術講演会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 004 沼崎令子, 宮城悦子, 中西 透, 片岡史夫, 井畑 穰, 吉田憲生, 村松孝彦, 山本浩史, 山門 實, 青木大輔, 平原史樹: 血漿中アミノ酸プロファイルを指標とした婦人科癌スクリーニング法「アミノインデックス技術」. 第64回日本産科婦人科学会学術講演会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 005 河合要介, 笹本香織, 近藤紳司, 中西 透: 子宮頸部初期がん(CIS、AIS、Ia期など)はどう治療するか 子宮頸部初期がんに対する治療的円錐切除術の可能性と限界. 第52回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2012, (東京), [ポスター]
- 006 曾我部万紀, 野崎浩文, 久保田智巳, 久野 敦, 梶 裕之, 榎谷内晶, 中西速夫, 中西 透, 鈴木 直, 木口一成, 三上幹男, 池原 謙, 成松 久: 上皮性卵巣癌、特に明細胞腺癌に対する新規なグライコバイオマーカー (Novel glyco-biomarker for epithelial ovarian cancer sensitive to clear cell adenocarcinoma). 第71回日本癌学会学術総会,

2012, (札幌), [ポスター]

- 007 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: 卵巣癌におけるカルボプラチンによる過敏反応の検討. 第131回東海産科婦人科学会, 2012, (名古屋), [口演]
- 008 河合要介, 笹本香織, 近藤紳司, 中西 透: 高齢者に対する子宮頸部円錐切除術症例の臨床的検討. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 009 梶山広明, 柴田清住, 水野美香, 吉川史隆, 河井通泰, 山室理, 水野公雄, 中西 透: はたして再発卵巣明細胞腺癌/粘液性腺癌の長期生存率は向上しているのか～ 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 010 水野美香, 芳川修久, 内海 史, 鈴木史朗, 梶山広明, 柴田清住, 水野公雄, 山室 理, 中西 透, 河井通泰, 長坂徹郎, 吉川史隆: 初回治療でDebulking surgeryを施行したIV期卵巣癌178例の治療成績. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 011 沼崎令子, 宮城悦子, 中西 透, 片岡史夫, 猿木信裕, 井畑 穰, 伊藤則雄, 吉田憲生, 新原温子, 村松孝彦, 山本浩史, 高須万里子, 山門 實, 青木大輔, 平原史樹: 血漿中アミノ酸プロファイルを指標とした新規婦人科癌スクリーニング法. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]
- 012 喜多川亮, 角田 肇, 柴田太郎, 金戸啓介, 勝俣範之, 中西 透, 西村貞子, 牛嶋公生, 高野政志, 佐藤豊実, 横田治重, 落合和徳, 吉川裕之, 嘉村敏治: IVb期・再発子宮頸癌に対する化学療法の治療効果予測因子の検討 (JCOG0505試験より). 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [ポスター]

#### 麻酔科部

- 001 仲田純也: オピオイド使用時における筋弛緩薬の投与意義. 第59回日本麻酔科学会, 2012, (神戸), [ランチョンセミナー]

#### 放射線診断・IVR部

- 001 Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Inoue D, Takeuchi Y, Arai Y: Stent therapy for malignant colorectal obstruction. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Symposium]
- 002 Sato Y, Ura T, Yamaura H, Kato M, Inoue D, Kurinobu T, Sato T, Takahari D, Shitara K, Muro K, Inaba Y: Phase I/II study of hepatic arterial infusion using oxaliplatin combined with intravenous 5-fluorouracil and l-leucovorin for pretreated liver metastases from colorectal cancer. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Session]
- 003 Sato T, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inoue D, Kurinobu T, Kato H, Inaba Y: Partial splenic embolization for thrombocytopenia in cancer patients receiving systemic chemotherapy. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Session]
- 004 Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Inoue D,



- Kurinobu T, Sato T, Kato H* : Initial experience of balloon-occluded transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Session]
- 005 *Inoue D, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Kurinobu T, Sato T, Kato H, Inaba Y* : Catheter placement via superior mesenteric artery for hepatic arterial infusion . APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Poster]
- 006 *Kurinobu T, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Inoue D, Sato T, Kato H, Inaba Y* : A case of percutaneous trans-splenic embolization for esophageal-jejunal anastomotic varices after total gastrectomy. APCCVIR 2012 JSIR & ISIR, 2012, (Kobe), [Poster]
- 007 *Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Inoue D, Kurinobu T, Hara K* : Percutaneous transcatheter embolization for bleeding gastrointestinal varices caused by malignant portal vein occlusion. SGI2012, 2012, (Korea), [Poster]
- 008 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司 : 経皮的胃瘻造設術の検討. 第71回日本医学放射線学会, 2012, (横浜), [口演]
- 009 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆 : 悪性輸入脚閉塞に対する経皮的ステント留置. 第71回日本医学放射線学会, 2012, (横浜), [口演]
- 010 栗延孝至, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆 : 臍島十二指腸切除術後の空腸盲端部腹壁固定部を介したIVRアプローチ. 第71回日本医学放射線学会, 2012, (横浜), [口演]
- 011 山浦秀和, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶 : Gd-EOB-DTPA造影MR画像を用いた肝容積測定の検討. 第71回日本医学放射線学会, 2012, (横浜), [口演]
- 012 佐藤洋造, 加藤弥菜, 山浦秀和, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆 : 経胃瘻的に食道ステントを留置した1例. 第30回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 2012, (神戸), [口演]
- 013 稲葉吉隆 : 静脈・非血管. 第30回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 2012, (神戸), [座長]
- 014 井上大作 : 出血・動脈瘤. 日本IVR学会第33回中部地方会, 2012, (岐阜), [座長]
- 015 加藤久晶, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆 : 骨盤全摘後の総腸骨動脈尿管瘻に対してカバードステントを留置した1例. 日本IVR学会第33回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 016 山浦秀和 : 腹部(肝・胆). 日本医学放射線学会第152回中部地方会, 2012, (岐阜), [座長]
- 017 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆 : EOB造影MRで検出される乏血性結節が、肝癌の治療戦略に与える影響. 日本医学放射線学会第152回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 018 栗延孝至, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 佐藤健司, 加藤久晶 : 腹腔内出血を繰り返し著明な腹膜播種をきたした低分化型肝細胞癌と診断された1例. 日本医学放射線学会第152回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 019 稲葉吉隆 : 化学療法2. 第48回日本肝癌研究会, 2012, (金沢), [座長]
- 020 栗延孝至, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 佐藤健司, 加藤久晶, 松本寛史 : 腹腔内出血を繰り返し著明な腹膜播種をきたした低分化型肝細胞癌と診断された1例. 第48回日本肝癌研究会, 2012, (金沢), [ポスター]
- 021 加藤弥菜 : 肝細胞癌 分子標的薬治療. 第10回日本臨床腫瘍学会, 2012, (大阪), [教育講演]
- 022 佐藤洋造 : 緩和医療1 がん緩和医療におけるIVR. 第10回日本臨床腫瘍学会, 2012, (大阪), [教育講演]
- 023 稲葉吉隆 : 緩和医療1 がん緩和医療におけるIVR. 第10回日本臨床腫瘍学会, 2012, (大阪), [座長]
- 024 加藤弥菜 : 肝臓癌. 日本臨床腫瘍学会第20回教育セミナー, 2012, (大阪), [セッション]
- 025 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 加藤弥菜, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶 : IVR専門医の立場から. 第48回日本医学放射線学会秋季大会, 2012, (長崎), [シンポジウム]
- 026 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 宇良敬, 高張大亮, 室圭 : 標準的化学療法抵抗性の大腸癌症例に対するオキサリプラチン肝動注療法の第I/II相試験. 第50回日本癌治療学会, 2012, (横浜), [口演]
- 027 稲葉吉隆 : シンポジウムII「肝動注リザーバー 枠を極める」. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [座長]
- 028 山浦秀和 : 教育講演1. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [座長]
- 029 佐藤洋造 : 留置困難例に対する技術. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [シンポジウム]
- 030 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆 : ミリプラチン動注療法にて良好な腫瘍コントロールが行われている肝癌の一例. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [口演]
- 031 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 佐藤健司, 稲葉吉隆 : 一時的カテーテル留置によって分割TAEを施行した腎癌巨大肝転移の一例. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [口演]
- 032 佐藤洋造, 宇良敬, 山浦秀和, 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 高張大亮, 設楽紘平, 室圭, 西尾福秀之, 田中利洋 : 標準的化学療法抵抗性の肝転移を伴った切除不能進行再発大腸癌症例を対象とした、オキサリプラチン(L-OHP)肝動注療法の安全性と有用性を評価する第I/II相試験(OHAS t u d y)～第2報～. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [口演]
- 033 林真由美, 澤村たか子, 笹川良子, 岩井美世子, 戸崎加奈江, 稲葉吉隆 : 当院における中心静脈ポートに対する知識の現状と学習会の効果について. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [口演]
- 034 佐藤洋造 : 動注化学療法、その他. 日本IVR学会第34回中部地方会, 2013, (名古屋), [座長]
- 035 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 佐



- 藤健司, 栗延孝至, 稲葉吉隆: 胆管損傷による胆管肝静脈瘻の1例. 日本 I V R 学会第34回中部地方会, 2013, (名古屋), [セッション]
- 036 栗延孝至, 松島 秀, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 井上大作, 鹿島正隆, 佐藤健司, 稲葉吉隆: E O B-MR を用いた肝造影率による肝細胞密度の評価. 日本医学放射線学会第153回中部地方会, 2013, (名古屋), [セッション]
- 037 佐藤健司, 松島 秀, 加藤弥菜, 山浦秀和, 佐藤洋造, 井上大作, 鹿島正隆, 栗延孝至, 稲葉吉隆: Equivalent cross-relaxation rate image (ECRI) を用いた大腸癌肝転移における全身化学療法の治療効果早期予測に関する検討. 日本医学放射線学会第153回中部地方会, 2013, (名古屋), [セッション]
- 038 稲葉吉隆: A セッション. 第21回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 2013, (東京), [司会]
- 039 稲葉吉隆: 画像診断と治療効果判定基準. 第21回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 2013, (東京), [セッション]

#### 放射線治療部

- 001 Shimizu H, Iwata M, Sasaki K, Kawai M, Kubota K, Osaki H, Nakayama M, Yoshimoto M, Kodaira T: NEW QUALITY ASSURANCE METHOD FOR ROTATIONAL DELIVERY USING THE ROTATIONAL THERAPY PHANTOM with ABSID. World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, 2012, (Beijing), [ポスター]
- 002 Nomura M, Shitara K, Kodaira T, Kondoh C, Takahari D, Ura T, Kojima H, Kamata M, Muro K, Sawada S: Recursive partitioning for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy. 2012 ASCO meeting, 2012, (Chicago), [口演]
- 003 Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Oshima Y, Itho J, Hirata K, Fuwa N: Clinical evaluation of Helical Tomotherapy combined with concurrent chemotherapy for patients with nasopharyngeal carcinoma. Takahashi Memorial Symposium & 6th Japan-US Cancer Therapy International Joint Symposium, 2012, (Hiroshima), [口演]
- 004 Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Oshima Y, Hirata K, Ito J, Goto Y, Fuwa N: Clinical Efficacy Of Helical Tomotherapy For Nasopharyngeal Cancer Treated With Definite Concurrent Chemoradiotherapy. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2012, (Boston), [ポスター]
- 005 Yamazaki T, Kodaira T, Ota Y, Akimoto T, Wada H, Hiratsuka J, Nishimura Y, Ishihara S, Nonoshita T, Hayakawa K: Retrospective Analysis of Definitive Radiotherapy for Neck Node Metastasis from Unknown Primary Tumor: Japanese Radiation Oncology Study Group Study. 54th Annual meeting of the American

- Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2012, (Boston), [口演]
- 006 Hirata K, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Ito J, Oshima Y, Nakanishi T: Clinical efficacy of Alternating Chemoradiotherapy Accompanied with Moderate Dose Brachytherapy for high-risk Patients of Cervical Carcinoma. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2012, (Boston), [口演]
- 007 Ito Y, Nakajima E, Ishiyama H, Tanaka M, Hashimoto T, Kodaira T, Nakazawa M, Mayahara H, Kato K: Phase II trial of 5-Fluorouracil in combination with Cisplatin and Concurrent Radiotherapy (50.4 Gy) with elective nodal irradiation for clinical stage II/III Esophageal Cancer. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, 2012, (Boston), [口演]
- 008 Kato H, Kodaira T, Yamamoto K, Oshima Y, Oki Y, Tachibana H, Murakami S, Irano D, Tomita N, Taji H, and Kinoshita T: Durable local disease control and survival in patients with limited-stage diffuse large B-cell lymphoma receiving involved-node radiation therapy plus short-course R-CHOP or CHOP chemotherapy: involved-node vs. involved-field radiation therapy. 54th ASH annual meeting and exposition, 2012, (Atlanta), [口演]
- 009 Kodaira T: International Conference on Real-time Tumor-tracking Radiation Therapy with 4D Molecular Imaging Technique. 3rd International Conference on Real-time Tumor-tracking Radiation Therapy with 4D Molecular Imaging Technique, 2013, (Sapporo), [口演]
- 010 Kodaira T: Symposium 2: Advances in IGRT and Molecular Imaging for Radiation Therapy. Advances in Adaptive Radiotherapy and Biologic Imaging for Definitive Radiotherapy for Head and Neck Cancer Patient. 3rd International Conference on Real-time Tumor-tracking Radiation Therapy with 4D Molecular Imaging Technique, 2013, (Sapporo), [口演]
- 011 近藤千紘, 設楽紘平, 高張大亮, 宇良 敬, 富田夏夫, 古谷和久, 立花弘之, 古平 毅, 室 圭: 切除不能胃癌出血例における緩和的放射線照射の有効性の検討. 第84回日本胃癌学会総会, 2012, (大阪), [口演]
- 012 清水秀年, 松島 秀, 宮村廣樹, 紀ノ定保臣, 久保田隆士, 大崎 光, 中山雅詞, 吉本 学, 藤井啓輔, 古平 毅: 磁化移動効果を用いた equivalent cross-relaxation rate imaging による耳下腺機能評価. 第103回日本医学物理学会学術大会, 2012, (横浜), [口演]
- 013 戸板孝文, 喜多川 亮, 小口正彦, 能勢隆之, 馬屋原健司, 西村哲夫, 平嶋泰之, 青木陽一, 伊井恵子, 片岡正明, 新部 譲, 加藤真吾, 辻野佳世子, 古平 毅, 宇野 隆, 幡野和男, 櫻井英幸, 石倉 聡, 濱野鉄太郎, 福谷美紀, 瀧澤 憲, 三上幹男: 局所進行子宮頸癌に対する高線量率腔内照射を用いた同時化学放射線療法に関する多施設共同第II相試験 (JGOG1066). 第14回小線源治療部会研究会, 2012, (軽井沢), [口演]

- 014 立花弘之：(レベルI)放射線治療について、口腔管理医療連携モデル事業研修会, 2012, (名古屋), [講演]
- 015 古平 毅, 吉野孝之, 藤井正人, 小野澤祐輔, 太田雅貴, *Barbara de Blas*, 田原 信：局所進行性頭頸部扁平上皮癌に対する放射線療法+セツキシマブ：国内第II相試験と海外第III相試験との比較. 第36回日本頭頸部癌学会, 2012, (島根), [口演]
- 016 山本幸子, 橋本 淳, 伊藤芳紀, 堅田親利, 石山博條, 中村哲之, 玉木義雄, 宇良 敬, 古平 毅, 長井健悟：高齢者臨床病期II/III期食道癌に対するドセタキセル併用化学放射線療法の多施設共同第II相試験. 第65回日本食道学会, 2012, (軽井沢), [口演]
- 017 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 大島幸彦, 平田希美子, 伊藤淳二：上咽頭癌に対するIMRTを用いた化学放射線療法の臨床的検討. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 018 立花弘之, 富田夏夫, 大島幸彦, 平田希美子, 古平 毅, 澤木正孝, 岩田広治：術中照射による乳房温存療法の初期経験. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 019 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 伊藤淳二, 大島幸彦, 平田希美子：限局期前立腺癌に対するHelical Tomotherapyの短期治療成績. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 020 大島幸彦, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 平田希美子：骨転移巣に対する定位放射線治療の初期経験および有用性の検討. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2012, (岐阜), [口演]
- 021 古平 毅：セッション7 頭頸部・脳. 日本医学放射線学会第150回中部地方会, 2012, (岐阜), [座長]
- 022 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 伊藤淳二, 大島幸彦, 平田希美子, 清水秀年, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男：前立腺癌に対するHelical Tomotherapyによる内分泌治療併用放射線治療の初期成績. 第25回日本高精度放射線外部照射研究会, 2012, (広島), [口演]
- 023 古平 毅：シンポジウム1 IMRTのピットフォール. 第25回日本高精度放射線外部照射研究会, 2012, (広島), [座長]
- 024 古平 毅：頭頸部腫瘍. 認定看護師教育課程講義, 2012, (静岡), [講演]
- 025 古平 毅：教育講演 下咽頭・喉頭の画像診断治療「放射線治療」. 第48回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 2012, (長崎), [口演]
- 026 古平 毅：症例報告. Head & Neck Summit 2012, 2012, (東京), [口演]
- 027 古平 毅：パネルディスカッション 進行頭頸部がんに対する集学的治療としての薬物療法と放射線療法—分実臨床での実践に向けて—. がん臨床推進事業シンポジウム, 2012, (東京), [コメンテーター]
- 028 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 大島幸彦, 平田希美子, 伊藤淳二：上咽頭癌に対するIMRTを用いた化学放射線療法の臨床的検討. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 029 古平 毅：教育講演 教育講演アドバンスコース. 先端治療機器3 Tomotherapy. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 030 古平 毅：シンポジウム Bio-Radiation (BRT) 新たな治療選択肢の確立を目指して. セツキシマブによる放射線増感. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 031 立花弘之, 富田夏夫, 大島幸彦, 平田希美子, 伊藤淳二, 古平 毅, 澤木正孝, 岩田広治：早期乳癌に対する乳房温存手術・術中照射の初期経験. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 032 太田陽介, 山崎拓也, 立花弘之, 全田貞幹, 高橋ちあき, 余田栄作, 石川一樹, 早川和重, 野々下豪, 中原理絵：原発不明頭頸部癌の放射線治療：JROSG後方視的調査研究. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 033 富田夏夫, 古平 毅, 立花弘之, 伊藤淳二, 大島幸彦, 平田希美子, 清水秀年, 久保田隆士：前立腺癌に対するHelical Tomotherapy後の晩期直腸有害事象の検討. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 034 大島幸彦, 平田希美子, 伊藤淳二, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅：当院における肛門管癌治療成績の検討. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 035 平田希美子, 古平 毅, 大島幸彦, 伊藤淳二, 富田夏夫, 立花弘之：高リスク子宮頸癌に対する化学放射線治療成績. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 036 野村基雄, 古平 毅, 鎌田 実, 立花弘之, 富田夏夫, 小島博之, 林 謙治, 谷川 昇：食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節の大きさを含む新たなStage 分類. 第25回日本放射線腫瘍学会, 2012, (東京), [口演]
- 037 立花弘之：(レベルII)頭頸部放射線治療. 口腔管理医療連携モデル事業研修会, 2012, (名古屋), [講演]
- 038 古平 毅：頭頸部癌の放射線治療. 第20回新潟放射線治療研究会, 2013, (新潟), [口演]
- 039 古平 毅：高精度治療の果たす役割. 第20回新潟放射線治療研究会, 2013, (新潟), [口演]
- 040 立花弘之：頭頸部癌のIMRT. 桜山耳鼻科懇話会, 2013, (名古屋), [講演]
- 041 古平 毅：頭頸部癌の最新放射線治療のポイント. 第11回九州放射線治療システム研究会, 2013, (福岡), [口演]
- 042 古平 毅：頭頸部癌の診断と治療 機能温存を目指した集学的治療における放射線治療の役割. 第26回ミッドウインターセミナー, 2013, (福岡), [口演]
- 043 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 大島幸彦, 平田希美子, 長谷川泰久：上咽頭癌に対するIMRTを用いた化学放射線療法の臨床的検討. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 044 百合草健圭志, 横田知哉, 久保 知, 澤村昌嗣, 立花弘之, 小西哲仁, 全田貞幹, 田栗正隆, 佐藤真帆, 大田洋二郎：頭頸部癌化学放射線療法による口腔粘膜炎を正しく評価するための教育プログラムのこころみ. 第30回東海頭頸部腫瘍研究会, 2013, (名古屋), [口演]
- 045 富田夏夫, 平田希美子, 大島幸彦, 立花弘之, 古平 毅：前立腺癌に対する内分泌治療併用強度変調放射線治療におけるIPSSによる排尿機能の評価. 日本医学放射線学会第151回中部地方会, 2013, (愛知), [口演]
- 046 平田希美子, 古平 毅, 清水秀年, 大島幸彦, 富田夏夫, 立花弘之：診療支援ソフトMIMの使用経験. 日本医学放射線

- 学会第151回中部地方会, 2013, (愛知), [口演]
- 047 古平 毅: 教育講演: 高精度放射線治療の標準化と個別化  
1: 頭頸部癌. 第26回日本高精度放射線外部照射研究会,  
2013, (京都), [講演]

## 緩和ケア部

- 001 小森康永: ナラティブな緩和ケア. 秋田県緩和看護セミナー,  
2012, (秋田市), [特別講演]
- 002 小森康永: 緩和ケアと時間. 山梨緩和ケア懇話会, 2012,  
(甲府市), [特別講演]
- 003 小森康永: 家族における「病いの意味」を語る会. 日本家  
族研究・家族療法学会ワークショップ, 2012, (山口市),  
[ワークショップ]
- 004 小森康永: ディグニティセラピーのすすめ. 2012, (大阪市),  
[特別講演]
- 005 小森康永: 医学目的のための文学手段. 皮膚科心身医学療  
法研究会, 2012, (大阪市), [特別講演]
- 006 小森康永: 緩和ケアと文学. 日本人間性心理学学会, 2012,  
(宇部市), [ワークショップ]
- 007 小森康永: ナラティブな緩和ケア. 家族療法地域ワークショッ  
プ, 2012, (札幌市), [ワークショップ]
- 008 小森康永: ディグニティセラピーとナラティブ. 日本緩和  
医療学会シンポジウム, 2012, (神戸市), [シンポジスト]
- 009 小森康永: 乳がん患者さんを見るあなたの眼. 第53回阪南  
乳腺疾患研究会, 2012, (堺市), [特別講演]
- 010 小森康永: ディグニティセラピーについて. 愛知県がんセ  
ンター中央病院公開講座, 2012, (名古屋市), [シンポジス  
ト]
- 011 小森康永: 集団と家族、そのユビキタスなもの. 日本集団  
精神療法学会第30回大会特別講演, 2012, (駒ヶ根市), [特  
別講演]
- 012 下山理史: がんとともに生きるひとを支える医療の実践.  
第17回日本緩和医療学会学術大会, 2013, (神戸市), [パネ  
ルディスカッション]
- 013 下山理史: 外科手術の際から並行して行う緩和ケアアプロ  
ーチの試み. 第17回日本緩和医療学会学術大会, 2013, (神戸  
市), [ポスター]
- 014 下山理史: がん診療中に配偶者ががんが見つかり治療を一  
時中断した一例. 第25回日本サイコオンコロジー学会総会,  
2012, (福岡市), [ポスター]
- 015 下山理史: 消化器がんの経過観察中に継続して行う緩和ケ  
ア. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜市), [ポス  
ター]
- 016 下山理史: 緩和ケアの観点からみた患者中心の医療安全.  
第74回日本臨床外科学会総会, 2012, (新宿区), [主題関連  
演題]
- 017 下山理史: 外科診療医と緩和ケアチームのコラボレーショ  
ン. 第74回日本臨床外科学会総会, 2012, (新宿区), [主題関  
連演題]
- 018 下山理史: 日常診療と緩和ケア. 第216回松阪地区薬剤師学  
術勉強会, 2012, (松阪市), [講演]
- 019 下山理史: 緩和ケアを促進するための専門職コラボレーショ

- ン-医師の立場から-. 東海地区「がん看護専門看護師」  
および「がん看護領域の認定看護師」連携セミナー, 2012,  
(名古屋市), [一般講演]
- 020 下山理史: 緩和ケア入門. 愛知医科大学緩和ケア学生セミ  
ナー, 2013, (長久手市), [講演]
- 021 下山理史: 緩和ケア～いつでもどこでも受けられるために  
～医師の側面から. 愛知県がんセンター中央病院公開講座,  
ウィングあいち, 名古屋市, [シンポジスト]

## 看護部

- 001 青山寿昭, 八重樫裕: 食道がん術後嚥下障害への関わり～  
術前指導とVF評価を導入して～. 第17・18回日本摂食・  
嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2012, (札幌), [口  
演]
- 002 青山寿昭, 八重樫裕, 北川功二: 摂食・嚥下障害をもつ患  
者の患者会を始めて～より良い会を目指して～. 第7回日  
本摂食・嚥下障害看護研究会, 2013, (広島), [口演]
- 003 安形真由美, 川嶋羽純, 山口真澄, 榊原由美子, 金光幸秀,  
小森康司, 木村賢哉: 当院のストーマケアの現状把握から  
みる今後の課題. 第30回日本ストーマ・排泄リハビリテー  
ション学会総会, 2013, (名古屋), [口演]
- 004 安藤 聡: 前立腺全摘出術後の尿失禁に関する研究一実態  
調査に基づいた実証的分析一. 第43回日本看護学会成人  
看護Ⅱ, 2012, (筑波), [示説]
- 005 今泉 文: IVRにおける看護師間の連携構築を目指して～  
CTガイド下肺生検オリエンテーション開始～. 第17回愛知  
クリニカルバス研究会, 2012, (愛知), [口演]
- 006 井上さよ子, 山田美佐子, 山田知里: 進行食道がんに対す  
るDocetaxel/cisplatin/5-FU併用療法中に起こった転倒の  
検討. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示  
説]
- 007 岩井美世子, 青山寿昭: 頭頸部がん障害受容カンファレン  
スにおける多面的チームアプローチの効果. 第27回日本が  
ん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 008 金岡和泉, 松尾真理, 千種智之, 西尾充代: A病棟における  
感染対策向上への取り組み～クロストリジウムデフィシ  
ルに対する感染予防策～. 第43回日本看護学会学術集会、  
看護総合, 2012, (静岡県), [口演]
- 009 川嶋羽純, 榊原由美子, 山口真澄, 安形真由美, 金光幸秀,  
小森康司, 木村賢哉: ベパシズマブの使用により人工肛門  
閉鎖後に創傷治癒遅延が認められ、ケアに難渋した一症例.  
第30回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会,  
2013, (名古屋), [口演]
- 010 久保 知, 岩井美世子: 化学放射線療法を受ける頭頸部がん  
患者の口腔粘膜炎に対する看護師のグレーディング力の実  
態調査. 第1回日本放射線看護学会学術集会, 2012, (青森),  
[口演]
- 011 小原真紀子, 戸崎加奈江, 西尾充代, 宮谷美智子, 高畑知帆  
子, 山田知里: 医看薬連携における看護師の役割と今後  
の課題. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川),  
[示説]
- 012 宮谷美智子, 戸崎加奈江, 西尾充代, 小原真紀子, 高畑知帆



- 子, 山田知里: A病院におけるがん化学療法薬の血管外漏出発生状況に関する調査. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 013 小原真紀子: 当院外来化学療法センターにおけるプラチナ製剤の過敏症発症の現状と取り組み. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 014 柴田亜弥子: 予後告知を受けたがん患者が子供への思いをサポートブックに託した事例. 日本家族看護学会, 2012, (東京), [示説]
- 015 柴田亜弥子: がん患者家族ケア実践におけるがん専門病院に勤務する看護師の背景的要因の関連. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 016 新貝夫弥子: 再発乳がん患者におけるドセタキセルによる不可逆的浮腫を生じた4症例の検討. 第20回日本乳癌学会総会, 2012, (熊本), [示説]
- 017 新貝夫弥子: 補助化学療法を受ける乳がん患者のBMIと体脂肪率. 第27回日本がん看護学会総会, 2013, (石川), [口演]
- 018 館 昌美: 急性増悪したがん患者の救命に関する看護師の認識. 日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2012, (東京), [示説]
- 019 田中裕子, 野口見知子, 飯田倫子, 漢人美都子, 山田健司, 野田尚宏, 松尾恵太郎: 当院における術後褥瘡発生要因の分析. 日本手術学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 020 中村純江, 三澤靖子, 谷口千枝, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 川北大介, 田中英夫: 禁煙成功に及ばず要因の分析～愛知県がんセンター中央病院のデータから. 日本禁煙学会, 2012, (仙台), [口演]
- 021 中川奈穂, 宮谷美智子, 宮武美智代, 伊藤梨沙, 岩田知子, 西尾充代: CHASER療法クリニカルパスのバリエーション分析. 第35回日本造血幹細胞移植学会総会, 2013, (石川), [示説]
- 022 長谷川恵理, 立山奈津美: 患者の言動が理解できず看護師がストレスに感じた事例～看護師への要求が高い30代男性患者. 第17回日本緩和医療学会学術大会, 2012, (東京), [示説]
- 023 畠山清巳, 山田美佐子, 黒河瑞江: 新人看護職員研修の努力義務化における実地指導者の能力に関する一考察. 第43回日本看護学会～看護管理～学術集会, 2012, (京都), [口演]
- 024 林 真由美, 笹川良子, 澤村たか子, 戸崎加奈江, 稲葉吉隆: 当院における中心静脈ポートに対する知識の現状と学習会の効果について. 第37回リザーバー研究会, 2012, (横浜), [口演]
- 025 福嶋敬子, 障子美奈, 三澤靖子, 今泉 文, 奥田孝光, 加藤千恵, 笹川良子, 佐藤洋造, 山浦秀和, 稲葉吉隆, 清水淳一: I VRにおける看護師間の連携構築を目指して～CTガイド下肺生検オリエンテーション開始～. 第41回IVR学会総会, 2012, (神戸), (口演)
- 026 宮武美智代, 大川明子, 前川厚子: 悪性リンパ腫サバイバーにおけるPosttraumatic Growth (PTG) の特性. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 027 宮谷美智子, 宇良 敬, 戸崎加奈江, 西尾充代, 小原真紀子, 高畑知帆子, 高橋朋子, 伊藤絵美, 小倉綾乃, 近藤千紘, 高張大亮, 室 圭: 5-FU持続投与における血管外漏出発生状況について前向きコホート研究. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012, (横浜), [示説]
- 028 宮谷美智子: A病院におけるがん化学療法の血管外漏出発生状況に関する調査. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 029 向井未年子: 外来化学療法を受ける高齢がん患者のセルフケア能力の特徴と変化～成人がん患者との比較から～. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [口演]
- 030 向井未年子: 外来で治療を受けるがん患者のエンパワメントを促進する看護モデルの臨床適用の検討～A病院におけるアクションリサーチ成果～. 第27回日本がん看護学会学術集会, 2013, (石川), [示説]
- 031 八重樫裕, 青山寿昭: がん専門病院における栄養・嚥下外来の取り組み～患者との関わりを振り返って～. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学術大会, 2012, (札幌), [口演]
- 032 山口真澄, 鎌倉やよい, 深田順子, 榊原由美子, 金光幸秀, 小森康司, 設楽鉦平: EORTC Colorectal Cancer-specific Quality of Life Questionnaire Module QLQ-CR29 日本語版の作成. 第30回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2013, (名古屋), [口演]
- 033 渡瀬恭子, 伊藤 環, 高木佳世: 新人看護師の離職防止に向けての取り組み～機能別看護の導入を通して～. 第16回日本看護管理学会年次大会, 2012, (札幌), [示説]
- 034 青山寿昭: 食事場面での観察・介助の実際. 摂食・嚥下セミナー, 2012, (東京), [講師]
- 035 青山寿昭: 食事場面での観察・介助の実際. 摂食・嚥下セミナー, 2012, (神戸), [講師]
- 036 青山寿昭: 高齢者の食事に関わるためのエッセンス. 日本老年看護学会 ランチョンセミナー, 2012, (石川), [講師]
- 037 青山寿昭: 摂食・嚥下障害看護認定看護師の全国・地域ネットワークによる活動. 愛知県看護協会 認定看護師交流集会, 2012, (名古屋), [講師]
- 038 青山寿昭: 嚥下障害の基礎と食事の介助. 名古屋市看護実務研修会, 2012, (名古屋), [講師]
- 039 青山寿昭: 食形態が嚥下運動に及ぼす影響. HEIWAプロジェクト, 2013, (名古屋), [講師]
- 040 青山寿昭: 活動報告. 摂食・嚥下障害認定看護カンファレンス, 2012, (札幌), [座長]
- 041 青山寿昭: 頭頸部がん術後の嚥下障害. 口腔管理医療連携モデル事業, 2013, (名古屋), [講師]
- 042 久保 知: 頭頸部放射線治療有害事象の対応. 口腔管理医療連携モデル事業研修 (レベルII), 2013, (名古屋), [講師]
- 043 久保 知: 放射線療法看護. 沖縄県看護協会 がん看護研修II, 2013, (沖縄), [講師]
- 044 久保 知: 有害事象の予防・緩和のための専門的看護 (各論). 静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程, 2012, (静岡), [講師]
- 045 久保 知: 放射線療法看護. 愛知県立大学 がん性疼痛看護認定看護師教育課程, 2012, (名古屋), [講師]
- 046 久保 知: 放射線療法看護. 小牧市民病院 がん基礎研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 047 久保 知: 静岡県立静岡がんセンター がん放射線療法看護

- 認定看護師教育課程臨地実習, 2012, (静岡), [臨地実習指導者]
- 048 久保 知: 静岡県立静岡がんセンター がん放射線療法看護認定看護師教育課程 2012~2014, (静岡), [入試委員]
- 049 小原真紀子: 化学療法急性症状, 愛知県がんセンター中央病院 新臨床腫瘍学セミナー, 2012, (名古屋), [講師]
- 050 小原真紀子: ティエスワン併用薬剤の副作用対策. 大鵬薬品・愛知県がんセンター 第2回医看薬連携研修会, 2012, (名古屋), [講師]
- 051 小原真紀子: 外来化学療法センターでの皮膚症状に対する取り組み. 抗悪性腫瘍薬に対する皮膚症状対策セミナー, 2012, (名古屋), [講師]
- 052 小原真紀子: 外来化学療法における看護の役割と専門性. 愛知県立大学看護学部臨床講義, 2012, (名古屋), [講師]
- 053 小原真紀子: 外来化学療法センターにおける取り組み~情報共有の方法について~. Aichi Cancer Seminar for Nurse, 2012, (名古屋), [講師]
- 054 小原真紀子: 化学療法の看護. Aichi Cancer Seminar for Nurse, 2012, (名古屋), [座長]
- 055 小原真紀子: 外来化学療法における診療体制の標準化. 外来化学療法の標準的システムの構築と普及を目指した研究班, 2012, (東京), [講師]
- 056 小原真紀子: 外来化学療法センターでの取り組み ~手帳の活用について~. 大鵬薬品・愛知県がんセンター第4回医看薬連携研修会, 2012, (名古屋), [講師]
- 057 小原真紀子: 医看薬連携における看護師の役割 ~外来化学療法センターでの取り組み~. 第50回日本癌治療学会学術集会イブニングセミナー, 2012, (横浜), [講師]
- 058 小原真紀子: 愛知県がんセンター中央病院におけるチーム医療~外来化学療法センターと各部門との連携~. AZ Oncology Nurse Seminar, 2013, (石川), [講師]
- 059 小原真紀子: 外来化学療法を受ける患者への介入の実際~副作用マネジメントを中心に~. 第1回知多外来化学療法研究会, 2013, (半田), [講師]
- 060 笹川良子: 看護師セッション. 日本IVR学会総会, 2012, (神戸), [学会座長]
- 061 笹川良子: シンポジウムI「中心静脈ポート」看護師セッション. リザーバー研究会, 2012, (横浜), [シンポジウム座長]
- 062 柴田亜弥子: 高齢のがん 治療継続・意思決定支援. 日本家族看護学会, 2012, (石川), [口演座長]
- 063 柴田亜弥子: 家族支援~幼少期の子どもを抱えるがん患者及び家族への支援. 三重CNS・CN合同勉強会, 2012, (三重), [講師]
- 064 柴田亜弥子: 高齢のがん 治療継続・意思決定支援. 第27回日本がん看護学会, 2013, (石川), [一般演題座長]
- 065 新貝夫弥子: 教育・指導. 愛知県立看護大学 化学療法CN認定コース, 2012, (名古屋), [講師]
- 066 新貝夫弥子: 教育・指導. 愛知県立看護大学 がん性疼痛CN認定コース, 2012, (名古屋), [講師]
- 067 新貝夫弥子: 対象論. 愛知県立大学院CNSコース, 2012, (名古屋), [講師]
- 068 新貝夫弥子: 看護理論. 名古屋大学大学院CNSコース, 2012, (名古屋), [講師]
- 069 新貝夫弥子: がん看護. 新潟医療福祉大学CNSコース, 2012, (名古屋), [講師]
- 070 新貝夫弥子: がん看護. 秋田日本赤十字大学大学院, 2012, (名古屋), [講師]
- 071 新貝夫弥子: 自律的意思決定. 自治医科大学大学院, 2013, (名古屋), [講師]
- 072 新貝夫弥子: 倫理. 愛知県がんセンター中央病院 新人研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 073 新貝夫弥子: がんの疫学. 愛知県がんセンター中央病院 がん看護I, 2012, (名古屋), [講師]
- 074 新貝夫弥子: 教育・指導. 愛知県立看護大学 認定コース, 2012, (名古屋), [講師]
- 075 新貝夫弥子: 臨床倫理. 心身障害者コロニー 院内研修, 2012, (春日井), [講師]
- 076 新貝夫弥子: 看護研究計画書の書き方. がん中央病院院内研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 077 向井未年子: がん看護. 愛知医科大学看護学部 特別講義, 2012, (名古屋), [講師]
- 078 向井未年子: 相談. 愛知県立大学看護実践センター がん化学療法看護認定看護師教育課程, 2012, (名古屋), [講師]
- 079 向井未年子: フィジカルアセスメント. 社会保険看護研修センター がん性疼痛看護認定看護師教育課程, 2012, (千葉), [講師]
- 080 向井未年子: 相談. 愛知県立大学看護実践センター がん性疼痛看護認定看護師教育課程, 2012, (守山), [講師]
- 081 向井未年子: コンサルテーション論. 日本赤十字豊田看護大学大学院, 2012, (豊田), [講師]
- 082 向井未年子: がん看護における緩和チームの活動をとおして看護の役割を知る. 総合看護専門学校, 2012, (名古屋), [特別講師]
- 083 向井未年子: コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院, 2012, (名古屋), [講師]
- 084 向井未年子: 専門看護師資格取得に向けて. 愛知医科大学看護実践研究センター専門看護師キャリアアップ支援講習会, 2012, (名古屋), [特別講師]
- 085 村井律子: 手術室における看護. 愛知県立大学 成人急性期看護学実習, 2012~2013, (名古屋), [講師]
- 086 村井律子: 手術室における看護. 名古屋医専 手術室看護, 2012, (名古屋), [講師]
- 087 村井律子: 肺がんをもっと知ろう. 愛知芸術文化センター 公開講座: 手術室看護師のおしごと, 2012, (名古屋), [講師]
- 088 村井律子: 安全な手術のためのセットアップ. 第46回手術用メスの安全セミナー, 2012, (名古屋), [講師]
- 089 村井律子: わたしたちにできる救急措置について. 愛知県がんセンター中央病院 ボランティア研修会2013, (名古屋), [講師]
- 090 竹内麻純: 看護管理. 愛知県立総合看護専門学校, 2012, (名古屋), [講師]
- 091 竹内麻純: 看護の経営的視点. 県立病院看護職員合同研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 092 竹内麻純: 目標管理. 稲沢市民病院院内研修, 2012, (稲沢), [講師]
- 093 高木仁美: がん化学療法看護. 認定看護師教育課程看護管

- 理, 2012, (名古屋), [講師]
- 094 高木仁美：がん性疼痛看護. 認定看護師教育課程看護管理, 2012, (名古屋), [講師]
- 095 高木仁美：サードレベル. 認定看護師教育課程経営管理論, 2012, (名古屋), [講師]
- 096 高木仁美：看護管理学. 椋山女学園大学 看護学部, 2012, (名古屋), [講師]
- 097 高木仁美：看護管理. 愛知県専任教員養成講習会, 2012, (名古屋), [講師]
- 098 高木仁美：夜勤交代制勤務の負担軽減. 島根県看護協会, 2013, (名古屋), [講師]
- 099 高木仁美：愛知県看護協会, 社会経済福祉委員会, 2012, [理事・委員長]
- 100 高木仁美：第18回日本看護サミット愛知, 2012, [企画運営委員会委員]
- 101 高木仁美：看護職のワークライフバランス推進委員会, 2012, [委員長]
- 102 高木仁美：愛知県立大学 研究倫理審査委員会看護系審査部会, 2012, [委員]
- 103 高木仁美：愛知県がん研究振興会, 2012, [評議員]
- 104 高畑知帆子：主要ながん化学療法レジメンとその看護. 愛知県立大学看護実践センター 認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野, 2012, (名古屋), [講師]
- 105 高畑知帆子：アービタックスの皮膚症状のセルフケア支援について. 愛知県がんセンター中央病院 第2回抗悪性腫瘍薬に対する皮膚症状対策セミナー, 2012, (名古屋), [講師]
- 106 戸崎加奈江：5年間の活動報告と認定更新審査の報告. 日本看護協会神戸研修センター がん化学療法看護認定看護師修了生研修, 2012, (神戸), [講師]
- 107 戸崎加奈江：化学療法の実際と看護. 愛知県看護協会 がん看護 I, 2012, (名古屋), [講師]
- 108 戸崎加奈江：ジェネラリストナースの育成. 東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン認定看護師の地域連携, 2013, (名古屋), [講師]
- 109 新田都子：認定看護師の役割と専門性. 愛知県立大学看護学部, 2012, (名古屋), [講師]
- 110 美濃屋亜矢子：「がんと診断されたら緩和ケア」緩和ケアは決して特別なものではありません. 平成24年度愛知県公開講座, 2013, (名古屋), [講師]
- 111 美濃屋亜矢子：平成24年度緩和ケア研修会, 2013, (名古屋), [ファシリテーター]
- 112 西尾充代：がん化学療法と看護. 訪問看護ステーション太陽, 2012, (名古屋), [講師]
- 113 宮谷美智子：血液・リンパがんの理解. 愛知県がんセンター中央病院 口腔管理医療連携モデル事業研修 (レベルII), 2012, (名古屋), [講師]
- 114 宮谷美智子：がん治療、口から食べて私らしく乗り切りたい！楽しい食生活に役立つ情報って？. 第3回県民公開シンポジウム がん患者とともに考えるセミナー, 2013, (名古屋), [講師]
- 115 山口真由美：クリティカルケア看護における看護の専門性. 愛知県立看護大学 臨床講義, 2012, (名古屋), [講師]
- 116 山口真由美：チーム活動の紹介. 愛知県がんセンター中央病院 新規採用者オリエンテーション研修, 2012, (名古屋),

[講師]

- 117 山口真由美：先輩看護師からのアドバイス キャリアアップは誰のため. 県立病院看護職員新規採用職員部局研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 118 山口真由美：オンコロジーエマージェンシー. 平成24年度がん看護基礎講義, 2012, (名古屋), [講師]
- 119 山口真由美：ACLS研修. 愛知県がんセンター中央病院 平成24年度院内研修, 2012, (名古屋), [講師]
- 120 山口真由美：集中ケア看護. 名古屋医専集中ケア専攻, 2012, (名古屋), [講師]
- 121 山崎祥子：疼痛看護. 名古屋医専疼痛看護専攻, 2013, (名古屋), [講師]
- 122 山崎祥子：緩和医療. チームアプローチ, 愛知県立大学 看護実践センター認定看護師教育課程, 2013, (名古屋), [講師]
- 123 山崎祥子：がん性疼痛のアセスメントと計画立案. 愛知県立大学 看護実践センター認定看護師教育課程, 2013, (名古屋), [事例検討会アドバイザー]
- 124 山田美佐子：新人看護職員研修事業. 公益社団法人愛知県看護協会 新人看護職員研修教育担当者研修講義, 2012, (名古屋), [講師]
- 125 若杉和子：看護管理. 愛知県総合看護専門学校, 2012, (名古屋), [講師]
- 126 障子美奈：育児休業看護職員復帰研修. 愛知県看護研修センター, 2012, (名古屋), [講師]

## 薬 剤 部

- 001 立松三千子, 小原真紀子, 秋山理恵, 佐藤由美, 玉水 誠, 佐藤洋造, 堀尾芳嗣, 室 圭, 加藤恵一：薬薬連携から医看薬薬連携へ. 第6回日本緩和医療薬学会年会, 2012, (神戸), [口演]
- 002 松崎雅英, 長谷川彩子, 浅野知沙, 水谷旭良, 加藤恵一：外来化学療法におけるレジメン適用時の不安に関する検討. 第6回日本緩和医療薬学会年会, 2012, (神戸), [示説]
- 003 佐藤由美, 立松三千子, 中埜末春, 浦志伸子, 新家由美子, 赤崎千春：がん治療における口腔ケア支援と保険薬局の役割. 第6回日本緩和医療薬学会年会, 2012, (神戸), [示説]
- 004 秋山理恵, 長縄弥生, 向井未年子, 玉水 誠, 立松三千子：口腔管理連携 ～保険薬局の取り組みと成果～. 第6回日本緩和医療薬学会年会, 2012, (神戸), [示説]
- 005 松崎雅英, 前田章光, 則竹香奈, 長瀬智也, 水谷旭良, 加藤恵一：愛知県がんセンター中央病院におけるプロイメンド®の使用実態とアプレピタントとの制吐効果の比較. 第22回日本医療薬学会年会, 2012, (新潟), [示説]
- 006 則竹香奈, 長谷川彩子, 立松三千子, 加藤恵一, 伊藤千春, 長谷川泰久, 玉水 誠, 西川弘嗣：愛知県がんセンター中央病院を中心とした「口腔管理医療連携モデル事業」(医・歯・薬連携)の取り組みについて. 第22回日本医療薬学会年会, 2012, (新潟), [示説]
- 007 前田章光, 宇良 敬, 松崎雅英, 水野靖也, 加藤恵一：ペバシズマブ投与患者の蛋白尿発現時期に対する高血圧既往とARBの関連性. 第22回日本医療薬学会年会, 2012, (新潟),



[示説]

- 008 浅野知沙, 前田章光, 千葉真人, 波戸岡俊三, 塩田亜由美, 田内里香, 山田美佐子, 水野靖也, 加藤恵一: クリゾチニブ(ザーコリ®)カプセルを脱カプセルにて内服した嚥下困難肺癌患者の症例～内服方法の検討について～. 第22回日本医療薬学会年会, 2012, (新潟), [示説]
- 009 勝野晋哉, 鷹見繁宏, 立松三千子, 金田典雄: 模擬抗がん剤としてフルオレセインNaを用いた飛散量の定量的分析法. 第22回日本医療薬学会年会, 2012, (新潟), [示説]
- 010 松崎雅英, 前田章光, 浅野知沙, 水谷旭良, 立松三千子, 加藤恵一: デノスマブ投与患者におけるカルシウム及びビタミンDの経口補充による低カルシウム血症発現の軽減への有効性. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2013, 2012, (東京), [口演]
- 011 立松三千子: 経口抗がん剤のアドヒアランスを考える. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2013, 2012, (東京), [ランチョンセミナー口演]
- 012 前田章光: Differential impacts of CYP2C19 gene polymorphisms on the antiplatelet effects of clopidogrel and ticlopidine. 第33回日本臨床薬理学会学術総会, 2012, (沖縄), [財団賞受賞講演]
- 013 立松三千子: 経口抗がん剤の「アドヒアランス」を考える～医看薬連携によるチーム医療の新しい形～. 第50回日本癌治療学会総会, 2012, (横浜), [イブニングセミナー口演]
- 014 松崎雅英, 立松三千子, 水谷旭良, 加藤恵一, 室 圭, 小原真紀子, 佐藤由美, 秋山理恵, 玉水 誠: 愛知県がんセンター中央病院における医看薬連携への取り組み. 第45回東海薬剤師学術大会, 2012, (名古屋), [口演]
- 015 則竹香奈, 長谷川彩子, 立松三千子, 加藤恵一, 玉水 誠, 西川弘嗣: 愛知県がんセンター中央病院を中心とした「医・歯・薬連携」の取り組みについて. 第45回東海薬剤師学術大会, 2012, (名古屋), [示説]
- 016 浅野知沙, 前田章光, 松崎雅英, 水野靖也, 水谷旭良, 立松三千子, 加藤恵一: 愛知県がんセンター中央病院におけるザーコリ®カプセルの施用実態と有害事象の発現状況について. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2012, 2012, (岐阜), [口演]
- 017 水野靖也: 「抗凝固薬の実情, 問題点」. 第11回 糖尿病・心・腎疾患チーム医療研究会, 2012, (名古屋), [口演]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

#### 所長室

- 001 **Tajima K**: Ethnoepidemiologic study on main cancers in Korea, Japan and China (KOJACH Cooperative Study) (Symposium 9: Research Collaboration). The 6th General Assembly of the Asian Pacific Organization for Cancer Prevention, 2012, (Sarawak, Malaysia), [シンポジウム]
- 002 **Tajima K**: International comparative epidemiologic study on main cancers in Korean, Japan and China (KOJACH Cooperative Study). The 2nd Japan-China Symposium on Cancer Research, 2012, (千葉), [特別講演]
- 003 **Tajima K**: Ethnoepidemiologic studies on environmental and host factors for increasing cancers in Korea-Japan-China (KOJACH). 3rd Asian Conference on Environmental Mutagens & 15th Conference of Chinese Environmental Mutagen Society, 2012, (Hangzhou, China), [キーノート]
- 004 **Tajima K**: Factor-specific attributable risk of cancer and prevention strategies in Japan. 第25回がん研究シンポジウム, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 005 **Tajima K**: Cancer control program from Japan. Joint APOCP/Thailand National Cancer Institute Meeting, 2013, (Pattaya, Thailand), [口演]
- 006 **田島和雄**: 一健康対談: 疾病予防と健康維持の秘訣一. 第10回日本予防医学会学術総会, 2012, (広島), [特別講演]

#### 疫学・予防部

- 001 **Tanaka H**: Cost-effectiveness of smoking cessation-therapy in Japan. World cancer congress, 2012, (Canada), [その他]
- 002 **Ito H, Sueta A, Iwata H, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Iwase H, Tanaka H, Matsuo K**: A genetic risk predictor for breast cancer using a combination of low-penetrance polymorphisms in a Japanese population. An AACR Special Conference on POST-GWAS HORIZONS IN MOLECULAR EPIDEMIOLOGY :DIGGING DEEPER INTO THE ENVIRONMENT, 2012, (Hollywood), [ポスター]
- 003 **田中英夫**: 飛躍する日本の地域がん登録—精度向上をめぐる最近の話題—. 地域がん登録全国協議会第21回学術集会, 2012, (高知), [シンポジウム]
- 004 **尾瀬 功, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 若井建志, 永田知里, 溝上哲也, 田中恵太郎, 辻 一郎, 玉腰暁子, 笹月 静, 井上真奈美, 津金昌一郎**: 食道がんリスクと喫煙: 我が国における分析疫学研究のレビューとメタ解析. 第35回日本がん疫学・分子疫学研究会総会, 2012, (広島), [ポスター]
- 005 **伊藤秀美, 細野覚代, 田中英夫, 井上真奈美**: 肝細胞癌罹患

数から逆算するわが国のウイルス性肝疾患患者数の推計法. 第35回日本がん疫学・分子疫学研究会総会, 2012, (広島), [ポスター]

- 006 **渡邊美貴, 立石多貴子, 松尾恵太郎, 細野覚代, 尾瀬 功, 加藤久登, 田中英夫, 近藤高明**: ヒト集団におけるドコサヘキサエン酸 (DHA) 摂取と血漿, 赤血球膜組織リン脂質の脂肪酸構成との関連~食事介入研究~. 第58回東海公衆衛生学会学術大会, 2012, (津), [口演]
- 007 **伊藤秀美**: 日本と米国の造血器腫瘍の記述疫学: 罹患率の差から病因を探る. 地域がん登録全国協議会第21回学術集会, 2012, (高知), [ポスター]
- 008 **伊藤秀美, 松尾恵太郎**: HERPACC (Hospital-based Epidemiologic Research Program at Aichi Cancer Center as a genome cohort study). 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [その他]
- 009 **中尾心人, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 上田龍三, 田島和雄, 田中英夫**: 日本人集団における塩基除去修復遺伝子多型と膀胱がんリスクの検討. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 010 **福本紘一, 松尾恵太郎, 田中英夫, 谷口哲郎, 石川義登, 川口晃司, 横井香平**: 原発性肺癌手術患者において術前血清D-dimer値は独立した予後因子である. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 011 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 広瀬かおる, 田島和雄, 田中英夫**: Genetic risk predictor for colorectal cancer in Japanese population. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 012 **尾瀬 功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫**: 葉酸摂取・MTHFR遺伝子多型と胃がんリスク. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 013 **千原 大, 伊藤秀美, 松田智大, 片野田耕太, 柴田亜希子, 雑賀公美子, 祖父江友孝, 松尾恵太郎**: 慢性骨髄性白血病におけるイマチニブ登場後の死亡率の検証. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 014 **田中英夫**: 日本のコーホート研究が慢性ウイルス性肝疾患対策・診療に果たした役割. 第16回日本肝臓学会大会, 2012, (神戸), [口演]
- 015 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫**: 遺伝子多型による日本人の大腸癌リスクモデルの作成. 日本人類遺伝学会第57回大会, 2012, (東京), [ポスター]
- 016 **中尾心人, 松尾恵太郎, 尾瀬 功, 細野覚代, 渡邊美貴, 伊藤秀美, 田島和雄, 田中英夫**: 日本人集団におけるTime to First Cigaretteと膀胱がんとの関連. 第23回日本疫学会学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 017 **尾瀬 功, 松尾恵太郎, 細野覚代, 伊藤秀美, 渡邊美貴, 田島和雄, LaVecchia Carlo, 田中英夫**: 日本人における喫煙依存度と頭頸部がん・上部消化管がんリスク. 第23回日本疫学会学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 018 **細野覚代, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 渡邊美貴, 広瀬かおる, 田島和雄, 田中英夫**: 日本人女性におけるニコチン依存度と子宮頸がんリスクとの関連. 第23回日本疫学会

- 学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 019 石岡久佳, 尾瀬 功, 細野覚代, 伊藤秀美, 田中英夫, 松尾恵太郎: 胃がんリスクに関する喫煙期間とHelicobacter pyloriの交互作用. 第23回日本疫学会学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 020 福本紘一, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 尾瀬 功, 細野覚代, 渡邊美貴, 田島和雄, 田中英夫: 喫煙依存指標としての早朝喫煙時間の肺癌リスクに関する検討. 第23回日本疫学会学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 021 渡邊美貴, 松尾恵太郎, 細野覚代, 尾瀬 功, 伊藤秀美, 加藤久登, 田中英夫: ヘリコバクターピロリ感染における出生年の影響に関する検討. 第23回日本疫学会学術総会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 022 東真規子, 細野覚代, 松尾恵太郎, 田中英夫: 身長が婦人科がん罹患リスクに及ぼす影響についての検討. 第132回東海産科婦人科学会, 2013, (名古屋), [口演]

#### 腫瘍病理学部

- 001 *Yusa A, Masuda T, Yamamoto S, Niimi M, Douke H, Okochi M, Toneri M, Ito S, Honda H, Arai F, Nakanishi H*: Development of rapid isolation device for circulating tumor cells (CTCs) using size-based filtration method and its application for single cell gene expression analysis. 3rd Annual Meeting World CTC, 2012, (Boston), [口演]
- 002 *Kondo E, Saito K*: Peptide-based tumor targeting systems for human cancers. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 003 *Nakanishi H, Saito T, Kondo C, Muro K, Kondo E*: Establishment of HER2-positive gastric cancer cell lines from Japanese patient with low level gene amplification and low trastuzumab sensitivity. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [口演]
- 004 中西速夫, 小笠原麻衣, 伊藤彰洋, 近藤英作: 光イメージングとMRIを融合した腹膜転移に対するMultimodalityイメージング. 第101回日本病理学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 005 斎藤 憲, 中西速夫, 近藤英作: 非小細胞肺癌のゲフィティニブ応答における主要なエフェクター分子の同定. 第101回日本病理学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 006 近藤英作, 中西速夫, 斎藤 憲: アデノウイルスレセプターCARの口腔扁平上皮がんを中心とする固形癌増殖制御に果たす分子機能. 第101回日本病理学会総会, 2012, (東京), [口演]
- 007 近藤英作: 細胞膜透過性ペプチドによる新しい制がん医療技術の開発研究. 第3回小児がん学術セミナー, 2012, (名古屋), [招請講演]
- 008 近藤英作: 腫瘍ホーミングペプチドを応用したDDSによる制がん分子標的技術. 第16回日本がん分子標的治療学会, 2012, (北九州), [ワークショップ]
- 009 中西速夫, 設楽紘平, 近藤千紘, 室 圭, 近藤英作: 新しく樹立したFISH (-)/IHC3+形質を示すHER2陽性胃がん細

- 胞株の特性と分子標的薬感受性. 第21回日本がん転移学会学術集会・総会, 2012, (広島), [ワークショップ]
- 010 近藤英作: 腫瘍ホーミングペプチドによる新しい制がん医療技術の開発研究. 第11回Conference for BioSignal and Medicine (CBSM), 2012, (伊勢・志摩), [招請講演]
- 011 中田 晋, 藤田 貢, 中西速夫, 葛島清隆, 近藤英作: マウス膠芽腫における低酸素領域と肝細胞マーカー発現の解析. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 012 斎藤 憲, 中西速夫, 近藤英作: 非小細胞肺癌のゲフィティニブ応答における主要なエフェクター分子の同定. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 013 田中晴就, 市川幸奈, 西田敬子, 近藤英作, 中西速夫: HER2陽性胃がん細胞株およびそのハーセプチン耐性株に対する不可逆性チロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 014 中西速夫, 近藤千紘, 伊藤誠二, 伊藤友一, 室 圭, 近藤英作: ハーセプチン抵抗性を示す新規日本人胃がん由来HER2陽性IHC2+/FISH+胃がん細胞株の樹立とその耐性機構. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 015 斎藤卓也, 中西速夫, 谷田部恭, 伊藤誠二, 山道啓吾, 近藤英作: 肝および腹膜転移性胃がんの原発巣ならびに転移巣におけるHER2発現の検討. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 016 欄真一郎, 伊地知圭, 長谷川泰久, 小川徹也, 近藤英作, 中西速夫: ポドプラニン高発現の頭頸部扁平上皮癌細胞株におけるがん幹細胞様形質発現. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 017 近藤英作: 制がんのための新規ドラッグデリバリー技術に応用可能な腫瘍ホーミングペプチドの開発. 第2回中部地区医療・バイオ系シーズ発表会, 2012, (名古屋), [口演]
- 018 斎藤卓也, 谷田部恭, 伊藤誠二, 山道啓吾, 近藤英作, 中西速夫: 肝転移および腹膜転移性胃がんの原発巣ならびに転移巣におけるHER2とEGFR発現の検討. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [ポスター]
- 019 中西速夫, 斎藤卓也, 古屋朋美, 近藤英作: 日本人由来HER2陽性胃がん細胞パネルの樹立とその分子標的薬感受性. 第85回日本胃癌学会, 2013, (大阪), [口演]
- 020 近藤英作: 腫瘍ホーミングペプチドによる新しい制がん医療技術展開の研究. 北海道大学大学院薬学研究所セミナー, 2013, (札幌), [招請講演]

#### 分子腫瘍学部

- 001 *Yamaguchi T, Yanagisawa K, Sugiyama R, Hosono Y, Shimada Y, Arima C, Kato S, Tomida S, Suzuki M, Osada H, Takahashi T*: NKX2-1/TITF1/TTF-1 - induced ROR1 is required to sustain EGFR survival signaling in lung adenocarcinoma. AACR annual meeting 2012, 2012, (Chicago), [ポスター]
- 002 *Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y*: TGF- $\beta$  synergizes with defects in the Hippo pathway by inducing CTGF expression. AACR Annual Meeting 2012,



- 2012, (Chicago), [ポスター]
- 003 **Katsushima K, Shinjo K, Ohka F, Fujii M, Osada H, Sekido Y, Natsume A, Kondo Y**: Epigenetic regulation of miR-1275 through histone H3 lysine 27 trimethylation during human glioma stem-like cell differentiation. AACR Annual Meeting 2012, 2012, (Chicago), [ポスター]
- 004 **Shinjo K, Okamoto Y, Takeuchi I, Fujii M, Osada H, Usami N, Ito H, Hida T, Sekido Y, Kondo Y**: Integrated analysis of genetic and epigenetic alterations reveals CpG island methylator phenotype associated with distinct clinical characters of lung adenocarcinoma. AACR Annual Meeting 2012, 2012, (Chicago), [ポスター]
- 005 **Kondo Y**: Polycomb repressive complex 2-mediated epigenetic plasticity contributing to establishment of tissue heterogeneity in glioblastoma. The 3rd Shanghai International Conference of Epigenetics in Development and Diseases, 2012, (Shanghai), [シンポジウム]
- 006 **Kondo Y**: Translational Implications of Epigenetic Changes in Human Malignancies. 10th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, 2012, (Seoul), [シンポジウム]
- 007 **Ohka F, Natsume A, Katsushima K, Shinjo K, Kishida Y, Motomura K, Momota H, Wakabayashi T, Kondo Y**: The global DNA methylation surrogate LINE-1 methylation is correlated with MGMT promoter methylation and is a better prognostic factor for glioma. 10th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society, 2012, (Seoul), [口演]
- 008 **Murakami-Tonami Y, Kishida S, Kadomatsu K**: Inactivation of hSgo1 shows synthetic phenotype to MYCN amplification. Advances in Neuroblastoma research 2012, 2012, (Toronto), [ポスター]
- 009 **Sekido Y, Tanaka I, Osada H, Fujii M**: Hippo signaling pathway inactivation in malignant mesothelioma cells. iMig (international Mesothelioma interest group) 2012, 2012, (Boston), [口演]
- 010 **Kondo Y**: Study of Aberrant DNA Methylation in Human Hepatocyte Chimeric Mice. International Symposium on Genetic Regulation and Targeted Therapy of Cancer and 3rd Symposium of A3 Foresight Program, 2012, (Guangzhou), [シンポジウム]
- 011 **Kondo Y**: Mechanistic Link between Hepatitis Viral Infection and Induction of Aberrant DNA Methylation in Human Hepatocyte Chimeric Mice. The 17th Japan-Korea Cancer Research Workshop, 2012, (Pusan), [ワークショップ]
- 012 **Kondo Y**: Epigenetic Plasticity and its clinical implications in human neoplasia. Ninth AACR-Japanese Cancer Association Joint Conference, 2013, (Hawaii), [招請講演]
- 013 **Sekido Y**: Molecular Abnormalities and Cell Signaling Dysregulation of Malignant Pleural Mesothelioma. The 17th Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory, 2012, (Hong Kong), [シンポジウム]
- 014 **Fujii M, Nakanishi H, Toyoda T, Tanaka I, Kondo Y, Osada H, Sekido Y**: Convergent signaling in the regulation of malignant mesothelioma growth through CTGF: TGF- $\beta$  signaling and defects in the Hippo signaling pathway. Ninth AACR-Japanese Cancer Association Joint Conference, 2013, (Hawaii), [ポスター]
- 015 **Katsushima K, Shinjo K, Natsume A, Ohka F, Fujii M, Osada H, Sekido Y, Kondo Y**: Contribution of microRNA-1275 to Claudin11 suppression via polycomb-mediated silencing mechanism in human glioma stem-like cells. Sapporo Cancer Epigenetics Seminar of the A3 Foresight Program 2012, 2012, (札幌), [口演]
- 016 **Fujii M, Nakanishi H, Toyoda T, Tanaka I, Kondo Y, Osada H, Sekido Y**: Convergent signaling in the regulation of malignant mesothelioma growth: TGF- $\beta$  signaling and defects in the Hippo signaling pathway. 2nd JSPS International TGF- $\beta$  Symposium, 2012, (東京), [口演]
- 017 **勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊**: Large Intergenic Non-coding RNA Associated with Stemness Feature of Glioma-like Cell. 第35回 日本分子生物学会年会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 018 **近藤 豊**: 発がん過程における環境因子とエピゲノム異常. 環境エピゲノミクス研究会 第7回定例会, 2012, (東京), [シンポジウム]
- 019 **新城恵子, 勝島啓佑, 大岡史治, 関戸好孝, 近藤 豊**: PRC2-H3K27me3抑制機構を標的とした小分子化合物の探索法の開発. 第6回 日本エピジェネティクス研究会年会, 2012, (東京), [ポスター]
- 020 **勝島啓佑, 新城恵子, 夏目敦至, 大岡史治, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 近藤 豊**: Contribution of microRNA-1275 to Claudin11 suppression via polycomb-mediated silencing mechanism in human glioma stem-like cells. 第6回日本エピジェネティクス研究会年会, 2012, (東京), [ポスター]
- 021 **畑中彬良, 釜田和馬, 近藤 豊, 沖 昌也**: 境界形成に関わる Sgf73p の解析. 第6回 日本エピジェネティクス研究会年会, 2012, (東京), [ポスター]
- 022 **間中研一, 上田忠佳, 藤井万紀子, 浅香 勲, 古江-楠田美保, 鈴木崇彦**: 第4回細胞培養指導士講習会「細胞培養士の育成に向けて」-教育研究システム委員会主催-日本組織培養学会第85回大会, 2012, (京都), [口演]
- 023 **近藤 豊**: がん細胞のエピゲノム異常を標的とした新しい治療戦略. 第16回学術集日本がん分子標的治療学会, 2012, (北九州市), [シンポジウム]
- 024 **近藤 豊**: エピゲノムから見た新たながん治療への挑戦. 第22回日本サイトメトリー学会学術集, 2012, (大阪), [招請講演]
- 025 **田中一夫**: Ajuba inhibits malignant mesothelioma cell growth via YAP suppression. 平成24年度がん若手研究者ワークショップ, 2012, (茅野市), [ポスター]
- 026 **畑中彬良, 勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 関戸好孝, 近藤**

- 豊：ポリコムタンパクPRC2/EZH2によるがん幹細胞のエピゲノムリプログラミング機構の解明. 平成24年度がん若手研究者ワークショップ, 2012, (茅野市), [ポスター]
- 027 藤井万紀子：悪性中皮腫細胞の増殖におけるConnective Tissue Growth Factor (CTGF) の役割について. 第7回肺癌分子病態研究会, 2012, (東京), [口演]
- 028 新城恵子, 近藤 豊：肺腺がんにおける高メチル化集積症例 (CpG island methylator phenotype, CIMP) マーカーの同定と意義. 第32回日本分子腫瘍マーカー研究会, 2012, (札幌), [シンポジウム]
- 029 近藤 豊, 夏目敦至, 関戸好孝：がん幹細胞を制御するエピゲノム修飾機構の解明と治療への展望. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [シンポジウム]
- 030 長田啓隆, 八木香澄, 柳澤 聖, 赤塚淳一, 立松義朗, 加藤省一, 谷田部恭, 小野健一郎, 関戸好孝, 高橋 隆：転移関連分子CLCP1の機能解析と肺癌診断治療への応用. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 031 藤井万紀子, 豊田武士, 中西速夫, 近藤 豊, 長田啓隆, 関戸好孝：悪性中皮腫におけるHippoシグナリングの欠失とTGF- $\beta$ の協調によるCTGFの発現調節. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 032 新城恵子, 近藤 豊：胸部悪性腫瘍におけるメチル化解析と臨床への応用. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [シンポジウム]
- 033 大岡史治, 夏目敦至, 若林俊彦, 勝島啓佑, 新城恵子, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 近藤 豊：膠芽腫マウスモデルを用いたp53, Nf1欠失から引き起こされるエピジェネティクス異常の解析. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 034 勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊：脳腫瘍幹細胞の分化に関わるlincRNAの網羅的解析及びその生化学的解析. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 035 近藤 豊：大腸腫瘍の病態に関わるエピゲノム異常. 第20回日本消化器関連学会週間 (JDDW2012), 2012, (神戸市), [ワークショップ]
- 036 大岡史治, 夏目敦至, 勝島啓佑, 新城恵子, Hui Zong, 近藤 豊, 若林俊彦：二次性膠芽腫マウスモデルを用いた神経膠腫の発生と進展に関わるエピジェネティクスメカニズムの解析. 日本脳神経外科学会第71回学術総会, 2012, (大阪), [シンポジウム]
- 037 近藤 豊：がん細胞の動的制御に関わるエピゲノム, 平成24年度 遺伝研研究会「染色体ドメインの形成と機能発現機構」, 2012, (三島), [シンポジウム]
- 038 関戸好孝：Carcinogenesis induced by asbestos exposure and genetic abnormalities in mesothelioma cells. 第50回日本癌治療学会学術総会, 2012, (横浜), [シンポジウム]
- 039 関戸好孝：悪性中皮腫におけるHippoシグナリング伝達系異常と遺伝子発現. Japan Mesothelioma Interest Group (JMIG) 2012, 2012, (京都), [口演]
- 040 近藤 豊：エピジェネティクスからみたがん細胞の性格と治療標的としての期待. 第5回 iPS細胞を用いた癌研究について落ちていて考える会, 2012, (京都), [招請講演]
- 041 田中一大, 長田啓隆, 藤井万紀子, 関戸好孝：A LIM-domain protein Ajuba suppresses malignant mesothelioma cell proliferation. Global COE 第4回国際シンポジウム, 2012, (名古屋), [ポスター]
- 042 村上(渡並) 優子, 岸田 聡, 門松健治：Smc2はDNA修復因子の転写制御を介してMYCNとSyntheticな表現型を示す. 第35回日本分子生物学会年会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 043 新城恵子, 岡本泰幸, 勝島啓佑, 大岡史治, 近藤 豊：Study about Link between Hepatitis Viral Infection and Induction of Aberrant DNA Methylation in Human Hepatocyte Chimeric Mice. 第35回日本分子生物学会年会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 044 近藤 豊：エピジェネティクスから迫るがんの診断と治療. 平成24年度 次世代バイオナノ研究会「次世代シークエンサーとがん診断の最前線」, 2013, (高松), [招請講演]
- 045 田中一大, 長田啓隆, 藤井万紀子, 関戸好孝：A LIM-domain protein Ajuba inhibits malignant mesothelioma cell growth via Hippo signaling cascade. 第5回NAGO YAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]
- 046 近藤 豊：マウスモデルを用いた脳腫瘍の発生に関わるエピゲノム異常の解析. 平成24年度「個体レベルでのがん研究支援活動」ワークショップ, 2013, (大津), [ワークショップ]
- 047 勝島啓佑, 新城恵子, 大岡史治, 藤井万紀子, 長田啓隆, 関戸好孝, 夏目敦至, 柴田龍弘, 近藤 豊：Large intergenic non-coding RNA associated with stemness feature of glioma stem-like cell. 平成24年度「個体レベルでのがん研究支援活動」ワークショップ, 2013, (大津), [ポスター]
- 048 近藤 豊：DNAメチル化異常の検出を利用した高精度がん診断法の開発. 分子・物質合成プラットフォーム 平成24年度 成果報告会, 2013, (岡崎), [招請講演]

#### 遺伝子医療研究部

- 001 Seto M：Genomic alterations in malignant lymphoma and its implication in cancer treatment. The 38th Annual Meeting of Korean Cancer Association, 2012, (COEX Seoul, Korea), [招請口演]
- 002 Yoshida N, Umino A, Fang Liu, Arita K, Karube K, Tsuzuki S, Ohshima K, Seto M：Identification of Multiple Subclones in Peripheral T-Cell Lymphoma, Not Otherwise Specified with Genomic Aberrations. 第54回米国血液学会総会, 2012, (アトランタ 米国), [口演]
- 003 Arita K, Seto M：New mouse models of B-cell lymphoma using in vitro retroviral transduction system. 第9回日本癌学会・AACR合同会議, 2013, (ラハイナ 米国), [ポスター]
- 004 Seto M：MEET THE PROFESSOR SESSIONS~ XV. MALIGNANT LYMPHOMA AS A CONSEQUENCE OF CLONAL EVOLUTION. 第12回国際悪性リンパ学会議, 2013, (Cinema Corso, Lugano, スイス), [口演]
- 005 Seto M：Molecular Mechanisms of Lymphoma Development. The 10th Asia Clinical Oncology Society, 2012, (COEX Seoul, 韓国), [教育講演]

- 006 *Tashima M, Nishikori M, Kishimoto W, Yamamoto R, Sakai T, Ohmori K, Tsuzuki S, Seto M, Takaori-Kondo A* : Deregulation of CCND1 or BCL2 in the Immature B-Cell Stage Determines the Resulting Lymphoma Histology. アメリカ血液学会, 2012, (アトランタ), [口演]
- 007 *Iqbal J, Wright GW, Rosenwald A, Gascoyne RD, Weisenburger DD, Wang C, Greiner TC, The BT, Gaulard P, Piccaluga PP, Pileri SA, Smith L, Rimsza LM, Jaffe ES, Campo E, Delabie J, Braziel RM, Cook JR, Tubbs RR, Au WA, Nakamura S, Seto M, Berger F, de Leval L, Armitage JO, Vose JM, Staudt LM, and Chan WC* : Gene Expression Signatures That Delineate Biologic and Prognostic Subgroups in Peripheral T-Cell Lymphoma. アメリカ血液学会, 2012, (アトランタ), [口演]
- 008 吉田雅明, 海野 啓, *Liu Fang*, 在田幸太郎, 加留部謙之輔, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加太 : ゲノム異常陽性PTCL, NOSにおけるサブクローンの存在. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, 福島ビューホテル(福島), [口演]
- 009 吉田雅明, 海野 啓, *Liu Fang*, 在田幸太郎, 加留部謙之輔, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加太 : ゲノム異常陽性PTCL, NOSにおけるサブクローンの存在. 第52回日本リンパ網内系学会総会, 2012, (福島), [ポスター (示説)]
- 010 瀬戸加太 : NK細胞性腫瘍の機能特異的がん抑制遺伝子としてのFOXO3. 第16回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2012, (北九州市), [ワークショップ]
- 011 岸本 涉, 錦織桃子, 田島政治, 山本 玲, 坂井智美, 都築 忍, 瀬戸加太, 高折晃史 : マントル細胞リンパ腫のマウスモデルの作製. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター (示説)]
- 012 加留部謙之輔, 都築 忍, 中村栄男, 瀬戸加太 : NK細胞性腫瘍に特異的ながん抑制遺伝子であるFOXO3. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター (示説)]
- 013 都築 忍, 瀬戸加太 : CML-BCにおけるAML1/RUNX1 変異とBCR-ABLの協調作用. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター (示説)]
- 014 吉田雅明, 海野 啓, 劉 芳, 在田幸太郎, 加留部謙之輔, 都築 忍, 大島孝一, 瀬戸加太 : ゲノム異常陽性の末梢性T細胞性リンパ腫, 非特異型におけるサブクローンの存在. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 015 加留部謙之輔, 大島孝一, 瀬戸加太 : 悪性リンパ腫の臨床病理および分子病態の解析. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 016 都築 忍, 瀬戸加太 : Expansion of mouse hematopoietic stem/progenitor cells by a short isoform of RUNX1/AML1. 第74回日本血液学会総会, 2012, (京都), [ポスター (示説)]
- 017 瀬戸加太 : Molecular characterization of T/NK cell malignancies. 第74回日本血液学会総会, 2012, (京都), [シンポジウム (口演)]
- 018 瀬戸加太 : 悪性リンパ腫のゲノム異常. 第60回神奈川リンパ腫病理研究会, 2012, (横浜), [特別招請講演]
- 019 瀬戸加太 : 悪性リンパ腫の分子病態と腫瘍化機構. 第6回血液腫瘍カレントセミナー, 2012, (東京), [特別招請講演]
- 020 瀬戸加太 : 悪性リンパ腫のゲノム異常と腫瘍化機構. 第11回筑後ヘマトロジーセミナー, 2012, (久留米), [特別招請講演]
- 021 瀬戸加太 : 悪性リンパ腫の分子病態. 第35回播但血液造血疾患研究会, 2012, (姫路市), [特別招請講演]
- 022 都築 忍 : 小児急性リンパ性白血病関連TEL-AML1遺伝子の機能解析. 第18回血液科学セミナー, 2012, (東京), [特別招請講演]

#### 腫瘍免疫学部

- 001 *Akatsuka Y, Taji H, Morishima Y, Miyamura K, Kodera Y, Emi N, Takahashi T, Kinoshita T, Kuzushima K* : Vaccination with minor histocompatibility antigen-derived peptides in post-transplant patients with hematological malignancies-preliminary results. 2nd International Workshop Biology, Prevention, and Treatment of Relapse After Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation, 2012, (Bethesda, USA), [ポスター]
- 002 *Nakatsuka R, Uemura Y, Matsuoka Y, Takahashi M, Iwaki R, Fujioka T, Sasaki Y, Sonoda Y* : Prospectively isolated PDGFR  $\alpha$  and Sca-1 double positive dental pulp-derived mesenchymal stem cell-like cells have different characteristics as compared to PDGFR  $\alpha$  and Sca-1 double positive bone marrow-derived mesenchymal stem cells. ISSCR 10th Annual Meeting, 2012, (Yokohama), [ポスター]
- 003 *Hirosawa N, Sakamoto T, Uemura Y, Sakamoto Y* : Proteomic analyses of adrenal and pituitary gland of rat exposed fenitrothion. The 26th Annual Symposium of The Protein Society, 2012, (San Diego), [ポスター]
- 004 *Yamada E, Demachi-Okamura A, Kondo S, Maki H, Zhang R, Uemura Y, Suzuki S, Shibata K, Kikkawa F, Kuzushima K* : Identification of novel ovarian cancer-associated antigens and its epitopes for CTL using an HLA-modified cancer cell line. 9th Joint Conference of the American Association for Cancer Research and the Japanese Cancer Association, 2013, (Maui), [ポスター]
- 005 *Hirosawa N, Sakamoto T, Uemura Y, Suzuki Y, Sakamoto Y* : Investigation on toxic effects of organophosphate pesticide to endocrine organs related to reproductive system, and identification of target molecules of the chemicals in these organs. 第85回日本生化学会大会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 006 *Zhang R, Liu Tianyi, Suzuki M, Hirosawa N, Kaneko S, Okamura A, Sakamoto Y, Kuzushima K, Uemura Y* : Regulation of IL-27/Osteopontin balance in dendritic cells by ligand activation of invariant NKT cells. 第41回日本免疫学会学術集会, 2012, (神戸), [口演]
- 007 *Zhang R* : Regulation of IL-27/Osteopontin balance in dendritic cells by ligand activation of invariant NKT cells. 第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]



- 008 中塚隆介, 松岡由和, 高橋雅也, 岩城隆二, 藤岡龍哉, 植村靖史, 佐々木豊, 藺田精昭: マウス歯髄幹細胞と骨髄間葉系幹細胞の機能比較とヒト造血幹細胞のin vitro支持能の検討. 第22回日本サイトメトリー学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 009 葛島清隆, 岡村文子: HLAを改変したがん細胞株で誘導したCTLの標的抗原の解析. 第16回日本がん免疫学会総会, 2012, (札幌), [口演]
- 010 朝井洋晶, 藤原 弘, 越智俊元, 宮崎幸大, 越智史博, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: 経静脈的に輸注されたWT1特異的TCR遺伝子導入Tリンパ球は骨髄へ移行し静止期の白血病性幹細胞を傷害できる可能性がある. 第16回日本がん免疫学会総会, 2012, (札幌), [口演]
- 011 越智史博, 藤原 弘, 朝井洋晶, 宮崎幸大, 神田 輝, 葛島清隆, 岡本幸子, 峰野純一, 珠玖 洋, 安川正貴: 細胞免疫療法としての抗体依存性細胞傷害活性 (ADCC) を発揮する新たな遺伝子改変Tリンパ球の作製. 第16回日本がん免疫学会総会, 2012, (札幌), [口演]
- 012 宮崎幸大, 藤原 弘, 朝井洋晶, 越智史博, 越智俊元, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: HLA class I拘束性腫瘍抗原特異的TCRを遺伝子導入したCD4陽性T細胞の機能解析. 第16回日本がん免疫学会総会, 2012, (札幌), [口演]
- 013 岡本幸子, 天石泰典, 池田裕明, 藤原 弘, 糟谷育衛, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖 洋, 峰野純一: 高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療法: 次世代siTCRレトロウイルスベクター. 第16回日本がん免疫学会総会, 2012, (札幌), [口演]
- 014 西尾信博, 藤田 貢, 田中義正, 牧 寛之, 張 エイ, 岡村文子, 植村靖史, 田口 修, 高橋義行, 小島勢二, 葛島清隆: Zoledronate sensitizes neuroblastoma-derived tumor-initiating cells to cytolysis mediated by human gamma-delta T cells. 第4回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2012, (金沢), [口演]
- 015 宮崎幸大, 藤原 弘, 朝井洋晶, 越智史博, 東 太地, 石田高司, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: 成人T細胞性白血病に対するhTERT特異的TCR遺伝子を用いた新たな細胞免疫療法の開発. 第4回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2012, (金沢), [口演]
- 016 藤原 弘, 朝井洋晶, 越智俊元, 宮崎幸大, 越智史博, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: WT1を治療標的抗原とする白血病幹細胞制御を目指した細胞免疫療法の可能性の検討. 第4回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2012, (金沢), [口演]
- 017 赤堀 泰, 赤塚美樹, 葛島清隆, 恵美宣彦: HLA-A2拘束性に提示されたマイナー抗原HA-1ペプチドを認識する抗体の単離. 第4回造血器腫瘍免疫療法研究会学術集会, 2012, (金沢), [口演]
- 018 岡本幸子, 糟谷育衛, 池田裕明, 藤原 弘, 葛島清隆, 安川正貴, 珠玖 洋, 峰野純一: 高効率かつ安全性の高いTCR遺伝子治療法: 次世代型siTCRレトロベクターの開発. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 019 越智史博, 藤原 弘, 朝井洋晶, 宮崎幸大, 石田高司, 葛島清隆, 岡本幸子, 峰野純一, 珠玖 洋, 安川正貴: hTERT特異的細胞傷害性T細胞を用いた細胞免疫療法は成人T細胞性白血病に対して有効な治療法となりうる. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 020 藤原 弘, 宮崎幸大, 朝井洋晶, 越智史博, 越智俊元, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: 白血病抗原特異的T細胞受容体を発現させたCD4陽性T細胞は白血病に対する細胞免疫療法の効果を様々な機序で増強する. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 021 植村靖史, 峰野純一, 池田裕明, 劉 天懿, 牧 寛之, 近藤紳司, 張 エイ, 岡村文子, 藤田 貢, 赤塚美樹, 園田精昭, 珠玖 洋, 葛島清隆: 腫瘍抗原特異的TCR遺伝子導入NKT細胞を用いたがん免疫療法の可能性. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 022 鈴木元晴, 劉 天懿, 廣澤成美, 昇 弥生, 岡村文子, 坂本 安, 葛島清隆, 植村靖史: 活性化インバリアントNKT細胞は樹上細胞におけるIL-12p70/オステオポンチン産生バランスを制御する. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 023 藤田 貢, 張 エイ, 中田 晋, 葛島清隆: Cox-2阻害による肺がん脳転移の抑制とその免疫学的メカニズム. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 024 朝井洋晶, 藤原 弘, 越智俊元, 宮崎幸大, 越智史博, 井上博文, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: 白血病性幹細胞を標的とした腫瘍抗原特異的T細胞による養子免疫療法. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 025 中塚隆介, 植村靖史, 藺田精昭: FACSにより予期的に分離されたマウスSca-1, PDGFR $\alpha$ 陽性歯髄幹細胞は同一の表面免疫特性を持つ骨髄由来間葉系幹細胞とは異なる幹細胞特性を有する. 第54回歯科基礎医学学会学術大会・総会, 2012, (郡山), [ポスター]
- 026 宮坂智充, 青柳哲史, 内山美寧, 國島広之, 賀来満夫, 中山俊憲, 植村靖史, 大石和徳, 金城雄樹, 宮崎義継, 川上和義: 23価肺炎球菌ワクチン接種後の抗体産生におけるNKT細胞の役割に関する臨床免疫学的検討. 第16回日本ワクチン学会学術集会, 2012, (横浜市), [ポスター]
- 027 山田 英里: Identification of novel ovarian cancer-associated antigens and its epitopes for CTL using an HLA-modified cancer cell line. 第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]
- 028 朝井洋晶, 藤原 弘, 宮崎幸大, 越智史博, 越智俊元, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: Genetically retargeted autologous CTL to WT1 seems capable of suppressing leukemia stem. 第35回日本造血細胞移植学会総会, 2013, (金沢), [口演]
- 029 赤堀 泰, 猪熊容子, 赤塚美樹, 山本幸也, 村山裕子, 伊庭佐知子, 遠藤明美, 平松可帆, 葛島清隆, 恵美宣彦: HLA-A2拘束性に提示されたマイナー抗原HA-1H ペプチドを認識する抗体の単離とその臨床応用に向けての検討. 第35回日本造血細胞移植学会総会, 2013, (金沢), [口演]
- 030 越智史博, 藤原 弘, 宮崎幸大, 朝井洋晶, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: 細胞療法への応用を目的としたADCC 活性を発揮するエフェクターT細胞の開発. 第35回日本造血細胞移植学会総会, 2013, (金沢), [ポスター]

- 001 **Murata T, Tsurumi T**: Cis- and trans-elements that affect reactivation of Epstein-Barr virus from latency. International Congress on Oncogenic Herpesviruses and Associated Diseases, 2012, (Philadelphia, USA), [口演]
- 002 **Sugimoto A, Kimura H, Tsurumi T**: Epstein-Barr virus genome packaging factors converge at inner part of viral genome storeroom of the BMRF1 core within viral replication compartment. International Congress on Oncogenic Herpesviruses and Associated Diseases, 2012, (Philadelphia, USA), [口演]
- 003 **Kanda T, Murata T, Tsurumi T**: Chromosome binding of Epstein-Barr virus EBNA1 protein is mediated by arginine residues within chromosome binding domains. International Congress on Oncogenic Herpesviruses and Associated Diseases, 2012, (Philadelphia, USA), [ポスター]
- 004 **Kawashima D, Tsurumi T**: Involvement of Hsp90 in Epstein-Barr Virus Lytic Replication. The 11th International Congress of Hyperthermic Oncology (ICHO) & The 29th Japanese Congress of Thermal Medicine (JCTM), 2012, (Kyoto), [ポスター]
- 005 **Tsurumi T, Sugimoto A**: Epstein-Barr virus Genome Packaging Factors converge in inner Genome Storerooms of BMRF1 cores within Viral Replication Compartments. The 4th EMBO meeting, 2012, (Nice, France), [ポスター]
- 006 **Tsurumi T**: Epstein-Barr virus Replication Factory. The 11th Awaji International Forum on Infection and Immunity, 2012, (Awaji), [シンポジウム]
- 007 **Murata T, Tsurumi T**: Modification of Immune/Inflammatory System by EBV and Its Contribution to Cancer. 3rd International Symposium on Carcinogenic Spiral and International Symposium on Tumor Biology in Kanazawa, 2013, (Kanazawa), [ポスター]
- 008 **Tsurumi T**: Epstein-Barr virus Genome Packaging Factors converge in inner Genome Storerooms of BMRF1 cores within Viral Replication Compartments. SGM spring meeting, 2013, (Manchester, UK), [口演]
- 009 **Tsurumi T, Kawashima D**: Nuclear Transport of Epstein-Barr Virus DNA Polymerase is dependent on the BMRF1 Polymerase Processivity Factor and Molecular Chaperone Hsp90. The Biology of Molecular Chaperones: From molecules, organelles and cells to misfolding diseases, 2013, (Santa Margherita di Pula, Italy), [ポスター]
- 010 **Kanda T, Murata T, Tsurumi T**: Roles of BART microRNAs in EBV-infected epithelial cells. 6th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2013, (Istanbul, Turkey), [口演]
- 011 **Murata T, Noda C, Kanda T, Tsurumi T**: Induction of EBV Oncogene LMP1 by AP-2 in NPC Cells. 6th International Symposium on Nasopharyngeal Carcinoma, 2013, (Istanbul, Turkey), [ポスター]
- 012 **Narita Y, Murata T, Kimura H, Tsurumi T**: The Epstein-Barr virus DNA Polymerase Catalytic Subunit BALF5 Interacts with Pin1 for Efficient Productive Viral DNA Replication. 38th Annual International Herpesvirus Workshop, 2013, (Grand Rapids, USA), [ポスター]
- 013 **齊藤伸一, 村田貴之, 鶴見達也**: EBウイルス脱ユビキチン化酵素BPLF1によるNF- $\kappa$ B経路の阻害を介したウイルスDNA複製の促進. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 014 **杉本温子, 木村 宏, 鶴見達也**: EBV capsid形成・成熟・DNA packagingの場の解析. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 015 **村田貴之, 鶴見達也**: EBウイルス感染様式の制御メカニズム. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 016 **神田 輝, 村田貴之, 鶴見達也**: EBNA1蛋白質の宿主染色体付着メカニズムの解析とその応用の可能性. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 017 **成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也**: Pin1はEBウイルス複製に重要な因子である. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 018 **川島大介, 鶴見達也**: EBVのDNAポリメラーゼの核移行はその付随因子とHsp90に依存する. 第27回ヘルペスウイルス研究会, 2012, (大府), [口演]
- 019 **神田 輝, 村田貴之, 鶴見達也**: EBNA1蛋白質の宿主染色体付着メカニズムの解析. 第9回EBウイルス研究会, 2012, (米子), [口演]
- 020 **齊藤伸一, 村田貴之, 鶴見達也**: Epstein-Barr virus deubiquitinase BPLF1 inhibits the canonical NF-kappaB pathway to promote viral lytic DNA replication. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 021 **村田貴之, 野田千恵子, 神田 輝, 鶴見達也**: Induction of Epstein-Barr virus Oncogene LMP1 by Transcription Factor AP-2 in Epithelial Cells. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 022 **神田 輝, 村田貴之, 鶴見達也**: Mechanism of host chromosome binding of latently infected Epstein-Barr virus episomes. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 023 **杉本温子, 木村 宏, 鶴見達也**: Epstein-Barr virus genome packaging factors converge at inner part of viral genome storeroom of the BMRF1 core within viral replication compartment. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 024 **齊藤伸一, 村田貴之, 鶴見達也**: Epstein-Barr virus脱ユビキチン化酵素BPLF1はTRAF6を介したNF- $\kappa$ B経路の活性化を阻害することによってウイルスDNA複製を促進する. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 025 **村田貴之, 鶴見達也**: EBV再活性化におけるエピジェネティックヒストン修飾. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 026 **成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也**: Pin1はEBウイルス複製に重要な因子である. 第60回日本ウイルス学会学術

- 集会, 2012, (大阪), [口演]
- 027 神田 輝, 鶴見達也: EBNA1蛋白質の宿主染色体付着メカニズムの解析. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 028 杉本温子, 木村 宏, 鶴見達也: EBV capsid形成・成熟・DNA packagingの場の解析. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 2012, (大阪), [口演]
- 029 鶴見達也: EBV陽性細胞の増殖を制御するウイルス遺伝子の発現調節機構. 感染と癌 - 感染癌のエフェクター分子とその標的 -, 2012, (札幌), [招請講演]
- 030 杉本温子, 木村 宏, 鶴見達也: Epstein-Barr virus Genome Packaging Factors converge in inner Genome Storerooms of BMRF1 cores within Viral Replication Compartments. 第35回日本分子生物学会年会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 031 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: Pin1はEBウイルスのDNAポリメラーゼBALF5と相互作用することでウイルスDNA複製を調節する. 第35回日本分子生物学会年会, 2012, (福岡), [ポスター]
- 032 神田 輝, 鶴見達也: ウイルス蛋白質の染色体局在におけるアルギニン残基の重要性. 第30回染色体ワークショップ 第11回核ダイナミクス研究会 (合同開催), 2012, (淡路), [口演]
- 033 村田貴之: EBウイルスの感染様式と病態. 第10回ウイルス学キャンプin湯河原, 2013, (湯河原), [招待口演]
- 034 神田 輝, 鶴見達也: EBウイルス感染上皮細胞におけるウイルス由来マイクロRNAによる宿主遺伝子発現制御. 第28回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]
- 035 杉本温子, 佐藤好隆, 神田 輝, 木村 宏, 鶴見達也: Replication compartment内においてEBV初期遺伝子と後期遺伝子の転写産物では異なった分布を示す. 第28回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]
- 036 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼのN末端保存領域の変異はポリメラーゼ活性には影響しないが、ウイルスゲノム複製を阻害する. 第28回ヘルペスウイルス研究会, 2013, (淡路), [口演]
- 037 成田洋平, 村田貴之, 木村 宏, 鶴見達也: EBV DNAポリメラーゼのN末端保存モチーフの変異はウイルスゲノム複製を抑制する. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [口演]
- 038 神田 輝, 鶴見達也: ウイルス由来マイクロRNAによる上皮細胞特異的因子の発現制御. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [口演]
- 039 鶴見達也: Epstein Barr virus Replication Factory. 第10回EBウイルス研究会, 2013, (京都), [口演]

#### 分子病態学部

- 001 **Sakuma K**: c-Myc and CDX2 mediate E-selectin ligand glycan expression in colon cancer cells undergoing EMT. Global COE the 4th International Symposium, 2012, (Nagoya), [ポスター]
- 002 佐久間圭一朗, 神奈木玲児, 青木正博: c-MycとCDX2はE

MTを起こした大腸がん細胞におけるE-セレクチンリガンド糖鎖の発現を媒介する. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]

- 003 青木正博, 武藤 誠: CDX転写因子は腸上皮細胞におけるPLEKHG1の発現を制御する. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [口演]
- 004 青木正博, 後藤嘉子, 武藤 誠: CDX Transcription Factors Positively Regulate Expression of PLEKHG1 in Intestinal Epithelium. 第35回日本分子生物学会年会, 2012, (博多), [ポスター]

#### 発がん制御研究部

- 001 **Inoko A, Matsuyama M, Goto H, Ohmuro-Matsuyama Y, Hayashi Y, Enomoto M, Ibi M, Urano T, Yonemura S, Kiyono T, Izawa I, Inagaki M**: Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. The 12th biennial Gordon Conference on Intermediate Filaments, 2012, (Lewiston, ME), [ポスター]
- 002 **Tanaka H, Matsuyama M, Inoko A, Kondo E, Kobori K, Hayashi Y, Itohara S, Izawa I, Inagaki M**: Disorder of cytokinesis by defect of mitotic vimentin phosphorylation results in chromosomal instability. The 12th biennial Gordon Conference on Intermediate Filaments, 2012, (Lewiston, ME), [ワークショップ]
- 003 **Tanaka H, Matsuyama M, Inoko A, Kondo E, Kobori K, Hayashi Y, Itohara S, Izawa I, Inagaki M**: Disorder of cytokinesis by defect of mitotic vimentin phosphorylation results in chromosomal instability. The 12th biennial Gordon Conference on Intermediate Filaments, 2012, (Lewiston, ME), [ポスター]
- 004 **Inagaki M**: Intermediate filaments and site- and phosphorylation state-specific antibodies. Lecture at the University of Gothenburg, 2012, (Gothenburg), [招請講演]
- 005 **Kasahara K, Inagaki M**: Novel mitotic signaling crosstalk between PI3K-Akt pathway and Plk1. Seminar for Center for Brain Repair and Rehabilitation, 2012, (Gothenburg), [セミナー]
- 006 **Inagaki M, Goto H**: Novel regulation of checkpoint kinase 1 (Chk1): Is Chk1 a good candidate for anti-cancer therapy?. Mini-Symposium on "Stress Signals & Responses", Abo Akademi University Center of Excellence "Cell stress and Molecular Aging", 2012, (Turku), [シンポジウム]
- 007 **Kasahara K, Inagaki M**: Complex formation between Plk1 and 14-3-3 gamma is essential for metaphase to anaphase transition. Mini-Symposium on "Stress Signals & Responses", Abo Akademi University Center of Excellence "Cell stress and Molecular Aging", 2012, (Turku), [シンポジウム]
- 008 **Inagaki M**: Pathophysiological roles of intermediate filaments and intermediate filament phosphorylation.



- International Meeting of the German Society for Cell Biology, 2012, (Leipzig), [シンポジウム]
- 009 **Inagaki M** : Intermediate filaments and site- and phosphorylation state-specific antibodies. Global COE the 4th International Symposium "Global COE Symposium on Nuro-Tumor Biology and Medicine", 2012, (Nagoya), [レクチャー]
- 010 **Kasahara K** : Novel mitotic signalling crosstalk between PI3K-Akt pathway and Plk1. Global CEO the 4th International Symposium "Global COE Symposium on Nuro-Tumor Biology and Medicine" 2012 (Nagoya), [ポスター]
- 011 **Tanaka H, Matsuyama M, Inoko A, Kondo E, Kobori K, Hayashi Y, Itohara S, Izawa I, Inagaki M** : Disorder of cytokinesis by defect of mitotic vimentin phosphorylation results in chromosomal instability. Global COE the 4th International Symposium, 2012, (Nagoya), [ポスター]
- 012 **Goto H, Kasahara K, Izawa I, Kiyono T, Watanabe N, Elowe S, Nigg EA, Inagaki M** : Novel mitotic signalling crosstalk between PI3K-Akt pathway and Plk1. the 52nd Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, 2012, (San Francisco), [ポスター]
- 013 **Goto H** : Novel mitotic signaling crosstalk between PI3K-Akt pathway and Plk1. 1st International Symposium on Protein Modifications in Pathogenic Dysregulation of Signaling (supported by Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Area from MEXT), 2013, (Tokyo), [シンポジウム]
- 014 **Goto H, Li P, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M** : P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell. 第45回日本発生生物学会・第64回日本細胞生物学会合同大会, 2012, (神戸), [ワークショップ]
- 015 **Goto H, Li P, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M** : P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. 第45回日本発生生物学会・第64回日本細胞生物学会合同大会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 016 **Inoko A, Matsuyama M, Goto H, Ohmuro-Matsuyama Y, Hayashi Y, Enomoto M, Ibi M, Urano T, Yonemura S, Kiyono T, Izawa I, Inagaki M** : Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. 第45回日本発生生物学会・第64回日本細胞生物学会合同大会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 017 **Kasahara K, Goto H, Izawa I, Watanabe N, Kiyono T, Inagaki M** : PI3K-Akt pathway controls Polo-like kinase 1 (Plk1). 第45回日本発生生物学会・第64回日本細胞生物学会合同大会, 2012, (神戸), [ワークショップ]
- 018 **Kasahara K, Goto H, Izawa I, Watanabe N, Kiyono T, Inagaki M** : PI3K-Akt pathway controls Polo-like kinase 1 (Plk1). 第45回日本発生生物学会・第64回日本細胞生物学会合同大会, 2012, (神戸), [ポスター]
- 019 **Izawa I, Hayashi Y, Inagaki M** : LAP family protein Scribble interacts with Multidrug Resistance Protein 4 (MRP4/ABCC4). 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 020 **Kasahara K, Goto H, Izawa I, Watanabe N, Kiyono T, Inagaki M** : The PI3K-Akt pathway controls mitotic progression through Plk1. 第71回日本癌学会学術総会, 2012, (札幌), [ポスター]
- 021 **Tanaka H** : 細胞質分裂障害は染色体不安定性を誘導する. GCOE第35回プログレスレポート会議, 2012, (名古屋), [シンポジウム]
- 022 **Tanaka H** : Disorder of cytokinesis by defect of mitotic vimentin phosphorylation results in chromosomal instability. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [シンポジウム]
- 023 **Inoko A** : Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]
- 024 **Kasahara K** : Emerging role of the ubiquitin-proteasome system in primary cilia assembly. GCOE第5回NAGOYAグローバルリトリート, 2013, (大府), [ポスター]

## 4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

### 名誉総長

- 001 *Nimura Y, Kitagawa Y*: Intrahepatic stones. In: Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tracts, and Pancreas, 5th Edition. Eds. Jarnagin, Belghiti, Büchler, Chapman, D'Angelica, DeMatteo, Hann. Elsevier, Philadelphia, USA, 583-594, 2012.
- 002 *Sano T, Nimura Y*: Extended hepatic resections for biliary tumors: an alternative approach. In: Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tracts, and Pancreas, 5th Edition. Eds. Jarnagin, Belghiti, Büchler, Chapman, D'Angelica, DeMatteo, Hann. Elsevier, Philadelphia, USA, 1512-1519, 2012.
- 003 *Nimura Y, Nagino M, Takao S, Takada T, Miyazaki K, Kawarada Y, Miyagawa S, Yamaguchi A, Ishiyama S, Takeda Y, Sakoda K, Kinoshita T, Yasui K, Shimada H, Katoh H*: Standard versus extended lymphadenectomy in radical pancreatoduodenectomy for ductal adenocarcinoma of the head of the pancreas: Long-term results of a Japanese multicenter randomized controlled trial. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19: 230-241, 2012.
- 004 *Nimura Y*: In response to the article of Dr. Nadia Paparini, "Extended lymphadenectomy does not improve prognosis in pancreatic carcinoma: is that really so?" *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19:299, 2012.
- 005 *Fukutomi A, Furuse J, Okusaka T, Miyazaki M, Taketsuna M, Koshiji M, Nimura Y*: Effect of biliary drainage on chemotherapy in patients with biliary tract cancer: an exploratory analysis of the BT22 study. *HPB*, 14:221-227, 2012.
- 006 二村雄次: 近藤 哲前理事長の遺志を語る. *胆道*, 26:154-161, 2012.
- 007 二村雄次: 手術 I. 肝臓、胆道系、膵臓の手術、II. 手術の合併症. *N E W 外科学 改訂第3版*, 南江堂, 東京, 767-781, 2012.
- 008 二村雄次: 回想－悪戦苦闘の胆道疾患. *肝胆膵画像*, 14: 621-625, 2012.
- T, Nakatsura T*: Radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma induces glypican-3 peptide-specific cytotoxic T lymphocytes. *Int J Oncol*, 40: 63-70, 2012.
- 003 *Hosokawa Y, Kinoshita T, Konishi M, Takahashi S, Gotohda N, Kato Y, Daiko H, Nishimura M, Katsumata K, Sugiyama Y, Kinoshita T*: Clinicopathological features and prognostic factors of adenocarcinoma of the esophagogastric junction according to Siewert classification: experiences at a single institution in Japan. *Ann Surg Oncol*, 19: 677-683, 2012.
- 004 *Gotohda N, Konishi M, Takahashi S, Kinoshita T, Kato Y, Kinoshita T*: Surgical outcome of liver transection by the crush-clamping technique combined with Harmonic FOCUS™. *World J Surg*, 36: 2156-2160, 2012.
- 005 *Shirakawa H, Kinoshita T, Gotohda N, Takahashi S, Nakagohri T, Konishi M*: Compliance with and effects of preoperative immunonutrition in patients undergoing pancreaticoduodenectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19: 249-258, 2012.
- 006 *Sawada T, Yoshikawa T, Nobuoka D, Shirakawa H, Kuronuma T, Motomura Y, Mizuno S, Ishii H, Nakachi K, Konishi M, Nakagohri T, Takahashi S, Gotohda N, Takayama T, Yamao K, Uesaka K, Furuse J, Kinoshita T, Nakatsura T*: Phase I trial of a glypican-3-derived peptide vaccine for advanced hepatocellular carcinoma: immunologic evidence and potential for improving overall survival. *Clin Cancer Res*, 18: 3686-3696, 2012.
- 007 *Asai M, Akizuki N, Fujimori M, Matsui Y, Itoh K, Ikeda M, Hayashi R, Kinoshita T, Ohtsu A, Nagai K, Kinoshita H, Uchitomi Y*: Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan. *Support Care Cancer*, 20: 3189-3203, 2012.
- 008 北田浩二, 後藤田直人, 信岡大輔, 加藤祐一郎, 木下敬弘, 高橋進一郎, 小西 大, 木下 平: 限局性肝内胆管狭窄像を呈したIgG4関連硬化性胆管炎の1切除例. *日本消化器外科学会雑誌*, 45:163-168, 2012.

### 総 長

- 001 *Nakajima K, Takahashi S, Saito N, Kotaka M, Konishi M, Gotohda N, Kato Y, Kinoshita T*: Predictive factors for anastomotic leakage after simultaneous resection of synchronous colorectal liver metastasis. *J Gastrointest Surg*, 16: 821-827, 2012.
- 002 *Nobuoka D, Motomura Y, Shirakawa H, Yoshikawa T, Kuronuma T, Takahashi M, Nakachi K, Ishii H, Furuse J, Gotohda N, Takahashi S, Nakagohri T, Konishi M, Kinoshita T, Komori H, Baba H, Fujiwara*

## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（病院）

### 病院長

- 001 *Ozawa S, Tachimori Y, BaBa H, Fujishiro M, Matsubara H, Numasaki H, Oyama T, Shinoda M, Takeuchi H, Tanaka O, Teshima T, Udagawa H, Uno T, J.patrick Barron* : Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2004. *Esophagus*, 9: 75-98, 2012.

### 消化器内科部

#### 〔原著〕

- 001 *Kitano M, Kudo M, Yamao K, Takagi T, Sakamoto H, Komaki T, Kamata K, Imai H, Chiba Y, Okada M, Murakami T, Takeyama Y* : Characterization of small solid tumors in the pancreas: the value of contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography. *Am J Gastroenterol*, 107 (2) : 303-310, 2012.
- 002 *Kawai H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Matsuo K, Yamao K, Joh T* : Is endoscopic mucosal acceptable for Stage 0 or IA esophageal squamous cell carcinoma ~ . *Nagoya Medical Journal*, 52 (3) : 185-197, 2012.
- 003 *Kimura W, Moriya T, Hirai I, Hanada K, Abe H, Yanagisawa A, Fukushima N, Ohike N, Shimizu M, Hatori T, Fujita N, Maguchi H, Shimizu Y, Yamao K, Sasaki T, Naito Y, Tanno S, Tobita K, Tanaka M* : Multicenter study of serous cystic neoplasm of the Japan pancreas society. *Pancreas*, 41 (3) : 380-387, 2012.
- 004 *Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y* : Clinical impact of K-ras mutation analysis in EUS-guided FNA specimens from pancreatic masses. *Gastrointest Endosc*, 75 (4) : 769-774, 2012.
- 005 *Tanaka M, Fernandez-del Castillo C, Adsay V, Chari S, Falconi M, Jang JY, Kimura W, Levy P, Pitman MB, Schmidt CM, Shimizu M, Wolfgang CL, Yamaguchi K, Yamao K* : International consensus guidelines 2012 for the management of IPMN and MCN of the pancreas. *Pancreatology*, 12 (3) : 183-197, 2012.
- 006 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Matsumoto K, Kobayashi Y, Saeki A, Akabane A, Komori K, Yamao K* : Efficacy of mosapride citrate with polyethylene glycol solution for colonoscopy preparation. *World Gastroenterol*, 18 (20) : 2517-2525, 2012.
- 007 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y* : A first report of tumor cell implantation after EMR in a patient with rectosigmoid

cancer. *Gastrointest Endosc*, 75 (5) : 1117-1118, 2012.

- 008 *Ogura T, Tajika M, Hijioka S, Hara K, Haba S, Hosoda W, Yatabe Y, Asano S, Higuchi K, Yamao K, Niwa Y* : First report of mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma of the esophagus diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration (EUS-FNA), 44 (Suppl 02) : E167-168, 2012.
- 009 *Sawada Y, Yoshikawa T, Nobuoka D, Shirakawa H, Kuronuma T, Motomura Y, Mizuno S, Ishii H, Nakachi K, Konishi M, Nakagohri T, Takahashi S, Gotohda N, Takayama T, Yamao K, Uesaka K, Furuse J, Kinoshita T, Nakatsura T* : Phase I trial of a glypican-3-derived peptide vaccine for advanced hepatocellular carcinoma: immunologic evidence and potential for improving overall survival. *Clin Cancer Res*, 18 (13) : 3686-3696, 2012.
- 010 *Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajika M, Tanaka H, Matsuo K* : Selected polymorphisms of base excision repair genes and pancreatic cancer risk in Japanese. *J epidemiol*, 22 (6) : 477-483, 2012.
- 011 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K* : Diagnostic yield of endoscopic retrograde cholangiography and EUS-guided fine needle aspiration sampling in gallbladder carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19 (6) : 650-655, 2012.
- 012 *Ikeda M, Ioka T, Ito Y, Yonemoto N, Nagase M, Yamao K, Miyakawa H, Ishii H, Furuse J, Sato K, Sato T, Okusaka T* : A multicenter phase II trial of S-1 with concurrent radiation therapy for locally advanced pancreatic cancer. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 85 (1) : 163-169, 2013.
- 013 赤羽麻奈, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐伯 哲, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 谷田部 恭, 丹羽康正 : 転移性胃腫瘍8例の臨床病理学的検討. *日本消化器病学会*, 109 (4) : 585-592, 2012.
- 014 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 山雄健次 : 家族性大腸腺腫症における大腸切除術後の残存腸管に発生した腺腫に対する内視鏡治療からみた術式の検討. *家族性腫瘍*, 12 (2) : 17-21, 2012.

#### 〔症例報告〕

- 001 *Imaoka H, Yamao K, Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Tanaka T, Kondo S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y* : Pseudomyxoma peritonei arising from intraductal papillary neoplasm after surgical pancreatectomy: report of 2 cases and review of the literature. *Clin J*



Gastroenterol, 5: 15-19, 2012.

- 002 田中 努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 大林友彦, 関根匡成, 山雄健次, 谷田部 恭, 後藤秀実, 中村栄男: 胃原発の加齢性EBV関連B細胞リンパ増殖症の1例. 胃と腸, 47 (12): 1859-1864, 2012.

〔総説、その他〕

- 001 今岡 大, 清水泰博, 山雄健次: 【胆・膵疾患診療の最前線 新しいガイドラインによる有用な実地診療】 セミナー/知っておくべき臨床知識 胆・膵疾患の画像診断のポイントとコッ 腫瘍性病変を中心に. Medical Practice, 29 (1): 55-59, 2012.
- 002 脇岡 範, 長谷川俊之, 山雄健次: PNETの穿刺吸引細胞診(FNA) どの方法がベストで、そして何がわかるのか. 医学のあゆみ, 241 (2): 138-143, 2012.
- 003 脇岡 範, 原 和生, 山雄健次: 胆膵 胆道癌・膵癌の病理診断 EUS-FNA. 消化器内視鏡, 24 (4): 649-654, 2012.
- 004 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 山雄健次, 大林友彦, 長谷川俊之: 消化管EUS診断能のさらなる向上を目指して私はこうしている -潰瘍合併病変描出のコッ. 胃と腸, 47 (4): 553-555, 2012.
- 005 品川秋秀, 脇岡 範, 山雄健次: 膵腫瘍性病変に対するInterventional EUS. 胆膵内視鏡治療: 164, 2012.
- 006 永塩美邦, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: ナースのための消化器外科 ドレナ管理 -内視鏡的胆道ドレナージ (ENBD) -. 消化器外科ナーシング: 93-98, 2012.
- 007 永塩美邦, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 小倉 健, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 重川 稔, 山雄健次: FDG-PETによる自己免疫性膵炎に対するステロイド治療効果の判定とその意義. 胆と膵, 33 (5): 441-446, 2012.
- 008 原 和生: Clinical Challenge 膵腫瘍 問題. 肝胆膵画像, 14 (3): 192-193, 2012.
- 009 丹羽康正, 永塩美邦, 原 和生, 田近正洋, 谷田部 恭, 山雄健次: 下部消化管粘膜下腫瘍の診断と治療 GISTおよび間葉系腫瘍の診断・治療. 臨床消化器内科, 27 (8): 1079-1084, 2012.
- 010 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博: 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 胆膵の病態生理, 28 (1): 2012.
- 011 原 和生: Clinical Challenge 膵腫瘍 解説. 肝胆膵画像, 14 (5): 460-464, 2012.
- 012 今岡 大, 清水泰博, 山雄健次: 【消化器がん 診断・治療の進歩 (2)】 膵がんに対する超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) による診断 膵がん診断におけるEUS-FNAの現状と展望. 京都府立医科大学雑誌, 121 (8): 435-441, 2012.
- 013 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: EUSガイド下胆管ドレナージ. 胆と膵, 33

(特大号): 1085-1091, 2012.

- 014 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 丹羽康正, 山雄健次: IPMN経過観察における癌予測ノモグラムの有用性. 胆と膵, 33 (11): 1167-1172, 2012.
- 015 脇岡 範, 山雄健次: 消化器診療のすべて. 生検 消化器疾患診療のすべて: 111, 2012.
- 016 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: ERCP困難例におけるEUSガイド下胆管ドレナージ. 肝・胆・膵, 66 (1): 117-125, 2013.
- 017 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: EUS-FNAの適応と注意点. 消化器内視鏡, 25 (1): 142-147, 2013.
- 018 永塩美邦, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 吉澤尚彦, 関根匡成, 坂口将文, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: IPMNの悪性診断-嚢胞液分析・嚢胞液細胞診. 外科, 75 (2): 141-146, 2013.
- 019 原 和生: 胆管閉塞に対する経消化管的ドレナージ: EUS-CDS/HGS. 消化器内視鏡プロフェッショナルな技, 25 (2): 283-286, 2013.
- 020 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正: コンベックスEUSによるアプローチ胆道疾患に対する基本的走査法. 消化器内視鏡, 25 (2): 199-205, 2013.

〔分担執筆〕

- 001 Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Bhatia V, Shimizu Y: Endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy for malignant lower biliary tract obstruction. Gastrointest Endosc Clin N Am, 22 (2): 259-269, 2012.
- 002 原 和生: S-1+放射線照射 GEM+CDDP. 消化器がん化学療法レジメンブック: 139-144, 2012.

内視鏡部

〔原 著〕

- 001 Kawai H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Matsuo K, Yamao K, Joh T: Is endoscopic mucosal acceptable for Stage 0 or IA esophageal squamous cell carcinoma?. Nagoya Medical Journal., 52 (3): 185-197, 2012.
- 002 Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y: Clinical impact of K-ras mutation analysis in EUS-guided FNA specimens from pancreatic masses. Gastrointest Endosc, 75 (4): 769-774, 2012.

- 003 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Matsumoto K, Kobayashi Y, Saeki A, Akabane A, Komori K, Yamao K* : Efficacy of mosapride citrate with polyethylene glycol solution for colonoscopy preparation. *World Gastroenterol*, 18 (20) : 2517-2525, 2012.
- 004 *Shitara K, Sawaki A, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Niwa Y, Muro K* : A retrospective comparison of S-1 plus cisplatin and capecitabine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer. *Int J Clin Oncol*, 18 (3) : 539-546, 2012.
- 005 *Ogura T, Tajika M, Hijioka S, Hara K, Haba S, Hosoda W, Yatabe Y, Asano S, Higuchi K, Yamao K, Niwa Y* : First report of a mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma of the esophagus diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration (EUS-FNA). *Endoscopy*, 44 (Suppl 02) : E167-168, 2012.
- 006 *Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S, Muro K* : Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer*, 16 (2) : 261-267, 2012.
- 007 *Kato S, Takahashi E, Asano N, Tanaka T, Megahed N, Kinoshita T, Nakamura S* : Nodal cytotoxic molecule (CM) -positive Epstein-Barr virus (EBV) -associated peripheral T cell lymphoma (PTCL) : a clinicopathological study of 26 cases, 61 (2) : 186-199, 2012.
- 008 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K* : Diagnostic yield of endoscopic retrograde cholangiography and EUS-guided fine needle aspiration sampling in gallbladder carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19 (6) : 650-655, 2012.
- 009 *Shitara K, Mizota A, Matsuo K, Sato Y, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Muro K* : Fluoropyrimidine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal metastasis. *Gastric Cancer*, 16 (1) : 48-55, 2013.
- 010 赤羽麻奈, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐伯 哲, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 山雄健次, 谷田部 恭, 丹羽康正 : 転移性胃腫瘍8例の臨床病理学的検討. *日本消化器病学会*, 109 (4) : 585-592, 2012.
- 011 田近正洋, 丹羽康正, 近藤真也, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 山雄健次 : 家族性大腸腺腫症における大腸切除術後の残存腸管に発生した腺腫に対する内視鏡治療からみた術式の検討. *家族性腫瘍*, 12 (2) : 17-21, 2012.
- Pseudomyxoma peritonei arising from intraductal papillary neoplasm after surgical pancreatic resection: report of 2 cases and review of the literature. *Clin J Gastroenterol*, 5: 15-19, 2012.
- 002 *Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y* : A first report of tumor cell implantation after EMR in a patient with rectosigmoid cancer. *Gastrointest Endosc*, 75(5): 1117-1118, 2012.
- 003 田中 努, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 大林友彦, 関根匡成, 山雄健次, 谷田部 恭, 後藤秀実, 中村栄男: 胃原発の加齢性EBV関連B細胞リンパ増殖症の1例. *胃と腸*, 47 (12) : 1859-1864, 2012.
- 〔総説、その他〕
- 001 永塩美邦, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 小倉 健, 羽場 真, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次 : ナースのための消化器外科 ドレーン管理 -内視鏡的胆道ドレナージ (ENBD) -. *消化器外科ナーシング*: 93-98, 2012.
- 002 丹羽康正, 田中 努, 田近正洋, 近藤真也, 山雄健次, 大林友彦, 長谷川俊之 : 消化管 EUS 診断能のさらなる向上を目指して 私はどうしている -潰瘍合併病変描出のコツ. *胃と腸*, 47 (4) : 553-555, 2012.
- 003 永塩美邦, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 小倉 健, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 重川 稔, 山雄健次 : FDG-PETによる自己免疫性膵炎に対するステロイド治療効果の判定とその意義. *胆と膵*, 33 (5) : 441-446, 2012.
- 004 丹羽康正, 永塩美邦, 原 和生, 田近正洋, 谷田部 恭, 山雄健次 : 下部消化管粘膜下腫瘍の診断と治療 GISTおよび間葉系腫瘍の診断・治療. *臨床消化器内科*, 27 (8) : 1079-1084, 2012.
- 005 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美邦, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博 : 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. *胆膵の病態生理*, 28 (1), 2012.
- 006 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正 : EUSガイド下胆管ドレナージ. *胆と膵*, 33 (特大号) : 1085-1091, 2012.
- 007 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 丹羽康正, 山雄健次 : IPMN経過観察における癌予測ノモグラムの有用性. *胆と膵*, 33 (11) : 1167-1172, 2012.
- 008 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正 : ERCP困難例におけるEUSガイド下胆管ドレナージ. *肝・胆・膵*, 66 (1) : 117-125, 2013.
- 009 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦,

〔症例報告〕

- 001 *Imaoka H, Yamao K, Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Tanaka T, Kondo S, Tajika M, Shimizu Y, Niwa Y* :

- 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正 : EUS-FNAの適応と注意点. 消化器内視鏡, 25 (1) : 142-147, 2013.
- 010 永塩美邦, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 吉澤尚彦, 関根匡成, 坂口将文, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次 : IPMNの悪性診断—嚢胞液分析・嚢胞液細胞診. 外科, 75 (2) : 141-146, 2013.
- 011 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 永塩美邦, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正 : コンベックスEUSによるアプローチ胆道疾患に対する基本的走査法. 消化器内視鏡, 25 (2) : 199-205, 2013.
- 012 丹羽康正, 宮原良二, 後藤秀実 : 診断内視鏡のトピックス 超拡大内視鏡 (顕微内視鏡観察) の可能性. 内科, 111 (3) : 501-503, 2013.

#### 呼吸器内科部

[原 著]

- 001 *Sugano M, Nagasaka T, Sasaki E, Murakami Y, Hosoda W, Hida T, Mitsudomi T, Yatabe Y* : HNF4 $\alpha$  as a marker for invasive mucinous adenocarcinoma of the lung. *Am J Surg Pathol*, 37 (2) : 211-218, 2013.
- 002 *Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Matsudaira Y, Ito H, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y* : TGF- $\beta$  synergizes with defects in the Hippo pathway to stimulate human malignant mesothelioma growth. *J Exp Med*, 12; 209: 479-494, 2012.
- 003 *Shinjo K, Okamoto Y, An B, Yokoyama T, Takeuchi I, Fujii M, Osada H, Usami N, Hasegawa Y, Ito H, Hida T, Fujimoto N, Kishimoto T, Sekido Y, Kondo Y* : Integrated analysis of genetic and epigenetic alterations reveals CpG island methylator phenotype associated with distinct clinical characters of lung adenocarcinoma. *Carcinogenesis*, 33: 1277-1285, 2012.
- 004 *Ito H, McKay JD, Hosono S, Hida T, Yatabe Y, Mitsudomi T, Brennan P, Tanaka H, Matsuo K* : Association between a genome-wide association study-identified locus and the risk of lung cancer in Japanese population. *J Thorac Oncol*, 7 : 790-798, 2012.
- 005 *Niho S, Kunitoh H, Nokihara H, Horai T, Ichinose Y, Hida T, Yamamoto N, Kawahara M, Shinkai T, Nakagawa K, Matsui K, Negoro S, Yokoyama A, Fukuoka M* : JO19907 Study Group. Randomized phase II study of first-line carboplatin-paclitaxel with or without bevacizumab in Japanese patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer. *Lung Cancer*, 76 : 362-367, 2012.
- 006 *Ogawa S, Horio Y, Yatabe Y, Fukui T, Ito S, Hasegawa Y, Mitsudomi T, Hida T* : Patterns of recurrence and outcome in patients with surgically resected small cell

lung cancer. *Int J Clin Onco*, 117 : 218-224, 2012.

- 007 福岡和也, 関戸好孝, 樋田豊明, 河原邦光, 太田三徳, 松村晃秀, 岡田守人, 岸本卓巳, 中野喜久男, 中野孝司 : 悪性中皮腫の血清診断における可溶性メソテリン関連ペプチド (SMRP : Soluble Mesothelin-related Peptides) の有用性に関する多施設共同試験. *医学と薬学*, 68 (1) : 177-183, 2012.

#### 血液・細胞療法部

- 001 *Kagami Y, Itoh K, Tobinai K, Fukuda H, Mukai K, Chou T, Mikuni C, Kinoshita T, Fukushima N, Kiyama Y, Suzuki T, Sasaki T, Watanabe Y, Tsukasaki K, Hotta T, Shimoyama M, Ogura M* : The members of the Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group : Phase II study of cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, prednisolone (CHOP) therapy for newly diagnosed patients with low-and low-intermediate risk, aggressive non-Hodgkin's lymphoma; final results of Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG9508. *Int J Hematol*, 96: 74-83, 2012.
- 002 *Kawabe S, Ito Y, Gotoh K, Kojima S, Matsumoto M, Tomohiro Kinoshita T, Iwata S, Nishiyama Y, Kimura H* : Application of flow cytometric in situ hybridization assay to Epstein-Barr virus-associated T/natural killer cell lymphoproliferative diseases. The official journal of Japanese Cancer Association, 103 (8) : 1481-1488, 2012.
- 003 *Yamaguchi M, Tobinai K, Oguchi M, Ishizuka N, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Maseki N, Itoh K, Usui N, Wasada I, Kinoshita T, Hotta T, Tsukasaki K, Oshimi K* : Concurrent Chemoradiotherapy for Localized Nasal Matural Killer/T-Cell Lymphoma: An Updated Analysis of the japan Clinical Oncology Group Study JCOG0211. *Journal Of Clinical Oncology*, 130 (32): 4044-4046, 2012.
- 004 *Oki Y, Kondo Y, Yamamoto K, Ogura M, Kasai M, Kobayashi Y, Watanabe T, Uike N, Ohyashiki K, Okamoto SI, Ohnishi K, Tomita A, Miyazaki Y, Tohyama K, Mukai HY, Hotta T, Tomonaga M* : Phase I/II study of decitabine in patients with myelodysplastic syndrome: A multi-center study in Japan. *Cancer Sci.*, 103 (10) :1839-47, 2012.
- 005 *Liu F, Asano N, Tatematsu A, Oyama T, Kitamura K, Suzuki K, Yamamoto K, Sakamoto N, Taniwaki M, Kinoshita T, Nakamura S* : Plasmablastic lymphoma of the elderly: a clinicopathological comparison with age-related Epstein-Barr virus-associated B cell lymphoproliferative disorder. *Histopathology*, 61 (6) : 1183-97, 2012.
- 006 *Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Kato H, Katayama M, Ko YH, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M* : Comprehensive gene expression



profiles of NK cell neoplasms identify vorinostat as an effective drug candidate. *Cancer Lett*, doi:10.1016/j.canlet.2012.12.022. Epub 2013 Jan 21. PMID: 23348693 [PubMed - indexed for MEDLINE], 333 (1) : 47-55, 2013.

007 **Liu F, Yoshida N, Suguro M, Kato H, Karube K, Arita K, Yamamoto K, Tsuzuki S, Oshima K, Seto M** : Clonal heterogeneity of mantle cell lymphoma revealed by array comparative genomic hybridization. *Eur J Haematol*; doi: 10.1111/ejh.12030. PMID: 23110670 [PubMed - indexed for MEDLINE], 90 (1) : 51-8, 2013.

008 **Liu F, Karube K, Kato H, Arita K, Yoshida N, Yamamoto K, Tsuzuki S, Kim W, Ko YH, Seto M** : Mutation analysis of NF- $\kappa$ B signal pathway-related genes in ocular MALT lymphoma. *Int J Clin Exp Pathol*, Epub 2012 May 23, 5 (5) : 436-41, 2012.

009 **木下 朝博** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 成人病と生活習慣病, 42 (6) : 720-725, 2012.

010 **木下 朝博** : 初診の悪性リンパ腫の外来検査・治療. *血液内科*, 64 (6) : 683-689, 2012.

011 **木下 朝博** : 総論: 悪性リンパ腫の薬物療法をめぐって. *臨床腫瘍ブракティス*, 8 (3) : 206-209, 2012.

012 **木下朝博** : リンパ腫の最近の診療キーポイント 胃悪性リンパ腫の病態・病気分類と治療の考えかた. *Medical Practice*, 29 (8) : 1316-1318, 2012.

013 **木下朝博** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫で、R-CHOP療法を凌駕する方法はあるか?. *EBM血液疾患の治療*, 中外医学社 : 263-267, 2012.

014 **木下朝博** : CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫は、CD5陰性のもものと異なる方針をとるべきか?. *EBM血液疾患の治療*, 中外医学社 : 268-269, 2012.

015 **木下朝博** : 非Hodgkinリンパ腫 (NHL). *新臨床腫瘍学*ががん薬物療法専門医のために 改定第3版, 日本臨床腫瘍学会編集, 南江堂 : 573-582, 2012.

016 **木下 朝博** : 診断最新のポイント 分子診断. *現代医学*, 60 (2) : 229-232, 2012.

017 **木下 朝博** : リンパ腫に対する新しい治療選択 抗CD30抗体. *腫瘍内科*, 科学評論社, 11 (3) : 342-346, 2013.

018 **加藤春美, 山本一仁** : 低悪性度リンパ腫に対するボルテゾミブの臨床効果. *血液内科*, 64 (5) : 615-624, 2012.

019 **山本一仁** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の標準治療とresearch questions (総説). *臨床血液*, 53 (10) : 1634-1648, 2012.

020 **村上五月, 山本一仁** : Rituximabを含む濾胞性リンパ腫治療後再発に対するofatumumabの効果. *血液内科*, 66 (2) : 214-218, 2013.

021 **山本一仁** : ヒストン脱アセチル酵素阻害剤によるリンパ腫治療の現状と展望. 木崎昌弘編, *造血器腫瘍とエピジェネティクスー治療への応用と新たな展開*, 医薬ジャーナル社: 207-216, 2012.

022 **加藤春美** : 濾胞性リンパ腫とマンツル細胞リンパ腫患者における採取自家造血幹細胞中の微小残存病変検出の臨床的意義. *血液内科*, 66 (4) : 521-530, 2012.

## 薬物療法部

001 **Kato T, Muro K, Yamaguchi K, Bando H, Hazama S, Amagai K, Baba H, Denda T, Shi X, Fukase K, Saakmaoto J, Mishima H** : Cediranib in combination with mFOLFOX6 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer: results from the randomized phase II part of a Phase I/II study. *Ann Oncol*, 23: 933-41, 2012.

002 **Shitara K, Ikeda J, Kondo C, Takahari D, Ura T, Muro K, Matsuo K** : Reporting patient characteristics and stratification factors in randomized trials of systemic chemotherapy for advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 15: 137-43, 2012.

003 **Shitara K, Yuki S, Yoshida M, Takahari D, Utsunomiya S, Yokota T, Sato Y, Inaba Y, Tajika M, Kawai H, Yamaura H, Kato M, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K** : Phase II study of combination chemotherapy with biweekly cetuximab and irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer refractory to irinotecan, oxaliplatin, and fluoropyrimidines. *Invest New Drugs*, 30 (2) : 787-93, 2012.

004 **Shitara K, Yatabe Y, Yokota T, Takahari D, Shibata T, Ura T, Satoh Y, Kodera Y, Muro K** : Trastuzumab for a patient with heavily pretreated gastric cancer plus massive ascites and ovarian metastasis. *Gastrointest Cancer Res*, 5: 97-9, 2012.

005 **Shitara K, Ikeda J, Yokota T, Takahari D, Ura T, Muro K, Matsuo K** : Progression-free survival and time to progression as surrogate markers of overall survival in patients with advanced gastric cancer: analysis of 36 randomized trials. *Invest New Drugs*, 30: 1224-1231, 2012.

006 **Tsuji Y, Satoh T, Tsuji A, Muro K, Yoshida M, Nishina T, Nagase M, Komatsu Y, Kato T, Miyata Y, Mizutani N, Hashigaki S, Lechuga MJ, Denda T** : First-line sunitinib plus FOLFIRI in Japanese patients with unresectable/metastatic colorectal cancer: a phase II study. *Cancer Sci*, 103: 1502-1507, 2012.

007 **Kondoh C, Takahari D, Shitara K, Mizota A, Nomura M, Yokota T, Ura T, Ito S, Kawai H, Sawaki A, Muro K** : Efficacy of docetaxel in patients with paclitaxel-resistant advanced gastric cancer. *癌と化学療法*, 癌と化学療法社, 39: 1511-5, 2012.

008 **Yoshino T, Mizunuma N, Yamazaki K, Nishina T, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K, Sugimoto N, Tsuji Y, Moriwaki T, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Ohtsu A** : TAS-102 monotherapy for pre-treated metastatic colorectal cancer: a double-blind, randomised, placebo-controlled phase 2 trial. *Lancet Oncol*, 13 : 993-1001, 2012.

009 **Arai Y, Ohtsu A, Sato Y, Aramaki T, Kato K, Hamada M, Muro K, Yamada Y, Inaba Y, Shimada Y, Boku N, Takeuchi Y, Morita S, Satake M** : Phase I/II Study of Radiologic Hepatic Arterial Infusion of Fluorouracil

- Plus Systemic Irinotecan for Unresectable Hepatic Metastases from Colorectal Cancer: Japan Clinical Oncology Group Trial 0208-DI. *J Vasc Interv Radiol*, 23 (10) : 1261-7, 2012.
- 010 **Kim YH, Muro K, Yasui H, Chen JS, Ryu MH, Park SH, Chu KM, Choo SP, Sanchez T, Delacruz C, Mukhopadhyay P, Lainas I, Li CP** : A phase II trial of ixabepilone in Asian patients with advanced gastric cancer previously treated with fluoropyrimidine-based chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*, 70: 583-90, 2012.
- 011 **Nomura M, Shitara K, Kodaira T, Kondoh C, Takahari D, Ura T, Kojima H, Kamata M, Muro K, Sawada S** : Recursive partitioning analysis for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 84 : 786-792, 2012.
- 012 **Shitara K, Mizota A, Matsuo K, Sato Y, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Muro K** : Fluoropyrimidine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal metastasis. *Gastric Cancer*, 16: 48-55, 2013.
- 013 **室 圭** : 大腸癌治療における分子標的治療薬の位置づけ. 月刊カレントセラピー別冊, ライフメディコム, 30: 81-86, 2012.
- 014 **坂根 誠, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 金本高明, 友澤裕樹, 稲葉吉隆, 室 圭** : CisplatinとDegradable Starch Microspheresを用いた肝動注化学療法がブドウ膜悪性黒色腫肝転移に有効であった1例. *癌と化学療法, 癌と化学療法社*, 39 (6) : 959-961, 2012.
- 015 **室 圭** : 発熱性好中球減少症 (FN) 診療ガイドライン. 南江堂, 2012.
- 016 **室 圭** : ベバシズマブ 3) 大腸がん治療におけるベバシズマブを含むregimenと期待される血管新生阻害薬. *腫瘍内科*, 9: 495-501, 2012.
- 017 **谷口浩也, 室 圭** : 胃がん. 最新医学 増刊号, 最新医学社, 67 : 2144-57, 2012.
- 018 **室 圭** : 消化器疾患診療のすべて. 日本医師会雑誌, 日本医師会, 141 (特2) : 148-151, 2012.
- 019 **山口和久 翻訳, 室 圭 監修** : ASCO-SEP second edition 日本語版. *ヘスコインターナショナル*, 8 : Chapter 20, 2012.
- 020 **新田壮平 翻訳, 室 圭 監修** : ASCO-SEP second edition 日本語版. *ヘスコインターナショナル*, 8: Chapter 21, 2012.
- 021 **小森 梓 翻訳, 室 圭 監修** : ASCO-SEP second edition 日本語版. *ヘスコインターナショナル*, 8: Chapter 22, 2012.
- 022 **高張大亮** : ASCOサマリー : 消化器腫瘍分野 TOPICS2. *がん分子標的治療, メディカルレビュー社*, 104: 59-68, 2012.
- 023 **新田壮平, 高張大亮** : HER2の転移性胃癌・胃食道接合部癌に対する予後因子としての検討 (文献紹介). *胃癌perspective, メディカルレビュー社*, 5 (4) : 274-276, 2012.
- 024 **高張大亮** : 2.胃癌周術期補助化学療法の現状と新展開. 特集消化器癌化学療法—新たなエビデンスを求めて. *臨床消化器内科, 日本メディカルセンター*, 28 (3) : 73-78, 2013.
- 臨床検査部・遺伝子病理診断部
- 001 **Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Matsudaira Y, Ito H, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y** : Tgf-Beta Synergizes with Defects in the Hippo Pathway to Stimulate Human Malignant Mesothelioma Growth. *J Exp Med*, 209: 479-94, 2012.
- 002 **Fujita Y, Suda K, Kimura H, Matsumoto K, Arao T, Nagai T, Saijo N, Yatabe Y, Mitsudomi T, Nishio K** : Highly Sensitive Detection of Egfr T790m Mutation Using Colony Hybridization Predicts Favorable Prognosis of Patients with Lung Cancer Harboring Activating Egfr Mutation. *J Thorac Oncol*, 7: 1640-4, 2012.
- 003 **Fukui T, Yatabe Y, Kobayashi Y, Tomizawa K, Ito S, Hatooka S, Matsuo K, Mitsudomi T** : Clinicoradiologic Characteristics of Patients with Lung Adenocarcinoma Harboring Eml4-Alk Fusion Oncogene. *Lung Cancer*, 77 :319-25, 2012.
- 004 **Furuya M, Tanaka R, Koga S, Yatabe Y, Gotoda H, Takagi S, Hsu YH, Fujii T, Okada A, Kuroda N, Moritani S, Mizuno H, Nagashima Y, Nagahama K, Hiroshima K, Yoshino I, Nomura F, Aoki I, Nakatani Y** : Pulmonary Cysts of Birt-Hogg-Dube Syndrome: A Clinicopathologic and Immunohistochemical Study of 9 Families. *Am J Surg Pathol*, 36: 589-600, 2012.
- 005 **Haba S, Yamao K, Bhatia V, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Yatabe Y, Hosoda W, Kawakami H, Sakamoto N** : Diagnostic Ability and Factors Affecting Accuracy of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Solid Lesions: Japanese Large Single Center Experience. *J Gastroenterol*, 48: 973-81, 2013.
- 006 **Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K** : Diagnostic Yield of Endoscopic Retrograde Cholangiography and of Eus-Guided Fine Needle Aspiration Sampling in Gallbladder Carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 19: 650-5, 2012.
- 007 **Horio A, Fujita T, Hayashi H, Hattori M, Kondou N, Yamada M, Adachi E, Ushio A, Gondou N, Sueta A, Yatabe Y, Iwata H** : High Recurrence Risk and Use of Adjuvant Trastuzumab in Patients with Small, Her2-Positive, Node-Negative Breast Cancers. *Int J Clin Oncol*, 17: 131-6, 2012.
- 008 **Ito H, McKay JD, Hosono S, Hida T, Yatabe Y, Mitsudomi T, Brennan P, Tanaka H, Matsuo K** : Association between a Genome-Wide Association

- Study-Identified Locus and the Risk of Lung Cancer in Japanese Population. *J Thorac Oncol*, 7: 790-8, 2012.
- 009 **Iwakoshi A, Murakumo Y, Kato T, Kitamura A, Mii S, Saito S, Yatabe Y, Takahashi M**: Ret Finger Protein Expression Is Associated with Prognosis in Lung Cancer with Epidermal Growth Factor Receptor Mutations. *Pathol Int*, 62: 324-30, 2012.
- 010 **Kawakita D, Matsuo K, Sato F, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Tajima K, Murakami S, Tanaka H**: Association between Dietary Folate Intake and Clinical Outcome in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *Ann Oncol*, 23: 186-92, 2012.
- 011 **Li P, Goto H, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M**: P90 Rsk Arranges Chk1 in the Nucleus for Monitoring of Genomic Integrity During Cell Proliferation. *Mol Biol Cell*, 23: 1582-92, 2012.
- 012 **Masago K, Hosada W, Sasaki E, Murakami Y, Sugano M, Nagasaka T, Yamada M, Yatabe Y**: Is Primary Pulmonary Meningioma a Giant Form of a Meningothelial-Like Nodule~ A Case Report and Review of the Literature. *Case Rep Oncol*, 5: 471-8, 2012.
- 013 **Matsuo K, Rossi M, Negri E, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Tanaka H, Tajima K, La Vecchia C**: Folate, Alcohol, and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism and the Risk of Oral and Pharyngeal Cancer in Japanese. *Eur J Cancer Prev*, 21: 193-8, 2012.
- 014 **Matsuzuka T, Takahashi K, Kawakita D, Kohno N, Nagafuji H, Yamauchi K, Suzuki M, Miura T, Furuya N, Yatabe Y, Matsuo K, Omori K, Hasegawa Y**: Intraoperative Molecular Assessment for Lymph Node Metastasis in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Using One-Step Nucleic Acid Amplification (Osna) Assay. *Ann Surg Oncol*, 19: 3865-70, 2012.
- 015 **Mizuno M, Yatabe Y, Nawa A, Nakanishi T**: Long-Term Medroxyprogesterone Acetate Therapy for Low-Grade Endometrial Stromal Sarcoma. *Int J Clin Oncol*, 17: 348-54, 2012.
- 016 **Murakami Y, Mitsudomi T, Yatabe Y**: A Screening Method for the Alk Fusion Gene in Nscl. *Front Oncol*, 2: 24, 2012.
- 017 **Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K**: Selected Polymorphisms of Base Excision Repair Genes and Pancreatic Cancer Risk in Japanese. *J Epidemiol*, 22: 477-83, 2012.
- 018 **Ng KP, Hillmer AM, Chuah CT, Juan WC, Ko TK, Teo AS, Ariyaratne PN, Takahashi N, Sawada K, Fei Y, Soh S, Lee WH, Huang JW, Allen JC, Jr., Woo XY, Nagarajan N, Kumar V, Thalamuthu A, Poh WT, Ang AL, Mya HT, How GF, Yang LY, Koh LP, Chowbay B, Chang CT, Nadarajan VS, Chng WJ, Than H, Lim LC, Goh YT, Zhang S, Poh D, Tan P, Seet JE, Ang MK, Chau NM, Ng QS, Tan DS, Soda M, Isobe K, Nothen MM, Wong TY, Shahab A, Ruan X, Cacheux-Rataboul V, Sung WK, Tan EH, Yatabe Y, Mano H, Soo RA, Chin TM, Lim WT, Ruan Y, Ong ST**: A Common Bim Deletion Polymorphism Mediates Intrinsic Resistance and Inferior Responses to Tyrosine Kinase Inhibitors in Cancer. *Nat Med*, 18: 521-8, 2012.
- 019 **Ogawa S, Horio Y, Yatabe Y, Fukui T, Ito S, Hasegawa Y, Mitsudomi T, Hida T**: Patterns of Recurrence and Outcome in Patients with Surgically Resected Small Cell Lung Cancer. *Int J Clin Oncol*, 17: 218-24, 2012.
- 020 **Ogawa Y, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Honda K, Yuuki S, Hirai T, Ikeda M**: Association of Cerebral Small Vessel Disease with Delusions in Patients with Alzheimer's Disease. *Int J Geriatr Psychiatry*, 28 (1) : 18-25, 2013.
- 021 **Ogura T, Tajika M, Hijioka S, Hara K, Haba S, Hosoda W, Yatabe Y, Asano S, Higuchi K, Yamao K, Niwa Y**: First Report of a Mucosa-Associated Lymphoid Tissue (Malt) Lymphoma of the Esophagus Diagnosed by Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration (Eus-Fna). *Endoscopy*, 44 Suppl 2 UCTN: E167-8, 2012.
- 022 **Ogura T, Yamao K, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Sawaki A, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y**: Prognostic Value of K-Ras Mutation Status and Subtypes in Endoscopic Ultrasound-Guided Fine-Needle Aspiration Specimens from Patients with Unresectable Pancreatic Cancer. *J Gastroenterol*, doi: 10.1007/s00535-012-0664-2. Epub 2012 Sep 15, 2012.
- 023 **Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y**: Clinical Impact of K-Ras Mutation Analysis in Eus-Guided Fna Specimens from Pancreatic Masses. *Gastrointest Endosc*, 75: 769-74, 2012.
- 024 **Oka K, Nagayama R, Yonekawa N, Nihei T, Sando N, Yatabe Y, Mori N**: Concurrent Gastric Malt and Hodgkin Lymphoma: A Case Report. *Int J Surg Pathol*, 20: 201-4, 2012.
- 025 **Oka K, Sarashina G, Yonekawa N, Watanabe O, Miyao Y, Hashimoto T, Yatabe Y**: G-Csf-Producing Malignant Pleural Mesothelioma: An Autopsy Case Report with Literature Review. *Int J Surg Pathol*, 20: 272-5, 2012.
- 026 **Sato S, Takahashi S, Asamoto M, Nakanishi M, Wakita T, Ogura Y, Yatabe Y, Shirai T**: Histone H1 Expression in Human Prostate Cancer Tissues and Cell Lines. *Pathol Int*, 62: 84-92, 2012.
- 027 **Shitara K, Yatabe Y, Yokota T, Takahari D, Shibata T, Ura T, Satoh Y, Kadera Y, Muro K**: Trastuzumab for a Patient with Heavily Pretreated Gastric Cancer



- Plus Massive Ascites and Ovarian Metastasis. *Gastrointest Cancer Res*, 5: 97-9, 2012.
- 028 **Suda K, Tomizawa K, Mizuuchi H, Ito S, Kitahara H, Shimamatsu S, Kohno M, Yoshida T, Okamoto T, Maehara Y, Yatabe Y, Mitsudomi T**: Genetic and Prognostic Differences of Non-Small Cell Lung Cancer between Elderly Patients and Younger Counterparts. *Aging Dis*: 438-43, 2012.
- 029 **Suda K, Tomizawa K, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T**: Conversion from the "Oncogene Addiction" to "Drug Addiction" by Intensive Inhibition of the Egfr and Met in Lung Cancer with Activating Egfr Mutation. *Lung Cancer*, 76: 292-9, 2012.
- 030 **Sueta A, Ito H, Islam T, Hosono S, Watanabe M, Hirose K, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Iwase H, Matsuo K**: Differential Impact of Body Mass Index and Its Change on the Risk of Breast Cancer by Molecular Subtype: A Case-Control Study in Japanese Women. *Springerplus*, 1: 39, 2012.
- 031 **Sueta A, Ito H, Kawase T, Hirose K, Hosono S, Yatabe Y, Tajima K, Tanaka H, Iwata H, Iwase H, Matsuo K**: A Genetic Risk Predictor for Breast Cancer Using a Combination of Low-Penetrance Polymorphisms in a Japanese Population. *Breast Cancer Res Treat.*, 132: 711-21, 2012.
- 032 **Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kondo S, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Haba S, Ogura T, Hirai T, Yamao K, Yatabe Y**: A First Report of Tumor Cell Implantation after Emr in a Patient with Rectosigmoid Cancer. *Gastrointest Endosc*, 75: 1117-8, 2012.
- 033 **Thunnissen E, Beasley MB, Borczuk AC, Brambilla E, Chirieac LR, Dacic S, Flieder D, Gazdar A, Geisinger K, Hasleton P, Ishikawa Y, Kerr KM, Lantejoul S, Matsuno Y, Minami Y, Moreira AL, Motoi N, Nicholson AG, Noguchi M, Nonaka D, Pelosi G, Petersen I, Rekhman N, Roggli V, Travis WD, Tsao MS, Wistuba I, Xu H, Yatabe Y, Zakowski M, Witte B, Kuik DJ**: Reproducibility of Histopathological Subtypes and Invasion in Pulmonary Adenocarcinoma. An International Interobserver Study. *Mod Pathol*, 25: 1574-83, 2012.
- 034 **Ueno T, Toyooka S, Suda K, Soh J, Yatabe Y, Miyoshi S, Matsuo K, Mitsudomi T**: Impact of Age on Epidermal Growth Factor Receptor Mutation in Lung Cancer. *Lung Cancer*, 78: 207-11, 2012.
- 035 **Yamada T, Takeuchi S, Fujita N, Nakamura A, Wang W, Li Q, Oda M, Mitsudomi T, Yatabe Y, Sekido Y, Yoshida J, Higashiyama M, Noguchi M, Uehara H, Nishioka Y, Sone S, Yano S**: Akt Kinase-Interacting Protein1, a Novel Therapeutic Target for Lung Cancer with Egfr-Activating and Gatekeeper Mutations. *Oncogene*, 2012.
- 036 **Yatabe Y, Pao W, Jett JR**: Encouragement to Submit Data of Clinical Response to Egfr-Tkis in Patients with Uncommon Egfr Mutations. *J Thorac Oncol*, 7: 775-6, 2012.
- 037 **谷田部 恭, 柴田典子**: 注目される新しい病態・疾患概念と臨床検査 呼吸器疾患編 肺癌の遺伝子診断と治療選択. *臨床病理*, (0047-1860), 60 (8): 786-795, 2012.
- 038 **谷田部 恭**: 肺癌でのALKの免疫染色は無用～ 病理と臨床, (0287-3745), 30 (12): 1402-1403, 2012.
- 039 **谷田部 恭**: 【コンパニオン診断】 肺癌におけるコンパニオン診断. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (12): 1315-1320, 2012.
- 040 **村上善子, 谷田部 恭**: 分子腫瘍学の知見を病理診断に活かす (第5回) 同時に発見された子宮体癌と卵巣腫瘍についての考察 遺伝子検査を用いて. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (8): 895-898, 2012.
- 041 **長坂 暢, 谷田部 恭**: 分子腫瘍学の知見を病理診断に活かす (第6回) 甲状腺癌の既往のある患者での、孤立性肺腫瘍 TTF-1は、肺腺癌、甲状腺癌ではともに陽性であり、鑑別に用いることができない どうするか～. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (9): 1001-1004, 2012.
- 042 **尾関直樹, 福井高幸, 丹羽由紀子, 吉田公秀, 谷田部 恭, 光富徹哉**: 肺非結核性抗酸菌症による肉芽腫と肺腺癌を同一病巣内に認めた1例. *肺癌*, (0386-9628), 52 (2): 238-241, 2012.
- 043 **柴田典子, 野中綾子, 谷田部 恭**: ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 標本から抽出したRNAを用いたKRAS遺伝子変異検査法の検討. *日本染色体遺伝子検査学会雑誌*, (1884-3026), 30 (1): 18-25, 2012.
- 044 **菅野雅人, 谷田部 恭**: 分子腫瘍学の知見を病理診断に活かす (第4回) EMR瘢痕に生じた直腸癌. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (7): 783-786, 2012.
- 045 **細田和貴, 谷田部 恭**: 分子腫瘍学の知見を病理診断に活かす (第2回) 非典型的な膝SPTをどう考えるか～ 病理と臨床, (0287-3745), 30 (5): 547-550, 2012.
- 046 **谷田部 恭**: 【肺腺癌の診断と治療－新しい分類と臨床治療の変化－】 【肺腺癌の診断】 肺腺癌の分子病理. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (5): 516-519, 2012.
- 047 **谷田部 恭**: ALK診断の要点. *がん分子標的治療*, (1347-6955), 10 (3): 216-223, 2012.
- 048 **谷田部 恭**: 【肺がん治療2012】 肺がんの病理 肺腺がんの新病理分類. *Mebio*, (0910-0474), 29 (7): 8-15, 2012.
- 049 **佐々木英一, 谷田部 恭**: 子腫瘍学の知見を病理診断に活かす (第3回) 子宮頸癌の既往を有する女性に発生した肺扁平上皮癌をどう考えるか～. *病理と臨床*, (0287-3745), 30 (6): 671-674, 2012.
- 050 **永塩 美邦, 水野 伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤 真也, 田近 正洋, 丹羽 康正, 小倉 健, 羽場 真, 大林 友彦, 品川 秋秀, 長谷川俊之, 清水 泰博, 細田 和貴, 谷田部 恭, 重川 稔, 山雄 健次**: 【脾疾患診療におけるFDG-PETの有用性】 FDG-PETによる自己免疫性脾炎に対するステロイド治療効果の判定とその意義. *胆と脾*, (0388-9408), 33 (5): 441-446, 2012.
- 051 **小倉 健, 山雄 健次, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美邦, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷**

田部 恭：【睥癌update 2012】 診断 睥癌診断におけるEU S、EUS-FNAの位置づけ。外科，(0016-593X)，74 (5)：85-490，2012。

- 052 赤羽麻奈，田近正洋，近藤真也，田中 努，水野伸匡，原 和生，脇岡 範，今岡 大，佐伯 哲，小倉 健，羽場 真，永塩美邦，長谷川俊之，大林友彦，品川秋秀，山雄健次，谷田部 恭，丹羽康：転移性胃腫瘍8例の臨床病理学的検討。日本消化器病学会雑誌，(0446-6586)，109 (4)：585-592，2012。

#### 頭頸部外科部

- 001 *Maseki S, Ijichi S, Tanaka H, Fujii M, Hasegawa Y, Ogawa T, Murakami S, Kondo E, Nakanishi H* : Acquisition of EMT phenotype in the gefitinib-resistant cells of head and neck squamous cell carcinoma cell line through Akt/GSK-3 $\beta$ /snail signalling pathway. *Br J Cancer*, 106: 1196-1204, 2012.
- 002 *Kawakita D, Sato F, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Hanai N, Hatooka S, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K* : Inverse association between yoghurt intake and upper aerodigestive tract cancer risk in a Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 21 (5) : 453-9, 2012.
- 003 *Matsuzuka T, Takahashi K, Kawakita D, Kohno N, Nagafuji H, Yamauchi K, Suzuki M, Miura T, Furuya N, Yatabe Y, Matsuo K, Omori K, Hasegawa Y* : Intraoperative molecular assessment for lymph Node metastasis in head and neck squamous cell carcinoma using one-step nucleic acid amplification (OSNA) assay. *Ann Surg Oncol*, 19 (12) : 3865-70, 2012.
- 004 *Hiramatsu M, Teranishi M, Uchida Y, Nishio N, Suzuki H, Kato K, Otake H, Yoshida T, Tagaya M, Suzuki H, Sone M, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T* : Polymorphisms in genes involved in inflammatory pathways in patients with sudden sensorineural hearing loss. *J Neurogenet*, 26 (3-4) : 387-96, 2012.
- 005 *Kano S, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M* : Salvage surgery for recurrent oropharyngeal cancer after chemoradiotherapy. *Int J Clin Oncol*, 2012 Jul 25. [Epub ahead of print]
- 006 *Suzuki M, Kawakita D, Hanai N, Hirakawa H, Ozawa T, Terada A, Omori K, Hasegawa Y* : The contribution of neck dissection for residual neck disease after chemoradiotherapy in advanced oropharyngeal and hypopharyngeal squamous cell carcinoma patients. *Int J Clin Oncol*, 2012 May 16. [Epub ahead of print]
- 007 *Hanai N, Kawakita D, Ozawa T, Hirakawa H, Kodaira T, Hasegawa Y* : Neck dissection after chemoradiotherapy for oropharyngeal and hypopharyngeal cancer: the correlation between cervical lymph node metastasis

and prognosis. *Int J Clin Oncol*, 2013 Jan 23. [Epub ahead of print]

- 008 川北大介，村上信五，長谷川泰久，田中英夫，松尾恵太郎：頭頸部扁平上皮癌の疫学と発癌因子 タバコ・アルコールと頭頸部扁平上皮癌。JOHNS, 28 (8) : 1155-1159, 2012.
- 009 花井信広，鈴木淳志，小澤泰次郎，平川 仁，長谷川泰久：頭頸部扁平上皮癌再発ハイリスク例に対するWeekly Cisplatin 併用術後化学放射線療法。癌と化学療法，39 (10) : 1495-1500, 2012.
- 010 川北大介，花井信広，寺田聡広，小澤泰次郎，平川 仁，丸尾貴志，三上慎司，鈴木淳志，宮崎拓也，村上信五，長谷川泰久：頭頸部再建におけるオートガイ下皮弁の有用性。頭頸部外科，22 (2) : 215-220, 2012.
- 011 花井信広，古川まどか，藤本保志，松浦一登，門田伸也，齊川雅久：化学放射線療法後の頸部郭清に関する検討 - feasibility study-。頭頸部外科，22 (2) : 233-240, 2012.
- 012 花井信広，小澤泰次郎，平川 仁，鈴木秀典，小出悠介，福田裕次郎，長谷川泰久：ハーモニックFOCUSを用いた下咽頭癌手術。日本気管食道科学会会報，63 (6) : 436-441, 2012.
- 013 鈴木秀典，長谷川泰久：PET/CTによる下咽頭癌治療の個別化。耳鼻と臨床，58 (補1) : S81-S83, 2012.
- 014 鈴木秀典，長谷川泰久：第2章 頭頸部のさまざまな症状—どのようときに癌を疑うべきか，どのように検査を進めるか 頸部の症状。がんを見逃さない—頭頸部癌診療の最前線 編集 岸本誠司，中山書店：49-55, 2012.

#### 形成外科部

- 001 *Hirakawa H, Hasegawa Y, Hanai N, Ozawa T, Hyodo I, Suzuki M* : Surgical site infection in clean-contaminated head and neck cancer surgery: risk factors and prognosis. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, 3 (270) : 1115-23, 2013.
- 002 *Kohyama K, Sugiura H, Yamada K, Hyodo I, Kato H, Kamei Y* : Posterior interosseous nerve palsy secondary to pigmented villonodular synovitis of the elbow: case report and review of literature. *Orthop Traumatol Surg Res*, 99 (2) : 247-51, 2013.
- 003 神山圭史，兵藤伊久夫，水上高秀，長谷川泰久，寺田聡広，花井信広，小澤泰次郎，平川 仁，鈴木淳志，宮崎拓也，原田生功磨，亀井 譲：当院における複数回の遊離皮弁再建の検討 頭頸部複数回遊離皮弁再建における移植床血管の選択。頭頸部癌，38 (1), 2012.

#### 呼吸器外科部

- 001 *Nagashima T, Sakao Y, Mun M, Ishikawa Y, Nakagawa K, Masuda M, Okumura S* : A Clinicopathological Study of Resected Small-Sized Squamous Cell Carcinomas of the Peripheral Lung: Prognostic Significance of Serum Carcinoembryonic Antigen Levels. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*: 1-7, 2012.

002 *Nakada T, Sakao Y, Gorai A, Uehara H, Mun M, Okumura S* : Two patients of left lung cancer with right aortic arch: review of eight patients. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* : 537-541, 2012.

003 *Mun M, Okumura S, Sakao Y, Uehara H, Nakada T, Gorai A, Nakagawa K* : Indication and results of thoracoscopic segmentectomy for small peripheral lung cancer. *Kyobu Geka*: 35-39, 2012.

004 *Satoh Y, Sugai S, Uehara H, Mun M, Sakao Y, Okumura S, Nakagawa K, Ishikawa Y, Miki Y, Miyata S* : Clinical impact of intraoperative detection of carcinoembryonic antigen mRNA in pleural lavage specimens from nonsmall cell lung cancer patients. *Thorac Cardiovasc Surg*: 533-400, 2012.

005 *Sakakura N, Uchida T, Kitamura T, Suyama M* : Pulmonary Carcinosarcoma Successfully Resected Using the Rib-Cross Thoracotomy Approach: Report of a Case. *Surg Today*, 2012 Oct 12. (Epub ahead of print).

006 *Endo M, Nakano M, Kasomatsu T, Fukuhara S, Kuroda H, et al* : Tumor cell-derived angiopoietin-like protein ANGPTL2 is a critical driver of metastasis. *Cancer Research*, 72 : 1784-94, 2012.

007 *Mizuno T, Murakami H, Fujii M, Ishiguro F, Tanaka I, Kondo Y, Akatsuka S, Toyokuni S, Yokoi K, Osada H, Sekido Y* : YAP induces malignant mesothelioma cell proliferation by upregulating transcription of cell cycle-promoting genes. *Oncogene*, 31 (49) : 5117-22, 2012.

008 *Nakamura S, Tateyama H, Taniguchi T, Ishikawa Y, Kawaguchi K, Fukui T, Mizuno T, Ishiguro F, Yokoi K* : Multilocular thymic cyst associated with thymoma: a clinicopathologic study of 20 cases with an emphasis on the pathogenesis of cyst formation. *Am J Surg Pathol*, 36 (12) : 1857-64, 2012.

009 *Ishiguro F, Murakami H, Mizuno T, Fujii M, Kondo Y, Usami N, Yokoi K, Osada H, Sekido Y* : Activated leukocyte cell-adhesion molecule (ALCAM) promotes malignant phenotypes of malignant mesothelioma. *J Thorac Oncol*, 7 (5) :890-9, 2012.

010 *Kobayashi Y, Fukui T, Ito S, Shitara K, Ito S, Hatooka S, and Mitsudomi T* : Pulmonary metastasectomy for gastric cancer: 13 years of a single-institution experience. *Surgery Today*, 2012. [Epub ahead of print]

011 *Kobayashi Y, Fukui T, Ito S, Usami N, Hatooka S, Yatabe Y, and Mitsudomi T* : How long should small lung lesions of ground glass opacity be followed?. *Journal of Thoracic Oncology*, 8 (3) : 309-314, 2013.

012 **坂尾幸則** : 【がん看護セレクション: 肺がん患者ケア】. 編集: 栄木実枝 奥村栄, 学研メディカル秀潤社, 90: 10-35, 2012.

013 **五来厚生, 坂尾幸則** : 【研修医のためのER診療マニュアル (2) 基本手技・検査編】血管中心静脈路確保 (解説/特集). 救急医学 (0385-8162), 36 (4) : 402-405, 2012.

014 **仲田健男, 坂尾幸則** : 【研修医・当直医がこれだけは知っておきたい】呼吸器救急. 緊張性気胸レジデント4月号, 5

(4) : 87-91, 2012.

乳腺科部

001 *Masuda N, Sagara Y, Kinoshita T, Iwata H, Nakamura S, Yanagita Y, Nishimura R, Iwase H, Kamigaki S, Takei H, Noguchi S* : Neoadjuvant anastrozole versus tamoxifen in patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer (STAGE) : a double-blind, randomised phase 3 trial. *The Lancet Oncology*, 13 (4) : 345-52, 2012.

002 *Shien T, Nakamura K, Shibata K, Kinoshita T, Aogi K, Fujisawa T, Masuda N, Inoue K, Fukuda H, Iwata H* : A Randomized Controlled Trial Comparing Primary Tumour Resection Plus Systemic Therapy with Systemic Therapy Alone in Metastatic Breast Cancer (PRIM-BC) : Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1017. *Japan Clinical Oncolog*, 2012 doi:10.1093/jjco/hys120, 2012.

003 *Inaji H, Iwata H, Nakayama T, Yamamoto N, Sato Y, Tokuda Y, Aogi K, Saji S, Watanabe K, Saito T, Yoshida M, Sato N, Saeki T, Takatsuka Y, Kuranami M, Yamashita H, Kikuchi A, Tabei T, Ikeda T, Noguchi S* : Randomized phase II study of three doses of oral TAS-108 in postmenopausal patients with metastatic breast cancer. *Cancer Science*, 103 (9) : 1708-13, 2012.

004 *Iwata H, Masuda N, Sagara Y, Kinoshita T, Nakamura S, yanagita Y, Nishimura R, Iwase H, Kamigaki S, Takei H, Thsuda H, Hayashi N, Noguchi S* : Analysis of Ki-67 expression with neoadjuvant anastrozole or tamoxifen in patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer. *Cancer*. 2012 Sep 12. doi: 10.1002/cncr.27818. [Epub ahead of print]PMID: 22972694 [PubMed - as supplied by publisher], 2012.

005 *Islam T, Ito H, Sueta A, Hosono S, Hirose K, Watanabe M, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K* : Alcohol and dietary folate intake and the risk of breast cancer : a case-control study in Japan. *Eur J Cancer Prev*. 2012 Nov 20. [Epub ahead of print]PMID: 23183091 [PubMed - as supplied by publisher], 2012.

006 *Sueta A, Ito H, Islam T, Hosono S, Watanabe M, Hirose K, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Iwase H, Matsuo K* : Differential impact of body mass index and its change on the risk of breast cancer by molecular subtype: A case-control study in Japanese women. *Springerplus*. 2012.Dec;1 (1) :39. Epub 2012 Oct 23.PMID: 23350064 [PubMed], 2012.

007 *Aihara T, Tanaka S, Sagara Y, Iwata H, Hozumi Y, Takei H, Yamaguchi H, Ishitobi M, Egawa C* : Incidence of contralateral breast cancer in Japanese patients with unilateral minimum-risk primary breast cancer, and the benefits of endocrine therapy and radiotherapy. *Breast Cancer*. 2012 Oct 4. [Epub ahead of print]PMID:



- 23054843 [PubMed - as supplied by publisher], 2012.
- 008 **Takada M, Sugimoto M, Ohno S, Kuroi K, Sato N, Bando H, Masuda N, Iwata H, Kondo M, Sasano H, Chow LW, Inamoto T, Naito Y, Tomita M, Toi M** : Predictions of the pathological response to neoadjuvant chemotherapy in patients with primary breast cancer using a data mining technique. *Breast Cancer Res Treat*, 134 (2) : 661-70, 2012.
- 009 **Suzuki Y, Saeki T, Aogi K, Toi M, Fujii H, Inoue K, Watanabe T, Fujiwara Y, Ito Y, Takatsuka Y, Iwata H, Arioka H, Tokuda Y** : A multicenter phase II study of TSU-68, a novel oral multiple tyrosine kinase inhibitor, in patients with metastatic breast cancer progressing despite prior treatment with an anthracycline-containing regimen and taxane. *Int J Clin Oncol*. 2012 May 15. [Epub ahead of print] PMID: 22585426 [PubMed-as supplied by publisher], 2012.
- 010 **Ma X, Beeghly-Fadiel A, Lu W, Shi J, Xiang YB, Cai Q, Shen H, Shen CY, Ren Z, Matsuo K, Khoo US, Iwasaki M, Long J, Zhang B, Ji BT, Zheng Y, Wang W, Hu Z, Liu Y, Wu PE, Shieh YL, Wang S, Xie X, Ito H, Kasuga Y, Chan KY, Iwata H, Tsugane S, Gao YT, Shu XO, Moses HL, Zheng W** : Pathway analyses identify TGFBR2 as potential breast cancer susceptibility gene: results from a consortium study among Asians. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 21 (7) : 1176-84, 2012.
- 011 **Long J, Cai Q, Sung H, Shi J, Zhang B, Choi JY, Wen W, Delahanty RJ, Lu W, Gao YT, Shen H, Park SK, Chen K, Shen CY, Ren Z, Haiman CA, Matsuo K, Kim MK, Khoo US, Iwasaki M, Zheng Y, Xiang YB, Gu K, Rothman N, Wang W, Hu Z, Liu Y, Yoo KY, Noh DY, Han BG, Lee MH, Zheng H, Zhang L, Wu PE, Shieh YL, Chan SY, Wang S, Xie X, Kim SW, Henderson BE, Le Marchand L, Ito H, Kasuga Y, Ahn SH, Kang HS, Chan KY, Iwata H, Tsugane S, Li C, Shu XO, Kang DH, Zheng W** : Genome-wide association study in east Asians identifies novel susceptibility loci for breast cancer. *PLoS Genet*, 8 (2), 2012.
- 012 **Islam T, Matsuo K, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Iwata H, Tajima K, Tanaka H** : Reproductive and hormonal risk factors for luminal, HER2-overexpressing, and triple-negative breast cancer in Japanese women. *Ann Oncol*, 23 (9) : 2435-41, 2012.
- 013 **Sawaki M, Kondo N, Horio A, Ushio A, Gondo N, Adachi E, Hattori M, Fujita T, Tachibana H, Kodaira T, Iwata H** : Feasibility of Intraoperative Radiation Therapy for Early Breast Cancer in Japan: A Single-center Pilot Study and Literature Review. *Breast Cancer*, 2012. [Epub ahead of print]
- 014 **Sawaki M, Sato S, Noda S, Idota A, Uchida H, Tsunoda N, Kikumori T, Ishihara S, Aoyama Y, Itoh Y, Imai T** : Phase I/II study of intraoperative radiotherapy for early breast cancer in Japan. *Breast Cancer*, 19 (4) : 353-59, 2012.
- 015 **Sawaki M** : Intraoperative Radiotherapy for Early Breast Cancer. Book title: *Modern Practices in Radiation Therapy*. InTech publisher, ISBN 978-953-51-0427-8. Book edited by Gopishankar Natanasabapathi: 169-178, 2012.
- 016 **Sawaki M, Wada M, Sato Y, Mizuno Y, Kobayashi H, Yokoi K, Yoshihara M, Kamei K, Ohno M, Imai T** : High-dose Toremifeme as first line treatment of metastatic breast cancer in patients with adjuvant aromatase inhibitor-resistance: A multi-institutional phase II study. *Oncology Letters*, 3: 61-65, 2012.
- 017 **Sawaki M, Mukai H, Tokudome N, Nakayama T, Taira N, Mizuno T, Yamamoto Y, Horio A, Watanabe T, Uemura Y, Ohashi Y** : Safety of Adjuvant Trastuzumab for HER2-overexpressing Elderly Breast Cancer Patients : A multicenter cohort study. *Breast Cancer*, 19: 253-58, 2012.
- 018 **Fujiwara Y, Ando Y, Mukohara T, Kiyota N, Chayahara N, Mitsuma A, Inada-Inoue M, Sawaki M, Ilaria R Jr, Kellie Turner P, Funai J, Maeda K, Minami H** : A phase I study of tasisulam sodium, a novel anti-cancer agent in Japanese patients with advanced solid tumors. *Cancer Chemother Pharmacol*, 71: 991-98, 2013.
- 019 **Morita S, Oizumi S, Minami H, Kitagawa K, Komatsu Y, Fujiwara Y, Inada M, Yuki S, Kiyota N, Mitsuma A, Sawaki M, Tani H, Kimura J, Ando Y** : Phase I dose-escalating study of panobinostat (LBH589) Administered intravenously to Japanese patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*, 30: 1950-57, 2012.
- 020 **Mitsuma A, Sawaki M, Shibata T, Morita S, Inada M, Shimokata T, Sugishita M, Kitagawa K, Sawada M, Nawa A, Ando Y** : Extravasation of pegylated-liposomal doxorubicin: favorable outcome after immediate subcutaneous administration of corticosteroids. *Nagoya J Med Sci*, 74: 189-92, 2012.
- 021 **Kitagawa K, Kawada K, Morita S, Inada M, Mitsuma A, Sawaki M, Iino S, Inden Y, Murohara T, Imai T, Ando Y** : Prospective evaluation of corrected QT intervals and arrhythmias after exposure to epirubicin, cyclophosphamide, and 5-fluorouracil in women with breast cancer. *Ann Oncol*, 23 (3) : 743-47, 2012.
- 022 波戸ゆかり, 藤田崇史, 安藤由明, 林裕倫, 堀尾章代, 宮崎千絵子, 山田舞, 岩田広治 : ホルモン受容体陽性乳癌の再発時期に関する検討. *乳癌の臨床*, 27 (2) : 153-58, 2012.
- 023 牛尾文, 澤木正孝, 藤田崇史, 服部正也, 近藤直人, 堀尾章代, 山田舞, 権藤なおみ, 足立恵理, 海瀬博史, 河野範男, 岩田広治 : 早期の診断、治療によりQOLの改善がみられた乳癌脊髄髄内転移の1例. *乳癌の臨床*, 27 (2) : 185-90, 2012.
- 024 藤田崇史, 岩田広治 : がん化学療法の薬はや調ベノート. *プロフェッショナルがんナーシング* : 148-53, 2013.
- 025 澤木正孝, 岩田広治 : 血管新生阻害療法の問題点と課題.

- 日本臨床70 (増刊号7) 乳癌 (第2版) 基礎と臨床の最新研究動向, 日本臨床社: 614-619, 2012.
- 026 澤木正孝: 高齢者の薬物療法. 乳癌の臨床, 27 (4), 篠原出版新社: 381-87, 2012.
- 027 澤木正孝, 岩田広治: 抗HER2療法の現状. 乳癌診療Update 最新診療コンセンサス2012. 医学のあゆみ, 242 (1): 111-17, 2012.
- 028 澤木正孝, 岩田広治: 解説: Synthetic lethalityを狙ったPARP阻害剤第II, 第III相試験結果のdiscrepancyとその理由. 腫瘍内科, 9 (5), 科学評論社: 579-85, 2012.
- 029 服部正也, 岩田広治: 第2章がん分子標的治療薬における副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療 第8節「心毒性」. 副作用軽減化 新薬開発 技術情報協会: 176-78, 2012.
- 030 服部正也, 岩田広治: 第2章がん分子標的治療薬における副作用の疫学データと発現機序, 診断・治療 第19節「Infusion reaction: 注入反応, 点滴反応」. 副作用軽減化 新薬開発 技術情報協会: 244-46, 2012.
- 031 服部正也, 伊藤良則: 乳癌領域における化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化. 最新医学, 68 (3), 最新医学社: 385-88, 2013.
- 032 服部正也: 化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化. 乳癌の臨床, 28 (1), 篠原出版社: 61-67, 2013.

#### 消化器外科部

##### 〔原著〕

- 001 Komori K, Kanemitsu Y, Ishiguro S, Shimizu Y, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Kato T: Adequate length of the surgical Distal resection margin in rectal cancer: from the viewpoint of pathological findings. American Journal of Surgery, 204 (4): 474-480, 2012.
- 002 Akagi Y, Shirouzu K, Fujita S, Ueno H, Takii Y, Komori K, Ito M, Sugihara K: on behalf of the Study Group of the Japanese Society for Cancer of the Colon Rectum (JSCCR) on the Clinical Significance of the Mesorectal Extension of Rectal Cancer. : Predicting oncologic outcomes by stratifying mesorectal extension in patients with pT3 rectal cancer: A Japanese multi-institutional study. International Journal of Cancer, 131 (5): 1220-1227, 2012.
- 003 Tajika M, Niwa Y, Bhatia V, Kawai H, Kondo S, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Matsumoto K, Kobayashi Y, Saeki A, Akabane A, Komori K, Yamao K: Efficacy of mosapride citrate with polyethylene glycol solution for colonoscopy preparation. World Journal of Gastroenterology, 18 (20): 2517-2525, 2012.
- 004 Ogura T, Yamao K, Sawaki A, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Shimizu Y, Bhatia V, Higuchi K, Hosoda W, Yatabe Y: Clinical impact of K-ras mutation analysis in Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration specimens from pancreatic masses. GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY, 75 (4): 769-774, 2012.
- 005 Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Ogura T, Haba S, Mekky MA, Bhatia V, Hosoda W, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Tajika M, Kondo S, Tanaka T, Tamada K, Yamao K: Diagnostic yield of endoscopic retrograde cholangiography and of EUS-guided fine needle aspiration sampling in gallbladder carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Sci., 19: 650-655, 2012.
- 006 Kimura W, Moriya T, Hirai I, Hanada K, Abe H, Yanagisawa A, Fukushima N, Ohike N, Shimizu M, Hatori T, Fujita N, Maguchi H, Shimizu Y, Yamao K, Sasaki T, Naito Y, Tanno S, Tobita K, Tanaka M: Multicenter Study of Serous Cystic Neoplasm of the Japan Pancreas Society. Pancreas, 41: 380-387, 2012.
- 007 Komori K, Kanemitsu Y, Kimura K, Hattori N, Sano T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Uemura N, Shimizu Y: Tumor Necrosis in Patients with TNM Stage IV Colorectal Cancer without Residual Disease (R0 Status) Is Associated with a Poor Prognosis. ANTICANCER RESEARCH, 33 (3): 1099-1106, 2013.
- 008 山口幸二, 金光幸秀, 羽鳥 隆, 真口宏介, 清水泰博, 多田 稔, 中郡聡夫, 花田敬士, 小山内 学, 野田 裕, 中泉明彦, 古川 徹, 伴 慎一, 信川文誠, 加藤 洋, 田中雅夫: IPMN由来浸潤癌とIPMN併存膵臓. 膵臓, 27 (4): 563-571, 2012.
- 009 山浦秀和, 土田龍郎, 黄 義孝, 清水泰博, 宮村廣樹, 稲葉吉隆: アシアロシンチグラフィの定量解析による術前肝予備能評価. 外科, 74 (10): 1101-1105, 2012.
- 010 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 石原健二, 丹羽康正, 山雄健次: IPMN経過観察における癌予測ノモグラムの有用性. 胆と膵, 33 (11): 1167-1172, 2012.
- 011 永塩美那, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 丹羽康正, 小倉 健, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部 恭, 重川 稔, 山雄健次: FDG-PETによる自己免疫性膵炎に対するステロイド治療効果の判定とその意義. 胆と膵, 33 (5): 441-446, 2012.
- 012 中村一郎, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 金光幸秀: 腹腔鏡補助下胃切除術における肝肝排法の検討. 日本消化器外科学会雑誌, 46 (6): 583-589, 2012.
- 013 中村嘉彦, 北坂孝幸, 水野慎士, 古川和宏, 後藤秀実, 藤原道隆, 三澤一成, 伊藤雅昭, 縄野 繁, 森 健策: 塊状構造強調処理の改良による3次元腹部X線CT像からのリンパ節自動検出手法の精度向上. MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY, 31 (1): 62-70, 2013.

##### 〔症例検討〕

- 001 金城和寿, 金光幸秀, 小森康司, 大澤高陽, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰博: 肉眼的他臓器浸潤結腸癌の検討. 日本臨床外科学会雑誌, 73 (6): 1313-1317, 2012.
- 002 金城和寿, 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 佐野 力, 清水泰

博：膵粘液性嚢胞腫瘍と鑑別が困難であった胃原発気管支嚢胞の1例. 日臨外会誌, 73 (4) : 836-841, 2012.

- 003 中村一郎, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 山村義孝: 臨床病理学的背景および術後成績からみた食道浸潤が3cmを超える食道胃接合部癌に対する手術術式の検討. 外科, 74 (8) : 855-861, 2012.
- 004 服部憲史, 清水泰博, 佐野 力, 千田嘉毅, 金光幸秀, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 二宮 豪, 川合亮佑, 金城和寿, 大澤高陽, 今井健晴: 原発巣の同定が困難であった胆管内発育型肝細胞癌の1切除例. 消化器外科, 35 (13) : 1953-1960, 2012.

#### 〔解説〕

- 001 小倉 健, 山雄健次, 原 和生, 水野伸匡, 肱岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 羽場 真, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博, 細田和貴, 谷田部恭: 【膵癌update 2012】 診断 膵癌診断におけるEUS、EUS-FNAの位置づけ (解説/特集). 外科, 74 (5) : 485-490, 2012.
- 002 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 稲葉吉隆, 清水泰博: Lower G.I./Colon and Rectum Cancer大腸癌 切除可能な大腸癌肝転移に対する治療方針 術後化学療法の立場から. 癌と化学療法, 39 (11) : 1632-1641, 2012.
- 003 清水泰博, 金光幸秀, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 植村則久, 肱岡 範, 山雄健次, 木下 平: 【外科医必読 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) のすべて】 IPMN癌予測ノモグラムの診断能 最近の分枝型IPMN切除例におけるexternal validity. 外科, 75 (2) : 155-160, 2013.
- 004 永塩美那, 肱岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 近藤真也, 田近正洋, 長谷川俊之, 品川秋秀, 大林友彦, 吉澤尚彦, 関根匡成, 坂口将文, 石原健二, 丹羽康正, 清水泰博, 山雄健次: 【外科医必読 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) のすべて】 IPMNの悪性診断 嚢胞液分析・嚢胞液細胞診. 外科, 75 (2) : 141-146, 2013.
- 005 今岡 大, 水野伸匡, 清水泰博, 原 和生, 肱岡 範, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 永塩美那, 長谷川俊之, 大林友彦, 品川秋秀, 関根匡成, 坂口将文, 吉澤尚彦, 丹羽康正, 山雄健次: 【通常型膵癌の治療戦略】 当院における局所進行切除不能膵癌に対する治療戦略. 膵臓, 28 (1) : 42-48, 2013.

#### 〔分担執筆〕

- 001 Sano T, Nimura Y: Extended resections for biliary tumors -an alternative approach. Blumgart's Surgery of the Liver, Biliary Tract, and Pancreas. Fifth Edition, Chapter 90C, (9) : 1512-1519, 2012.
- 002 小森康司: 大腸: がんの転移. 暮らしと健康, 保健同人社, 東京: 80, 2012.
- 003 加藤知行, 金光幸秀, 小森康司: 大腸癌肝転移治療の変遷. 消化器外科, へるす出版, 東京, 35 (9) : 1335-1366, 2012.
- 004 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉: 【外科医のための癌診療データ】 臓器別最新データ 大腸癌 大腸癌の治療. 臨床外科, 医学書院, 東京, 67 (11) : 250-259, 2012.
- 005 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 稲葉吉隆, 清水泰博:

Lower G.I./colon and rectum Cancer 大腸癌 1. 切除可能な大腸癌肝転移に対する治療方針 2. 術後化学療法の立場から. 癌と化学療法, 癌と化学療法社, 東京, 39 (11): 1632-1641, 2012.

- 006 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉: 【大腸癌の診療-標準治療から最新治療まで】 結腸癌の外科治療. カレントセラピー, ライフメディコム, 東京, 30(5): 405-411, 2012.
- 007 千田嘉毅, 清水泰博: 術後合併症とその管理 乳び腹水. 消化器外科, 35 (5) : 902-904, 2012.
- 008 山雄健次, 水野伸匡, 原 和生, 肱岡 範, 今岡 大, 丹羽康正, 田近正洋, 近藤真也, 田中 努, 小倉 健, 羽場 真, 永塩美那, 大林友彦, 品川秋秀, 長谷川俊之, 清水泰博: 膵胆道がん診療におけるEUS-FNAとEUSガイド下治療. 胆膵の病態生理 (胆膵生理機能研究会誌), 28(1): 1-5, 2012.
- 009 植村則久: 外科の基本 手術前後の患者さんを診る 1. 食道切除手術 (右開胸開腹食道亜全摘、3領域郭清、胃管再建) の流れ 2. 食道切除術の周術期管理の注意点. レジデントノート, 畑 啓昭, 羊土社, 東京, 14(17): 196, 2013.

#### 〔報告書〕

- 001 木村 理, 森谷敏幸, 花田敦士, 阿部秀樹, 柳澤昭夫, 福嶋敏宣, 大池信之, 志水道生, 羽鳥 隆, 藤田直孝, 真口宏介, 清水泰博, 山雄健次, 佐々木民人, 内藤嘉紀, 丹野誠志, 飛田浩輔, 田中雅夫: 膵漿液性嚢胞腫瘍 (Serous cystic neoplasm) の全国症例調査-日本膵臓学会膵嚢胞性腫瘍委員会-. 膵臓, 27 (4) : 572-583, 2012.
- 002 佐野 力: 肝細胞がんの術後再発予防に関する研究. 上原記念生命科学財団研究報告集, 26: 1-7, 2012.

#### 整形外科部

- 001 Nishida Y, Tsukushi S, Nakashima H, Sugiura H, Yamada Y, Urakawa H, Arai E, Ishiguro N: Osteochondral Destruction in Pigmented Villonodular Synovitis During the Clinical Course. The Journal of Rheumatology, 39 (2) : 345-51, 2012.
- 002 Kohyama K, Sugiura H, Kozawa E, Wasa J, Yamada K, Nishioka A, Kamei Y, Taguchi O: Antitumor activity of an interleukin-2 monoclonal antibody in a murine osteosarcoma transplantation model. Anticancer Res, 32 (3) : 779-82, 2012.
- 003 Sugiura H, Nishida Y, Nakashima H, Yamada Y, Tsukushi S, Yamada K: Evaluation of long-term outcomes of pasteurized autografts in limb salvage surgeries for bone and soft tissue sarcomas. Arch Orthop Trauma Surg, 132: 1685-95, 2012.
- 004 Kawaguchi S, Tsukahara T, Ida K, Kimura S, Murase M, Kano M, Emori M, Nagoya S, Kaya M, Torigoe T, Ueda E, Takahashi A, Ishii T, Tatezaki S, Toguchida J, Tsuchiya H, Osanai T, Sugita T, Sugiura H, Ieguchi M, Ihara K, Hamada K, Kakizaki H, Morii T, Yasuda T, Tanizawa T, Ogose A, Yabe H, Yamashita T, Sato N, Wada T: SYT-SSX breakpoint peptide vaccines in



- patients with synovial sarcoma: A study from the Japanese Musculoskeletal Oncology Group. *Cancer Sci*, 103 (9) : 1625-30, 2012.
- 005 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田芳久, 杉浦英志, 紫藤洋二, 和佐潤志, 石黒直樹: 仙骨発生脊索腫に対する重粒子線治療の臨床成績. *日本整形外科学会誌*, 86:15-18, 2012.
- 006 杉浦英志: 骨転移治療の実際をみる 治療法の種類と予後予測に基づく基本的な治療方針の考え方をみる. *がん骨転移治療 ビスホスホネート治療によるBone Management*, 114-21, 2012.
- 007 杉浦英志: 外科療法. *がん骨転移のバイオロジーとマネジメント*, 234-41, 2012.
- 008 奥田洋史, 藤井恵悟, 千葉晃泰: 頸椎硬膜外悪性リンパ腫の1例. *中部整災誌*, 55: 623-24, 2012.
- 009 杉浦英志, 濱田俊介: 癌骨転移による大腿骨病的骨折術後の生命予後と予後因子の検討. *中部整災誌*, 55: 977-78, 2012.
- 010 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志: 前十字靭帯再建術時のガーゼ遺残により膝部異物肉芽腫の1例. *臨床整形外科*, 46: 89-92, 2012.
- 011 神山圭史, 兵藤伊久夫, 杉浦英志, 山田健志, 高橋 満, 亀井 譲: 加温処理骨と遊離腓骨非弁再建併用による下肢再建の長期経過観察. *日本マイクロサージャリー学会会誌*, 25: 53-58, 2012.
- 012 西田佳弘, 和佐潤志, 筑紫 聡, 浦川 浩, 高橋 満, 杉浦英志, 片桐浩久, 中島浩敦, 山田芳久, 石黒直樹: 悪性抹消神経鞘腫瘍の画像診断・治療・予後関連因子. *日本整形外科学会雑誌*, 86: 660-64, 2012.
- 013 高橋 満, 杉浦英志, 松山幸弘, 安藤雄一, 加藤恵利子, 片桐浩久: 骨転移患者のBone Managementに関する症例ディスカッション. *診断と新薬*, 49: 37-46, 2012.
- 014 山田健志, 濱田俊介, 杉浦英志, 長谷川泰久, 佐々木英一, 谷田部 恭: 右頸部腫瘍. *東海骨軟部腫瘍*, 3-4, 2012.
- 015 濱田俊介, 山田健志, 杉浦英志, 菅野雅人, 谷田部 恭: 仙尾骨部軟部腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*, 23-24, 2012.

#### 泌尿器科部

〔原 著〕

- 001 Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Shimizu H, Kubota T, Ito J, Hirata K, Ohshima Y, Tachibana H, Kodaira T: Preliminary results of intensity modulated radiation therapy with helical tomotherapy for prostate cancer. *J Cancer Res Clin*, 138: 1931-36, 2012.
- 002 Soga N, Nishikawa K, Takaki H, Yamada Y, Arima K, Hayashi N, Sugimura Y: Low incidence of benign lesions in partial or radical resected suspicious renal masses greater than 2 cm in diameter in Japanese cases. *Int J Urol*, 19 : 729-34, 2012.
- 003 Soga N, Hori Y, Ogura Y, Hayashi N, Sugimura Y: The long term results with delayed-combined androgen blockade therapy in local or locally advanced prostate cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 42 : 534-40, 2012.

- 004 Soga N, Nishikawa K, Yamada Y, Hideaki K, Arima K, Sugimura Y: The impact of the pre-operative serum albumin level and post-operative C-reactive protein nadir for the survival in the non-metastatic renal cell carcinoma with vessel thrombus after nephrectomy. *Current Urology*, 5 : 190-195, 2012.
- 005 曾我倫久人, 西川晃平, 山田泰司, 長谷川嘉弘, 小倉友二, 林 宣男, 有馬公伸, 杉村芳樹: ミニマム創内視鏡下手術による尿管全摘除の経験. *日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌*, 4 : 89-93, 2012.
- 006 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 尿漏. *臨床泌尿器*, 66 : 129-133, 2012.
- 007 三木 学, 曾我倫久人, 長谷川嘉弘, 神田英輝, 山田泰司, 木瀬英明, 有馬公伸, 杉村芳樹: 膀胱転移を来たした腎細胞癌の1例. *泌尿器科紀要*, 58 : 231-235, 2012.

#### 婦人科部

- 001 Hosono S, Matsuo K, Hirose K, Ito H, Suzuki T, Kawase T, Watanabe M, Nakanishi T, Tajima K, Tanaka H: Weight gain during adulthood and body weight at age 20 are associated with the risk of endometrial cancer in Japanese women. *J Epidemiol*, 21 (6) : 466-73, 2011.
- 002 Mizuno M, Yatabe Y, Nawa A, Nakanishi T: Long-term medroxyprogesterone acetate therapy for low-grade endometrial stromal sarcoma. *Int J Clin Oncol*, 17 (4) : 348-54, 2012.
- 003 Kitagawa R, Katsumata N, Ando M, Shimizu C, Fujiwara Y, Yoshikawa H, Satoh T, Nakanishi T, Ushijima K, Kamura T: A multi-Institutional phase II trial of paclitaxel and carboplatin in the treatment of advanced or recurrent cervical cancer. *Gynecol Oncol*, 125 (2) :307-11, 2012.
- 004 Kajiyama H, Shibata K, Mizuno M, Yamamoto E, Fujiwara S, Umezumi T, Suzuki S, Nakanishi T, Nagasaka T, Kikkawa F: Postrecurrent oncologic outcome of patients with ovarian clear cell carcinoma. *Int J Gynecol Cancer*, 22 (5) :801-6, 2012.
- 005 Mizuno M, Kajiyama H, Shibata K, Mizuno K, Yamamoto O, Kawai M, Nakanishi T, Nagasaka T, Kikkawa F: Adjuvant chemotherapy for stage I ovarian clear cell carcinoma: is it necessary for stage IA~. *Int J Gynecol Cancer*, 22 (7) :1143-49, 2012.
- 006 Eto T, Saito T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Yokota H, Satoh T, Nogawa T, Yoshikawa H, Kamura T, Konishi I: Clinicopathological prognostic factors and the role of cytoreduction in surgical stage IVb endometrial cancer: a retrospective multi-institutional analysis of 248 patients in Japan. *Gynecol Oncol*, 127 (2) :338-44, 2012.
- 007 中西 透: 【婦人科がん-最新の研究動向-】子宮体がん 子宮体癌の治療化学療法 術前化学療法. *日本臨70増刊 婦人科がん*, 417-20, 2012.

008 笹本香織, 河合要介, 近藤紳司, 中西 透: 卵巣癌におけるカルボプラチンによる過敏反応に関する検討. 東海産科婦人科学会雑誌, 49:259-64, 2013.

#### 放射線診断・IVR部

001 *Tanaka T, Sho M, Nishiofuku H, Sakaguchi H, Inaba Y, Nakajima Y, Kichikawa K*: Unresectable pancreatic cancer: arterial embolization to achieve a single blood supply for intraarterial infusion of 5-fluorouracil and full-dose IV gemcitabine. *Am J Roentgenol*, 198 (6): 1445-1452, 2012.

002 *Arai Y, Ohtsu A, Sato Y, Aramaki T, Kato K, Hamada M, Muro K, Yamada Y, Inaba Y, Shimada Y, Boku N, Takeuchi Y, Morita S, Satake M*: Phase I/II study of radiologic hepatic arterial infusion of fluorouracil plus systemic irinotecan for unresectable hepatic metastases from colorectal cancer: Japan Clinical Oncology Group Trial 0208-DI. *J Vasc Interv Radiol*, 23 (10): 1261-67, 2012.

003 *Osuga K, Arai Y, Anai H, Takeuchi Y, Aramaki T, Sugihara E, Yamamoto T, Inaba Y, Ganaha F, Seki H, Sadaoka S, Sato M, Kobayashi T, Kodama Y, Inoh S, Yamakado K*: Phase I/II multicenter study of transarterial chemoembolization with a cisplatin fine powder and porous gelatin particles for unresectable hepatocellular carcinoma: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group Study 0401. *J Vasc Interv Radiol*, 23 (10): 1278-85, 2012.

004 *Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Takaki H, Arai Y*: Malignant inferior vena cava syndrome and congestive hepatic failure treated by venous stent placement. *J Vasc Interv Radiol*, 23: 1377-1380, 2012.

005 *Nishiofuku H, Tanaka T, Matsuoka M, Otsuji T, Anai H, Sueyoshi S, Inaba Y, Koyama F, Sho M, Nakajima Y, Kichikawa K*: Transcatheter arterial chemoembolization using cisplatin powder mixed with degradable starch microspheres for colorectal liver metastases after FOLFOX failure: results of a phase I/II study. *J Vasc Interv Radiol*, 24 (1): 56-65, 2012.

006 *Sato Y, Watanabe H, Sone M, Onaya H, Sakamoto N, Osuga K, Takahashi M, Arai Y, and Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group (JIVROSG)*: Tumor response evaluation criteria for HCC (hepatocellular carcinoma) treated using TACE (transcatheter arterial chemoembolization): RECIST (response evaluation criteria in solid tumors) version 1.1 and mRECIST (modified RECIST): JIVROSG-0602. *Upsala Journal of Medical Sciences*. 118: 16-22, 2013.

007 加藤弥菜, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 鹿島正隆, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶: 胆道系の経皮経肝的治療 (PTBD, ステント留置, PTGBD) の方法と合併症対策. *消化器最新看護*, 17(2): 12-18, 2012.

008 坂根 誠, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 金本高明, 友澤祐樹, 稲葉吉隆, 室 圭: CisplatinとDegradable Starch Microspheresを用いた肝動注化学療法がブドウ膜悪性黒色腫肝転移に有効であった1例. *癌と化学療法*, 39 (6): 959-961, 2012.

009 加藤弥菜, 荒井保明, 上嶋一臣, 奥坂拓志: 肝癌薬物治療のこれから—分子標的治療と経動脈治療—. *LIVER CANCER JOURNAL*, 4 (2): 17-25, 2012.

010 加藤弥菜: レジメン+症例 肝臓がん. *消化器がん化学療法レジメンブック*, 日本医事新報社: 145-147, 2012.

011 山浦秀和, 土田龍郎, 黄 義孝, 清水泰博, 宮村廣樹, 稲葉吉隆: アシアロシンチグラフィの定量解析による術前肝予備能評価—予測残肝 indocyanine green 消失率との対比—. *外科*, 74 (10): 1101-1105, 2012.

012 金光幸秀, 小森康司, 木村賢哉, 稲葉吉隆, 清水泰博: Lower G.I./Colon and Rectum Cancer 大腸癌 1. 切除可能な大腸癌肝転移に対する治療方針 2. 術後化学療法の立場から. *癌と化学療法*, 39 (11): 1632-1641, 2012.

013 加藤弥菜: 原発性肝がん. *新臨床腫瘍学 がん薬物療法専門医のために*, 南江堂 改訂第3版: 415-428, 2012.

014 佐藤洋造, 加藤弥菜, 山浦秀和, 井上大作, 栗延孝至, 佐藤健司, 加藤久晶, 稲葉吉隆: セッションIV静脈・非血管 8. 経胃瘻的に食道ステントを留置した1例. *I V R 会誌*, 28 Supplement: 26-27, 2013.

#### 放射線治療部

001 *Nomura M, Shitara K, Kodaira T, Kondoh C, Takahari D, Ura T, Kojima H, Kamata M, Muro K, Sawada S*: Recursive partitioning analysis for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*, 84 (3): 786-92, 2012.

002 *Tomita N, Kodaira T, Tomoda T, Nakajima K, Murao T, Kitamura K*: A case of cervical multicentric Castleman disease treated with intensity-modulated radiation therapy using helical tomotherapy. *Jpn J Radiol*, 30 (4): 349-53, 2012.

003 *Shimizu H, Matsushima S, Kinoshita Y, Miyamura H, Tomita N, Kubota T, Osaki H, Nakayama M, Yoshimoto M, Kodaira T*: Evaluation of parotid gland function using equivalent cross-relaxation rate imaging applied magnetization transfer effect. *J Radiat Res*, 53 (1): 138-44, 2012.

004 *Tokumaru S, Toita T, Oguchi M, Ohno T, Kato S, Niibe Y, Kazumoto T, Kodaira T, Kataoka M, Shikama N, Kenji M, Yamauchi C, Suzuki O, Sakurai H, Teshima T, Kagami Y, Nakano T, Hiraoka M, Mitsuhashi N, Kudo S*: Insufficiency Fractures After Pelvic Radiation Therapy for Uterine Cervical Cancer: An Analysis of Subjects in a Prospective Multi-institutional Trial, and Cooperative Study of the Japan Radiation Oncology Group (JAROG) and Japanese

Radiation Oncology Study Group (JROSG). Int J Radiat Oncol Biol Phys, 84 (2) : e195-200, 2012.

- 005 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Hayashi N, Shimizu H, Kubota T, Ito J, Hirata K, Ohshima Y, Tachibana H, Kodaira T** : Preliminary results of intensity modulated radiation therapy with helical tomotherapy for prostate cancer. J Cancer Res Clin Oncol, 138 (11) : 1931-6, 2012.
- 006 **Nakahara R, Kodaira T, Furutani K, Tachibana H, Tomita N, Inokuchi H, Mizoguchi N, Goto Y, Ito Y, Naganawa S** : Treatment outcomes of definitive chemoradiotherapy for patients with hypopharyngeal cancer. J Radiat Res, 53 (6) : 906-15, 2012.
- 007 **古平 毅** : 臨床放射線腫瘍学. 日本放射線腫瘍学会・日本放射線腫瘍学研究機構「臨床放射線腫瘍学編集委員会」, 南江堂, 第一版II各論5.上咽頭癌: 232-8, 2012.
- 008 **古平 毅** : 放射線治療計画ガイドライン. 日本放射線腫瘍学会, 金原出版, 頭頸部 上咽頭癌: 87-93, 2012.
- 009 **古平 毅** : 頭頸部癌放射線治療の現状と展望 IMRTを中心とした高精度放射線治療による個別化治療の展開. JCR News, 168: 5-6, 2012.
- 010 **古平 毅** : 知っておきたい新しいがん治療 トモセラピー. 緩和ケア, 22 (2) : 140-141, 2012.
- 011 **古平 毅** : 知っておきたい放射線・粒子線治療頭頸部癌に対する放射線治療の現況と展望. 臨床外科, 67 (8) : 970-976, 2012.
- 012 **古平 毅** : 知っておきたい放射線治療の新しい知識-専門医の診方・治し方 トモセラピー. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 85 (3) : 218-222, 2013.
- 013 **富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅** : トモセラピー強度変調放射線治療専用機について. RadFan, 10 (3) : 33-35, 2012.

#### 緩和ケア部

- 001 **Komori Y** : Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients. Palliat med, 26: 768-69, 2012.
- 002 **崔 智媛, 金 有淑, 小森康永** : プレイ (アート) を利用したナラティブ・セラピーとナラティブ・プレイセラピー. 家族療法研究, 29 (2) : 162-68, 2012.
- 003 **小森康永** : 適応障害: 診断と治療. 癌の臨床, 58 (3) : 111-15, 2012.
- 004 **小森康永** : 書評『ナラティブ・メディスン』. 精神療法, 38 (1) : 128-29, 2012.
- 005 **小森康永** : 自薦式ブックレビュー Marisa Silver: Night train to Frankfurt, N. ナラティブとケア, 3 : 78-79, 2012.
- 006 **小森康永** : 終末期と言葉: ナラティブ/当事者. 金剛出版, 2012.
- 007 **M. ホワイト (小森康永訳)** : ナラティブ実践: 会話を続けよう. 金剛出版, 2012.
- 008 **小森康永** : 本書の出版によせて、国重浩一『ナラティブ・セラピーの会話術』. 金子書房, 2013.
- 009 **小森康永** : 医学と文学の現在. 精神療法, 39 (1) : 142-48, 2013.

#### 看護部

- 001 **久保 知** : 外来がん看護. エンパワメント支援の理論と実際, すびか書房: 78-86, 2013.
- 002 **新貝夫弥子** : 全身倦怠感. 日総研, 5・6: 71、82-87, 2012.
- 003 **新貝夫弥子** : がん終末期の身の置き所のない全身倦怠感. 日総研, 11・12:55-59, 2012.
- 004 **新貝夫弥子** : 目と耳の感覚異常, 「婦人科がん」「化学療法」がん疼痛ケアガイド, 中山書店: 14-17、80-83、156-157, 2012.
- 005 **新貝夫弥子** : がんサバイバーシップを支える. 外来看護, すびか書房: 25-38, 2013.
- 006 **新貝夫弥子** : 疼痛、がん看護PEPリソース. 医学書院すびか書房: 221-2378, 2013.
- 007 **新貝夫弥子** : 原著: 乳がん化学療法を受ける患者のレジメン別にみた体重増加への影響要因. 日本がん看護学会誌, 26 (2) : 17-25, 2012.
- 008 **高木仁美** : 12時間夜勤の試行による働きやすい労働環境の整備. 看護, 6: 52-55, 2012.
- 009 **高木仁美** : 夜勤・交代制勤務の負担軽減. 看護, 11: 36-45, 2012.
- 010 **高木仁美, 渡瀬恭子, 伊藤 環, 高木佳世** : リアルティージェットを起こさない! 入職後3ヶ月間、機能別看護の導入. 月刊誌ナースマネージャー: 2-8, 2013.
- 011 **新田都子** : 【日ごろの気になるをズバッと解決! みんなが知りたい看護ケアのQ&A】フェンタニル貼付剤 (医療用麻薬) は、何%剥がれたら交換すべきですか?. Expert Nurse, 28 (9) : 15-16, 2012.
- 012 **新田都子** : 【ナースが知りたい! ギモン解決Q&A100】がん治療・疼痛・緩和ケア、病棟では、オピオイドの定期投与が「9時・21時」と決まっています。この時間は患者に合わせて変更できますか?. Expert Nurse (0911-0194), 28 (8) : 73-75, 2012.
- 013 **新田都子** : 【ナースが知りたい! ギモン解決Q&A100】がん治療・疼痛・緩和ケア、ペインスケールでずっと「3」と言われるけれど、このまま訊き続けていいの?. Expert Nurse (0911-0194), 28 (8) : 70-72, 2012.
- 014 **新田都子** : 【ナースが知りたい! ギモン解決Q&A100】がん治療・疼痛・緩和ケア、食道がんで嚥下時に痛みが強いとき、効果的な疼痛ケアは?. Expert Nurse (0911-0194), 28 (8) : 63-64, 2012.
- 015 **新田都子** : 【ナースが知りたい! ギモン解決Q&A100】がん治療・疼痛・緩和ケア、モルヒネが効かないがんの痛みってありますか?. Expert Nurse (0911-0194), 28 (8) : 57-58, 2012.
- 016 **新田都子** : 【ナースが知りたい! ギモン解決Q&A100】がん治療・疼痛・緩和ケア、がんの痛みで、病巣から離れたところで生じる「関連痛」とは何ですか?. Expert Nurse, 8 (8) : 56-57, 2012.
- 017 **新田都子** : 【症状マネジメント&日常生活援助編 全身倦怠感 症状マネジメントとケアの具体策】 全身倦怠感マネジメントの実際とケアの具体策. がん患者ケア, 5 (5) : 93-98, 2012.



- 018 新田都子：【日ごろのきになるズバツと解決！みんなが知りたい看護ケアのQ&A】便秘がひどいと、なぜモルヒネやオキシコドンからフェンタニルに交換するの？. Expert Nurse, 28 (15) : 16-17, 2012.
- 019 宮谷美智子：がん化学療法における継続看護・病棟との連携. 季刊誌 新時代の外来看護 2012冬号, 17 (6), 日総研: 73-82, 2012.
- 020 宮原久枝：実践の現場から 愛知県がんセンターにおけるスピリチュアルケア推進チームの現状.スピリチュアルケア第57号, 臨床パストラル教育研究センター: 7-8, 2012.
- 021 向井未年子：消化器がん化学療法レジメンブック.日本医事新報社: 252-253, 2012.
- 022 向井未年子：がん患者ケア5・6月号. 日総研: 88-92, 2012.
- 023 向井未年子：エンパワメント支援の理論と実際.外来がん看護, すびか書房:55-62, 2013.
- 024 向井未年子：外来通院中の進行肺がん患者のストレスコーピングとソーシャル・サポートの検討.三重看護学誌, 14 (1) : 29-39, 2012.
- 025 村井律子：オペナースのための手術室モニタリング見きわめ力&判断力マスターブック.オペナーシング2012年臨時増刊, メディカ出版: 196-204, 2012.
- 026 村井律子：スタッフ教育の効果的な実践「新人のリアリティショック予防を目指して～日本手術看護学会東海地区の試み②フォローアップ研修」.実践安全手術看護特集2, 6 (1), 日総研:56-59, 2012.
- 027 村井律子：サブ特集 手術看護におけるナラティブ「根治切除不能となったがん患者への心理的支援」.オペナーシング, 27 (12), メディカ出版: 84-86, 2012.
- 028 村井律子：Front Essay「手術看護認定看護師からのメッセージ」.オペナーシング, 28 (3), メディカ出版, 2013.
- 029 村井律子：コマ送り写真と図表で身につく！身になる！麻酔看護力アップサポートブック.オペナーシング2013年春季増刊号, メディカ出版: 252-260, 2013.
- 030 山田美佐子：夜勤・交代制勤務の負担軽減できることからまず実践.看護, 64 (14) 臨時増刊号, 日本看護協会出版会: 36-45, 2012.

## 6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（研究所）

### 所長室

- 001 *Saika K, Sobue T, Nakamura M, Oshima A, Wakabayashi K, Hamajima N, Mochizuki Y, Yamaguchi R, Tajima K*: Smoking prevalence and beliefs on smoking cessation among members of the Japanese Cancer Association in 2006 and 2010. *Cancer Sci*, 103 (8) : 1595-1599, 2012
- 002 *Kerner J, Tajima K, Yip C-H, Bhattacharyya O, Trapido E, Cazap E, Ullrich A, Fernandez M, Qiao Y-L, Kim P, Cho J, Sutcliffe C, Sutcliffe S, the ICCC-4 Working Group*: Knowledge exchange - translating research into practice and policy. *Asian Pacific J Cancer Prev*, 13 (Sup) : 37-48, 2012.
- 003 *Jiang AR, Gao CM, Ding JH, Li SP, Liu YT, Cao HX, Wu JZ, Tang JH, Qian Y, Tajima K*: Abortions and breast cancer risk in premenopausal and postmenopausal women in Jiangsu Province of China. *Asian Pacific J Cancer Prev*, 13: 33-35, 2012.
- 004 *Gao CM, Ding JH, Li SP, Liu YT, Cao HX, Wu JZ, Tajima K*: Polymorphisms in the thymidylate synthase gene and risk of colorectal cancer. *Asian Pacific J Cancer Prev*, 13: 4087-4091, 2012.
- 005 *Gao CM, Ding JH, Li SP, Liu YT, Qian Y, Chang J, Tang JH, Tajima K*: Active and passive smoking, and alcohol drinking and breast cancer risk in Chinese women. *Asian Pacific J Cancer Prev*, 14: 993-996, 2013.
- 006 *Kasuga M, Ueki K, Tajima N, Noda M, Ohashi K, Noto H, Goto A, Ogawa W, Sakai R, Tsugane S, Hamajima N, Nakagama H, Tajima K, Miyazono K, Imai K*: Report of the Japan Diabetes Society/Japanese Cancer Association Joint Committee on diabetes and cancer. *Cancer Sci*, 104: 965-976, 2013.
- 007 田島和雄：がんの疫学研究からウイルス考古学への展開。日本がん検診・診断学会誌, 19: 252-264, 2012.
- 008 田島和雄：乳癌（第2版）－基礎と臨床の最新研究動向－乳がんの疫学－国際比較－。日本臨床, 70: 42-49, 2012.
- 009 春日雅人, 植木浩二郎, 田嶋尚子, 野田光彦, 大橋 健, 能登洋, 後藤 温, 小川 渉, 堺 隆一, 津金昌一郎, 浜島信之, 中釜 齊, 田島和雄, 宮園浩平, 今井浩三：糖尿病と癌に関する委員会報告。糖尿病, 56 (6) : 374-390, 2013.

### 疫学・予防部

- 001 *Sueta A, Ito H, Kawase T, Hirose K, Hosono S, Yatabe Y, Tajima K, Tanaka H, Iwata H, Iwase H, Matsuo K*: A genetic risk predictor for breast cancer using a combination of low-penetrance polymorphisms in a Japanese population. *Breast Cancer Res Tr*, 132: 711-721, 2012.

- 002 *Inoue M, Nagata C, Tsuji I, Sugawara Y, Wakai K, Tamakoshi A, Matsuo K, Mizoue T, Tanaka K, Ssazuki S, Tsugane S*: Impact of alcohol intake on total mortality and mortality from major causes in Japanese: A pooled analysis of 6 large-scale cohort studies in Japan. *J Epidemiol Commun H*, 66: 448-456, 2012.
- 003 *Shimazu T, Sasazuki S, Wakai K, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Matsuo K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Inoue M, Tsugane S*: for the Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.: Alcohol drinking and primary liver cancer: A pooled analysis of four Japanese cohort studies. *Int J Cancer*, 130: 2645-2653, 2012.
- 004 *Chihara D, Matsuo K, Kanda J, Hosono S, Ito H, Nakamura S, Seto M, Morishima Y, Tajima K, Tanaka H*: Inverse association between soy intake and non-Hodgkin lymphoma risk among women: a case-control study in Japan. *Ann Oncol*, 23: 1061-1066, 2012.
- 005 *Shitara K, Ikeda J, Kondo C, Takahari D, Ura T, Muro K, Matsuo K*: Reporting patient characteristics and stratification factors in randomized trials of systemic chemotherapy for advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 15: 137-143, 2012.
- 006 *De Feo E, Simone B, Kamgaing RS, Gall~ P, Hamajima N, Hu Z, Li G, Li Y, Matsuo K, Park JY, Roychoudhury S, Spitz MR, Wei Q, Zhang JH, Ricciardi W, Boccia S*: p73 G4C14-to-A4T14 gene polymorphism and interaction with p53 exon 4 Arg72Pro on cancer susceptibility: a meta-analysis of the literature. *Mutagenesis*, 27: 267-273, 2012.
- 007 *Yanagisawa K, Tomida S, Matsuo K, Arima C, Kusumegi M, Yokoyama Y, Ko SB, Mizuno N, Kawahara T, Kuroyanagi Y, Takeuchi T, Goto H, Yamao K, Nagino M, Tajima K, Takahashi T*: Seven-signal proteomic signature for detection of operable pancreatic ductal adenocarcinoma and their discrimination from autoimmune pancreatitis. *Int J Proteomics*, 2012: 510397, 2012.
- 008 *Ma J, Xiao F, Xiong M, Andrew AS, Brenner H, Duell EJ, Haugen A, Hoggart C, Hung RJ, Lazarus P, Liu C, Matsuo K, Mayordomo JJ, Schwartz AG, Staratschek-Jox A, Wichmann E, Yang P, Amos CI*: Natural and orthogonal interaction framework for modeling gene-environment interactions with application to lung cancer. *Hum Hered*, 73: 185-194, 2012.
- 009 *Nishiyama T, Kishino H, Suzuki S, Ando R, Niimura H, Uemura H, Horita M, Ohnaka K, Kuriyama N, Mikami H, Takashima N, Mastuo K, Guang Y, Wakai K, Hamajima N, Tanaka H; J-MICC Study Group*: Detailed analysis of Japanese population substructure with a focus on the southwest islands of Japan. *PLoS*

- One, 7: e35000, 2012.
- 010 *Shitara K, Ikeda J, Yokota T, Takahari D, Ura T, Muro K, Matsuo K* : Progression-free survival and time to progression as surrogate markers of overall survival in patients with advanced gastric cancer: analysis of 36 randomized trials. *Invest New Drug*, 30: 1224-1231, 2012.
- 011 *Fan Q, Barathi VA, Cheng CY, Zhou X, Meguro A, Nakata I, Khor CC, Goh LK, Li YJ, Lim W, Ho CE, Hawthorne F, Zheng Y, Chua D, Inoko H, Yamashiro K, Ohno-Matsui K, Matsuo K, Matsuda F, Vithana E, Seielstad M, Mizuki N, Beuerman RW, Tai ES, Yoshimura N, Aung T, Young TL, Wong TY, Teo YY, Saw SM* : Genetic variants on chromosome 1q41 influence ocular axial length and high myopia. *PLoS Genet*, 8: e1002753, 2012.
- 012 *Hishida A, Morita E, Naito M, Okada R, Wakai K, Matsuo K, Nakamura K, Takashima N, Suzuki S, Takezaki T, Mikami H, Ohnaka K, Watanabe Y, Uemura H, Kubo M, Tanaka H, Hamajima N* : Associations of apolipoprotein A5 (APOA5), glucokinase (GCK) and glucokinase regulatory protein (GCKR) polymorphisms and lifestyle factors with the risk of dyslipidemia and dysglycemia in Japanese - a cross-sectional data from the J-MICC Study. *Endocr J*, 59: 589-599, 2012.
- 013 *Ma X, Beeghly-Fadiel A, Lu W, Shi J, Xiang YB, Cai Q, Shen H, Shen CY, Ren Z, Matsuo K, Khoo US, Iwasaki M, Long J, Zhang B, Ji BT, Zheng Y, Wang W, Hu Z, Liu Y, Wu PE, Shieh YL, Wang S, Xie X, Ito H, Kasuga Y, Chan KY, Iwata H, Tsugane S, Gao YT, Shu XO, Moses HL, Zheng W* : Pathway Analyses Identify TGFBR2 as Potential Breast Cancer Susceptibility Gene: Results from a Consortium Study among Asians. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 21: 1176-1184, 2012.
- 014 *Terao C, Ohmura K, Ikari K, Kochi Y, Maruya E, Katayama M, Yurugi K, Shimada K, Murasawa A, Honjo S, Takasugi K, Matsuo K, Tajima K, Suzuki A, Yamamoto K, Momohara S, Yamanaka H, Yamada R, Saji Hiroo Matsuda F, Mimori T* : ACPA-negative RA consists of two genetically distinct subsets based on RF positivity in Japanese. *Plos One*, 7: e40067, 2012.
- 015 *Kawaguchi T, Sumida Y, Umemura A, Matsuo K, Takahashi M, Takamura T, Yasui K, Saibara T, Hashimoto E, Kawanaka M, Watanabe S, Kawata S, Imai Y, Kokubo M, Shima T, Park H, Tanaka H, Tajima K, Yamada R, Matsuda F, Okanoue T* : Genetic polymorphisms of the human PNPLA3 gene are strongly associated with severity of non-alcoholic fatty liver disease in Japanese. *Plos One*, 7: e38322, 2012.
- 016 *Kawakita D, Sato F, Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Hanai N, Hatooka S, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K* : Inverse association between yoghurt intake and upper aerodigestive tract cancer risk in a Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 21: 453-459, 2012.
- 017 *Islam T, Matsuo K, Ito H, Hosono S, Watanabe M, Iwata H, Tajima K, Tanaka H* : Reproductive and hormonal risk factors for luminal, HER2-overexpressing, and triple-negative breast cancer in Japanese women. *Ann Oncol*, 23: 2435-2441, 2012.
- 018 *Kane E, Roman E, Becker N, Bernstein L, Boffetta P, Bracci P, Cerhan JR, Chiu B, Cocco P, Costas L, Foretova L, La Vecchia C, Matsuo K, Maynadie M, Sanjose S, Spinelli JJ, Staines A, Talamini R, Wang SS, Zhang Y, Zheng T, Krickler A* : Menstrual and reproductive factors, and hormonal contraception use: associations with non-Hodgkin lymphoma in a pooled analysis of InterLymph case-control studies. *Ann Oncol*, 23: 2362-2374, 2012.
- 019 *Nakata I, Yamashiro K, Akagi-Kurashige Y, Miyake M, Kumagai K, Tsujikawa A, Liu K, Chen LJ, Liu DT, Lai TY, Sakurada Y, Yoneyama S, Cheng CY, Cackett P, Yeo IY, Tay WT, Cornes BK, Vithana EN, Aung T, Matsuo K, Matsuda F, Wong TY, Iijima H, Pang CP, Yoshimura N* : Association of genetic variants on 8p21 and 4q12 with age-related macular degeneration in asian populations. *Invest Ophthalmol Vis Sci*, 53: 6576-6581, 2012.
- 020 *Chihara D, Ito H, Katanoda K, Shibata A, Matsuda T, Tajima K, Sobue T, Matsuo K* : Increase in incidence of adult T-cell leukemia/lymphoma in non-endemic areas of Japan and the United States. *Cancer Sci*, 103: 1857-1860, 2012.
- 021 *Sueta A, Ito H, Islam T, Hosono S, Watanabe M, Hirose K, Fujita T, Yatabe Y, Iwata H, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K* : Differential impact of body mass index and its change on the risk of breast cancer by molecular subtype: A case-control study in Japanese women. *SpringerPlus*, 1: 39, 2012.
- 022 *Matsuzuka T, Takahashi K, Kawakita D, Kohono N, Nagafuji H, Yamauchi K, Suzuki M, Miura T, Furuya N, Yatabe Y, Matsuo K, Omori K, Hasegawa Y* : Intraoperative molecular assessment for lymph node metastasis in head and neck squamous cell carcinoma using one-step nucleic acid amplification (OSNA) assay. *Ann Surg Oncol*, 19: 3865-3870, 2012.
- 023 *Nakao M, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Mizuno N, Sato S, Yatabe Y, Yamao K, Ueda R, Tajima K, Tanaka H, Matsuo K* : Selected polymorphisms of base excision repair genes and pancreatic cancer risk in Japanese. *J Epidemiol*, 22: 477-483, 2012.
- 024 *Matsuo K, Gallus S, Negri E, Kawakita D, Oze I, Hosono S, Ito H, Hatooka S, Hasegawa Y, Shinoda M, Tajima K, Vecchia CL, Tanaka H* : Time to First Cigarette and Upper Aerodigestive Tract Cancer Risk in Japan. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 21: 1186-1192, 2012.
- 025 *Fukumoto K, Taniguchi T, Ishikawa Y, Kawaguchi K,*



- Fukui T, Kato K, Matsuo K, Yokoi K** : The utility of [18F]-fluorodeoxyglucose positron emission tomography-computed tomography in thymic epithelial tumours. *Eur J Cardiothorac Surg*, 42: e152-156, 2012.
- 026 **Ueno T, Toyooka S, Suda K, Soh J, Yatabe Y, Miyoshi S, Matsuo K, Mitsudomi T** : Impact of age on epidermal growth factor receptor mutation in lung cancer. *Lung Cancer*, 78: 207-211, 2012.
- 027 **Nogami N, Hotta K, Segawa Y, Takigawa N, Hosokawa S, Oze I, Fujii M, Ichihara E, Shibayama T, Tada A, Hamada N, Uno M, Tamaoki A, Kuyama S, Ikeda G, Osawa M, Takata S, Tabata M, Tanimoto M, Kiura K** : Phase II study of irinotecan and amrubicin in patients with relapsed non-small cell lung cancer: Okayama Lung Cancer Study Group Trial 0402. *Acta Oncol*, 51: 768-773, 2012.
- 028 **Yuasa Y, Nagasaki H, Oze I, Akiyama Y, Yoshida S, Shitara K, Ito S, Hosono S, Watanabe M, Ito H, Tanaka H, Kang D, Pan KF, You WC, Matsuo K** : Insulin-like growth factor 2 hypomethylation of blood leukocyte DNA is associated with gastric cancer risk. *Int J Cancer*, 131: 2596-2603, 2012.
- 029 **Li L, Choi JY, Lee KM, Sung H, Park SK, Oze I, Pan KF, You WC, Chen YX, Fang JY, Matsuo K, Kim WH, Yuasa Y, Kang D** : DNA methylation in peripheral blood: a potential biomarker for cancer molecular epidemiology. *J Epidemiol*, 22: 384-394, 2012.
- 030 **Ozaki S, Takigawa N, Ichihara E, Hotta K, Oze I, Kurimoto E, Fushimi S, Ogino T, Tabata M, Tanimoto M, Kiura K** : Favorable response of heavily treated Wilms' tumor to paclitaxel and carboplatin. *Onkologie*, 35: 283-286, 2012.
- 031 **Ochi N, Hotta K, Takigawa N, Oze I, Fujiwara Y, Ichihara E, Hisamoto A, Tabata M, Tanimoto M, Kiura K** : Treatment-related death in patients with small-cell lung cancer in phase III trials over the last two decades. *PLoS One*, 7: e42798, 2012.
- 032 **Hara M, Higaki Y, Taguchi N, Shinchi K, Morita E, Naito M, Hamajima N, Takashima N, Suzuki S, Nakamura A, Ohnaka K, Uemura H, Nishida H, Hosono S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H** : Effect of the PPARG2 Pro12Ala Polymorphism and Clinical Risk Factors for Diabetes Mellitus on HbA1c in the Japanese General Population. *J Epidemiol*, 22: 523-531, 2012.
- 033 **Hiyoshi M, Uemura H, Arisawa K, Nakamoto M, Hishida A, Okada R, Matsuo K, Kita Y, Niimura H, Kuriyama N, Nanri H, Ohnaka K, Suzuki S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H, Hamajima N** : J-MICC Study Group.: Association between the catechol-O-methyltransferase (rs4680: Val158Met) polymorphism and serum alanine aminotransferase activity. *Gene*, 496: 97-102, 2012.
- 034 **Chihara D, Ito H, Matsuda T, Katanoda K, Shibata A, Saika K, Sobue T, Matsuo K** : Decreasing trend in mortality of chronic myelogenous leukemia patients after introduction of imatinib in Japan and the U.S. *Oncologist*, 17: 1547-1550, 2012.
- 035 **Lan Q, Hsiung CA, Matsuo K, Hong YC, Seow A, Wang Z, Hosgood HD 3rd, Chen K, Wang JC, Chatterjee N, Hu W, Wong MP, Zheng W, Caporaso N, Park JY, Chen CJ, Kim YH, Kim YT, Landi MT, Shen H, Lawrence C, Burdett L, Yeager M, Yuenger J, Jacobs KB, Chang IS, Mitsudomi T, Kim HN, Chang GC, Bassig BA, Tucker M, Wei F, Yin Z, Wu C, An SJ, Qian B, Lee VH, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Kim JH, Gao YT, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Hutchinson A, Wang WC, Klein R, Chung CC, Oh IJ, Chen KY, Berndt SI, He X, Wu W, Chang J, Zhang XC, Huang MS, Zheng H, Wang J, Zhao X, Li Y, Choi JE, Su WC, Park KH, Sung SW, Shu XO, Chen YM, Liu L, Kang CH, Hu L, Chen CH, Pao W, Kim YC, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Su J, Wang CL, Li H, Sihoe AD, Zhao Z, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Cai Q, Lin CC, Park IK, Xu P, Dong J, Kim C, He Q, Perng RP, Kohno T, Kweon SS, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Chow WH, Ji BT, Chan JK, Chu M, Li YJ, Yokota J, Li J, Chen H, Xiang YB, Yu CJ, Kunitoh H, Wu G, Jin L, Lo YL, Shiraishi K, Chen YH, Lin HC, Wu T, Wu YL, Yang PC, Zhou B, Shin MH, Fraumeni JF Jr, Lin D, Chanock SJ, Rothman N** : Genome-wide association analysis identifies new lung cancer susceptibility loci in never-smoking women in Asia. *Nat Genet*, 44: 1330-1335, 2012.
- 036 **Okada R, Kawai S, Naito M, Hishida A, Hamajima N, Shinchi K, Chowdhury Turin T, Suzuki S, Mantjoro EM, Toyomura K, Arisawa K, Kuriyama N, Hosono S, Mikami H, Kubo M, Tanaka H, Wakai K** : Matrix metalloproteinase-9 gene polymorphisms and chronic kidney disease. *Am J Nephrol*, 36: 444-450, 2012.
- 037 **Uemura H, Hiyoshi M, Arisawa K, Yamaguchi M, Naito M, Kawai S, Hamajima N, Matsuo K, Taguchi N, Takashima N, Suzuki S, Hirasada K, Mikami H, Ohnaka K, Yoshikawa A, Kubo M, Tanaka H** : Japan Multi-institutional Collaborative Cohort.: Gene variants in PPARD and PPARGC1A are associated with timing of natural menopause in the general Japanese population. *Maturitas*, 71: 369-375, 2012.
- 038 **Ito H, McKay JD, Hosono S, Hida T, Yatabe Y, Mitsudomi T, Brennan P, Tanaka H, Matsuo K** : Association between a genome-wide association study-identified locus and the risk of lung cancer in Japanese population. *J Thorac Oncol*, 7: 790-798, 2012.
- 039 **Sakuma K, Furuhashi T, Kondo S, Yabe U, Ohmori K, Ito H, Aoki M, Morita A, Kannagi R** : Sialic acid cyclization of human Th homing receptor glycan associated with recurrent exacerbations of atopic dermatitis. *J Dermatol Sci*, 68 (3) :187-93, 2012.
- 040 **Permeth-Wey J, Lawrenson K, Shen HC, Velkova A,**

- Tyrer JP, Chen Z, Lin HY, Ann Chen Y, Tsai YY, Qu X, Ramus SJ, Karevan R, Lee J, Lee N, Larson MC, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Antoniou AC, Armasu SM; stralian Cancer Study; stralian Ovarian Cancer Study, Bacot F, Baglietto L, Bandera EV, Barnholtz-Sloan J, Beckmann MW, Birrer MJ, Bloom G, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Brown R, Butzow R, Cai Q, Campbell I, Chang-Claude J, Chanock S, Chenevix-Trench G, Cheng JQ, Cicek MS, Coetzee GA; Consortium of Investigators of Modifiers of BRCA1/2, Cook LS, Couch FJ, Cramer DW, Cunningham JM, Dansonka-Mieszkowska A, Despierre E, Doherty JA, Dørk T, du Bois A, Dørst M, Easton DF, Eccles D, Edwards R, Ekici AB, Fasching PA, Fenstermacher DA, Flanagan JM, Garcia-Closas M, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool RM, Gonzalez-Bosquet J, Goodman MT, Gore M, Głowski B, Gronwald J, Hall P, Halle MK, Harter P, Heitz F, Hillemanns P, Hoatlin M, Høgdall CK, Høgdall E, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Jim H, Kalli KR, Karlan BY, Kaye SB, Kelemen LE, Kiemeny LA, Kikkawa F, Konecny GE, Krakstad C, Krøger Kjaer S, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Lancaster JM, Le ND, Leminen A, Levine DA, Liang D, Kiong Lim B, Lin J, Lissowska J, Lu KH, Lubinski J, Lurie G, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Nakanishi T, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Nevanlinna H, Nickels S, Noushmehr H, Odunsi K, Olson SH, Orlov I, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Raska P, Renner SP, Risch HA, Rodriguez-Rodriguez L, Anne Rossing M, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Severi G, Shridhar V, Shu XO, Shvetsov YB, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Stram D, Sutphen R, Teo SH, Terry KL, Tessier DC, Thompson PJ, Tworoger SS, van Altena AM, Vergote I, Vierkant RA, Vincent D, Vitonis AF, Wang-Gohrke S, Palmieri Weber R, Wentzensen N, Whittemore AS, Wik E, Wilkens LR, Winterhoff B, Ling Woo Y, Wu AH, Xiang YB, Yang HP, Zheng W, Ziogas A, Zulkifli F, Phelan CM, Iversen E, Schildkraut JM, Berchuck A, Fridley BL, Goode EL, Pharoah PD, Monteiro AN, Sellers TA, Gayther SA : Identification and molecular characterization of a new ovarian cancer susceptibility locus at 17q21.31. *Nat Commun*, 4 : 1627, 2013.
- 041 Shen H, Fridley BL, Song H, Lawrenson K, Cunningham JM, Ramus SJ, Cicek MS, Tyrer J, Stram D, Larson MC, Kibel M; PRACTICAL Consortium, Ziogas A, Zheng W, Yang HP, Wu AH, Wozniak EL, Ling Woo Y, Winterhoff B, Wik E, Whittemore AS, Wentzensen N, Palmieri Weber R, Vitonis AF, Vincent D, Vierkant RA, Vergote I, Van Den Berg D, Van Altena AM, Tworoger SS, Thompson PJ, Tessier DC, Terry KL, Teo SH, Templeman C, Stram DO, Southey MC, Sieh W, Siddiqui N, Shvetsov YB, Shu XO, Shridhar V, Wang-Gohrke S, Severi G, Schwaab I, Salvesen HB, Rzepecka IK, Runnebaum IB, Anne Rossing M, Rodriguez-Rodriguez L, Risch HA, Renner SP, Poole EM, Pike MC, Phelan CM, Pelttari LM, Pejovic T, Paul J, Orlov I, Zawiah Omar S, Olson SH, Odunsi K, Nickels S, Nevanlinna H, Ness RB, Narod SA, Nakanishi T, Moysich KB, Monteiro AN, Moes-Sosnowska J, Modugno F, Menon U, McLaughlin JR, McGuire V, Matsuo K, Mat Adenan NA, Massuger LF, Lurie G, Lundvall L, Lubinski J, Lissowska J, Levine DA, Leminen A, Lee AW, Le ND, Lambrechts S, Lambrechts D, Kupryjanczyk J, Krakstad C, Konecny GE, Krøger Kjaer S, Kiemeny LA, Kelemen LE, Keeney GL, Karlan BY, Karevan R, Kalli KR, Kajiyama H, Ji BT, Jensen A, Jakubowska A, Iversen E, Hosono S, Høgdall CK, Høgdall E, Hoatlin M, Hillemanns P, Heitz F, Hein R, Harter P, Halle MK, Hall P, Gronwald J, Gore M, Goodman MT, Giles GG, Gentry-Maharaj A, Garcia-Closas M, Flanagan JM, Fasching PA, Ekici AB, Edwards R, Eccles D, Easton DF, Dørst M, du Bois A, Dørk T, Doherty JA, Despierre E, Dansonka-Mieszkowska A, Cybulski C, Cramer DW, Cook LS, Chen X, Charbonneau B, Chang-Claude J, Campbell I, Butzow R, Bunker CH, Brueggmann D, Brown R, Brooks-Wilson A, Brinton LA, Bogdanova N, Block MS, Benjamin E, Beesley J, Beckmann MW, Bandera EV, Baglietto L, Bacot F, Armasu SM, Antonenkova N, Anton-Culver H, Aben KK, Liang D, Wu X, Lu K, Hildebrandt MA; stralian Ovarian Cancer Study Group; stralian Cancer Study, Schildkraut JM, Sellers TA, Huntsman D, Berchuck A, Chenevix-Trench G, Gayther SA, Pharoah PD, Laird PW, Goode EL, Leigh Pearce C : Epigenetic Analysis Leads to Identification of HNF1B as a Subtype-Specific Susceptibility Gene for Ovarian Cancer. *Nat Commun*, 4 : 1628, 2013.
- 042 Kane EV, Bernstein L, Bracci PM, Cerhan JR, Costas L, Dal Maso L, Holly EA, La Vecchia C, Matsuo K, Sanjose S, Spinelli JJ, Wang SS, Zhang Y, Zheng T, Roman E, Krickler A : for the InterLymph Consortium.: Postmenopausal hormone therapy and non-Hodgkin lymphoma: a pooled analysis of InterLymph case-control studies. *Ann Oncol*, 24 (2) : 433-41, 2013.
- 043 Nakata K, Takami A, Espinoza JL, Matsuo K, Morishima Y, Fukuda T, Kodera Y, Miyamura K, Nakao S. for the JMDP : The recipient CXCL10 +1642C>G variation predicts survival outcomes after HLA-fully-matched unrelated bone marrow transplantation. *Clin Immunol*, 146 (2) : 104-11, 2013.
- 044 Jia WH, Zhang B, Matsuo K, Shin A, Xiang YB, Jee SH, Kim DH, Ren Z, Caii Q, Long J, Shi J, Wen W,

- Yang G, Delahnty RJ, GECCO and CCFR, Ji BT, Pan ZZ, Matsuda F, Gao YT, Oh JH, Ahn YO, Park EJ, Li HL, Park JW, Jo J, Jeong JY, Hosono S, Casey G, Peteres U, Shu XO, Zeng YX, Zheng W : Genome-wide association analyses in East Asians identify new susceptibility loci for colorectal cancer. *Nat Genet*, 45 (2) : 191-6, 2013.
- 045 Ono H, Chihara D, Chiwaki F, Sasaki H, Yanagihara K, Yoshida T, Saeki N, Matsuo K : Missense allele of a single nucleotide polymorphism rs2294008 attenuated anti-tumor effects of prostate stem cell antigen (PSCA) gene in gallbladder cancer cells. *J Carcinog*16, 12: 4, 2013.
- 046 Lin Y, Fu R, Grant E, Chen Y, Lee JE, Gupta PC, Ramadas K, Inoue M, Tsugane S, Gao YT, Tamakoshi A < Shu XO, Ozasa K, Tsuji I, Kakizaki M, Tanaka H, Chen CJ, Yoo KY, Ahn YO, Ahsan H, Pendnekar MS, Saubagat C < Sasazuki S, Yang G, Xiang YB, Ohishi W, Watanabe T, Nishino Y, Matsuo K, You SL, Park SK, Kim DH, Parbez F, Rolland B, McLearn D, Sinha R, Boffetta P, Zheng W, Thomquist M, Feng Z, Kang D, Potter JD : Association of body mass index and risk of death from pancreas cancer in Asians: findings from the Asia Cohort Consortium. *Eur J Cancer Prev*, 22 (3) : 244-50, 2013.
- 047 細野覚代, 松田彩子, 伊藤秀美 : 1. 卵巣癌の罹患と死亡の動向. *産科と婦人科*. 79 (6) : 685-690, 2012.
- 048 細野覚代 : 運動によるがん予防のメカニズム. *体育の科学*. 62 (2) : 97-102, 2012.
- 049 松尾恵太郎, 伊藤秀美 : 急性白血病の疫学. 最新医学別冊「急性白血病 改訂第2版」: 24-34, 2012.
- 050 松尾恵太郎 : ゲノムワイド関連研究 (GWAS) -分子疫学研究の変遷の中で. *がん分子標的治療*. 10: 65-69, 2012.
- 051 松尾恵太郎 : がんの生物学的特性を考慮した疫学研究. *医学のあゆみ*, 241 (5) : 405-408, 2012.
- 052 千原 大, 伊藤秀美, 松尾恵太郎 : 日本の造血管腫瘍の疫学. *日本臨床*, 70 (Supple 2) : 13-18, 2012.
- 053 谷口千枝. 田中英夫 (編) : 事例で学ぶ禁煙治療のためのカウンセリングテクニック, エキスパート編 看護の科学社 (単行本), 東京, 2012.
- 054 田中英夫, 細野覚代, 伊藤秀美 : 肝癌の疫学. *臨床外科 増刊号*, 67 (11) : 138-142, 2012.
- 055 田中英夫 : 我が国における肝癌発生の最近の動向. *臨床消化器内科*, 27 (5) : 521-527, 2012.
- 056 田中英夫 : アジア人における肥満度とがん死亡リスクとの関係—東アジア人のがん死亡リスクはBMI17.5未満と27.6以上で増加する. *医学のあゆみ*, 241 (5) : 340-344, 2012.
- 057 浜島信之, 田中英夫 : 日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC Study) の概要. *日整会誌 (J Jpn Orthop Assoc)*, 87: 16-9, 2013.

腫瘍病理学部

〔原 著〕

- 001 Kondo E, Saito K, Tashiro Y, Kamide K, Uno S, Furuya T, Mashita M, Nakajima K, Tsumuraya T, Kobayashi N, Nishibori M, Tanimoto M, Matsushita M: Tumour lineage-homing cell-penetrating peptides as anticancer molecular delivery systems. *Nat Commun*, 3: 951-963, 2012.
- 002 Tcherniuk S, Fiser A-L, Derouazi M, Toussaint B, Wang Y, Wojtal I, Kondo E, Szolajska E, Chroboczek J: Certain protein transducing agents convert translocated proteins into cell killers. *Acta Biochim Pol*, 59: 433-439, 2012.
- 003 Maseki S, Ijichi K, Tanaka H, Fujii M, Hasegawa Y, Ogawa T, Murakami S, Kondo E, Nakanishi H: Acquisition of EMT phenotype in the gefitinib-resistant cells of a head and neck squamous cell carcinoma cell line through Akt/GSK-3 $\beta$ /snail signaling pathway. *Brit J Cancer*, 106: 1196-1120, 2012.
- 004 Murakami H, Nakanishi H, Tanaka H, Ito S, Misawa K, Ito Y, Ikehara Y, Kondo E, Kodera Y : Establishment and characterization of novel gastric signet-ring cell and non signet-ring cell, poorly-differentiated adenocarcinoma cell lines with low and high malignant potential. *Gastric Cancer*, 16: 74-83, 2012.
- 005 Ohta M, Abe A, Ohno F, Hasegawa Y, Tanaka H, Maseki S, Kondo E, Kurita K, Nakanishi H: Positive and negative regulation of podoplanin expression by TGF- $\beta$  and histone deacetylase inhibitors in oral and pharyngeal squamous cell carcinoma cell lines. *Oral Oncol*, 49: 20-26, 2012.
- 006 Ozaki H, Matsuzaki H, Ando H, Kaji H, Nakanishi H, Ikehara Y and Narimatsu H : Enhancement of metastatic ability by ectopic expression of ST6GalNAcI on a gastric cancer cell line in a mouse model. *Clin Exp Metastas*, 29: 229-238, 2012.
- 007 Akita K, Yoshida S, Ikehara Y, Shirakawa S, Toda M, Inoue M, Kitawaki J, Nakanishi H, Narimatsu H, Nakada H: Different levels of sialyl-Tn antigen expressed on MUC16 in patients with endometriosis and ovarian cancer. *Int J Gynecol Cancer*, 22: 531-538, 2012.
- 008 Horinaka M, Yoshida T, Nakata S, Shiraishi T, Tomosugi M, Yoshikawa S, Wakada M and Sakai T : Aclarubicin enhances tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand-induced apoptosis through death receptor 5 upregulation. *Cancer Sci*, 103: 282-287, 2012.
- 009 Goidts V, Bageritz J, Puccio L, Nakata S, Zapatka M, Barbus S, Toedt G, Campos B, Korshunov A, Momma S, Van Schaftingen E, Reifemberger G, Herold-Mende C, Lichter P and Radlwimmer B: RNAi screening in glioma stem-like cells identifies PFKFB4 as a key



molecule important for cancer cell survival. *Oncogene*, 31: 3235-3243, 2012.

- 010 **Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Liu F, Kondo E, Ko YH, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M**: Lineage-specific growth inhibition of NK cell lines by FOXO3 in association with Akt activation status. *Exp Hematol*, Dec;40 (12):1005-1015, 2012.
- 011 **Saito K, Sakaguchi M, Iioka H, Matsui M, Nakanishi H, Huh NH and Kondo E**: Coxsackie and adenovirus receptor is a critical regulator for the survival and growth of oral squamous carcinoma cells. *Oncogene*, March 18, 2013. [Epub ahead of print]

#### 分子腫瘍学部

[原 著]

- 001 **Okamoto Y, Sawaki A, Ito S, Nishida T, Takahashi T, Toyota M, Suzuki H, Shinomura Y, Shinjo K, An B, Ito H, Yamao K, Fujii M, Murakami H, Osada H, Kataoka H, Joh T, Sekido Y, Kondo Y**: Aberrant DNA methylation associated with aggressiveness of gastrointestinal stromal tumor. *Gut*, 61: 392-401, 2012.
- 002 **Horio M, Sato M, Takeyama Y, Elshazley M, Yamashita R, Hase T, Yoshida K, Usami N, Yokoi K, Sekido Y, Kondo M, Toyokuni S, Gazdar AF, Minna JD, Hasegawa Y**: Transient but not stable ZEB1 knock-down dramatically inhibits growth of malignant pleural mesothelioma cells. *Ann Surg Oncol*, Suppl, 3: S634-45, 2012.
- 003 **Kishida Y, Natsume A, Kondo Y, Takeuchi I, An B, Okamoto Y, Shinjo K, Ando H, Ohka F, Sekido Y, Wakabayashi T**: Epigenetic subclassification of meningiomas based on genome-wide DNA methylation analyses. *Carcinogenesis*, 33: 436-41, 2012.
- 004 **Suda K, Tomizawa K, Osada H, Maehara Y, Yatabe Y, Sekido Y, Mitsudomi T**: Conversion from the "oncogene addiction" to "drug addiction" by intensive inhibition of the EGFR and MET in lung cancer with activating EGFR mutation. *Lung cancer*, 76: 292-9, 2012.
- 005 **Mizuno T, Murakami H, Fujii M, Ishiguro F, Tanaka I, Kondo Y, Akatsuka S, Toyokuni S, Yokoi K, Osada H, Sekido Y**: YAP induces malignant mesothelioma cell proliferation by upregulating transcription of cell cycle promoting genes. *Oncogene*, 31: 5117-22, 2012.
- 006 **Ishiguro F, Murakami H, Mizuno T, Fujii M, Kondo Y, Usami N, Yokoi K, Osada H, Sekido Y**: Activated leukocyte cell adhesion molecule (ALCAM) promotes malignant phenotypes of malignant mesothelioma. *J Thorac Oncol*, 7: 890-9, 2012.
- 007 **Fujii M, Toyoda T, Nakanishi H, Yatabe Y, Sato A, Matsudaira Y, Ito H, Murakami H, Kondo Y, Kondo E, Hida T, Tsujimura T, Osada H, Sekido Y**: TGF- $\beta$  synergizes with defects in the Hippo pathway to stimulate human malignant mesothelioma growth. *J Exp Med*, 209: 479-94, 2012.
- 008 **Takagi M, Ueda J, Hwang J-H, Hashimoto J, Izumikawa M, Murakami H, Sekido Y, Shin-ya K**: Tyrosyl-DNA phosphodiesterase 1 inhibitor from an anamorphic fungus. *J Nat Prod*, 75: 764-7, 2012.
- 009 **Elshazley M, Sato M, Hase T, Takeyama Y, Yamashita R, Yoshida K, Toyokuni S, Ishiguro F, Osada H, Sekido Y, Yokoi K, Usami N, Shames DS, Kondo M, Gazdar AF, Minna JD, Hasegawa Y**: The circadian clock gene BMAL1 is a novel therapeutic target for malignant mesothelioma. *Int J Cancer*, 131: 2820-31, 2012.
- 010 **Shinjo K, Okamoto Y, An B, Yokoyama T, Takeuchi I, Fujii M, Osada H, Usami U, Hasegawa Y, Ito H, Hida T, Fujimoto N, Kishimoto T, Sekido S, Kondo Y**: Integrated analysis of genetic and epigenetic alterations reveals CpG island methylator phenotype associated with distinct clinical characters of lung adenocarcinoma. *Carcinogenesis*, 33: 1277-85, 2012.
- 011 **Nakagawa T, Takeuchi S, Yamada T, Nanjo S, Ishikawa D, Sano T, Kita K, Nakamura T, Matsumoto K, Suda K, Mitsudomi T, Sekido Y, Uenaka T, Yano S**: Combined therapy with mutant-selective EGFR inhibitor and Met kinase inhibitor to overcome erlotinib resistance in EGFR mutant lung cancer. *Mol Cancer Ther*, 11: 2149-57, 2012.
- 012 **Katsushima K, Shinjo K, Natsume A, Ohka F, Fujii M, Osada H, Sekido Y, Kondo Y**: Contribution of microRNA-1275 to Claudin11 expression via polycomb-mediated silencing mechanism in human glioma stem-like cells. *J Biol Chem*, 287: 27396-406, 2012.
- 013 **Akatsuka S, Yamashita Y, Ohara H, Liu Y, Izumiya M, Abe K, Ochiai M, Jiang L, Nagai H, Okazaki Y, Murakami H, Sekido Y, Arai E, Kanai Y, Hino O, Takahashi T, Nakagama H, Toyokuni S**: Fenton reaction induced cancer in wild type rats recapitulates genomic alterations observed in human cancer. *PLoS ONE*, 7: e43403, 2012.
- 014 **Ishiguro F, Murakami H, Mizuno T, Fujii M, Kondo Y, Usami N, Taniguchi T, Yokoi K, Osada H, Sekido Y**: Membranous expression of activated leukocyte cell adhesion molecule (ALCAM) contributes to poor prognosis and malignant phenotypes of non-small cell lung cancer. *J Surg Res*, 179: 24-32, 2012.
- 015 **Yamada T, Takeuchi S, Fujita N, Nakamura A, Wang W, Li Q, Oda M, Mitsudomi T, Yatabe Y, Sekido Y, Yoshida J, Higashiyama M, Noguchi M, Uehara H, Nishioka Y, Sone S, Yano S**: Akt kinase-interacting protein1, a novel therapeutic target for lung cancer with EGFR-activating and gatekeeper mutations. *Oncogene*, 32: 4427-35, 2013.
- 016 **Yamaguchi T, Yanagisawa K, Sugiyama R, Hosono Y, Shimada Y, Arima C, Kato S, Tomida S, Suzuki M, Osada H, Takahashi T**: NKX2-1/TITF1/TTF-1-Induced

ROR1 is required to sustain EGFR survival signaling in lung adenocarcinoma. *Cancer Cell*, 21: 348-61, 2012.

- 017 **Xue X, Gao W, Sun B, Xu Y, Han B, Wang F, Zhang Y, Sun J, Wei J, Lu Z, Zhu Y, Sato Y, Sekido Y, Miao Y, Kondo Y**: Vasohibin 2 is transcriptionally activated and promotes angiogenesis in hepatocellular carcinoma. *Oncogene*, 32: 1724-34, 2013.
- 018 **Kishida Y, Natsume A, Toda H, Toi Y, Motomura K, Koyama H, Matsuda K, Nakayama O, Sato M, Suzuki M, Kondo Y, Wakabayashi T**: Correlation between quantified promoter methylation and enzymatic activity of O6-methylguanine-DNA methyltransferase in glioblastomas. *Tumour Biol*, 33: 373-81, 2012.
- 019 **Okii Y, Kondo Y, Yamamoto K, Ogura M, Kasai M, Kobayashi Y, Watanabe T, Uike N, Ohyashiki K, Okamoto SI, Ohnishi K, Tomita A, Miyazaki Y, Tohyama K, Mukai HY, Hotta T, Tomonaga M**: A phase I/II study of decitabine in patients with myelodysplastic syndrome: a multi-center study in Japan. *Cancer Sci*, 103: 1839-47, 2012.
- 020 **Murata T, Kondo Y, Sugimoto A, Kawashima D, Saito S, Isomura H, Kanda T, Tsurumi T**: Epigenetic Histone Modification of Epstein-Barr virus BZLF1 Promoter during Latency and Reactivation in Raji Cells. *Journal of Virology*, 86 : 4752-61, 2012.

〔欧文総説および著書〕

- 001 **Fujii M**: Exploration of a new drug that targets YAP. *J Biochem*, 152: 209-11, 2012.
- 002 **Fujii M, Nakanishi H, Toyoda T, Tanaka I, Kondo Y, Osada H, Sekido Y**: Convergent signaling in the regulation of the connective tissue growth factor in malignant mesothelioma: TGF- $\beta$  signaling and defects in the Hippo signaling cascade. *Cell Cycle*, 11: 3373-9, 2012.
- 003 **Shinjo K, Kondo Y**: Clinical implications of epigenetic alterations in human thoracic malignancies: epigenetic alterations in lung cancer. *Methods Mol Biol*, 863: 221-39, 2012.
- 004 **Sekido Y** : Molecular genetics of malignant mesothelioma. eLS, WILEY ONLINE LIBRARY, 2012, Published Online: 16 JUL 2012.
- 005 **Okamoto Y, Kondo Y**: Chapter 3 Genetic and epigenetic alterations in inflammation-related cancers -General Mechanisms of Cancers. From Inflammation to Cancer. World Scientific Publishing: 29-48, 2012.

〔和文総説および著書〕

- 001 近藤 豊：エピジェネティック異常のがん診断への応用. 造血器腫瘍とエピジェネティクス (木崎昌弘 編) : 27-39, 2012.
- 002 近藤 豊：骨髄異形成症候群の遺伝子異常と分子病態. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト*, 38: 9-12, 2012.
- 003 近藤 豊：がん細胞におけるエピゲノム異常. *実験医学*, 30: 44-51, 2012.

遺伝子医療研究部

〔原 著〕

- 001 **Inoue T, Matsuura K, Yoshimoto T, Nguyen LT, Tsukamoto Y, Nakada C, Hijiya N, Narimatsu T, Nomura T, Sato F, Nagashima Y, Kashima K, Hatakeyama S, Ohyama C, Numakura K, Habuchi T, Nakagawa M, Seto M, Mimata H, Moriyama M**: Genomic profiling of renal cell carcinoma in patients with end-stage renal disease. *Cancer Sci.*, 103: 569-576, 2012.
- 002 **Chihara D, Matsuo K, Kanda J, Hosono S, Ito H, Nakamura S, Seto M, Morishima Y, Tajima K, Tanaka, H**: Inverse association between soy intake and non-Hodgkin lymphoma risk among women: a case-control study in Japan. *Ann Oncol.*, 23: 1061-1066, 2012.
- 003 **Liu F, Karube K, Kato H, Arita K, Yoshida N, Yamamoto K, Tsuzuki S, Kim W, Ko Y-H, Seto M**: Mutation analysis of NF- $\kappa$ B signal pathway-related genes in ocular MALT lymphoma. *Int J Clin Exp Pathol.*, 5: 436-441, 2012.
- 004 **Liu F, Yoshida N, Suguro M, Kato H, Karube K, Arita K, Yamamoto K, Tsuzuki S, Oshima K, Seto M**: Clonal heterogeneity of mantle cell lymphoma revealed by array comparative genomic hybridization. *Eur J Haematol.*, 90: 51-58, 2012.
- 005 **Yoshida N, Umino A, Liu F, Arita K, Karube K, Tsuzuki S, Ohshima K, Seto M**: Identification of multiple subclones in peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified with genomic aberrations. *Cancer Med.*, 1 : 289-294, 2012.
- 006 **Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Liu F, Kondo E, Ko YH, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M**: Lineage-specific growth inhibition of NK cell lines by FOXO3 in association with Akt activation status. *Exp Hematol.*, 40: 1005-1015, 2012.
- 007 **Tsuzuki S, Seto M**: TEL (ETV6) -AML1 (RUNX1) Initiates Self-renewing Fetal Pro-B Cells in Association with a Transcriptional Program Shared with Embryonic Stem Cells in Mice. *Stem Cells*, 31: 236-247, 2013.
- 008 **Umino A, Seto M**: Array CGH Reveals Clonal Evolution of Adult T-Cell Leukemia/ Lymphoma. *Methods Mol Biol.*, 973: 189-96, 2013.
- 009 **Yoshioka S, Tsukamoto Y, Hijiya N, Nakada C, Uchida T, Matsuura K, Takeuchi I, Seto M, Kawano K, Moriyama M**: Genomic profiling of oral squamous cell carcinoma by array-based comparative genomic hybridization. *PLoS One*, 8: e56165, 2013.
- 010 **Seto M**: Cyclin D1-negative mantle cell lymphoma. *Blood*, 121: 1249-1250, 2013.
- 011 **Karube K, Tsuzuki S, Yoshida N, Arita K, Kato H,**

- Katayama M, Ko Y-H, Ohshima K, Nakamura S, Kinoshita T, Seto M*: Comprehensive gene expression profiles of NK cell neoplasms identify vorinostat as an effective drug candidate. *Cancer Lett.*, 333: 47-55, 2013.
- 012 加留部謙之輔, 瀬戸加大: NK細胞リンパ腫におけるがん抑制遺伝子FOXO3, PRDM1. *血液内科*, (科学評論社), 64: 461-466, 2012.
- 013 瀬戸加大, 加留部謙之輔: NK細胞性腫瘍の新規がん抑制遺伝子FOXO3. *現代医学*, (愛知県医師会), 60: 311-316, 2012.
- 014 都築 忍: ALLの分子病態と分類. *カレントセラピー*, (ライフメディコム), 30 (10): 1010-1016, 2012.

#### 腫瘍免疫学部

[原 著]

- 001 *Okanami Y, Tsujimura K, Mizuno S, Tabata M, Isaji S, Akatsuka Y, Kuzushima K, Takahashi T, Uemoto S*: Intracellular interferon- $\gamma$  staining analysis of donor-specific T-cell responses in liver transplant recipients. *Transplant Proc*, 44: 548-554, 2012.
- 002 *Ochsenreither S, Majeti R, Schmitt T, Stirewalt D, Keilholz U, Loeb KR, Wood B, Choi YE, Bleakley M, Warren EH, Hudecek M, Akatsuka Y, Weissman IL, Greenberg PD*: Cyclin-A1 represents a new immunogenic targetable antigen expressed in acute myeloid leukemia stem cells with characteristics of a cancer-testis antigen. *Blood*, 119: 5492-5501, 2012.
- 003 *Yamamura T, Hikita J, Bleakley M, Hirosawa T, Sato-Otsubo A, Torikai H, Hamajima T, Nannya Y, Demachi-Okamura A, Maruya E, Saji H, Yamamoto Y, Takahashi T, Emi N, Morishima Y, Kodera Y, Kuzushima K, Riddell SR, Ogawa S, Akatsuka Y*: HapMap SNP Scanner: an online program to mine SNPs responsible for cell phenotype. *Tissue Antigens*, 80: 119-125, 2012.
- 004 *Kanda T, Ochi T, Fujiwara H, Yasukawa M, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Tsurumi T*: HLA-restricted presentation of WT1 tumor antigen in B-lymphoblastoid cell lines established using a maxi-EBV system. *Cancer Gene Ther*, 19: 566-571, 2012.
- 005 *Nishio N, Fujita M, Tanaka Y, Maki H, Zhang R, Hirosawa T, Demachi-Okamura A, Uemura Y, Taguchi O, Takahashi Y, Kojima S, Kuzushima K*: Zoledronate sensitizes neuroblastoma-derived tumor-initiating cells to cytolysis mediated by human  $\gamma\delta$  T Cells. *J Immunother*, 35: 598-606, 2012.
- 006 *Demachi-Okamura A, Torikai H, Akatsuka Y, Miyoshi H, Yoshimori T, Kuzushima K*: Autophagy creates a CTL epitope that mimics tumor-associated antigens. *PLoS One*, 7: e47126, 2012.
- 007 *Tamanaka T, Oka Y, Fujiki F, Tsuboi A, Katsuhara A, Nakajima H, Hosen N, Nishida S, Lin YH, Tachino S, Akatsuka Y, Kuzushima K, Oji Y, Kumanogoh A, Sugiyama H*: Recognition of a natural WT1 epitope by a modified WT1 peptide-specific T-cell receptor. *Anticancer Res*, 32: 5201-5209, 2012.
- 008 *Okamoto S, Amaishi Y, Goto Y, Ikeda H, Fujiwara H, Kuzushima K, Yasukawa M, Shiku H, Mineno J*: A promising vector for TCR gene therapy: Differential effect of siRNA, 2A peptide, and disulfide bond on the introduced TCR expression. *Mol Ther Nucleic Acids*, 1: e63, 2012.
- 009 *Machino T, Okoshi Y, Miyake Y, Akatsuka Y, Chiba S*: HLA-C Matching Status Does Not Affect Rituximab-Mediated Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity by Allogeneic Natural Killer Cells. *Immunol Invest*, 41: 831-846, 2012.
- 010 *Eikawa S, Kakimi K, Isobe M, Kuzushima K, Luescher I, Ohue Y, Ikeuchi K, Uenaka A, Nishikawa H, Udono H, Oka M, Nakayama E*: Induction of CD8 T-cell responses restricted to multiple HLA class I alleles in a cancer patient by immunization with a 20-mer NY-ESO-1f (NY-ESO-1 91-110) peptide. *Int J Cancer*, 132: 345-354, 2013.
- 011 *Nishimura T, Kaneko S, Kawana-Tachikawa A, Tajima Y, Gotoh H, Zhu D, Nakayama K, Iriguchi S, Uemura Y, Shimizu T, Takayama N, Yamada D, Nishimura K, Ohtaka M, Watanabe N, Takahashi S, Iwamoto A, Koseki H, Nakanishi M, Eto K, Nakauchi H*: Generation of rejuvenated antigen-specific T cells by reprogramming to pluripotency and redifferentiation. *Cell Stem Cell*, 12: 114-126, 2013.
- 012 *Asai H, Fujiwara H, An J, Ochi T, Miyazaki Y, Nagai K, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Inoue H, Yasukawa M*: Co-introduced functional CCR2 potentiates in vivo anti-lung cancer functionality mediated by T cells double gene-modified to express WT1-specific T-cell receptor. *PLoS One*, 8: e56820, 2013.

#### 腫瘍ウイルス学部

[原 著]

- 001 *Murata T, Kondo Y, Sugimoto A, Kawashima D, Saito S, Isomura H, Kanda T, Tsurumi T*: Epigenetic histone modification of Epstein-Barr virus BZLF1 promoter during latency and reactivation in Raji cells. *J Virol*, 86: 4752-4761, 2012.
- 002 *Tanaka K, Tamiya-Koizumi K, Hagiwara K, Ito H, Takagi A, Kojima T, Suzuki M, Iwaki S, Fujii S, Nakamura M, Banno Y, Kannagi R, Tsurumi T, Kyogashima M, Murate T*: Role of down-regulated neutral ceramidase during all-trans retinoic acid-induced neuronal differentiation in SH-SY5Y neuroblastoma cells. *J Biochem*, 151: 611-620, 2012.
- 003 *Kanda T, Ochi T, Fujiwara H, Yasukawa M, Okamoto*



- S, Mineno J, Kuzushima K, Tsurumi T* : HLA-restricted presentation of WT1 tumor antigen in B-lymphoblastoid cell lines established using a maxi-EBV system. *Cancer Gene Ther*, 19: 566-571, 2012.
- 004 *Narita Y, Murata T, Ryo A, Kawashima D, Sugimoto A, Kanda T, Kimura H, Tsurumi T* : Pin1 interacts with the Epstein-Barr virus DNA polymerase catalytic subunit and regulates viral DNA replication. *J Virol*, 87: 2120-2127, 2013.
- 005 *Saito S, Murata T, Kanda T, Isomura H, Narita Y, Sugimoto A, Kawashima D, Tsurumi T* : Epstein-Barr virus deubiquitinase downregulates TRAF6-mediated NF- $\kappa$ B signaling during productive replication. *J Virol*, 87: 4060-4070, 2013.
- 006 *Kawashima D, Kanda T, Murata T, Saito S, Sugimoto A, Narita Y, Tsurumi T* : Nuclear transport of Epstein-Barr virus DNA polymerase is dependent on the BMRF1 polymerase processivity factor and molecular chaperone Hsp90. *J Virol*, 87: 6482-6491, 2013.
- 007 *Sugimoto A, Sato Y, Kanda T, Murata T, Narita Y, Kawashima D, Kimura H, Tsurumi T* : Different distributions of Epstein-Barr virus early and late gene transcripts within viral replication compartments. *J Virol*, 87: 6693-6699, 2013.
- 008 *Murata T, Iwata S, Siddiquey MN, Kanazawa T, Goshima F, Kawashima D, Kimura H, Tsurumi T* : Heat shock protein 90 inhibitors repress latent membrane protein 1 (LMP1) expression and proliferation of Epstein-Barr virus-positive natural killer cell lymphoma. *PLoS One*, 8:e63566, 2013.
- 009 *Murata T, Narita Y, Sugimoto A, Kawashima D, Kanda T, Tsurumi T* : Contribution of myocyte enhancer factor 2 (MEF2) family transcription factors to BZLF1 expression in Epstein-Barr virus reactivation from latency. *J Virol*, 87 : 10148-10162, 2013.
- 010 *Kanda T, Horikoshi N, Murata T, Kawashima D, Sugimoto A, Narita Y, Kurumizaka H, Tsurumi T* : Interaction between basic residues of Epstein-Barr virus EBNA1 protein and cellular chromatin mediates viral plasmid maintenance. *J Biol Chem*, 288 : 24189-24199, 2013.

〔総説〕

- 001 *Sato Y, Tsurumi T* : Genome guardian p53 and viral infections. *Rev Med Virol*, Jul; 23 (4) : 213-20, 2013.
- 002 *Murata T, Tsurumi T* : Epigenetic modification of the Epstein-Barr virus BZLF1 promoter regulates viral reactivation from latency. *Front Genet*, 4 : 53, 2013.

分子病態学部

〔原著〕

- 001 *Sakuma K, Chen GY, Aoki M, Kannagi R* : Induction of

6-sulfated glycans with cell adhesion activity via T-bet and GATA-3 in human helper T cells. *Biochem Biophys Acta*, 1820: 841-848, 2012.

- 002 *Sakuma K, Aoki M, Kannagi R* : Transcription factors c-Myc and CDX2 mediate E-selectin ligand expression in colon cancer cells undergoing EGF/bFGF-induced epithelial-mesenchymal transition. *Proc Natl Acad Sci USA*, 109: 7776-7781, 2012.
- 003 *Sakuma K, Furuhashi T, Kondo S, Yabe U, Ohmori K, Ito H, Aoki M, Morita A, Kannagi R* : Sialic acid cyclization of human Th homing receptor glycan associated with recurrent exacerbations of atopic dermatitis. *J Dermatol Sci*, 68: 187-193, 2012.

発がん制御研究部

〔原著〕

- 001 *Kasahara K, Goto H, Izawa I, Kiyono T, Watanabe N, Elowe S, Nigg EA, Inagaki M* : PI 3-kinase-dependent phosphorylation of Plk1-Ser99 promotes its association with 14-3-3  $\gamma$  and is required for metaphase-anaphase transition. *Nat Commun*, 4: 1882, 2013.
- 002 *Jeong HJ, Ohmuro-Matsuyama Y, Ohashi H, Ohsawa F, Tatsu Y, Inagaki M, Ueda H* : Detection of vimentin serine phosphorylation by multicolor Quenchbodies. *Biosens Bioelectron*, 40: 17-23, 2013.
- 003 *Neise D, Sohn D, Stefanski A, Goto H, Inagaki M, Wesselborg S, Budach W, Stühler K, Jänicke RU* : The p90 ribosomal S6 kinase (RSK) inhibitor BI-D1870 prevents gamma irradiation-induced apoptosis and mediates senescence via RSK- and p53-independent accumulation of p21WAF1/CIP1. *Cell Death and Dis*, in press.
- 004 *Inoko A, Matsuyama M, Goto H, Ohmuro-Matsuyama Y, Hayashi Y, Enomoto M, Ibi M, Urano T, Yonemura S, Kiyono T, Izawa I, Inagaki M* : Trichoplein and Aurora A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells. *J Cell Biol*, 197: 391-405, 2012.
- 005 *Li P, Goto H, Kasahara K, Matsuyama M, Wang Z, Yatabe Y, Kiyono T, Inagaki M* : P90 RSK arranges Chk1 in the nucleus for monitoring of genomic integrity during cell proliferation. *Mol Biol Cell*, 23: 1582-1592, 2012.
- 006 *Toda M, Kuo CH, Borman SK, Richardson RM, Inoko A, Inagaki M, Collins A, Schneider K, Ono SJ* : Evidence that formation of Vimentin • Mitogen-activated Protein Kinase (MAPK) complex mediates mast cell activation following Fc(epsilon)RI/CC chemokine receptor 1 cross-talk. *J Biol Chem*, 287: 24516-24542, 2012.

〔総説および単行本〕

- 001 *Goto H, Inoko A, Inagaki M* : Cell cycle progression by the repression of primary cilia formation in

- proliferating cells. Cell. Mol. life Sci, in press.
- 002 **Goto H, Inagaki M**: Method for generation of antibodies specific for site-and post-translational modifications. Monoclonal Antibodies: Methods and Protocols, Second Edition, "Methods in molecular biology" series, eds. Ossipow V. and Fischer N. Humana Press, in press.
- 003 **Goto H, Izawa I, Li P, Inagaki M**: Novel regulation of checkpoint kinase 1: Is checkpoint kinase 1 a good candidate for anti-cancer therapy? Cancer Sci, 103: 1195-1200, 2012.
- 004 **Ohmuro-Matsuyama Y, Inagaki M, Ueda H**: Detection of protein phosphorylation by open-sandwich immunoassay. Integrative Proteomics, ed. Leung, H.-C.E. InTech : 197-214, 2012.
- 005 **後藤英仁, 稲垣昌樹**:「チェックポイントキナーゼ1 (Chk1) の新規制御機構とがん」. シグナル伝達研究最前線2012 (井上純一郎、武川睦寛、徳永文稔、今井浩三 編) 実験医学増刊号, 羊土社, 30 (5) : 106-110, 766-770, 2012.
- 006 **後藤英仁, 稲垣昌樹**:「DNA損傷チェックポイントとがん-Chk1阻害剤の展望と問題点」. 特集・ストレス応答分子の解明: 分子メカニズムと病態理解, 生化学 (日本生化学会機関誌), 85 (3) : 145-151, 2013.
- 007 **後藤英仁, 稲垣昌樹**:「抗リン酸化抗体による新たな細胞周期研究」. ヒトと医学のステージへ拡大する細胞周期 (中山敬一編), 実験医学増刊号, 羊土社, 31 (2) : 186-193, 316-323, 2013.
- 008 **猪子誠人, 稲垣昌樹**:「一次繊毛動態による新たな細胞増殖制御機構 トリコプレイン・オーロラAキナーゼ経路」. 化学と生物 : 524-533, 2013.